

目次

安全に正しくお使いいただくために

はじめに	1
本製品の導入	1
本製品の導入と設定	2

第1章 セットアップユーティリティについて..... 1-1

セットアップユーティリティをWindowsで使用する	1-1
セットアップについて	1-2

第2章 本製品について..... 2-1

PC-PB20501の特長	2-2
動作環境	2-3
機器の説明	2-4
各部の名称と働き	2-4
ディップスイッチの操作	2-6
設定情報を初期値に戻す	2-6
設定情報の印刷を行う	2-6
自己診断印刷を行う	2-6
取り付け方法	2-13
本製品を取り付ける	2-13
ネットワークに接続する	2-14
セキュア(SSL)通信印刷機能 / IPフィルタ機能 / セキュリティレベル設定機能 .	2-15

第3章 Windows 98/Me 環境で使用する	3-1
Windows 98/Me 環境から TCP/IP で印刷する	3-2
パソコンのネットワーク設定を確認する	3-3
Quick Setup による簡単設定	3-4
PR-Port Monitor をインストールする	3-8
印刷ポートを追加する	3-11
PR-Port Monitor LPR ポートを追加する場合	3-12
PR-Port Monitor IPP ポートを追加する場合	3-14
PR-Port Monitor Raw(TCP/IP 9100) ポートを 追加する場合	3-17
プリンタドライバの設定	3-19
Windows 98/Me 環境から NetBEUI、 NetBIOS over TCP/IP で印刷する	3-21
パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBEUI の場合)	3-21
パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBIOS over TCP/IP の場合)	3-22
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP で印刷する	3-23
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP について	3-24
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP ワークグループの構造 ...	3-24

第4章 Windows NT 4.0/2000/Server 2003/

XP 環境で使用する	4-1
Windows NT 4.0/2000/Server 2003/XP 環境から	
TCP/IP で印刷する	4-3
パソコンのネットワーク設定を確認する	4-4
Windows NT 4.0 の場合	4-4
Windows 2000 の場合	4-6
Windows XP の場合	4-7
Windows Server 2003 の場合	4-9
Quick Setup による簡単設定	4-11
PR-Port Monitor をインストールする	4-15
印刷ポートを追加する	4-18
PR-Port Monitor LPR ポートを追加する場合	4-19
PR-Port Monitor IPP ポートを追加する場合	4-21
PR-Port Monitor Raw(9100) ポートを追加する場合 ...	4-24
プリンタドライバの設定	4-26
Windows NT 4.0/2000 環境から NetBEUI、	
NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-28
Windows NT 4.0 から NetBEUI、NetBIOS overTCP/IP で	
印刷する	4-28
パソコンのネットワーク設定の確認をする	
(NetBEUI の場合)	4-28
パソコンのネットワーク設定を確認する	
(NetBIOS over TCP/IP の場合)	4-29
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-30

Windows 2000 から NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-31
パソコンのネットワーク設定の確認をする (NetBEUI の場合)	4-31
パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBIOS over TCP/IP の場合)	4-32
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-33
Windows XP 環境から NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-34
Windows XP から NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-34
パソコンのネットワーク設定を確認する	4-35
NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-37
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP について	4-38
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP ワークグループの構造 ...	4-38
OS 標準の印刷クライアント機能で印刷する	4-40
Windows NT 4.0 の LPR ポートで印刷する	4-40
Windows 2000/Server 2003/XP の Standard TCP/IP ポートで 印刷する	4-45
Windows 2000/Server 2003/XP の LPR ポートで印刷する ..	4-50
Windows 2000/Server 2003/XP の IPP ポートで印刷する ..	4-56
Windows Vista の Standard TCP/IP ポートで印刷する	4-60
Windows Vista の LPR ポートで印刷する	4-65
Windows Vista の IPP ポートで印刷する	4-70

第5章 UNIX/Linux環境で使用する	5-1
IPアドレスの設定	5-3
BOOTPによる設定	5-3
RARPによる設定	5-4
ARPによる設定	5-5
hostsファイルの設定	5-6
LPDを使用した印刷	5-7
HI-UX環境で使用する	5-8
HI-UX/WE2の場合	5-8
Solaris環境で使用する	5-9
Solaris2.6/7/8の場合	5-9
Solaris2.3x ~ 2.5xの場合	5-11
HP-UX 9.x/10.x環境で使用する	5-13
setnetlpツールを使用する	5-15
AIX 4.x.x環境で使用する	5-20
BSD系UNIXの環境で使用する	5-22
Linux環境で使用する	5-24
Red Hat Linuxのプリントキュー作成ツールを 使用する.....	5-26
Turbo Linuxのプリントキュー作成ツールを 使用する.....	5-27
FTPを使用した印刷	5-28
印刷する	5-29
状態を確認する	5-31

第 6 章 設定に関する機能	6-1
AdminManager で設定する	6-3
AdminManager を起動する	6-4
AdminManager で本製品を検索する	6-6
AdminManager の機能	6-7
AdminManager メニュー構成	6-7
プリンタステータス	6-8
システムステータス	6-8
設定項目一覧表示	6-9
AdminManager で本製品の設定を行う	6-10
プリントサーバの設定	6-10
プロトコルとサーバの設定	6-11
General の設定	6-12
TCP/IP の設定	6-13
NetBEUI/NetBIOS の設定	6-15
SNMP の設定	6-16
POP の設定	6-17
SMTP の設定	6-18
PrinterPort の設定	6-19
Web ブラウザで設定する	6-20
本製品の Web ページを表示する	6-21
AdminManager から Web ページを表示する	6-21
Web ブラウザから Web ページを表示する	6-21
本製品の Web ページから設定する	6-22
本製品 Web ページメニュー構成	6-22






TELNET で設定する	6-23
Web ブラウザ / TELNET 設定項目	6-24
プリントサーバ機能	6-24
General	6-24
TCP/IP	6-25
NetBEUI/NetBIOS	6-27
SNMP	6-28
PRINTER	6-29
E-Mail 受信 (POP)	6-30
E-Mail 送信 (SMTP)	6-31
その他の設定 (Another)	6-32

第7章 Popup Status Monitor	7-1
Popup Status Monitor について	7-2
Popup Status Monitor の起動	7-2
Popup Status Monitor の表示(フルモードの場合)	7-3
プリンタ情報	7-3
システム情報	7-4
メニュー構成	7-4
オプション設定ダイアログ	7-5
ステータス監視	7-5
表示	7-6
第8章 トラブルシューティング	8-1

付録 PC-PB20501	1
ハードウェア仕様	2
ソフトウェア仕様	3
IPv6 機能について	4
IPv6 とは?	4
本製品 IPv6 機能概要	5
IPv6 に対応する操作	5
本製品の IPv6 アドレス	5
利用方法	6
本製品の IPv6 機能を有効にする	6
OS の IPv6 機能を有効にする	6
Network Plug & Play について	9
Windows XP の設定	9
Windows Me の設定	9
E-Mail 警告通知機能(SMTP)	10
E-Mail 印刷機能(POP)	13
エラーリカバリ支援機能	15
セキュリティレベル設定機能	16
セキュア通信印刷機能について	17

【表記について】

マニュアルの中で使用している、マークの意味を説明します。

	これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる危害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。
 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
注意	これは、装置への重大な障害、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	操作上の注意や機能に対する制限事項などが記述されています。正しい操作を行えるように必ずお読みください。
 参考	操作など参考になることを記述しています。操作でわからないときに参考にしてください。

マニュアルで説明している画面やイラストは一例です。機種により、異なる場合があります。

説明の都合で、画面のアイコンやイラストなど、一部省略している場合があります。

- ・本マニュアルの著作権は弊社に帰属します。本マニュアルの一部、または全部を無断で転載、複製、あるいは改変することは法律で禁止されています。
- ・本マニュアルはそれぞれのOSにあわせて注意深く用意しておりますが、将来バージョンアップやOSに変更があった場合など、パソコンのモニタに実際に表示される表現と差異が出る可能性があります。ご了承ください。
- ・本マニュアル編集にあたって万全を期しておりますが、誤りや設定等の例による結果、または本製品の使用に起因する損害や逸失利益の請求などに対し、弊社はいかなる責任も負いかねますのでご了承ください。
- ・本マニュアルに記載された仕様、その他については改良のため変更することがあります。
- ・本マニュアルや製品について、お気づきの点または、ご不明な点は弊社カスタマサポートセンターまでご連絡ください。
- ・Microsoft、MS-DOS、Windows98、Windows Me、Windows NT、Windows 2000、Windows Server、Windows XP等は米国 Microsoft Corporationの米国及び他の国における登録商標です。
- ・UNIXはX/Openカンパニーリミテッドがライセンスしている米国および他の国における登録商標です。
- ・IBM、AIXは米国IBM社の商標です。
- ・HP-UXは米国ヒューレットパカード社の商標です。
- ・Solarisは米国サンマイクロシステムズ社の商標です。
- ・LinuxはLinus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Adobe、AcrobatはAdobe System Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。
- ・その他、記載されている社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

安全に正しくお使いいただくために

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分に理解してください。

- ・操作は、マニュアル内の指示、手順に従って行ってください。
- ・装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

シンボルについて

安全に関する注意事項は、次に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。



警告 これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。



注意 これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

注意

これは、装置の重大な損害、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



警告



異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、プリンタの電源スイッチをOFFにし、プリンタの電源プラグをコンセントから抜いてください。

そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。また、すぐに電源プラグが抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。



修理・改造・分解

自分で修理や改造・分解をしないでください。火災や感電、やけどの原因になります。



装置内部への異物の混入

通風孔などから内部にクリップや虫ピンなどの金属片や燃えやすい物などを入れないでください。そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



揮発性液体の近くでの使用

マニキュア、ペディキュアや除光液などの揮発性の液体を近くで使わないでください。装置の中に入って引火すると火災の原因になります。



電源プラグの抜き差し

・電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コード部分を引っ張ると、コードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。

・休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときも通電しているため、万一、部品破壊時には火災の原因になります。

・電源プラグをコンセントから抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと、感電の原因になります。



包装用ポリ袋について

包装用のポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると、窒息するおそれがあります。



警告



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。

- ・電源プラグは、根元までしっかり差し込んでください。
- ・電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。ほこりや水滴が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。
- ・グラグラしないコンセントを使ってください。



落下などによる衝撃

落下させたり、ぶつけたるするなど衝撃を与えないでください。そのまま使用すると感電や火災の原因になります。



タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。



湿気やほこりの多い場所での使用

浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍やほこりの多い地下室、水泳プールの近傍では使用しないでください。電気絶縁の低下により、火災や感電の原因になります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部が結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、火災や感電の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。



注意



アルミ電解コンデンサーについて

L A Nボードに使用しているアルミ電解コンデンサーは、有寿命部品です。設計寿命は、月200時間使用で約5年です。寿命になると電解液の枯渇や漏れが生じ、発煙・感電の原因になることがあります。

これらの危険を避けるために、設計寿命を超えて使用する場合は、有償部品単位で交換してください。

また、昼夜連続運転相当では5年より寿命は短くなります。



接続端子への接触

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないでください。

発煙したり接触不良などにより故障の原因になります。



金属などの端面への接触

装置の移動などで金属や基板などの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。



目的以外の使用

L A Nボード本来の目的以外に使用しないでください。故障の原因になります。



信号ケーブルについて

・ケーブルは足などに引っかけないように配線してください。足を引っかけると、けがや装置の故障の原因になります。また、データが失われるおそれがあります。

・ケーブル上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、装置の故障の原因になります。



注意



屋外での使用

屋外では使用しないでください。故障の原因になります。



電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は次のようにしてください。

- ・テレビやラジオなどからできるだけ離す
- ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
- ・コンセントを別にする



製品の廃棄

本製品を廃棄するときには廃棄物管理表（マニフェスト）の発行が義務づけられています。詳しくは、お買い求め先にご相談いただくか、各都道府県産業廃棄物連合会にお問合せください。廃棄物管理表は（社）全国産業廃棄物協会に用意されています。



はじめに

このたびは、本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。
このマニュアルは、本製品の設定およびご利用方法を記載したものです。正しく安全にお使いいただくためにご熟読ください。

本製品の導入

本製品の導入手順について説明します。ご利用の環境に合わせた手順で本製品をネットワークに接続し、ご利用のプリンタをネットワークプリンタとしてお使いいただくことができます。本製品の導入手順に従って、本マニュアルの関係する章を参照しながら、導入を進めてください。



注意

- ・ご利用の環境によっては、以下で説明する導入手順と異なる場合があります。

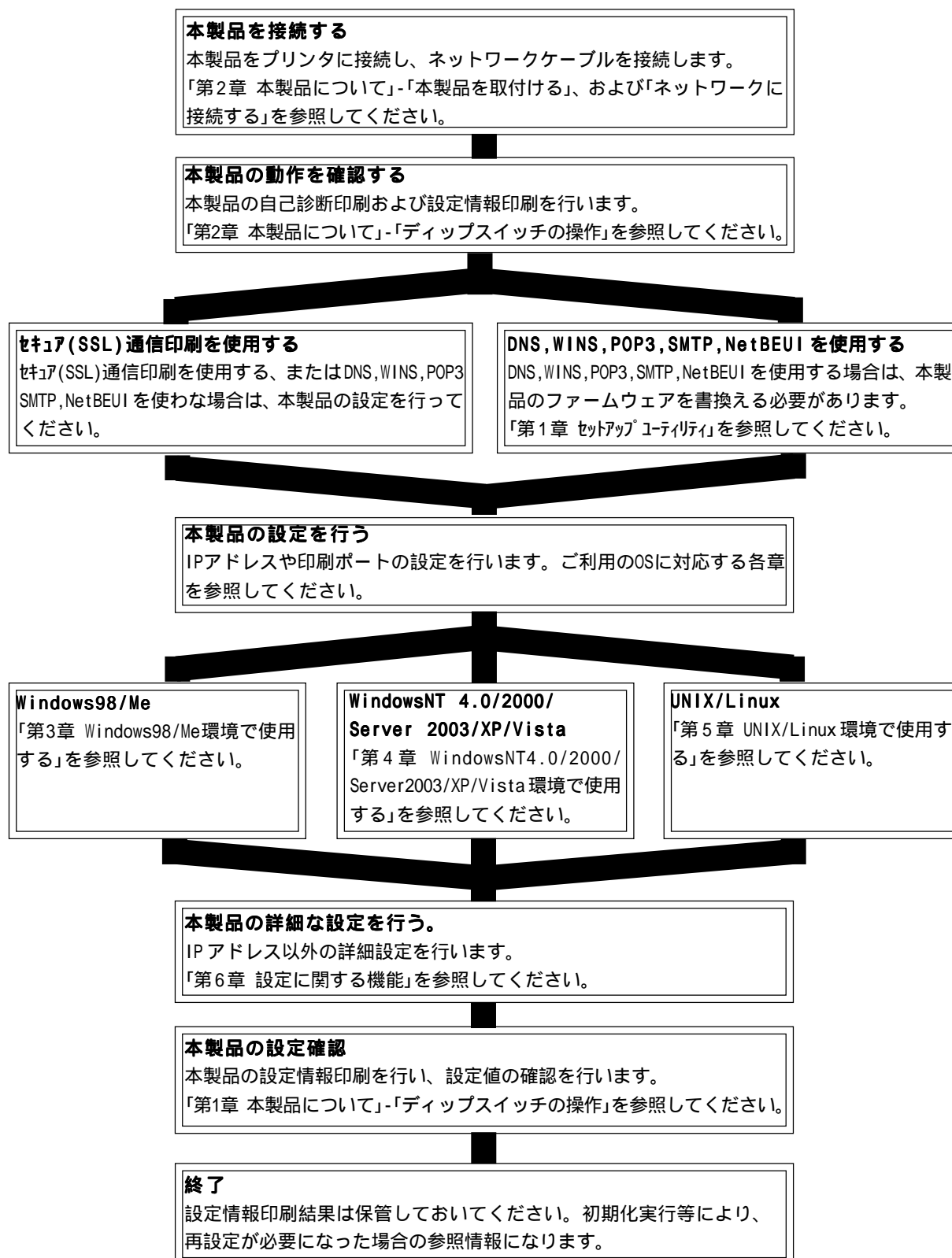


参考

- ・ご利用のコンピュータに予めプリンタドライバをインストールしてください。

本製品の導入と設定

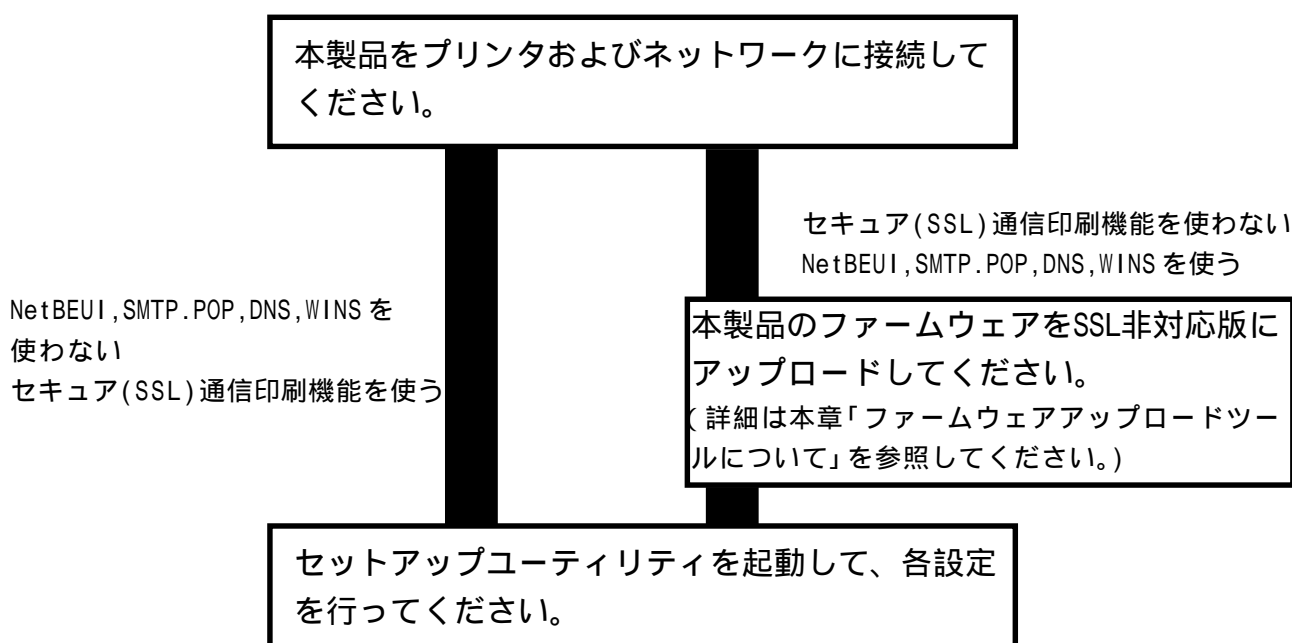
本製品の導入と設定手順について説明します。



第1章 セットアップユーティリティについて	1-2
セットアップユーティリティについて	1-3
セットアップユーティリティをWindows で使用する	1-3
設定ツールについて	1-4
ファームウェアアップロードツールについて	1-5
パケットドライバのインストールについて	1-6
アップロードツールについて	1-8

第1章 セットアップユーティリティについて

本章では、製品添付CD-ROMに収録されているセットアップユーティリティおよび本製品のファームウェアアップロードプログラムについて説明します。また、本製品は、セキュア(SSL)通信印刷機能が使用可能な状態(新バージョン(Ver.2.X.X))で提供しており、NetBEUI,SMTP,POP,DNS,WINSはサポートしていません。お客様がこれら機能を使用している場合は、ファームウェアアップロードプログラムから、本製品のファームウェアを書き換える必要があります。お客様のご利用環境にあわせてファームウェアを変更してください。なお、セキュア(SSL)通信印刷とNetBEUIは同時には使用できません。ご注意ください。本製品のセットアップ方法の手順は以下の通りです。



セットアップユーティリティについて

本章では、セットアップユーティリティについて説明します。セットアップユーティリティには、本製品の設定ツール及び総合クライアントソフトウェア、マニュアルが収録されています。Windows 環境でご利用いただくことができます。



注意

- ・Windows 以外の OS では、セットアップユーティリティはご利用になれません。
- ・セットアップユーティリティは、Internet Explorer4.0(SP2)以降のブラウザ環境でご利用ください。

セットアップユーティリティをWindowsで使用する

本製品付属の CD-ROM を Windows パソコンにセットすると、メインメニューが自動的に起動します。



注意

- ・メニューが自動的に起動しない場合は、CD-ROMのルートディレクトリにある‘Autorun.exe’を直接実行してください。



お読みください

本 CD-ROM についての注意事項や、本製品のお問い合わせ先等が記載されています。ご利用の前に必ずお読みください。

セットアップ

本製品の設定ツール (Quick Setup, Advanced Setup) 及び総合クライアントソフトウェア (PR-Port Monitor) のインストールを行います。

マニュアル

Adobe Acrobat Reader を利用した PDF 形式のマニュアル (取扱説明書) です。

設定ツールについて

メニュー画面の「Quick Setup」「Advanced Setup」「PR-PortMonitor」を選択すると本製品の設定ツール画面が表示されます。



参考

- ・本製品の初期導入が完了している場合は、HI-Print をお使いのパソコンにインストールするだけで、本製品をご利用いただくことができます。



参考

- ・ご利用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていて、ファイアウォール機能が有効になっていると、Quick Setup および AdminManager で本製品を検索できないことがあります。そのようなときは、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

Quick Setup (初期導入時推奨)

本製品の初期導入がウィザード形式で簡単に行えます。また、初期導入に引き続いて印刷クライアントソフトウェアHI-Print をインストールすることができます。本製品の初期導入を行う方に推奨します。

Advanced Setup

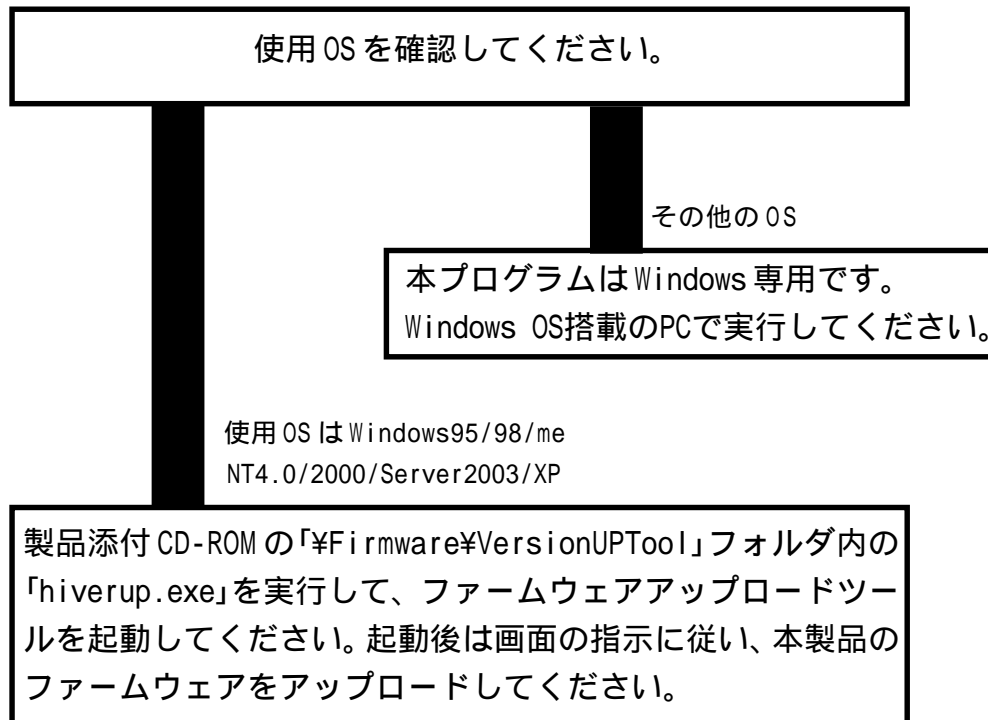
総合ユーティリティ「AdminManager」を起動またはインストールします。「AdminManager」は本製品の詳細設定と、本製品およびプリンタの管理を行うことができます。

PR-Port Monitor

本製品に対してWindows から直接印刷するための総合クライアントソフトウェアおよびPopup Status Monitor をインストールします。LPR, RAW, IPP モードを選択できます。本製品で通常印刷を行う場合は、PR-Port Monitor で作成するLPR またはRAW ポートをご使用いただくことを推奨します。また、セキュア(SSL)通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、PR-Port Monitor で作成するIPP ポートをご使用いただくことを推奨します。なお、セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するためのIPP(https)ポートを作成するには、PR-PortMonitor の Ver.1.2.0 以降を使用してください。

ファームウェアアップロードツールについて

製品添付CD-ROMの「¥Firmware¥VersionUPTool」フォルダ内にファームウェアアップロードツールを収録しています。以下の手順に従い、セットアップをしてください。



注意

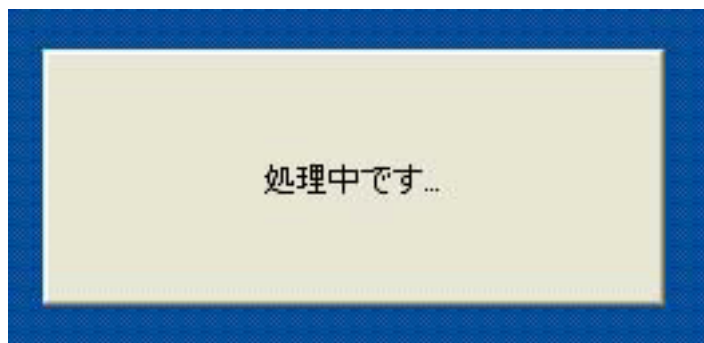
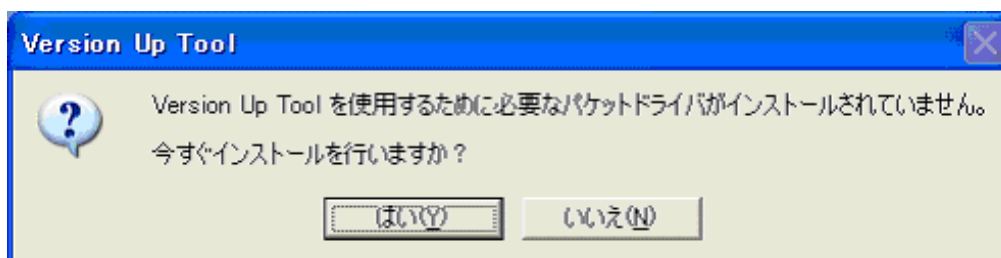
- ・ファームウェアのアップロードを行う前に、設定情報印刷を実施してください。
- ・ファームウェアのアップロード中(転送中)は電源を切らないでください。
- ・ファームウェアのアップロードを行う際は、コンピュータのファイアウォールの設定を一時的に無効にしてください。ファイアウォールの設定が有効になっていると、本製品を検出できなかったり、アップロード作業が正常終了しない場合があります。
- ・アップロード途中でエラー終了した場合は、電源を切らず、再度アップロードをしてください。
- ・ファームウェアのアップロード中(転送中)は、印刷起動、設定情報の書き換え等を行わないでください。
- ・ネットワークの状況(高付加状態等)によっては、アップロード処理中にエラーになる場合があります。安全・確実にアップロード作業を行うために、クロスケーブルで本製品とコンピュータを直結することを推奨します。
- ・ファームウェアのアップロードにより、設定情報値がクリアされることはありません。ただし、設定項目が追加される場合、元の設定情報値がないため、本来の初期値と異なる値が設定され、動作に影響を及ぼすことがあります。アップロード終了後は、必ず初期化を実行してから、各種設定を再設定してください。

パケットドライバのインストールについて

本ツールを動作させるためにパケットドライバをインストールします。不要になればアンインストールすることもできます。なお、パケットドライバのインストール・アンインストールは管理者権限でないと実行できません。

インストール

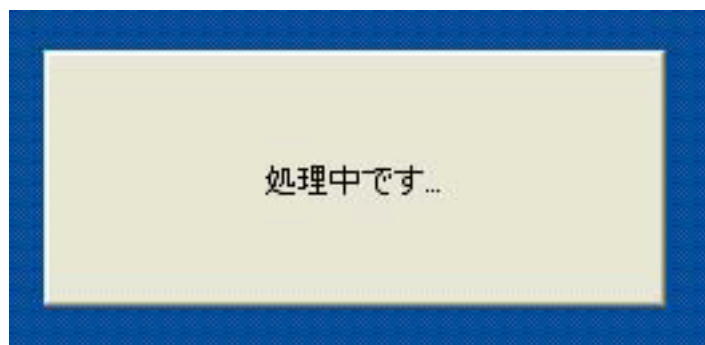
パケットドライバがインストールされていない場合、本ツールを起動すると、下記の画面を表示します。「はい(Y)」を選択するとパケットドライバのインストールが開始されます。



正常にインストールが完了すると、本ツールが起動します。

アンインストール

CD-ROMの「¥Firmware¥VersionUPTool¥pd¥Uninstall¥PDUNINST.exe」を実行してください。アンインストール開始画面が表示されます。「はい(Y)」ボタンを押すと、アンインストールを開始します。
 (アンインストール処理に時間がかかることがあります。)



正常にアンインストールが完了すると、アンインストール完了画面が表示され、「OK」ボタンを押すと、プログラムは終了します。



アップロードツールについて

ファームウェアアップロードツールが起動すると、本製品の検索とファームウェアのアップロード準備および本製品へのファームウェアのアップロードを開始します。画面の指示に従って操作をしてください。



注意

- ・ファームウェアのアップロードを行う前に、設定情報印刷を実施してください。
- ・ファームウェアのアップロード中(転送中)は電源を切らないでください。
- ・ファームウェアのアップロードを行う際は、コンピュータのファイアウォールの設定を一時的に無効にしてください。ファイアウォールの設定が有効になっていると、本製品を検出できなかったり、アップロード作業が正常終了しない場合があります。
- ・アップロード途中でエラー終了した場合は、電源を切らず、再度アップロードをしてください。
- ・ファームウェアのアップロード中(転送中)は、印刷起動、設定情報の書き換え等を行わないでください。
- ・ネットワークの状況(高付加状態等)によっては、アップロード処理中にエラーになる場合があります。安全・確実にアップロード作業を行うために、クロスケーブルで本製品とコンピュータを直結することを推奨します。
- ・ファームウェアのアップロードにより、設定情報値がクリアされることはありません。ただし、設定項目が追加される場合、元の設定情報値がないため、本来の初期値と異なる値が設定され、動作に影響を及ぼすことがあります。アップロード終了後は、必ず初期化を実行してから、各種設定を再設定してください。

第2章 本製品について	2-2
PC-PB20501 の特長	2-2
動作環境	2-3
機器の説明	2-4
各部の名称と働き	2-4
ディップスイッチの操作	2-6
設定情報を初期値に戻す	2-6
設定情報の印刷を行う	2-6
自己診断印刷を行う	2-6
取り付け方法	2-13
本製品を取り付ける	2-13
ネットワークに接続する	2-14
セキュア(SSL)通信印刷機能 / IPフィルタ機能 / セキュリティレベル設定機能 .	2-15

第2章 本製品について

本章では、製品の動作環境や概要、ネットワークへの接続方法について説明します。

PC-PB20501の特長

- ・セキュア(SSL)通信印刷対応 (ファームウェアバージョン Ver.2.X.Xで対応)
- ・10BASE-T、100BASE-TX対応 (自動認識)
- ・ポップアップステータスマニタ「Popup Status Monitor」搭載
- ・簡単設定のQuick Setup
- ・HTTP搭載でWebブラウザからの設定も可能
- ・総合ユーティリティ「AdminManager」標準添付
- ・統合クライアントソフトウェア「PR-Port Monitor」標準添付
- ・E-Mail送受信機能搭載 (ファームウェアバージョン Ver.1.X.Xで対応)
- ・Windows XP/Vistaへの対応強化 (ファームウェアバージョン Ver.1.X.Xで対応)
NetBIOS over TCP/IPを搭載。Windows XPやWindows Vistaが標準インストールされた環境でもプロトコル追加インストールを行うことなく、NetBIOSによる印刷環境を構築できます。
- ・セキュリティ対策追加 (ファームウェアバージョン Ver.2.X.Xで対応)
ネットワークプリンタのセキュリティ対策として、セキュア(SSL)通信印刷機能、セキュリティレベル設定機能およびIPフィルタ機能を搭載。
 - ・セキュア(SSL)通信印刷機能は、インターネットで個人情報などを入力する際に、盗聴やなりすまし防止に利用される通信方式(SSL)を使用した、一般化されたセキュリティ機能を使用しています。このSSLを使用し、印刷を行う際に印刷データを暗号化、プリントサーバで復号化する機能を実装しています。
 - ・IPフィルタ機能は、IPアドレスレベルでPC-PB20501へのアクセスを制限する機能です。特定範囲のIPアドレスからのアクセスを禁止、または特定範囲のIPアドレスのみのアクセスを許可することでプリンタを予期せぬアクセスから保護します。
 - ・セキュリティレベル設定機能は、設定したプロトコル以外のアクセスを排除する機能です。
- ・WINS (Windows Internet Name Service) 環境への対応(Ver.1.X.Xで対応)
WINSサーバのある環境下において、NetBIOS名のIPアドレス解決情報をWINSサーバに登録する機能を搭載しました。
- ・DDNS (Dynamic Domain Name System) 機能搭載(Ver.1.X.Xで対応)
PC-PB20501のIPアドレスをDDNS機能搭載のDNSサーバに通知する機能を搭載。
これにより、PC-PB20501がDHCPサーバより動的にIPアドレスを獲得した場合にも、即座にDomain Name Systemに反映され、Domain名とIPアドレスの不整合を防ぐことができます。
- ・ポップアップステータスマニタ機能搭載
プリンタの状態をパソコン画面に表示してお知らせする、ポップアップステータスマニタ機能を搭載しています。

動作環境

ネットワークに接続するために必要な機器

ネットワークケーブル（100BASE-TX 環境ではカテゴリ 5 以上）

プリンタ本体

対応プロトコル / 対応 OS

対応プロトコル：TCP/IP、NetBEUI（NetBEUI はファームウェアバージョン Ver.1.X.X で対応）

対応 OS：Windows 98/Me、Windows NT 4.0、Windows 2000、Windows Server 2003、Windows XP

Windows Vista、UNIX、Linux

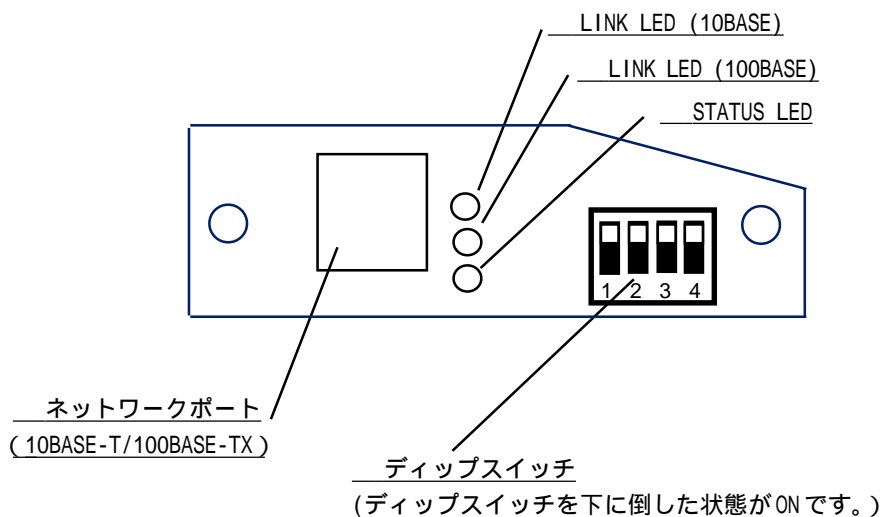


- ・ルータを超えての接続（WAN 接続等）では使わないでください。
- ・LAN ボードを取付けた場合、パラレルインタフェースおよび USB インタフェースとの同時接続はできません。

機器の説明

各部の名称と働き

パネル部



ディップスイッチ

各スイッチを操作することで、本製品の工場出荷設定および自己診断印刷を行うことができます。

1	OFF	通常
2	OFF	通常
	ON	設定情報の初期化
3	OFF	通常
	ON	設定情報印刷
4	OFF	通常
	ON	自己診断印刷

LINK LED 10BASE (緑)

10BASE-Tでネットワーク接続が確立されると、点灯します。

LINK LED 100BASE (緑)

100BASE-TXでネットワーク接続が確立されると、点灯します。

STATUS LED (橙)

通信中は、点滅します。

ネットワークポート (10BASE-T/100BASE-TX 自動認識)

ネットワークケーブルを接続します。(100BASE-TX環境では、カテゴリ5以上)

ディップスイッチの操作



注意

- ・ディップスイッチを操作する際は、必ずプリンタの電源をOFFにしてください。
- ・自己診断の結果にNGがある場合は、「第8章 トラブルシューティング」に従って対処してください。

設定情報を初期値に戻す

1. プリンタの電源を切り、ディップスイッチの2番をONにしてください。
2. プリンタの電源をONにしてください。設定値の初期化はプリンタが起動してから、約5秒で完了します。
3. プリンタの電源を切り、ディップスイッチ2番をOFFに戻してください。

設定情報の印刷を行う

1. プリンタの電源を切り、ディップスイッチの3番をONにしてください。
2. プリンタの電源をONにしてレディ状態になると、設定情報印刷を開始します。
設定情報印刷ではA4サイズ以上の用紙を使用してください。
3. プリンタの電源を切り、ディップスイッチの3番をOFFに戻してください。

設定情報印刷結果（例）で設定値に "*" を表示しているものは、設定変更をしても値は表示されません。本項目の工場出荷時設定については、「第6章 設定に関する機能」を参照してください。また、本製品の設定を変更した場合は、変更した設定値を管理するようにしてください。

自己診断印刷を行う

1. プリンタの電源を切り、ディップスイッチの4番をONにしてください。
2. プリンタの電源をONにしてレディ状態になると、自己診断印刷を開始します。
設定情報印刷ではA4サイズ以上の用紙を使用してください。
3. プリンタの電源を切り、ディップスイッチの4番をOFFに戻してください。



参考

IPアドレスを設定するときに、本製品のEthernetアドレスを確認する必要があるので、自己診断印刷を行い、印刷結果のEthernetアドレスを確認してください。

SSL 対応版ファームウェア (Ver2.0.0 以降) 設定情報印刷結果 (例)

PC-PB20501 Version 2.X.X
Copyright 2005 Ricoh Printing Systems, Ltd.

```
*** Configuration report ***
<< Configure General >>
  Change root Password      : "*****"
  LAN Interface             : AUTO
  Printer Name              : "PC-PDXXXX"
<< Configure TCP/IP >>
  DHCP/BOOTP               : DISABLE
  RARP                      : DISABLE
  IP Address                : 0.0.0.0
  Subnet Mask               : 0.0.0.0
  Gateway Address          : 0.0.0.0
  Use FTP/LPD Banner       : NO
<< Configure TCP/IP - IP Filter Config >>
  Filter Mode               : DENY
  Filter #0 Start Address   : 0.0.0.0
  Filter #0 End Address     : 0.0.0.0
  Filter #1 Start Address   : 0.0.0.0
  Filter #1 End Address     : 0.0.0.0
  Filter #2 Start Address   : 0.0.0.0
  Filter #2 End Address     : 0.0.0.0
  Filter #3 Start Address   : 0.0.0.0
  Filter #3 End Address     : 0.0.0.0
<< Configure TCP/IP - Security Configuration >>
  LPR                      : DISABLE
  RAW                      : DISABLE
  IPP                      : ENABLE
  HTTP                    : DISABLE
  HTTPS                   : ENABLE
  TELNET                  : DISABLE
  FTP                    : DISABLE
  SNMP                   : DISABLE
  Setup Protocol (JCP)    : DISABLE
<< Configure SNMP >>
  Authentic Community      : "*****"
  Trap Community          : "public"
  Trap Address(IP)        : 0.0.0.0
  SysContact              : ""
  SysName                 : ""
  SysLocation             : ""
  EnableAuthenTrap       : 2
<< Configure Print Port >>
  BOJ String              : ""
  EOJ String              : ""
  BOJ String(sjis/euc)    : ""
  EOJ String(sjis/euc)    : "¥f"
  Printer Emulation       : ESC/P
  TAB Size(cher.)        : 8
  Page Width(cher.)      : 0
  Page Length(line)      : 0
```

○で囲んでいる設定値は、設定を変更しても設定情報印刷結果には印刷しません。

変更した場合は、設定値を管理してください。

変更した場合は、設定値を管理してください。


```
<< Configure Another >>
  Print Trap Community      : "pubric"
  Print Trap Address        : 0.0.0.0
  PE/Reboot                 : DISABLE
<< Configure Secure Print >>
  Secure Print              : ENABLE
  SSL Mode                  : level1
```

**注意**

- ・本設定情報印刷結果はSSL対応版の印刷結果です。

**参考**

- ・設定情報印刷により、本製品の設定が確認できます。
本製品を設定する際にご活用ください。
- ・設定値に "*" が表示されているものは、設定変更をしても値を表示しません。本項目の工場出荷時設定については、「第6章 設定に関する機能」を参照してください。
- ・本製品の設定を変更した場合は、変更した設定値を管理するようにしてください。

SSL 非対応版ファームウェア (Ver1.X.X) 設定情報印刷結果 (例)

PC-PB20501 Version 1.X.X
Copyright 2005 Ricoh Printing Systems, Ltd.

○で囲んでいる設定値は、設定を変更しても設定情報印刷結果には印刷しません。

*** Configuration report ***

<< Configure General >>

Change root Password : "*****"
LAN Interface : AUTO
Printer Name : "PC-PDXXXX"

変更した場合は、設定値を管理してください。

<< Configure TCP/IP >>

TCP/IP Protocol : ENABLE
DHCP/BOOTP : DISABLE
RARP : DISABLE
IP Address : 0.0.0.0
Subnet Mask : 0.0.0.0
Gateway Address : 0.0.0.0
Use FTP/LPD Banner : NO
IPv6 Function : DISABLE
NetworkPnP Enable : ENABLE

<< Configure TCP/IP - DNS >>

Primary Server : 0.0.0.0
Secondary Server : 0.0.0.0

<< Configure TCP/IP - POP >>

POP Protocol : DISABLE
Check Interval(min.) : 15
Local Time Zone : "+09:00"

<< Configure TCP/IP - POP - User Profile 1 >>

User Profile : DISABLE
POP Server Name : ""
POP Server Number : 110
POP User Name : ""
POP Password : "*****"
Use APOP : NO
Delete Mail after Retrieve : NO
Maximum Retrieve(KByte) : 0
Filler Setting : ""
Return a read receipt : NO

変更した場合は、設定値を管理してください。

<< Configure TCP/IP - POP - User Profile 2 >>

User Profile : DISABLE
POP Server Name : ""
POP Server Number : 110
POP User Name : ""
POP Password : "*****"
Use APOP : NO
Delete Mail after Retrieve : NO
Maximum Retrieve(KByte) : 0
Filler Setting : ""
Return a read receipt : NO

```
<< Configure TCP/IP - POP - User Profile 3 >>
  User Profile                :DISABLE
  POP Server Name             : " "
  POP Server Number           :110
  POP User Name               : " "
  POP Password                :*****"
  Use APOP                    :NO
  Delete Mail after Retrieve  :NO
  Maximum Retrieve(KByte)     :0
  Filler Setting              : " "
  Return a read receipt       :NO
<< Configure TCP/IP - POP - User Profile 4 >>
  User Profile                :DISABLE
  POP Server Name             : " "
  POP Server Number           :110
  POP User Name               : " "
  POP Password                :*****"
  Use APOP                    :NO
  Delete Mail after Retrieve  :NO
  Maximum Retrieve(KByte)     :0
  Filler Setting              : " "
  Return a read receipt       :NO
<< Configure TCP/IP - SMTP >>
  SMTP Protocol               :DISABLE
  SMTP Server Name            : " "
  From Address                 : " "
<< Configure TCP/IP - SMTP -Event to Address1 >>
  To Address                   : " "
  Check Interval(min.)        :10
  Offline                      :OFF
  Paper Empty                  :OFF
  Fault                        :OFF
<< Configure TCP/IP - SMTP -Event to Address2 >>
  To Address                   : " "
  Check Interval(min.)        :10
  Offline                      :OFF
  Paper Empty                  :OFF
  Fault                        :OFF
<< Configure TCP/IP -SMTP - Advanced >>
  SMTP Port Number            :25
  Signature Line1              : "-----"
  Signature Line2              : "HITACHI PC-PB20501"
  Signature Line3              : "[XX:XX:XX:XX:XX:XX]"
  Signature Line4              : "-----"
<< Configure TCP/IP -SMTP - SMTP Authenticon >>
  SMTP AUTH Enable            :DISABLE
  SMTP AUTH Name               : " "
  SMTP AUTH Password           :*****"
<< Configure TCP/IP - WINS >>
  Primary Server               :0.0.0.0
  Secondary Server             :0.0.0.0
  Scope ID                     : " "
```

○で囲んでいる設定値は、設定を変更しても設定情報印刷結果には印刷しません。

変更した場合は、設定値を管理してください。

変更した場合は、設定値を管理してください。

```

<< Configure TCP/IP - IP Filter Config >>
  Filter Mode                               :DENY
  Filter #0 Start Address                   :0.0.0.0
  Filter #0 End Address                     :0.0.0.0
  Filter #1 Start Address                   :0.0.0.0
  Filter #1 End Address                     :0.0.0.0
  Filter #2 Start Address                   :0.0.0.0
  Filter #2 End Address                     :0.0.0.0
  Filter #3 Start Address                   :0.0.0.0
  Filter #3 End Address                     :0.0.0.0

<< Configure NetBEUI >>
  NetBEUI Protocol                         :ENABLE
  NetBIOS over TCP                         :ENABLE
  Computer Name                            : "HIXXXXXXX"
  Workgroup                                 : "HI-LAN-ADP"
  Comment                                   : "HITACHI PC-PB20501"
  Browse Master                            :ENABLE

<< Configure SNMP >>
  Authentic Community                      : "*****"
  Trap Community                           : "public"
  Trap Address                             :0.0.0.0
  SysContact                               : ""
  SysNme                                    : ""
  SysLocation                              : ""
  EnableAuthenTrap                         :2

<< Configure Print Port >>
  BOJ String                               : ""
  EOJ String                               : ""
  BOJ String(sjis/euc)                    : ""
  EOJ String(sjis/euc)                    : "¥f"
  Printer Emulation                       :ESC/P
  TAB Size(char.)                          :8
  Page Width(char.)                        :0
  Page Length(line)                       :0

<< Configure Another >>
  Print Trap Community                     : "public"
  Print Trap Address                       :0.0.0.0
  PE/Reboot                                :DISABLE
    
```

で囲んでいる設定値は、設定を変更しても設定情報印刷結果には印刷しません。

変更した場合は、設定値を管理してください。



注意

- ・本設定情報印刷結果はSSL 非対応版の印刷結果です。



参考

- ・設定情報印刷により、本製品の設定が確認できます。本製品を設定する際にご活用ください。
- ・設定値に "*" が表示されているものは、設定変更をしても値を表示しません。本項目の工場出荷時設定については、「第6章 設定に関する機能」を参照してください。
- ・本製品の設定を変更した場合は、変更した設定値を管理するようにしてください。

自己診断印刷結果(例)

PC-PB20501 Version X.X.X
Copyright 2005 Ricoh Printing Systems, Ltd.

*** Diagnostic report ***

ROM Check : OK Stat: E810 FFFF 0000 0000
RAM Check : OK Stat: 0000 0000 0000 0000
NIC Check : OK Addr: XX:XX:XX:XX:XX:XX 10BASE-T(TPI) [10Half]
EEPROM Check : OK Stat: 7C85 7C85 0000 0000

DIPSW1 : OFF(ON:Test use only)
DIPSW2 : OFF(ON:Initialize configuration)
DIPSW3 : OFF(ON:Configuration print)
DIPSW4 : ON (ON:Diagnostic print)

IP Address : 0.0.0.0



注意

- ・自己診断印刷結果のRAM Check、ROM Check、NIC Check、EEPROM CheckにNGがある場合は、「第8章 トラブルシューティング」に従って対処してください。
- ・NIC Check項目のXX:XX:XX:XX:XX:XXは本製品のEthernetアドレスを示します。

取り付け方法

本製品を取り付ける



注意

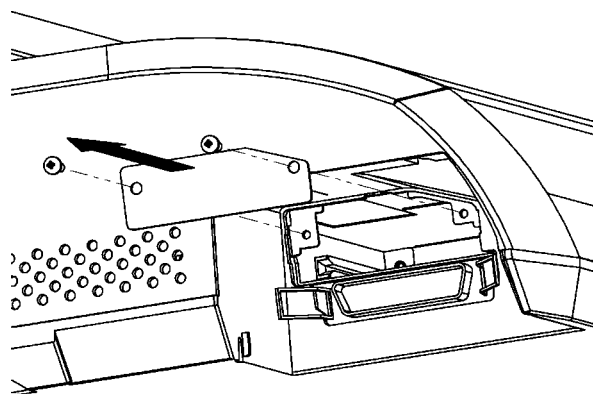
- ・ 下記は PC-PD1080 の取り付け例です。
- ・ プリンタによって取り付け方法が異なりますので、本製品を取り付ける前に、必ずご利用になるプリンタの「取扱説明書」をご確認ください。また、本製品を取り付けた後に、プリンタ側の設定で LAN ボードを「有効」にするなど、各設定が必要になりますので、各プリンタの取扱説明書をご参照して、設定を行ってください。
- ・ 本製品を取り付ける際は、必ずプリンタの電源コードを外した状態で行ってください。
- ・ 本製品を一度でも他のネットワークで利用された場合は、必ず「設定情報を初期値に戻す」作業を行ってください。

1. プリンタ本体の電源を OFF にし、電源コードを外した後、プリンタのオプションインタフェースカバーを外します。

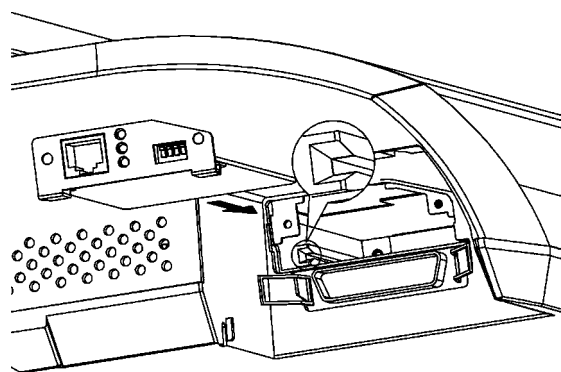


注意

電源が入っている状態で本製品を取り付けると、故障の原因になることがあります。



2. 取り付け口のガイドに沿って本製品を差込み、取付けます。

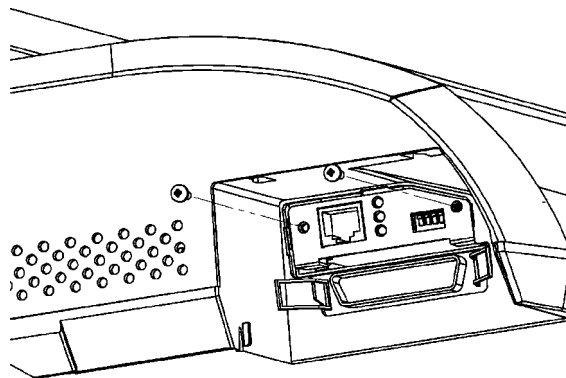


3. プリンタの電源が OFF になっていることを確認し、電源コードを差し込みます。



注意

プリンタ本体の基板の一部が高温になっていることがあるので注意してください。また、故障の原因になるので基板には手を触れないでください。



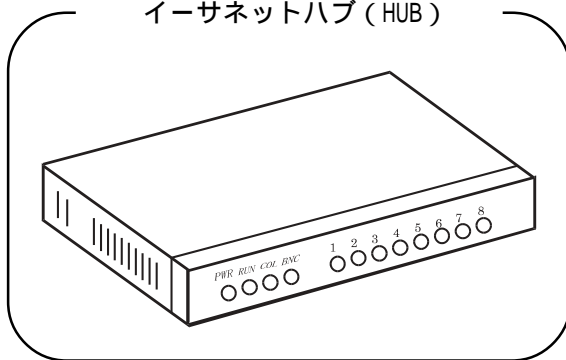
ネットワークに接続する

本製品をネットワークに接続するために、以下のものをご準備ください。

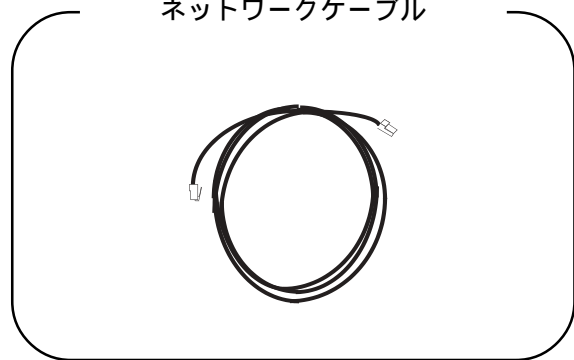


- ・ 100BASE-TX環境でお使いの場合は、100BASE-TX対応のイーサネットハブ（HUB）とネットワークケーブル（カテゴリ-5以上）をご用意ください。

イーサネットハブ（HUB）

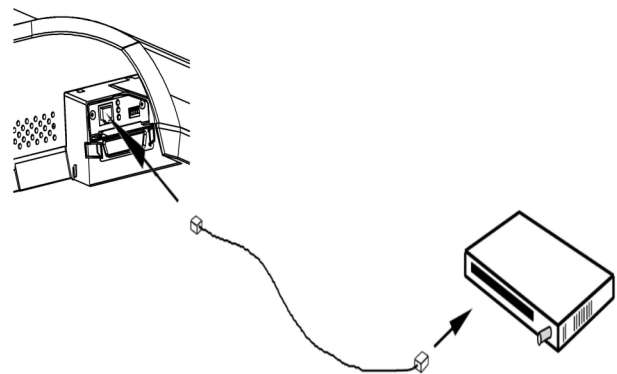


ネットワークケーブル



<ネットワークへの接続方法>

1. プリンタの電源がOFFになっていることを確認します。
2. 本製品のネットワークポート（10BASE-T/100BASE-TX）にネットワークケーブルを接続します。
3. イーサネットハブ（HUB）に、ネットワークケーブルのもう一方を接続します。
4. プリンタの電源をONにし、本製品のLINK LEDが点灯することを確認します。
5. 本章「ディップスイッチの操作」を参照し、自己診断印刷結果と設定情報印刷を実施し、印刷結果に問題の無いことを確認してください。
6. 本製品の設定が完了したら、再度、本章「ディップスイッチの操作」を参照し、自己診断印刷結果と設定情報印刷を実施し、印刷結果を保管してください。本製品の設定方法については、「第2章 セットアップユーティリティについて」以降を参照してください。



セキュア(SSL)通信印刷機能 / IPフィルタ機能 / セキュリティレベル設定機能

- ・セキュア(SSL(Secure Sockets Layer))通信印刷機能を用いた暗号化と認証機能により、第三者による印刷データの盗用や改ざんを防ぐことができます。本製品では、特別な外部認証機関を利用することなく、本製品から簡単に証明書を発行することができます。
- ・本製品はIPフィルタ機能により、IPアドレスのフィルタリングによる設定範囲外のIPアドレスからの通信を抑止する機能のほかに、セキュリティレベル設定機能により、通信可能プロトコルの設定ができます。そのため、不正IPアドレスからのアクセス、使用していないプロトコルによる通信を排除することができます。
- ・セキュア(SSL)通信印刷機能のサポートにより、SSL非対応版(旧バージョン1.X.X)に含まれていた機能の一部を非サポートとしました。これらの機能を使用する場合は、「第2章 セットアップユーティリティ」を参照してください。
- ・下表にSSL対応版と非対応版のサポート状況を示します。

対応プロトコル一覧		SSL対応版	SSL非対応版	備考
対応 プロ トコ ル	LPR	○	○	
	RAW	○	○	
	IPP	○	○	
	HTTP	○	○	
	HTTPS	○	×	
	TELNET	○	○	
	FTP	○	○	
	SNMP	○	○	
	NetBEUI	×	○	
	SMTP	×	○	
	POP	×	○	
	DNS	×	○	
	RARP	○	○	
	DHCP/BOOTP	○	○	
Setup Protocol	○	○		

対応設定項目一覧		SSL対応版	SSL非対応版	備考	
設定 項目	TCP-IP設定	DNS Server	×	○	
		WINS	×	○	
		IPv6	×	○	
		NetworkPnP	×	○	
		Security Level	○	×	
	NetBEUI	×	○	SSL対応版には本項目がありません。	
	E-Mail(POP)	×	○		
	E-Mail(SMTP)	×	○		
	Secure Print	Secure Print	○	×	
		SSL Mode	○	×	
SSL証明書作成	証明書情報設定	○	×	本設定はWebブラウザからのみ設定できません。	
	有効期限設定	○	×		

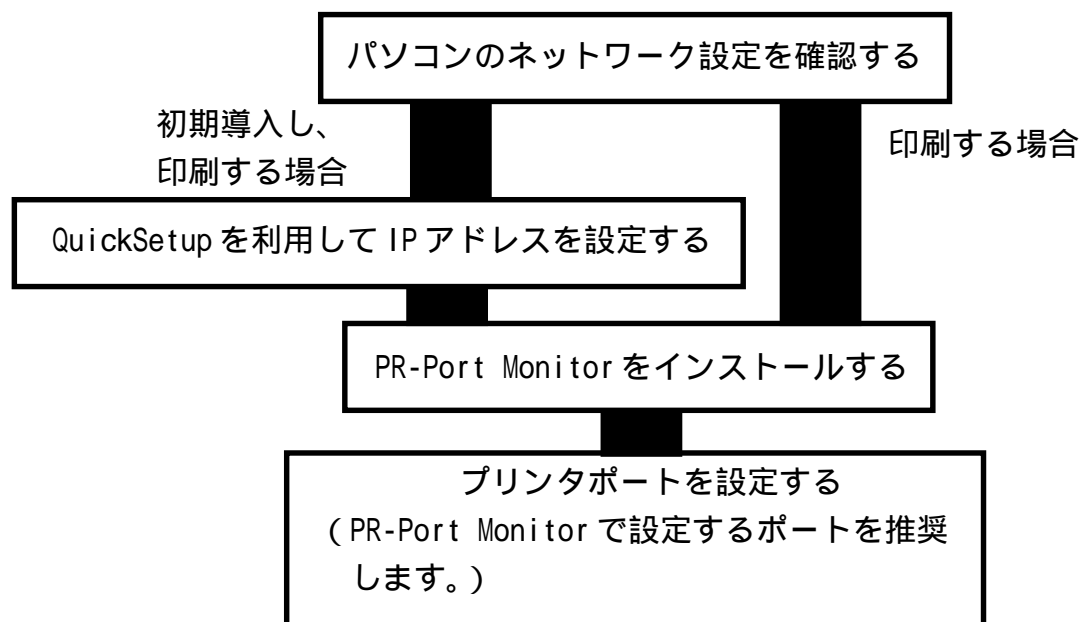
第3章 Windows 98/Me環境で使用する	3-2
Windows 98/Me環境からTCP/IPで印刷する	3-2
パソコンのネットワーク設定を確認する	3-3
Quick Setupによる簡単設定	3-4
PR-Port Monitorをインストールする	3-8
印刷ポートを追加する	3-11
PR-Port Monitor LPRポートを追加する場合	3-12
PR-Port Monitor IPPポートを追加する場合	3-14
PR-Port Monitor Raw(TCP/IP 9100)ポートを追加する 場合	3-17
プリンタドライバの設定	3-19
Windows 98/Me環境からNetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで 印刷する	3-21
パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBEUIの場合)	3-21
パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBIOS over TCP/IPの場合)	3-22
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する	3-23
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPについて	3-24
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPワークグループの構造 ...	3-24

第3章 Windows 98/Me環境で使用する

本章では、Windows 98/Me環境で本製品を接続して、TCP/IP、NetBEUIおよびNetBIOS over TCP/IPで印刷を行う方法について説明します。

Windows 98/Me環境からTCP/IPで印刷する

本製品をTCP/IPプロトコルを利用して印刷する際は以下の通りです。



参考

- あらかじめプリンタドライバをご使用のパソコンにインストールしてください。
- 本製品をご使用の際には、PR-Port Monitor で作成したLPRポートの使用を推奨します。
- セキュア(SSL)通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、PR-Port Monitor で作成したIPPポートの使用を推奨します。
- セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になるSSL証明書情報を本製品に設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- セキュア(SSL)通信印刷機能を使用して印刷をすると、印刷データを暗号化します。そのため、第三者による印刷データの盗用や改ざんを防止することができます。
- 本製品に付属しているユーティリティ「Popup status monitor」はPR-Port Monitor で作成するLPRまたはRAW 何れかのポートでしか動作しません。本製品をご使用の際には、PR-Port Monitor で作成したLPRポートをご使用いただくことを推奨します。



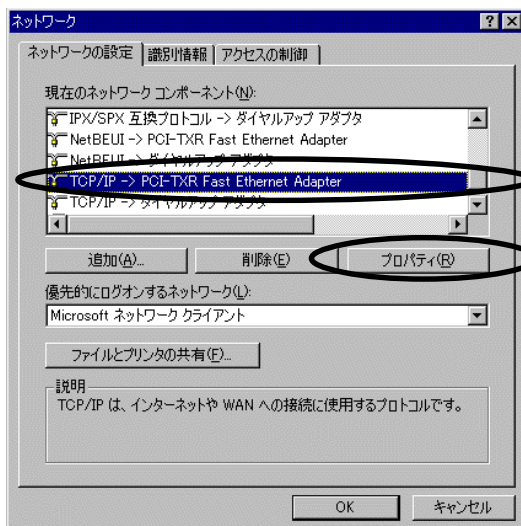
注意

- セキュア(SSL)通信印刷機能とNetBEUI/NetBIOS over TCP/IP等は、対応するファームウェアが異なるために同時使用はできません。
- セキュア(SSL)通信印刷機能は、SSL対応版ファームウェアでサポートしています。SSL非対応版ファームウェアでサポートしている機能を利用する場合は、「第2章 セットアップユーティリティ」をご参照ください。

パソコンのネットワーク設定を確認する

Windows 98/Meの「ネットワークの設定」の一覧に「TCP/IP」が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」を選択してください。
2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。
3. 「ネットワークの設定」の「ネットワークコンポーネント一覧」に[TCP/IP]が追加されていることを確認してください。

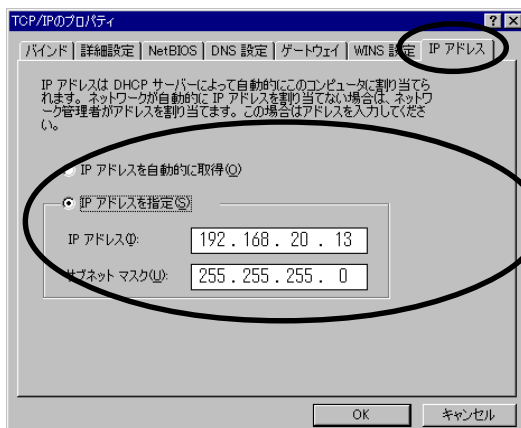


「プロパティ」をクリックしてください。



・「TCP/IP」がコンポーネント一覧にない場合は「追加」をクリックし、「ネットワークコンポーネントの選択」 - 「プロトコル」 - 「Microsoft TCP/IP」の手順で「TCP/IP」を追加してください。

4. [IPアドレス]の設定で、ご使用の環境にあわせた設定が行われているか確認してください。



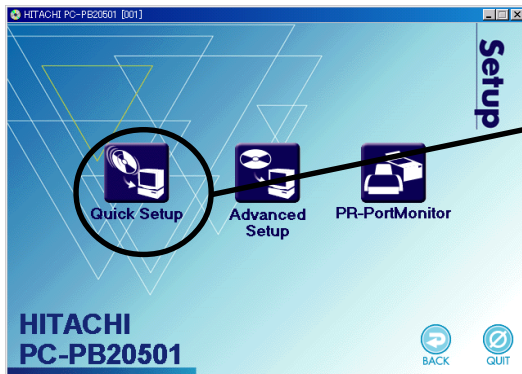
Quick Setupによる簡単設定

1. 本製品付属の CD-ROM(セットアップ ユティリティ)を Windows パソコンにセットすると、メインメニューが自動的に起動します。



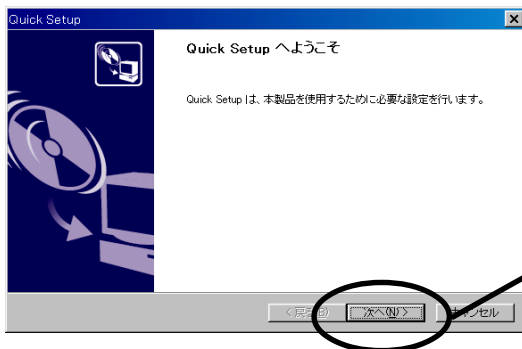
「セットアップ」をクリックしてください。

2. セットアップ方法の選択画面が開きます。



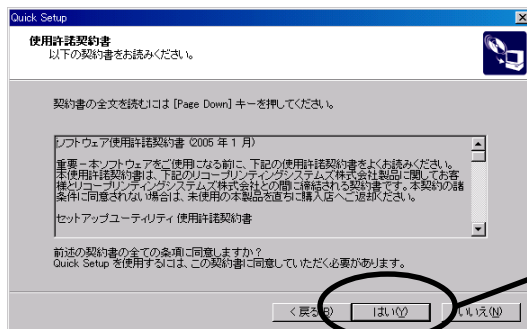
「Quick Setup」をクリックしてください。

3. Quick Setupが起動します。



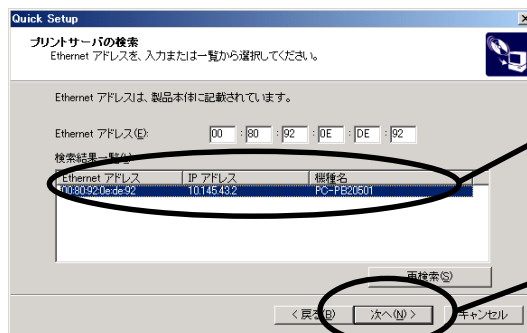
次へ をクリックしてください。

4. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックしてください。

5. 本製品を選択します。



設定を行う本製品を選択してください。

次へ をクリックしてください。



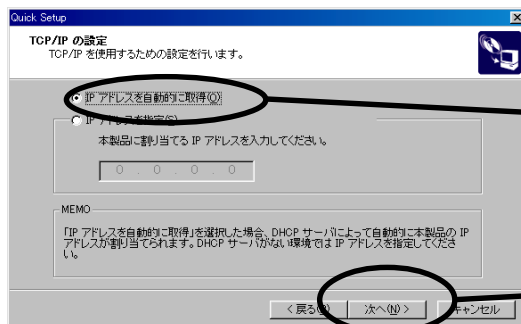
参考

- ・ 検索結果一覧に本製品が表示されていない場合は「再検索」をクリックしてください。Ethernet アドレスを直接入力することで本製品を選択することもできます。
- ・ 本製品の Ethernet アドレスは、自己診断印刷結果または本製品基板裏面にシール表示で記載されています。(例 : 00:80:92:08:b0:dd)

6. IP アドレスを設定します。

< ご使用の環境内に DHCP サーバがある場合 >

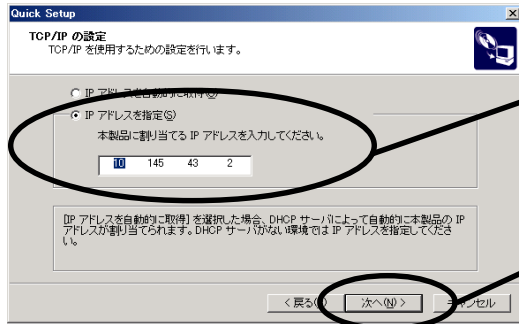
(A) DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する



「IPアドレスを自動的に取得する」を選択してください。

次へ をクリックしてください。

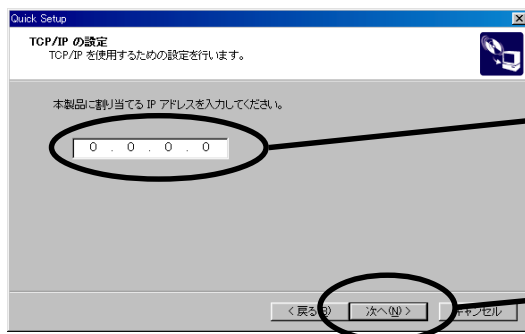
(B) 手動で IP アドレスを設定する



任意の IP アドレスを設定することができます。

次へ をクリックしてください。

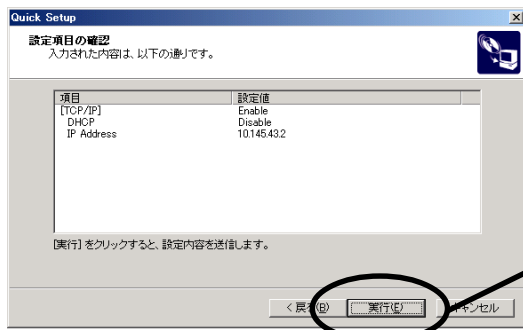
< ご使用の環境内に DHCP サーバが無い場合 >



任意の IP アドレスを指定してください。

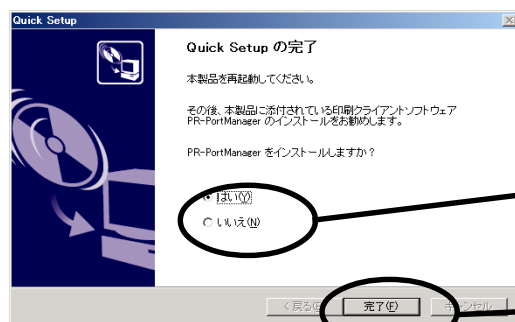
次へ をクリックしてください。

7. 設定項目を確認します。



実行 をクリックしてください。

8. 設定完了です。



「はい」を選択してください。

完了 をクリックしてください。



- ・引き続き PR-Port Monitor をインストールしてください。PR-Port Monitor は Windows から直接印刷を行うための印刷クライアントソフトウェアです。

PR-Port Monitorをインストールする

Windows 98/Me 環境から本製品を利用してTCP/IP プロトコルで直接印刷を行うには、本製品に付属しているPR-Port Monitorが必要です。PR-Port Monitorは、LPR 機能（弊社製品専用）、IPP 機能及び、Raw モード（TCP/IP 9100）機能をご利用いただける印刷クライアントソフトウェアと、Popup Status Monitor が収録されています。インストールが完了すると、プリンタポート追加ウィザードが起動します。

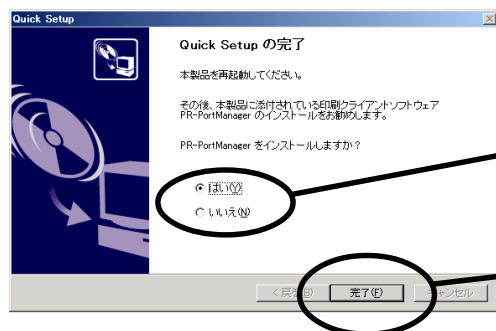


参考

- ・LPR (Line Printer Remote)
ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のプリンタに印刷することができます。一般に広く使用されているプロトコルです。本 LPR ポートをご使用いただくことを推奨します。
- ・IPP (Internet Printing Protocol) 機能
インターネットを介して遠隔地のネットワークプリンタに印刷することができます。SSL 通信印刷機能を使用する場合は、本プロトコルを使用します。
- ・Raw モード (TCP/IP 9100) 機能
ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のプリンタに印刷することができます。印刷データのスプールを行わずに高速に印刷することができます。
- ・Popup Status Monitor
プリンタの状態をパソコン画面にポップアップして表示する便利なモニタです。詳細は「第9章 Popup Status Monitor」をご参照ください。

1. インストール方法を確認します。

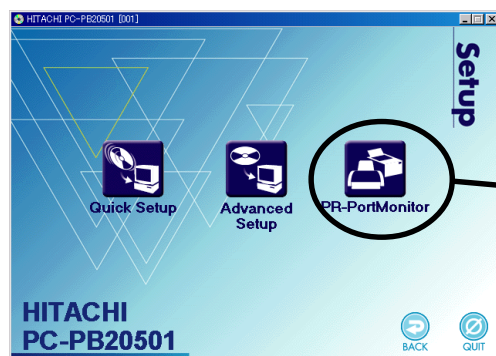
(A) Quick Setup から続いてインストールする場合



「はい」を選択してください。

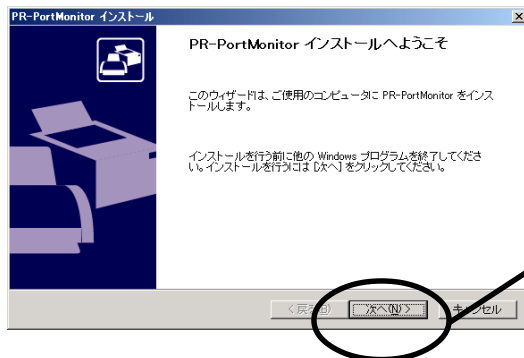
完了 をクリックしてください。

(B) PR-Port Monitor のみインストールする場合



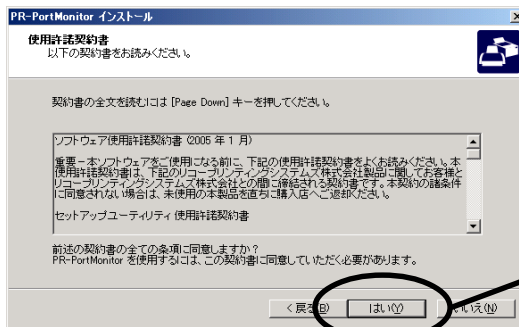
付属CD-ROM をセットし、「メインメニュー」-「Setupメニュー」から「PR-Port Monitor」を選択してください。

2. PR-Port Monitor インストールウィザードが起動します。



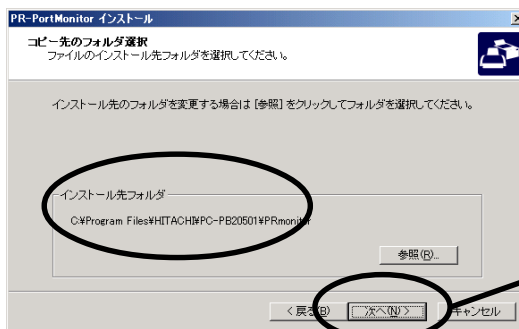
次へ をクリックしてください。

3. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックしてください。

4. インストール先のフォルダを指定します。



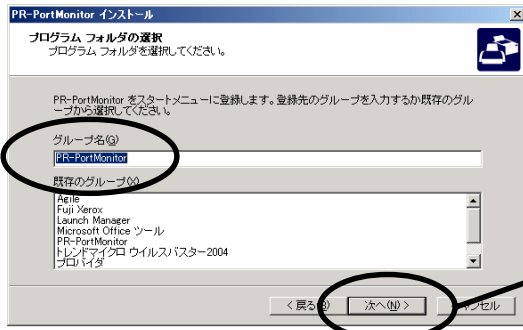
次へ をクリックしてください。



参考

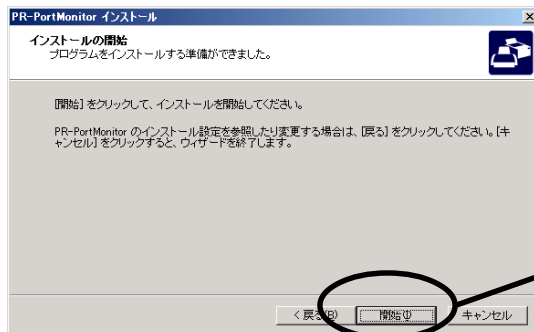
・[参照]をクリックするとインストール先フォルダを選択できます。

5. スタートメニューに表示されるグループ名を入力します。



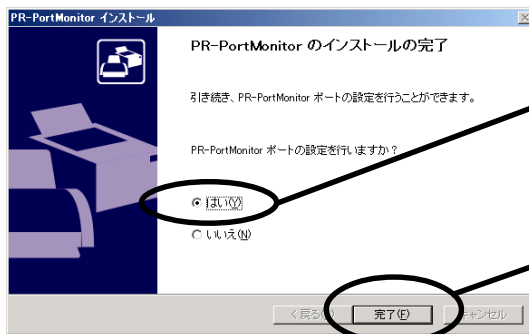
次へ をクリックしてください。

6. インストールを開始します。



開始 をクリックしてください。

7. インストール完了です。



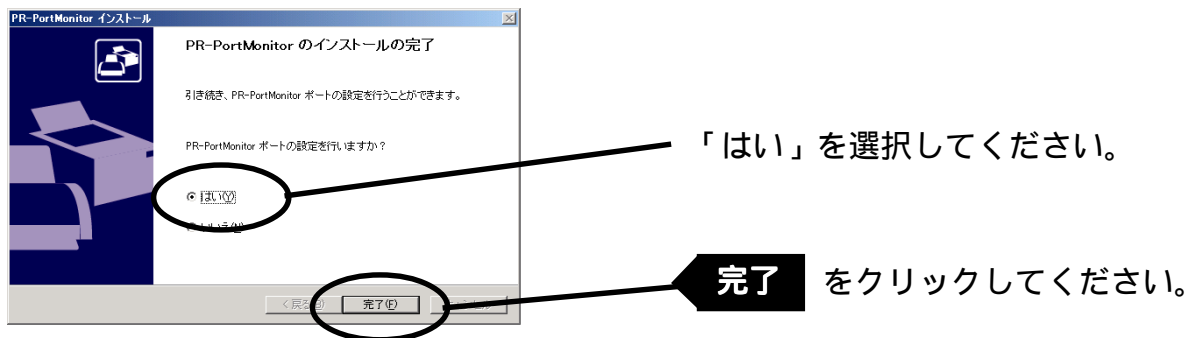
「はい」を選択してください。

完了 をクリックしてください。

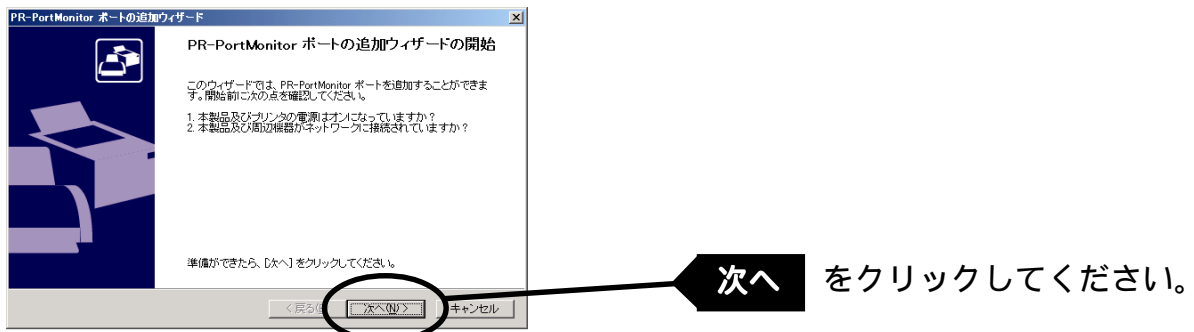
印刷ポートを追加する

本製品ではPR-Port Monitorの、「LPRで印刷する」「IPPで印刷する」「Rawモードで印刷する」の3つのポート作成方法をご利用いただけます。印刷に使用するプロトコルを選択し、「次へ」をクリックすると、各印刷方式のポート作成画面へ移ります。

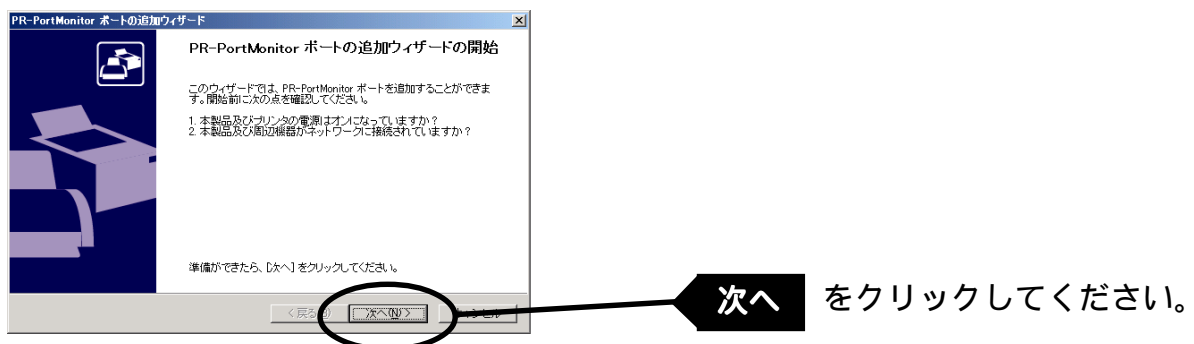
(A)1.PR-Port Monitor インストールから続いて追加する。



2.PR-Port Monitor ポート追加ウィザードが開始します。

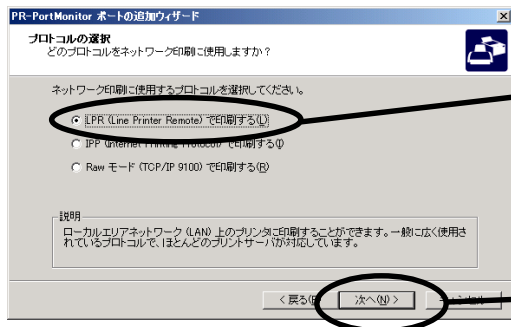


(B)「スタート」-「プログラム」-「PR-Port Monitor」にある「PR-Port Monitor ポート追加」から追加する。



PR-Port Monitor LPR ポートを追加する場合

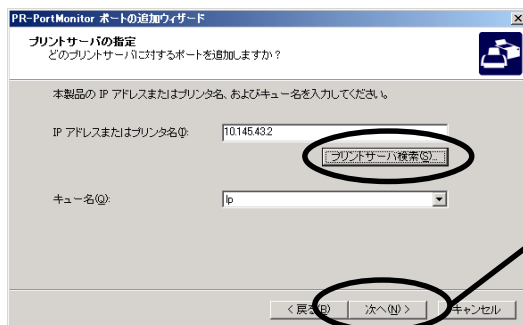
1. LPR (Line Printer Remote)を選択します。



「LPR (Line Printer Remote) で印刷する」を選択します。

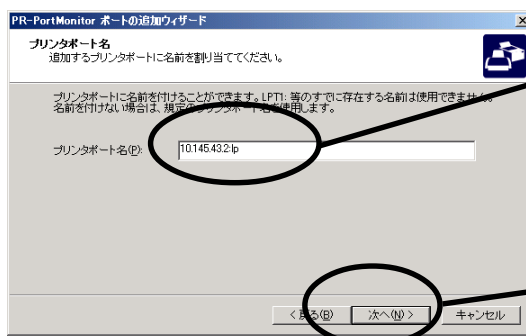
次へ をクリックしてください。

2. 「プリントサーバ検索」ボタンでネットワーク内のプリントサーバの一覧を表示させ、本製品を選択してください。



次へ をクリックしてください。

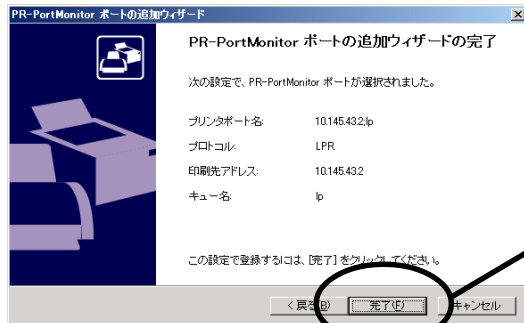
3. プリントポート名を入力します。



名前を指定しない場合は、既定のプリンタポート名をご使用ください。

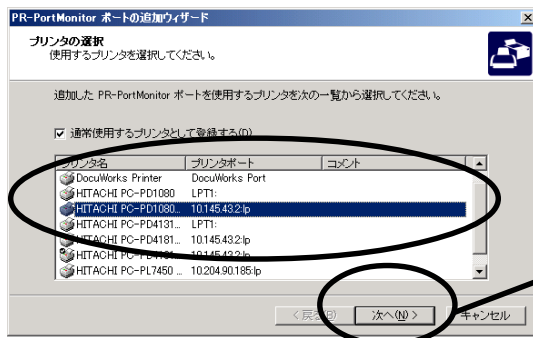
次へ をクリックしてください。

4. 設定内容を確認します。



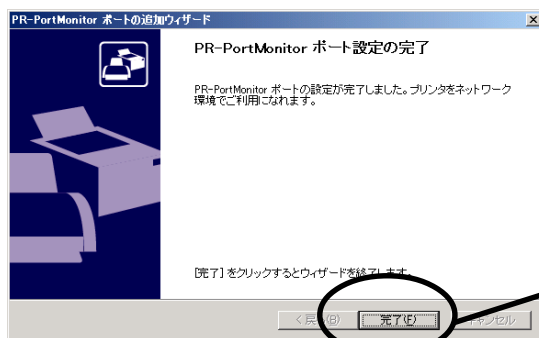
完了 をクリックしてください。

5. 使用するプリンタを一覧の中から選択します。



次へ をクリックしてください。

6. ポート設定を完了します。



完了 をクリックしてください。

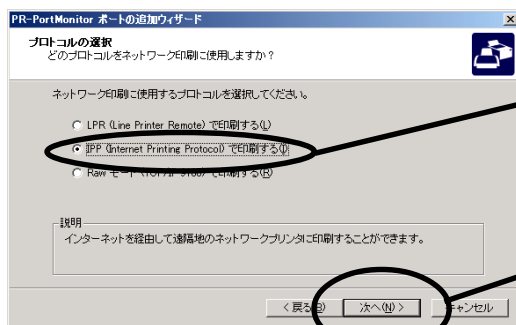
PR-Port Monitor IPP ポートを追加する場合



注意

- ・セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になるSSL証明書情報を、予め本製品に設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- ・セキュア(SSL)通信印刷機能は、印刷データを暗号化するため、データ量が増加します。そのため、データ転送時間がかかり、通常印刷と比較して印刷性能が低下します。

1. IPP(Internet Printing Protocol)を選択します。

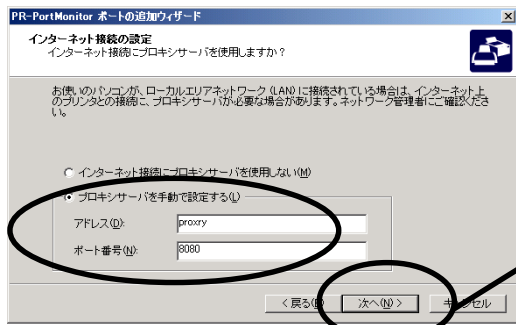


「IPP (Internet Printing Protocol) で印刷する」を選択します。

次へ

をクリックしてください。

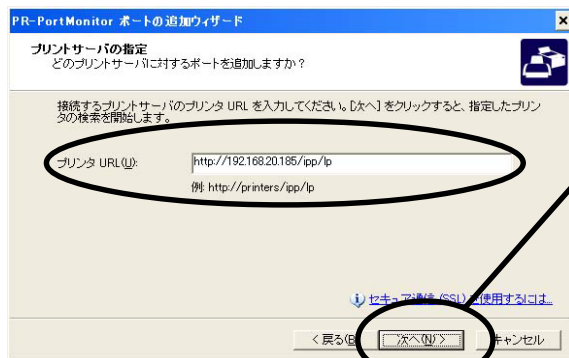
2. 「Internet Explorerの設定を使用する」、「インターネット接続にプロキシサーバを使用しない」又は、「プロキシサーバを手動で設定する」を選択してください。



次へ

をクリックしてください。

3. 「プリンタ URL」には、印刷先の本製品に割り当てられた URL を入力してください。本製品の IPP プリンタ URL は、"/ipp" 又は "/ipp/lp" です。「次へ」をクリックすると、指定された URL が存在するか、確認を行います。



次へ をクリックしてください。



参考

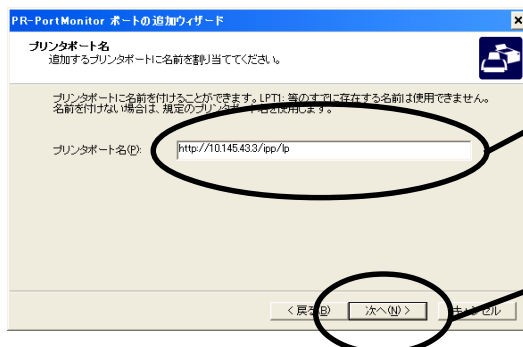
- URL が「abc.co.jp」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使用しない場合
http://abc.co.jp/ipp または http://abc.co.jp/ipp/lp
- URL が「abc.co.jp」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使用する場合
https://abc.co.jp/ipp または https://abc.co.jp/ipp/lp
- IP アドレスが「192.168.20.185」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使用しない場合
http://192.168.20.185/ipp または http://192.168.20.185/ipp/lp
- IP アドレスが「192.168.20.185」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使用する場合
https://192.168.20.185/ipp または https://192.168.20.185/ipp/lp



注意

- セキュア (SSL) 通信印刷機能を使用する場合は、URL は "https:// ~ " と指定してください。"http:// ~ " と指定すると、セキュア (SSL) 通信印刷機能は動作しません。
- セキュア (SSL) 通信印刷機能を使用する場合は、本製品のファームウェアが SSL 対応版 (新バージョン (Ver. 2.X.X)) であることを確認してください。
- セキュア (SSL) 通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になる SSL 証明書情報を本製品に設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- https ポートを作成する為には新バージョンの PR-PortMonitor (Ver. 1.2.0) が必要です。

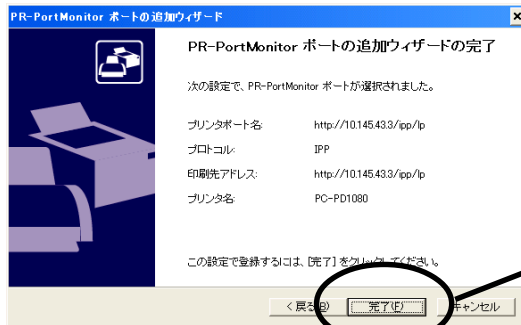
4. 印刷先のポート名を設定します。



名前を指定しない場合は、既定のプリンタポート名をご使用ください。

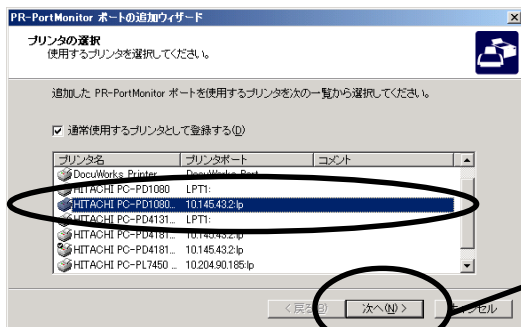
次へ をクリックしてください。

5. 設定内容を確認します。



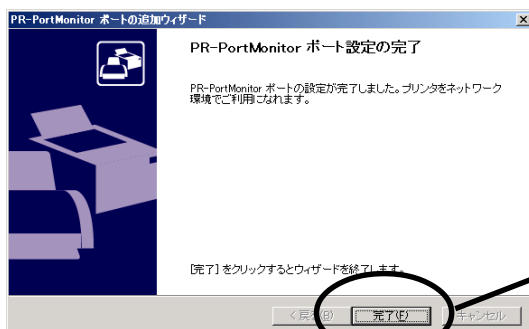
完了 をクリックしてください。

6. 使用するプリンタを一覧の中から選択します。



次へ をクリックしてください。

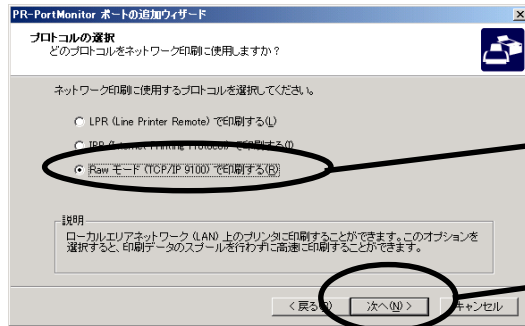
7. ポート設定を完了します。



完了 をクリックしてください。

PR-Port Monitor Raw(TCP/IP 9100) ポートを追加する場合

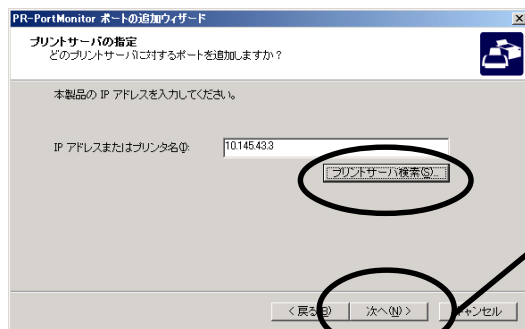
1. Rawモード(TCP/IP 9100)を選択します。



「Rawモード(TCP/IP 9100)で印刷する」を選択します。

次へ をクリックしてください。

2. 「プリントサーバ検索」ボタンでネットワーク内のプリントサーバ一覧を表示させ、一覧の中から本製品を選択してください。



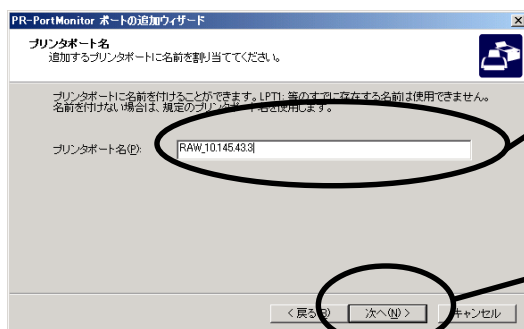
次へ をクリックしてください。



参考

・「次へ」をクリックすると、指定されたプリントサーバが9100ポートにアクセス可能か、確認されます。

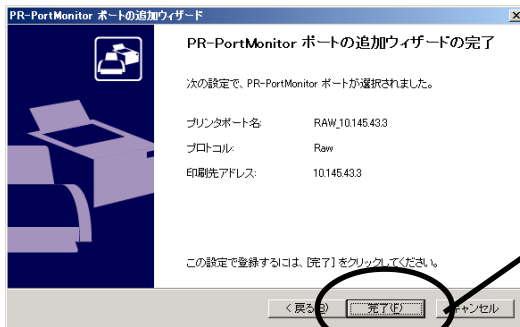
3. 印刷先ポート名を入力します。



特に問題がなければ既定のプリンタポート名(RAW_IPアドレス)をご使用ください。

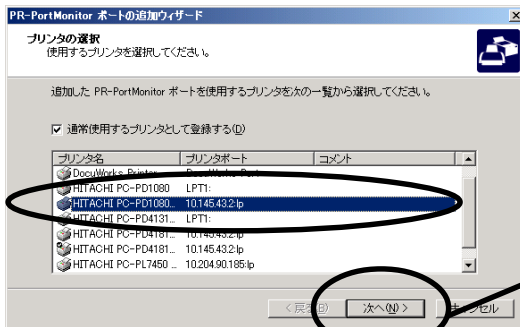
次へ をクリックしてください。

4. 設定内容を確認します。



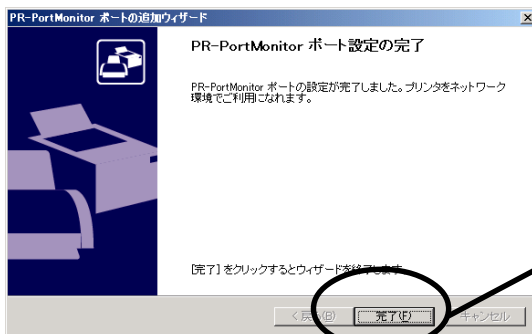
完了 をクリックしてください。

5. 使用するプリンタを一覧の中から選択します。



次へ をクリックしてください。

6. ポート設定を完了します。



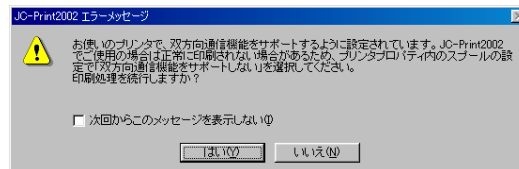
完了 をクリックしてください。

プリンタドライバの設定

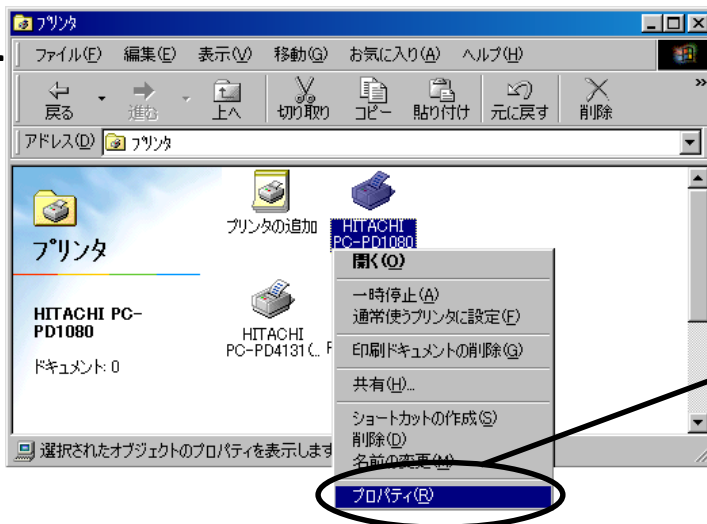
プリンタドライバの設定方法を説明します。



- ・プリンタドライバの設定を行わない場合、次のエラー画面が表示される場合があります。「いいえ」を選択し、下記の手順でプリンタドライバの設定を行ってください。

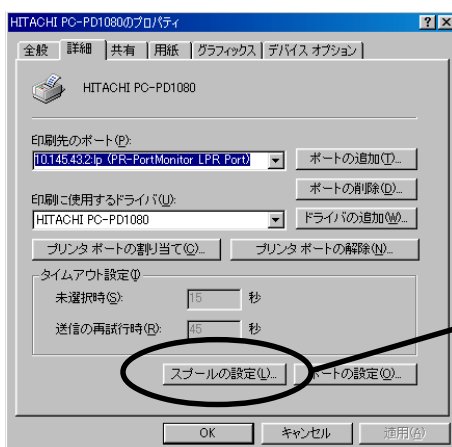


1. プリンタのプロパティを開きます。



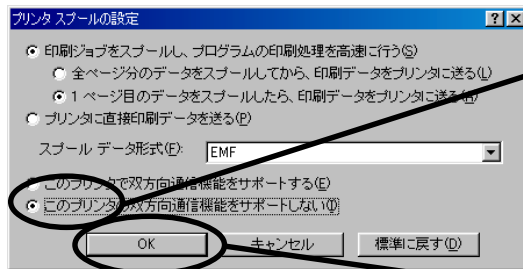
「プロパティ」を選択してください。

2. [詳細]を選択します。



「スプールの設定」を選択してください。

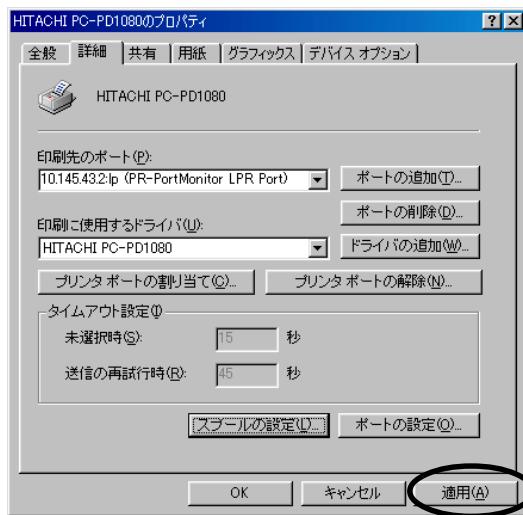
3. 双方向通信機能を設定します。



「このプリンタの双方向通信機能をサポートしない」を選択してください。

OK をクリックしてください。

4. 設定完了です。



適用 をクリックしてください。

Windows 98/Me環境からNetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する

本製品を NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP プロトコルを利用して Windows 98/Me から印刷する際の手順は以下の通りです。



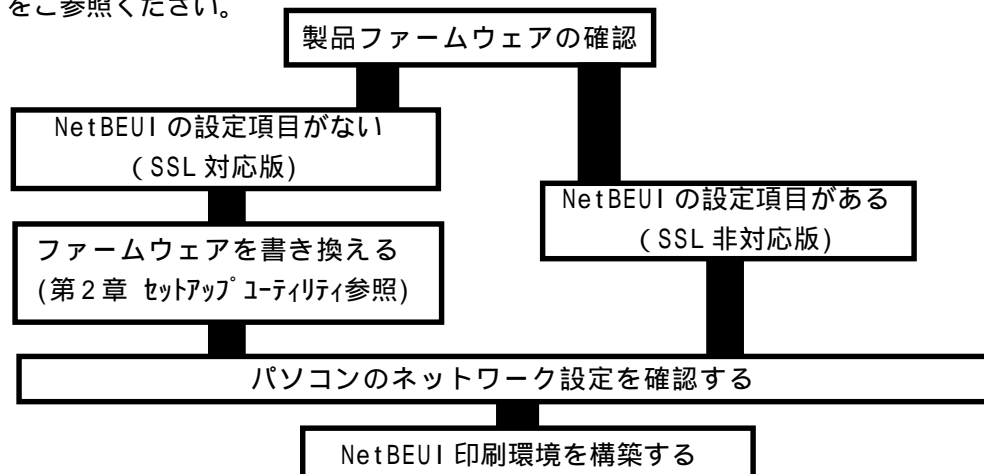
注意

- ・NetBEUI は SSL 非対応版のファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアはサポートしていません。ファームウェアのアップロード方法については、「第2章 セットアップユーティリティ」をご参照ください。



参考

- ・あらかじめプリンタドライバをご使用のパソコンにインストールしてください。
- ・NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP の詳細な設定を行う方法については「第8章 設定に関する機能」をご参照ください。



パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBEUIの場合)

Windows 98/Me の「ネットワーク」に、[NetBEUI] と [Microsoft ネットワーククライアント] が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」を選択します。
2. 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。
3. 「ネットワークの設定」で、[NetBEUI] と [Microsoft ネットワーククライアント] が追加されていることを確認してください。



参考

- ・現在のネットワークコンポーネント一覧に [NetBEUI] プロトコルが無い場合は、「追加」をクリックし、「プロトコル」 - 「Microsoft」 - 「NetBEUI」の手順で、追加してください。
- ・現在のネットワークコンポーネント一覧に [Microsoft ネットワーククライアント] が無い場合は、「サービス」 - 「Microsoft ネットワーククライアント」の手順で追加してください。

パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBIOS over TCP/IPの場合)

Windows 98/Meの「ネットワーク」で、[TCP/IP]と[Microsoft ネットワーククライアント]が追加されていること、「TCP/IP」のプロパティでNetBIOS over TCP/IPが使用可能になっていることを確認します。

1. 「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」を選択します。
2. 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。
3. 「ネットワークの設定」で、[TCP/IP]と[Microsoft ネットワーククライアント]が追加されていることを確認してください。



- ・現在のネットワークコンポーネント一覧に[TCP/IP]プロトコルが無い場合は、「追加」をクリックし、「プロトコル」 - 「Microsoft」 - 「TCP/IP」の手順で、追加してください。
- ・現在のネットワークコンポーネント一覧に[Microsoft ネットワーククライアント]が無い場合は、「サービス」 - 「Microsoft ネットワーククライアント」の手順で追加してください。

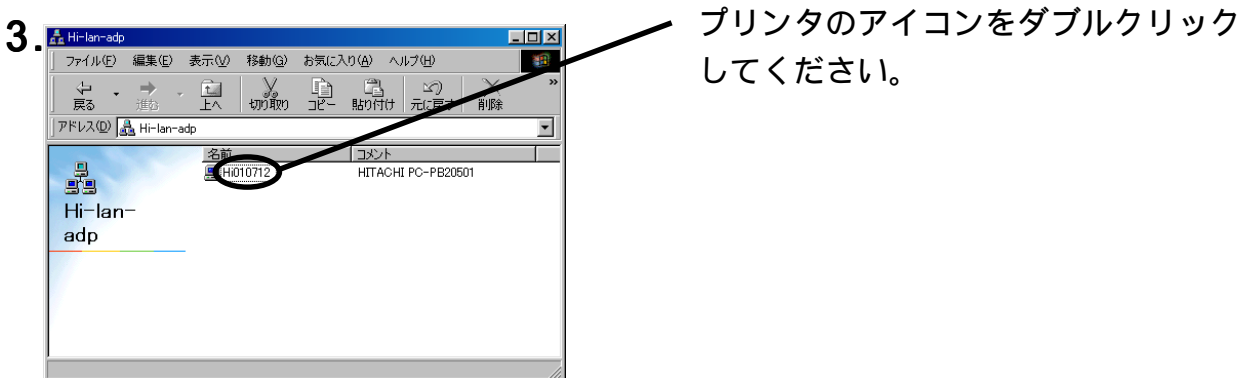
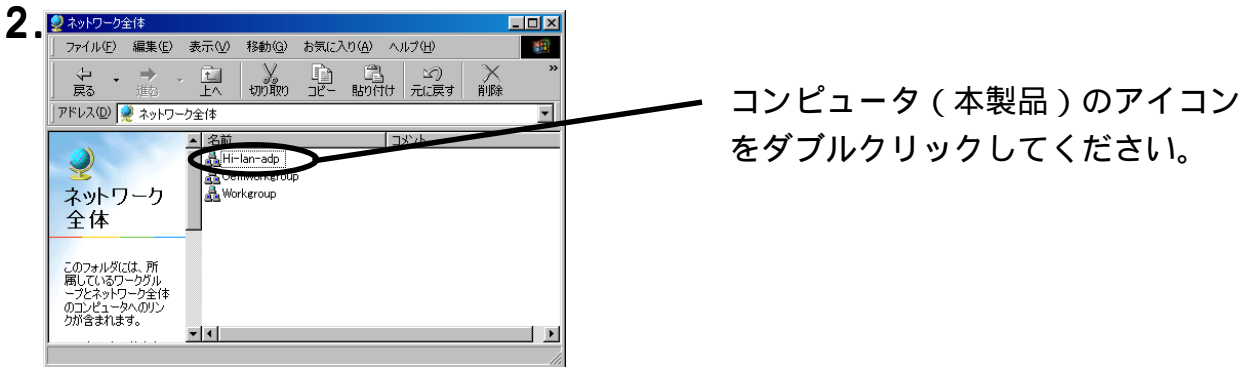
4. 「TCP/IP」のプロパティを開き、「NetBIOS」タブを選択し、「TCP/IP 上で、NetBIOS を使用可能にする」にチェックが入っていることを確認してください。



- ・通常、デフォルト状態ではチェックが入っています。

NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する

1. デスクトップ上の「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、「ネットワーク全体」の中のワークグループ名「Hi-lan-adp」を開きます。



4. プリンタの設定確認メッセージが表示されます。



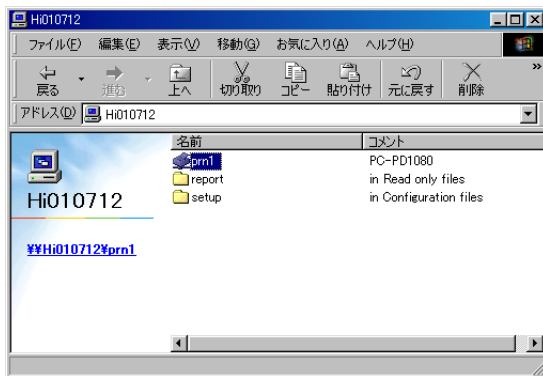
5. プリンタの追加ウィザードが起動しますので、指示に従って設定を行ってください。プリンタのテストページが出力されれば、プリンタの追加は完了です。

NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPについて

NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPワークグループの構造

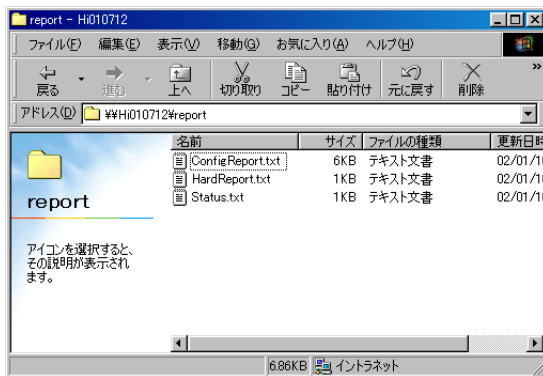
ここでは、本製品に搭載しているNetBEUI、NetBIOS over TCP/IPのワークグループの構造について説明します。

(例) 本製品のEthernetアドレス： 00:80:92:01:07:12



¥¥Hi010712:コンピュータ(本製品)

¥¥Hi010712¥prn1:プリンタ



¥¥Hi010712¥report¥ConfigReport.txt:

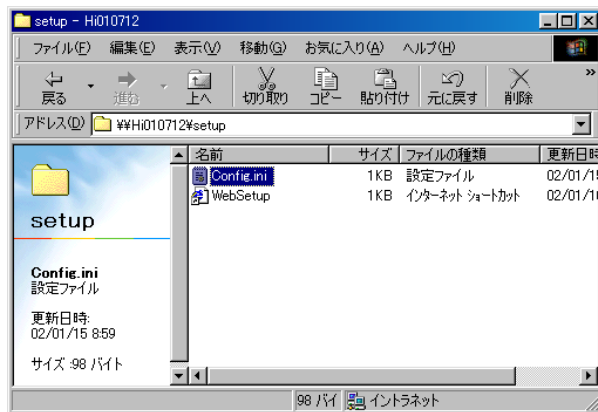
設定レポート(読み取り専用)

¥¥Hi010712¥report¥HardReport.txt:

自己診断情報(読み取り専用)

¥¥Hi010712¥report¥Status.txt:

システム状態レポート(読み取り専用)



¥¥Hi010712¥setup¥Config.ini:

初期設定ファイル (編集可能)

¥¥Hi010712¥setup¥WebSetup:

ショートカットファイル (読み取り専用)

設定レポート

本製品を起動した時の内部情報を出力します。

システム状態レポート

本製品を起動した時の本製品の状態を出力します。

初期設定ファイル

初期化ファイルでは「ワークグループ名」と「IPアドレス」を記述することができます。メモ帳等のエディタを使い編集後、ファイルを上書き保存することで設定します。上書き保存すると、本製品は約3秒後、自動リセットされ、再起動します。

初期化ファイルを編集し、ファイルを上書き保存することでワークグループ名、IPアドレスの変更が可能です。

(例)

```
Workgroup = UserGroup
IP Address = 192.168.20.126
```

ワークグループ名は、ネットワーク全体の中に既に存在するワークグループ名を指定してください。DHCP/BOOTP、RARPサーバを使用してIPアドレスを自動的に割り当てする場合は、「IP Address」に設定しても無効となります。

ショートカットファイル

本製品にIPアドレスが設定されるとショートカット (WebSetup) が作成されます。ショートカットアイコンをダブルクリックするとWebブラウザが起動し本製品のWebページが表示されます。



・Webブラウザについては「第8章 設定に関する機能」をご参照ください。

参考

第4章 Windows NT 4.0/2000/Server 2003/ XP/Vista環境で使用する	4-3
Windows NT 4.0/2000/Server 2003/XP/Vista環境から TCP/IP で 印刷する	4-3
パソコンのネットワーク設定を確認する	4-4
Windows NT 4.0 の場合	4-4
Windows 2000 の場合	4-6
Windows XP の場合	4-7
Windows Server 2003 の場合	4-9
Windows Vista の場合	4-9
Quick Setupによる簡単設定	4-11
PR-Port Monitor をインストールする	4-15
印刷ポートを追加する	4-18
PR-Port Monitor LPR ポートを追加する場合	4-19
PR-Port Monitor IPP ポートを追加する場合	4-21
PR-Port Monitor Raw(TCP/IP 9100) ポートを追加する 場合	4-24
プリンタドライバの設定	4-26
Windows NT 4.0/2000環境から NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-28
Windows NT 4.0 から NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-28
パソコンのネットワーク設定の確認をする (NetBEUI の場合)	4-28
パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBIOS over TCP/IP の場合)	4-29
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-30

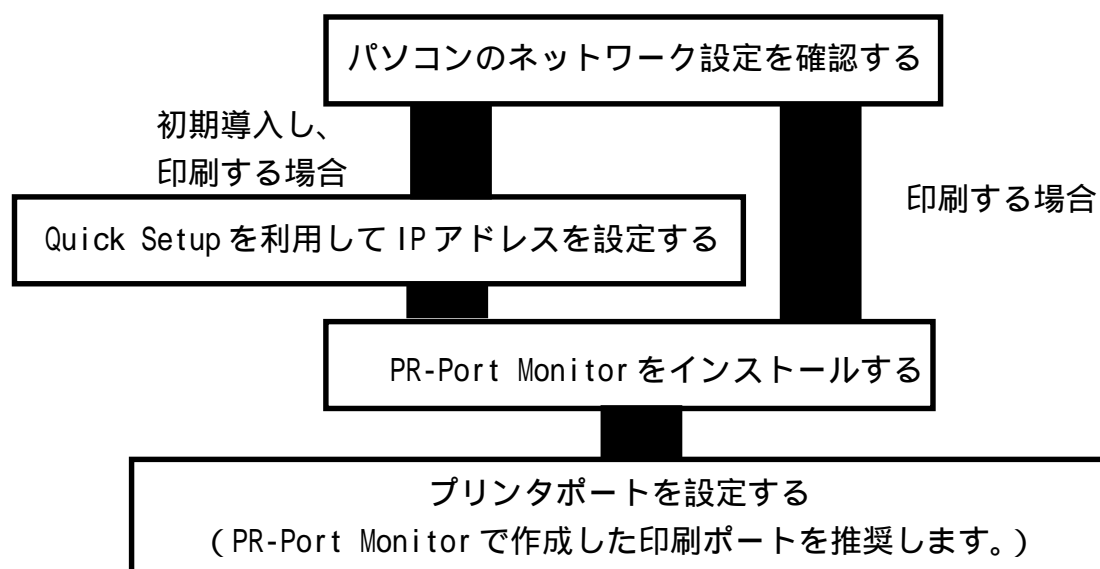
Windows 2000 から NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-31
パソコンのネットワーク設定の確認をする (NetBEUI の場合)	4-31
パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBIOS over TCP/IP の場合)	4-32
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-33
Windows Server 2003, Windows XP 環境から NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-34
Windows Server 2003, Windows XP から NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-34
パソコンのネットワーク設定を確認する	4-35
NetBIOS over TCP/IP で印刷する	4-37
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP について	4-38
NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP ワークグループの構造 ...	4-38
OS 標準の印刷クライアント機能で印刷する	4-40
Windows NT 4.0 の LPR ポートで印刷する	4-40
Windows 2000/Server 2003/XP の Standard TCP/IP ポートで 印刷する	4-45
Windows 2000/Server 2003/XP の LPR ポートで印刷する ..	4-50
Windows 2000/Server 2003/XP の IPP ポートで印刷する ..	4-56
Windows Vista の Standard TCP/IP ポートで印刷する	4-60
Windows Vista の LPR ポートで印刷する	4-65
Windows Vista の IPP ポートで印刷する	4-70

第4章 Windows NT 4.0/2000/Server 2003/XP環境で使用する

本章では、Windows NT 4.0/2000/Server 2003/XP環境で本製品を接続して、TCP/IP、NetBEUI
およびNetBIOS over TCP/IPで印刷を行う方法について説明します。

Windows NT 4.0/2000/Server 2003/XP環境からTCP/IPで印刷する

本製品をTCP/IPプロトコルを利用して印刷する際の手順は以下の通りです。



参考

- あらかじめプリンタドライバをご使用のパソコンにインストールしてください。
- 本製品をご使用の際には、PR-Port Monitor で作成したLPRポートの使用を推奨します。
- セキュア(SSL)通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、PR-Port Monitor で作成したIPPポートの使用を推奨します。
- セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になるSSL証明書情報を本製品に設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- セキュア(SSL)通信印刷機能を使用して印刷をすると、印刷データを暗号化します。そのため、第三者による印刷データの盗用や改ざんを防止することができます。
- 本製品に付属しているユーティリティ「Popup status monitor」はPR-Port Monitor で作成するLPRまたはRAW 何れかのポートでしか動作しません。本製品をご使用の際には、PR-Port Monitor で作成したLPRポートをご使用いただくことを推奨します。



注意

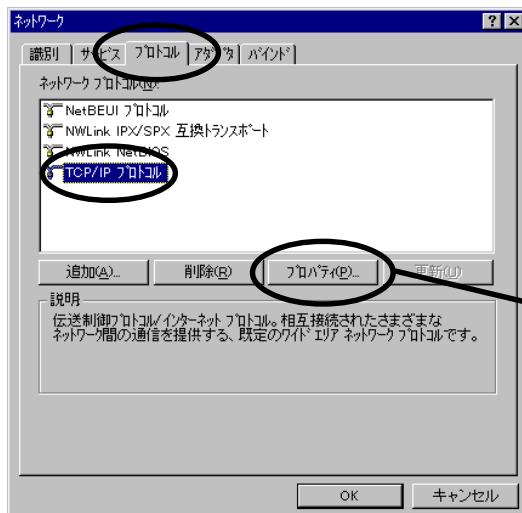
- セキュア(SSL)通信印刷機能とNetBEUI/NetBIOS over TCP/IP等は、対応するファームウェアが異なるために同時使用はできません。
- セキュア(SSL)通信印刷機能は、SSL対応版ファームウェアでサポートしています。SSL非対応版ファームウェアでサポートしている機能を利用する場合は、「第2章 セットアップユーティリティ」をご参照ください。

パソコンのネットワーク設定を確認する

Windows NT 4.0の場合

Windows NT 4.0の「ネットワーク」に「TCP/IP プロトコル」と「Microsoft TCP/IP 印刷」サービスが追加されていることを確認します。

1. 「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」を選択してください。
2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。
3. 「プロトコル」の「ネットワークプロトコル」に[TCP/IPプロトコル]が追加されていることを確認してください。

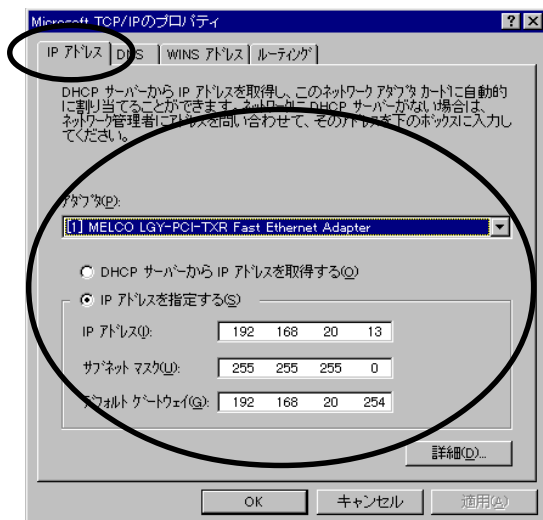


「プロパティ」をクリックしてください。

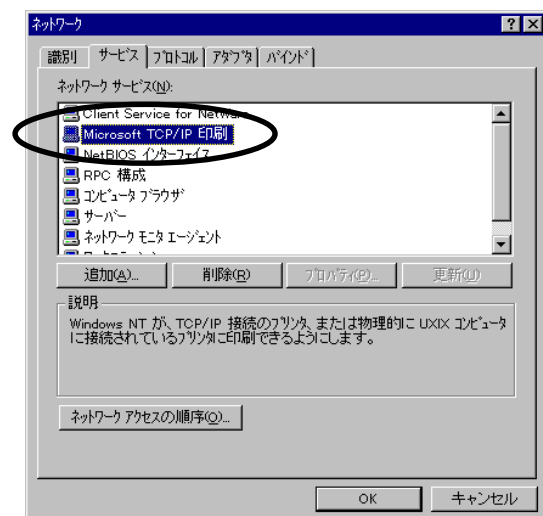


・「TCP/IPプロトコル」がネットワークプロトコル一覧にない場合は、「追加」をクリックし、「ネットワークコンポーネントの選択」-[TCP/IPプロトコル]の手順で追加してください。

4. [IPアドレス]の設定で、ご使用の環境にあわせた設定が行われているか確認してください。



5. 同じく「ネットワーク」-「サービス」の「ネットワークサービス」に[Microsoft TCP/IP 印刷]が追加されていることを確認してください。

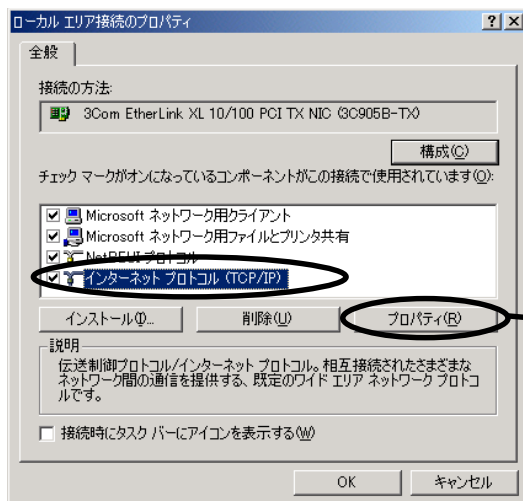


- ・[Microsoft TCP/IP 印刷]がサービス一覧にない場合は「追加」をクリックし、「ネットワークサービスの選択」-「Microsoft TCP/IP 印刷」の手順で追加してください。

Windows 2000 の場合

Windows 2000に[インターネットプロトコル(TCP/IP)]が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」-「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択します。
2. 「ローカルエリア接続」のプロパティを開きます。
3. [インターネットプロトコル(TCP/IP)]が追加されていることを確認してください。

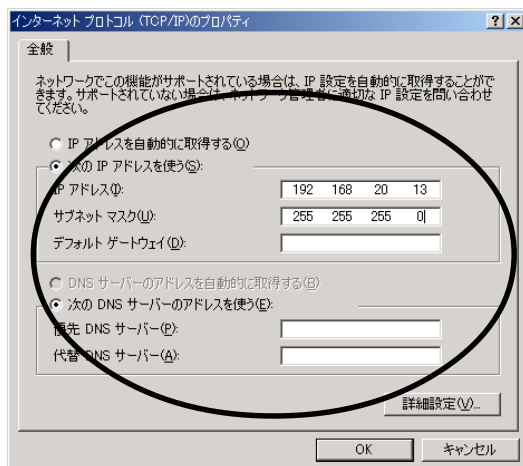


「プロパティ」をクリックしてください。



・[インターネットプロトコル(TCP/IP)]が追加されていない場合は「インストール」をクリックし、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択して追加してください。

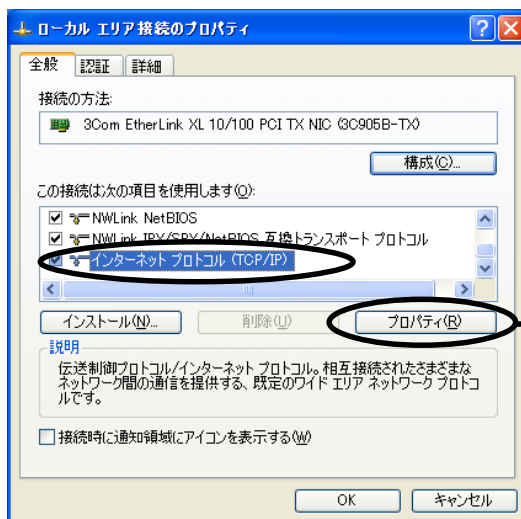
4. [全般]で、ご使用の環境にあわせた設定が行われているか確認してください。



Windows XP の場合

Windows XP に[インターネットプロトコル (TCP/IP)]が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「ネットワーク接続」を選択します。
2. 「ローカルエリア接続」のプロパティを開きます。
3. [インターネットプロトコル (TCP/IP)]が追加されていることを確認してください。



「プロパティ」をクリックしてください。



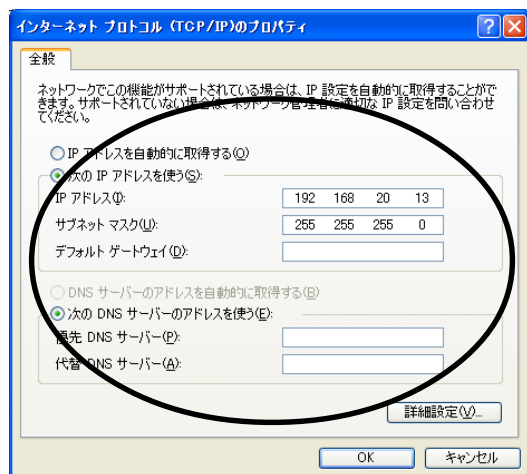
参考

- ・ [インターネットプロトコル (TCP/IP)]が一覧にない場合は「インストール」をクリックし、「ネットワークコンポーネントの種類を選択」 - 「プロトコル」 - [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、追加してください。

Windows NT 4.0/2000/Server 2003/XP/Vista環境で使用する

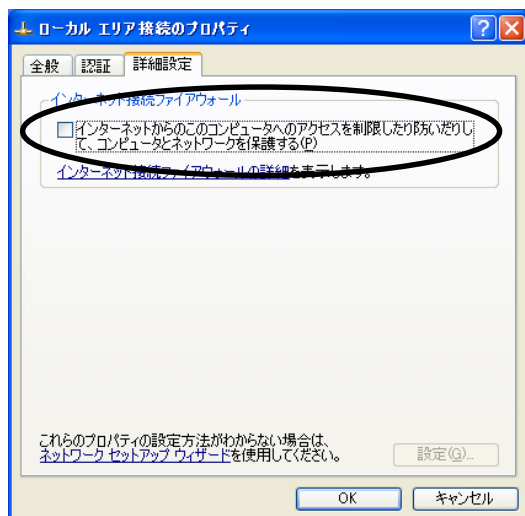
4-8

4. [全般]で、ご使用の環境に合わせた設定が行われているか確認してください。



注意

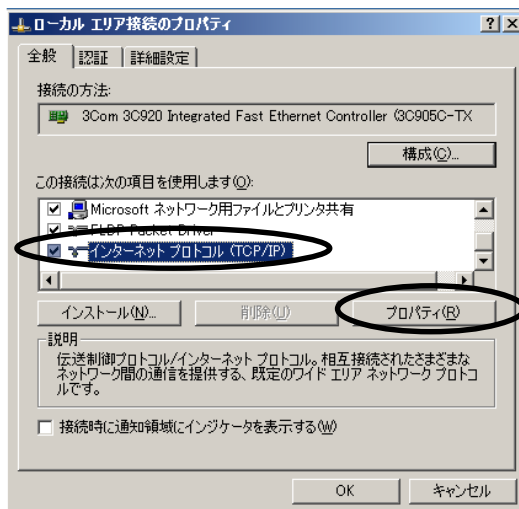
- Windows XP環境でTCP/IPプロトコルをご利用になる場合は、「ローカルエリア接続のプロパティ」の「詳細設定」で「インターネットからのこのコンピュータへのアクセスを制限したり…」のチェックを外してください。



Windows Server 2003 の場合

Windows Server 2003 に[インターネットプロトコル (TCP/IP)]が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」-「コントロールパネル」-「ネットワークの接続」-「ローカルエリア接続」を選択します。
2. 「ローカルエリア接続」のプロパティを開きます。
3. [インターネットプロトコル (TCP/IP)]が追加されていることを確認してください。



「プロパティ」をクリックしてください。

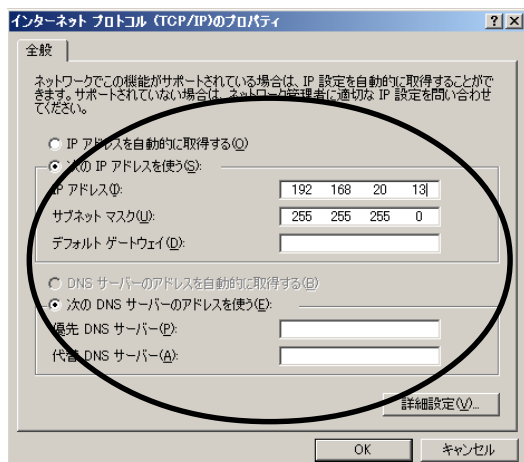


- ・ [インターネットプロトコル (TCP/IP)] が一覧にない場合は「インストール」をクリックし、「ネットワークコンポーネントの種類を選択」-「プロトコル」-[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、追加してください。

Windows NT 4.0/2000/Server 2003/XP/Vista環境で使用する

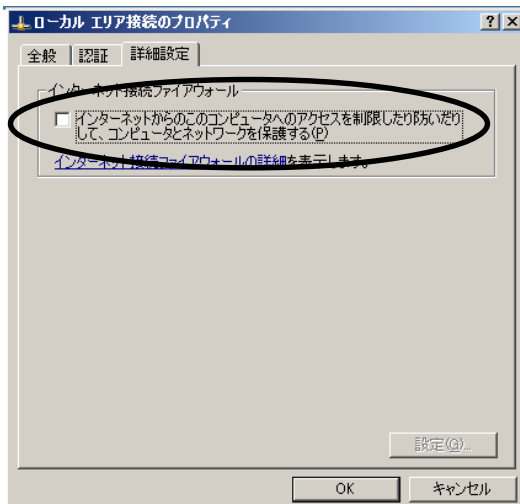
4-10

4. [全般]で、ご使用の環境に合わせた設定が行われているか確認してください。



注意

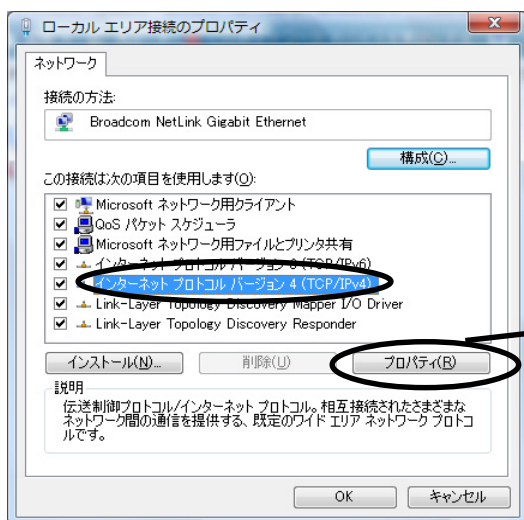
- Windows Server 2003環境でTCP/IPプロトコルをご利用になる場合は、「ローカルエリア接続のプロパティ」-「詳細設定」で「インターネットからのこのコンピュータへのアクセスを制限したり・・・」のチェックを外してください。



Windows Vista の場合

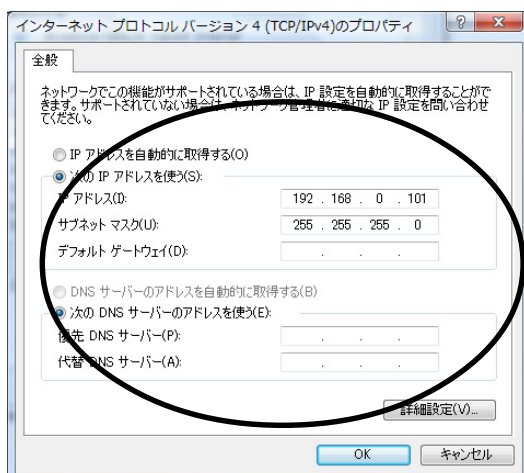
Windows Vista に [インターネットプロトコル (TCP/IP)] が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「ネットワークとインターネット」 「ネットワークの状態とタスクの表示」 - 「ネットワーク接続の管理」 を選択します。
2. 「ローカルエリア接続」 のプロパティを開きます。
3. [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)] が追加されていることを確認してください。



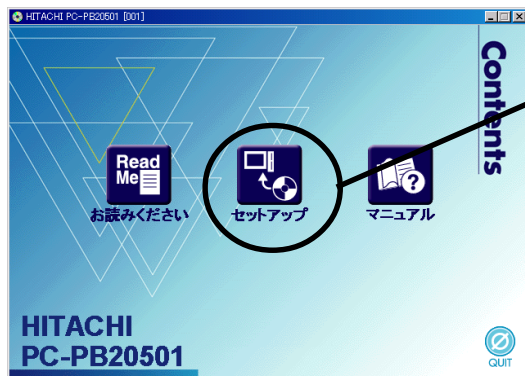
「プロパティ」をクリックしてください。

4. [全般] で、ご使用の環境に合わせた設定が行われているか確認してください。



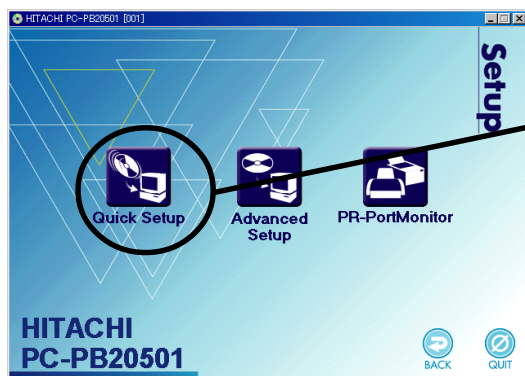
Quick Setupによる簡単設定

1. 本製品付属の CD-ROM(セットアップ ユティリティ)を Windows パソコンにセットすると、メインメニューが自動的に起動します。



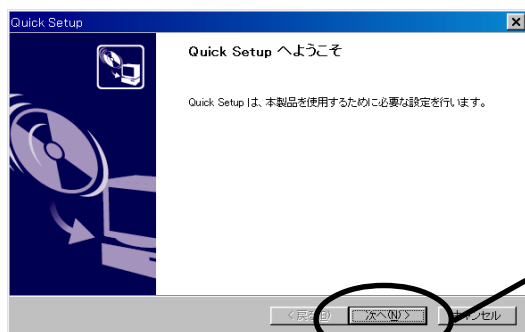
「セットアップ」をクリックしてください。

2. セットアップ方法の選択画面が開きます。



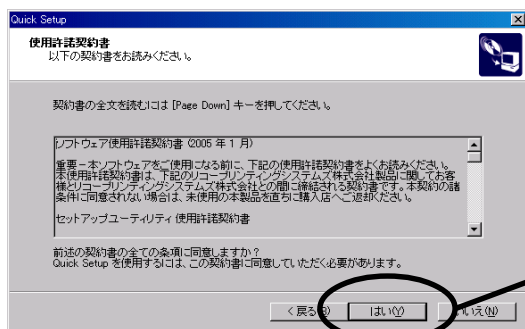
「Quick Setup」をクリックしてください。

3. Quick Setup が起動します。



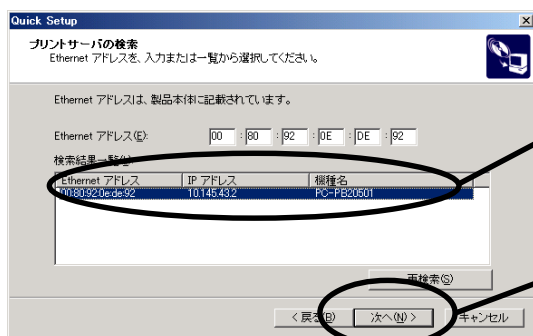
次へ をクリックしてください。

4. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックしてください。

5. 本製品を選択します。



設定を行う本製品を選択してください。

次へ をクリックしてください。

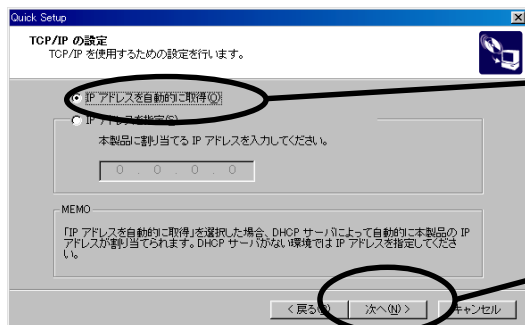


- ・ 検索結果一覧に本製品が表示されていない場合は「再検索」をクリックしてください。Ethernet アドレスを直接入力することで本製品を選択することもできます。
- ・ 本製品の Ethernet アドレスは、自己診断印刷結果または本製品基板裏面にシール表示で記載されています。(例 : 00:80:92:08:b0:dd)

6. IP アドレスを設定します。

< ご使用の環境内に DHCP サーバがある場合 >

(A) DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する



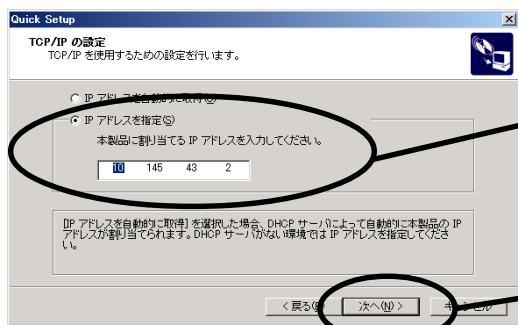
「IP アドレスを自動的に取得する」を選択してください。

次へ をクリックしてください。

Windows NT 4.0/2000/Server 2003/XP/Vista環境で使用する

4-14

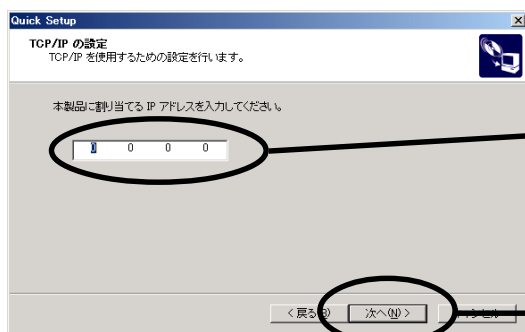
(B) 手動で IP アドレスを設定する



任意の IP アドレスを設定することができます。

次へ をクリックしてください。

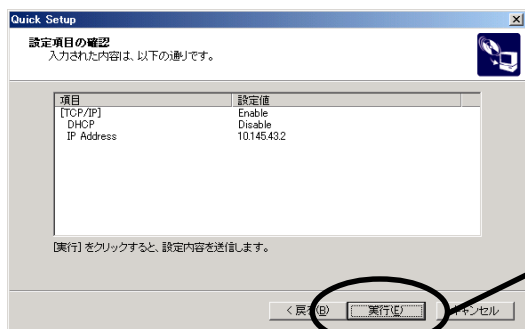
< ご使用の環境内に DHCP サーバが無い場合 >



任意の IP アドレスを指定してください。

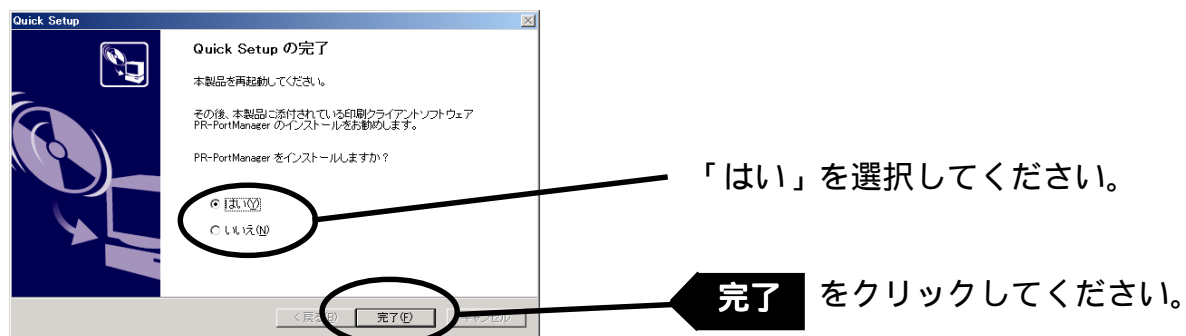
次へ をクリックしてください。

7. 設定項目を確認します。



実行 をクリックしてください。

8. 設定完了です。



参考

- 引き続き PR-Port Monitor をインストールしてください。PR-Port Monitor は Windows から直接印刷を行うための印刷クライアントソフトウェアです。
- Windows NT 4.0、Windows 2000、Windows XP、Windows Server 2003 の環境で、OS 標準の印刷機能をご利用になる場合は、本章中の「OS 標準の印刷クライアント機能で印刷する」をご参照ください。

PR-Port Monitorをインストールする

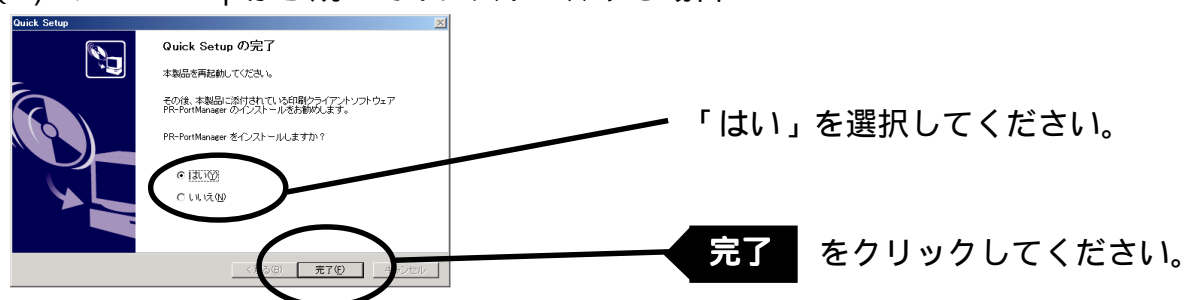
Windows NT 4.0、Windows 2000、Windows Server 2003、Windows XPの環境で、本製品を利用してTCP/IPプロトコルで直接印刷を行うために、本製品に付属しているPR-Port Monitorをご利用いただくことを推奨します。PR-Port Monitorは、LPR機能（弊社製品専用）、IPP機能及び、Rawモード（TCP/IP 9100）機能をご利用いただける印刷クライアントソフトウェアと、Popup Status Monitorが収録されています。インストールが完了すると、プリンタポート追加ウィザードが起動します。



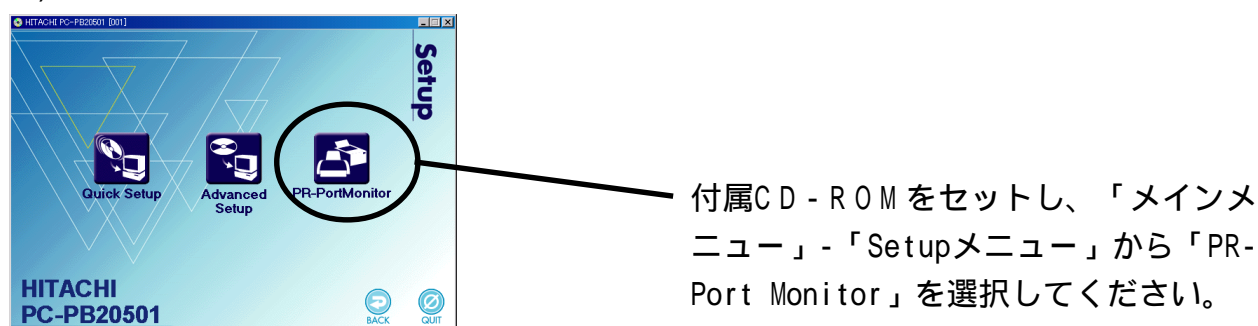
- ・LPR (Line Printer Remote) 機能(本LPRポートをご使用いただくことを推奨します。)ローカルエリアネットワーク(LAN)上のプリンタに印刷することができます。一般に広く使用されているプロトコルです。
- ・IPP (Internet Printing Protocol) 機能
インターネットを経由して遠隔地のネットワークプリンタに印刷することができます。また、本製品のファームウェアがSSL対応版(Ver2.X.X)の場合は、セキュア通信(SSL)印刷機能を使用した印刷ができます。SSL印刷をしようとする場合は、SSL証明書情報をIPPポート作成前に、予め本製品とコンピュータに設定する必要があります。設定方法は、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- ・Rawモード (TCP/IP 9100) 機能
ローカルエリアネットワーク(LAN)上のプリンタに印刷することができます。印刷データのプールを行わずに高速に印刷することができます。
- ・Popup Status Monitor
プリンタの状態をパソコン画面にポップアップして表示する便利なモニタです。

1. インストール方法を確認します。

(A) Quick Setup から続いてインストールする場合



(B) PR-Port Monitor のみインストールする場合

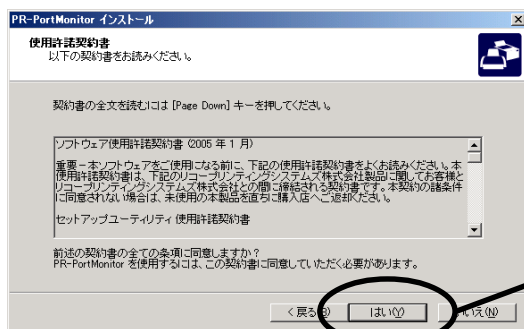


2. PR-Port Monitor インストールウィザードが起動します。



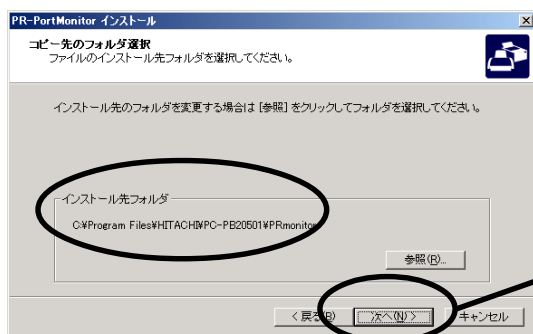
次へ をクリックしてください。

3. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックしてください。

4. インストール先のフォルダを指定します。



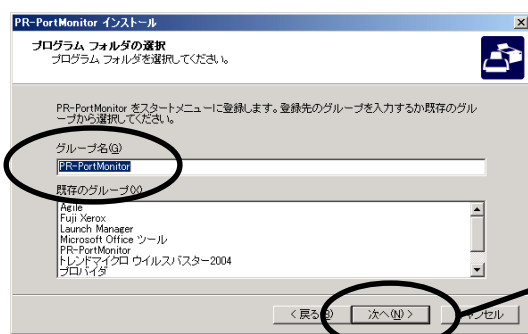
次へ をクリックしてください。



・[参照]をクリックするとインストール先フォルダを選択できます。

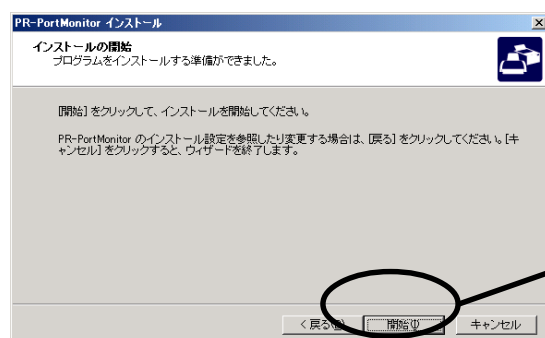
参考

5. スタートメニューに表示されるグループ名を入力します。



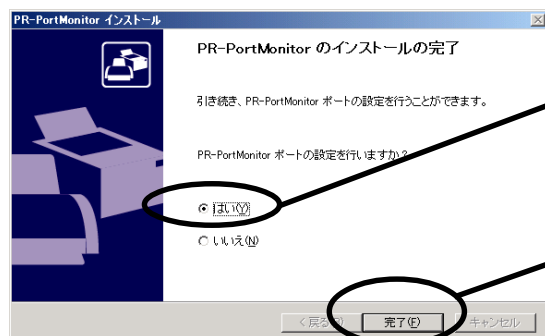
次へ をクリックしてください。

6. インストールを開始します。



開始 をクリックしてください。

7. インストール完了です。



「はい」を選択してください。

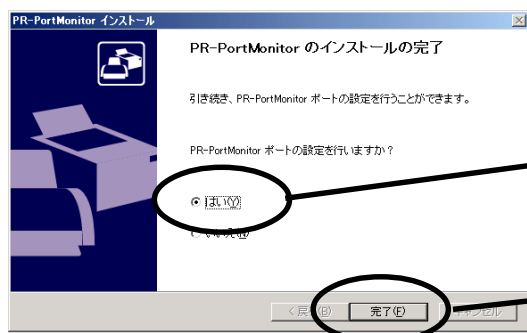
完了 をクリックしてください。

印刷ポートを追加する

本製品ではPR-Port Monitorの、「LPRで印刷する」「IPPで印刷する」「Rawモードで印刷する」の3つのポート作成方法をご利用いただけます。印刷に使用するプロトコルを選択し、「次へ」をクリックすると、各印刷方式のポート作成画面へ移ります。

(A)

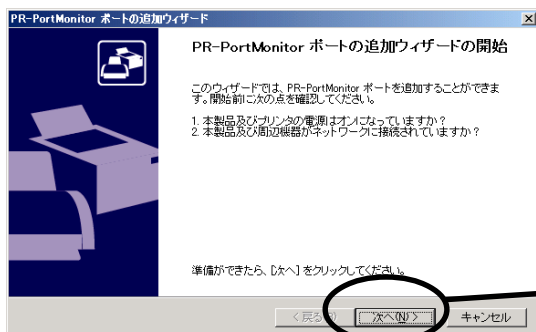
1.PR-Port Monitor インストールから続いて追加する。



「はい」を選択してください。

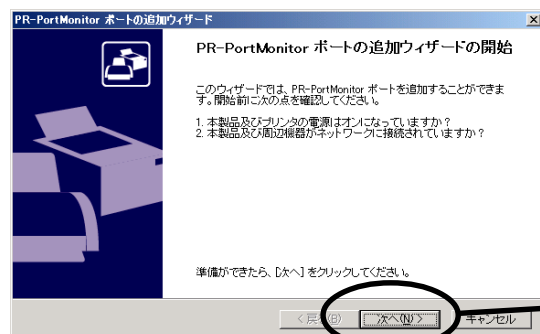
完了 をクリックしてください。

2.PR-Port Monitor ポート追加ウィザードが開始します。



次へ をクリックしてください。

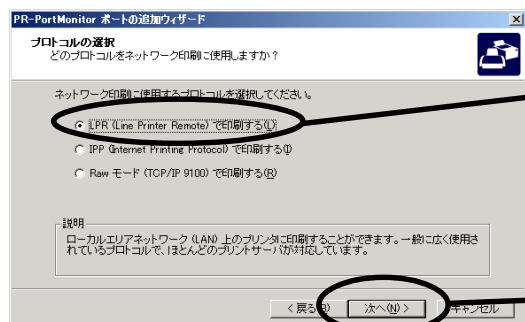
(B)「スタート」 - 「プログラム」 - 「PR-Port Monitor」にある「PR-Port Monitor
ポート追加」から追加する。



次へ をクリックしてください。

PR-Port Monitor LPRポートを追加する場合

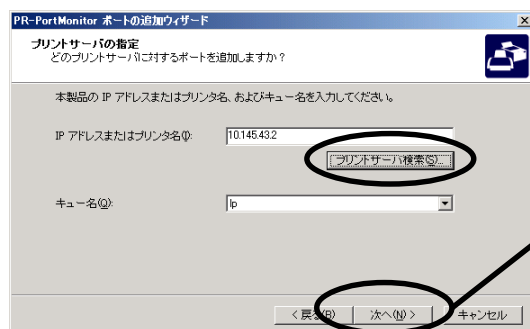
1. LPR(Line Printer Remote)を選択します。



「LPR (Line Printer Remote) で印刷する」を選択します。

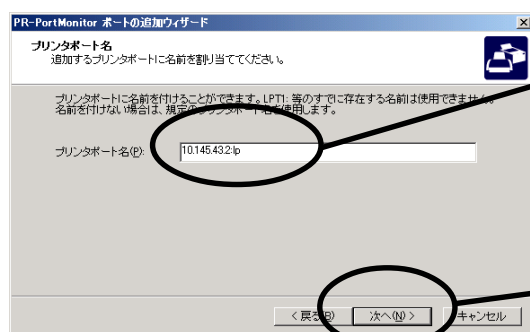
次へ をクリックしてください。

2. 「プリントサーバ検索」ボタンでネットワーク内のプリントサーバの一覧を表示させ、本製品を選択してください。



次へ をクリックしてください。

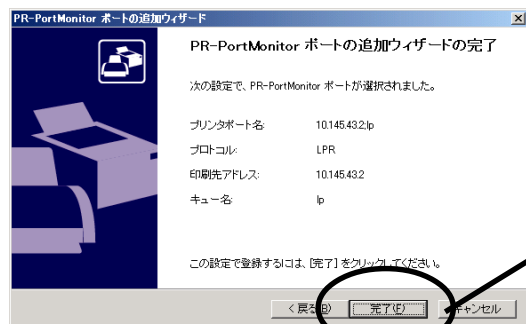
3. プリントポート名を入力します。



名前を指定しない場合は、既定のプリントポート名をご使用ください。

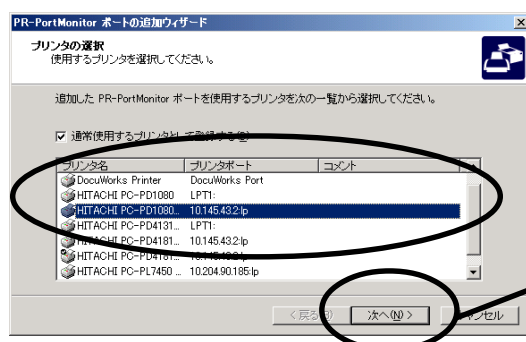
次へ をクリックしてください。

4. 設定内容を確認します。



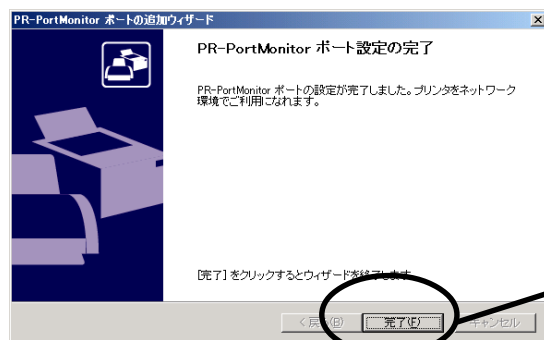
完了 をクリックしてください。

5. 使用するプリンタを一覧の中から選択します。



次へ をクリックしてください。

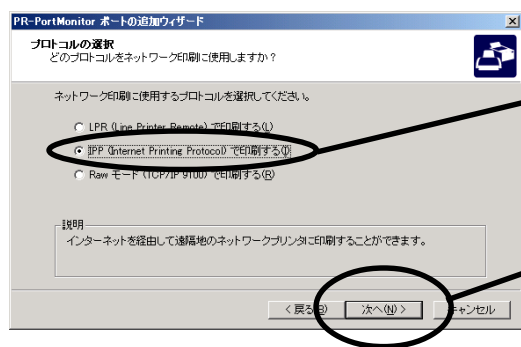
6. ポート設定を完了します。



完了 をクリックしてください。

PR-Port Monitor IPPポートを追加する場合

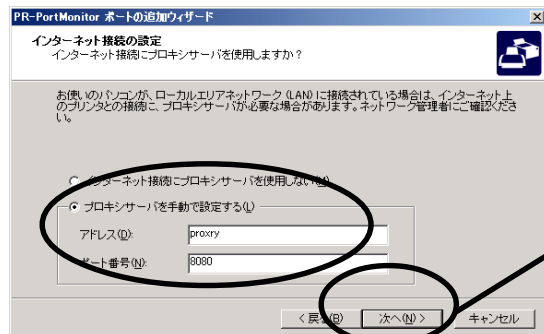
1. IPP(Internet Printing Protocol)を選択します。



「IPP (Internet Printing Protocol) で印刷する」を選択します。

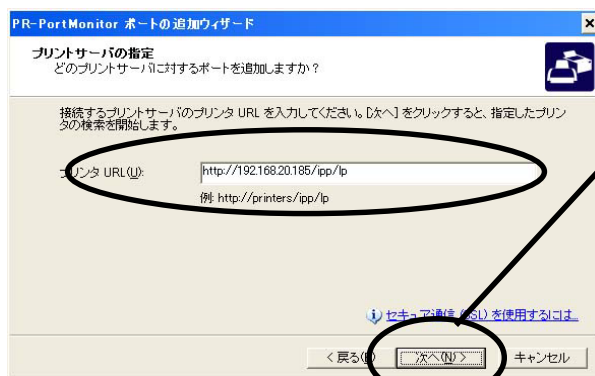
次へ をクリックしてください。

2. 「インターネット接続にプロキシサーバを使用しない」又は、「プロキシサーバを手動で設定する」を選択してください。



次へ をクリックしてください。

3. 「プリンタ URL」には、印刷先の本製品に割り当てられた URL を入力してください。URL は "http:// ~ /ipp(/lp)" または "https:// ~ /ipp(/lp)" と指定してください。「次へ」をクリックすると、指定された URL が存在するか、確認を行います。



次へ をクリックしてください。



参考

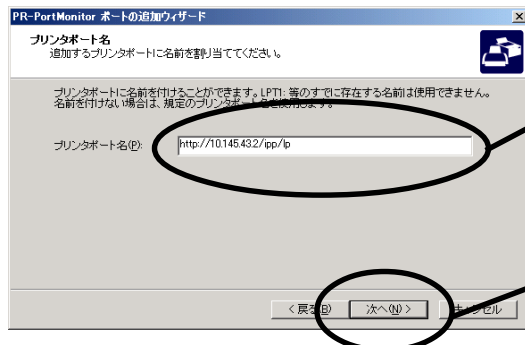
- URL が「abc.co.jp」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使用しない場合
http://abc.co.jp/ipp または http://abc.co.jp/ipp/lp
- URL が「abc.co.jp」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使用する場合
https://abc.co.jp/ipp または https://abc.co.jp/ipp/lp
- IP アドレスが「192.168.20.185」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使用しない場合
http://192.168.20.185/ipp または http://192.168.20.185/ipp/lp
- IP アドレスが「192.168.20.185」でセキュア (SSL) 通信印刷機能を使用する場合
https://192.168.20.185/ipp または https://192.168.20.185/ipp/lp



注意

- セキュア (SSL) 通信印刷機能を使用する場合は、URL は "https:// ~ " と指定してください。"http:// ~ " と指定すると、セキュア (SSL) 通信印刷機能は動作しません。
- セキュア (SSL) 通信印刷機能を使用する場合は、本製品のファームウェアが SSL 対応版 (新バージョン (Ver. 2.0.0 以降)) であることを確認してください。
- セキュア (SSL) 通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になる SSL 証明書情報を本製品に設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- https ポートを作成する為には新バージョンの PR-Port Monitor (Ver. 1.2.0) が必要です。

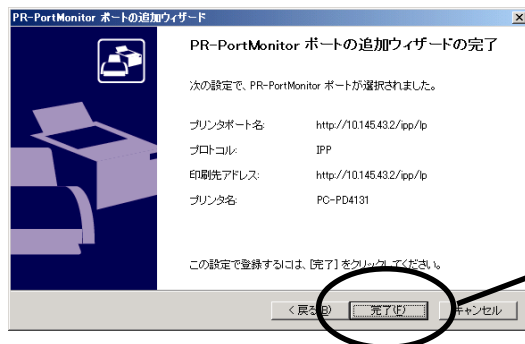
4. 印刷先のポート名を設定します。



名前を指定しない場合は、既定のプリンタポート名をご使用ください。

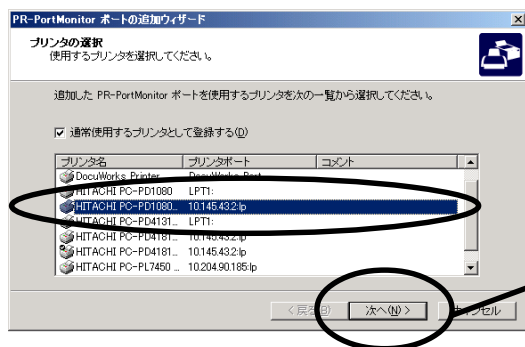
次へ をクリックしてください。

5. 設定内容を確認します。



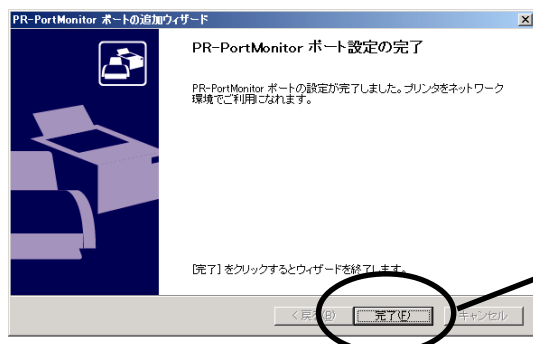
完了 をクリックしてください。

6. 使用するプリンタを一覧の中から選択します。



次へ をクリックしてください。

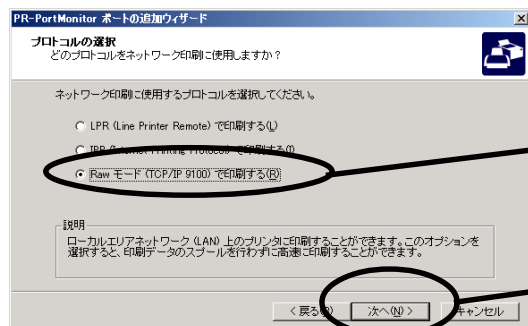
7. ポート設定を完了します。



完了 をクリックしてください。

PR-Port Monitor Raw(TCP/IP 9100) ポートを追加する場合

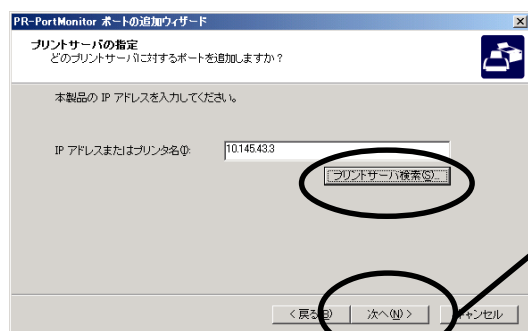
1. Rawモード (TCP/IP 9100) を選択します。



「Rawモード(TCP/IP 9100)で印刷する」を選択します。

次へ をクリックしてください。

2. 「プリントサーバ検索」ボタンでネットワーク内のプリントサーバ一覧を表示させ、一覧の中から本製品を選択してください。

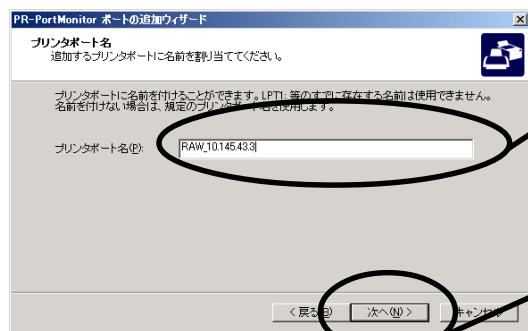


次へ をクリックしてください。



・「次へ」をクリックすると、指定されたプリントサーバが9100ポートにアクセス可能か、確認されます。

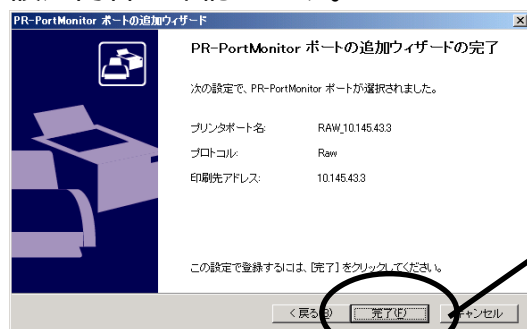
3. 印刷先ポート名を入力します。



特に問題がなければ既定のプリンタポート名(RAW_IPアドレス)をご使用ください。

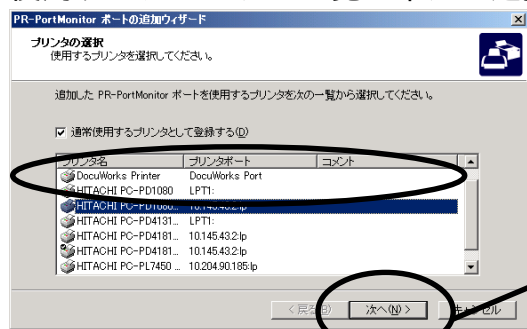
次へ をクリックしてください。

4. 設定内容を確認します。



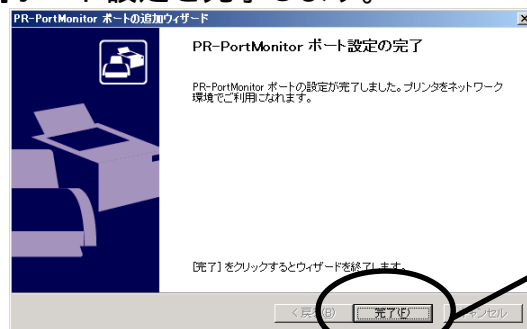
完了 をクリックしてください。

5. 使用するプリンタを一覧の中から選択します。



次へ をクリックしてください。

6. ポート設定を完了します。



完了 をクリックしてください。

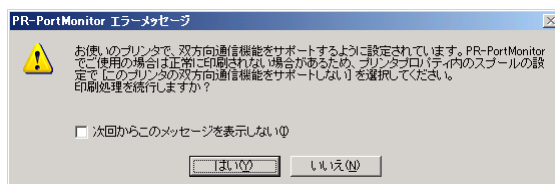
プリンタドライバの設定

プリンタドライバの設定方法を説明します。

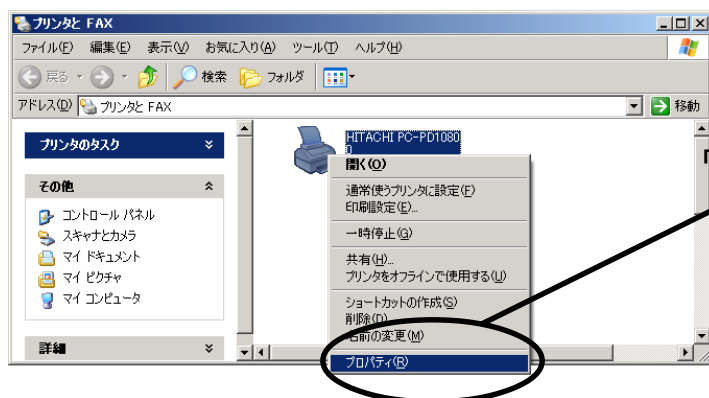
例) Windows2000 の場合



- ・プリンタドライバの設定を行わない場合、次のエラー画面が表示される場合があります。「いいえ」を選択し、下記の手順でプリンタドライバの設定を行ってください。

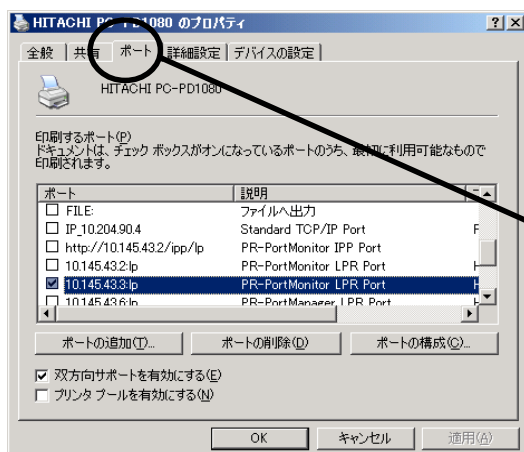


1. 「スタート」 - 「設定」 - 「プリンタ」で、使用するプリンタのプロパティを開きます。



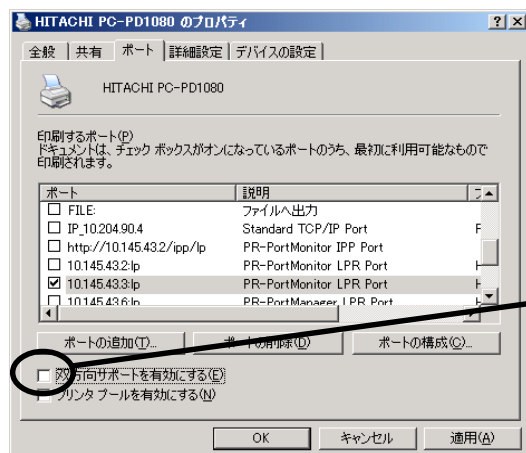
プロパティ」を選択してください。

2. [ポート]を選択します。



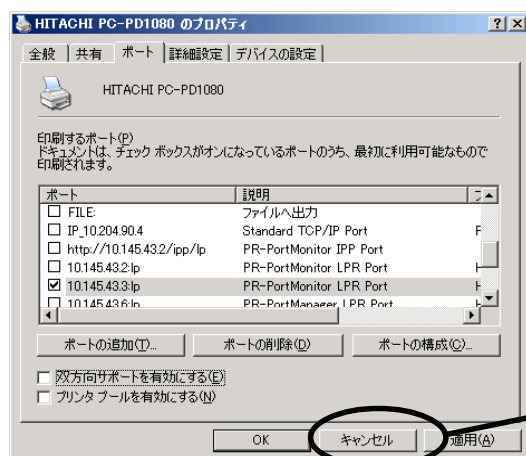
[ポート]を選択してください。

3. 双方向の設定をします。



「双方向サポートを有効にする」のチェックをはずしてください。

4. 設定完了です。



適用 をクリックしてください。

Windows NT 4.0/2000環境からNetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する

Windows NT 4.0からNetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する

本製品を NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP プロトコルを利用して Windows NT 4.0 から印刷する際の手順は以下の通りです。



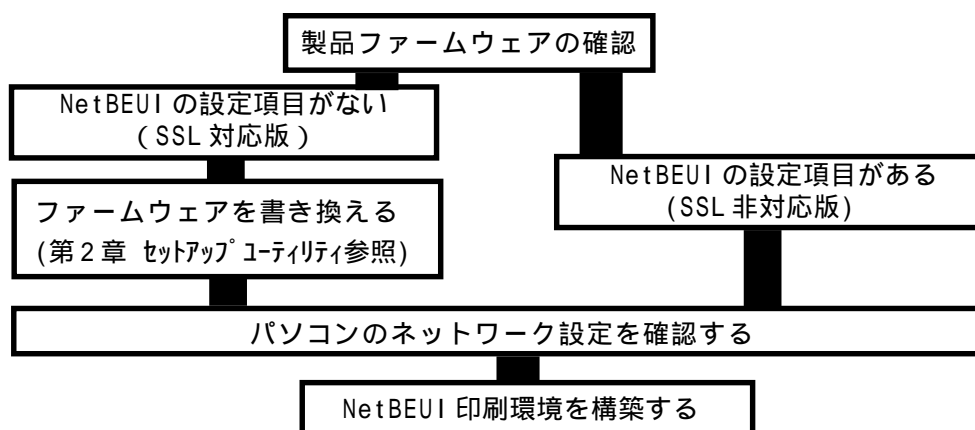
注意

・NetBEUI は SSL 非対応版のファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアはサポートしていません。ファームウェアのアップロード方法については、「第 2 章 セットアップユーティリティ」をご参照ください。



参考

・あらかじめプリンタドライバをご使用のパソコンにインストールしてください。
・NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP の詳細な設定を行う方法については「第 8 章 設定に関する機能」をご参照ください。



パソコンのネットワーク設定の確認をする (NetBEUI の場合)

Windows NT 4.0 の「ネットワーク」に、[NetBEUI] [ワークステーション] と [NetBIOS インターフェイス] が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」を選択します。
2. 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。
3. 「サービス」タブに、[ワークステーション] と [NetBIOS インターフェイス] が追加されていることを確認してください。



参考

・一覧に [ワークステーション] [NetBIOS インターフェイス] が無い場合は「追加」をクリックし、「ネットワークサービス」一覧から [ワークステーション] を選択してください。

4. 「プロトコル」タブに、[NetBEUI] が追加されていることを確認してください。



参考

・一覧に [NetBEUI] が無い場合は「追加」をクリックし、「ネットワークプロトコル」一覧から [NetBEUI] を選択してください。

パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBIOS over TCP/IP の場合)

Windows NT 4.0の「ネットワーク」に、[TCP/IP] [ワークステーション]と[NetBIOS インターフェイス]が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」を選択します。
2. 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。
3. 「サービス」タブに、[ワークステーション]と[NetBIOSインターフェイス]が追加されていることを確認してください。



・一覧に[ワークステーション][NetBIOSインターフェイス]が無い場合は「追加」をクリックし、「ネットワークサービス」一覧から[ワークステーション]を選択してください。

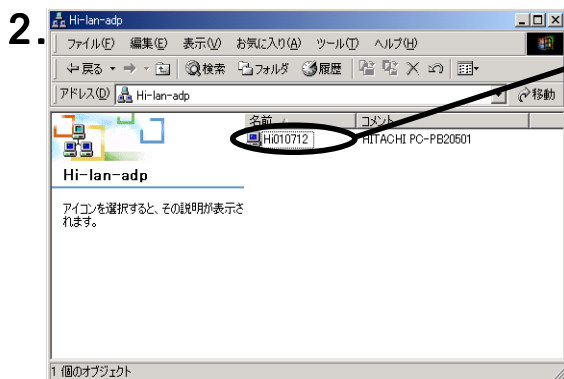
4. 「プロトコル」タブに、[TCP/IP]が追加されていることを確認してください。



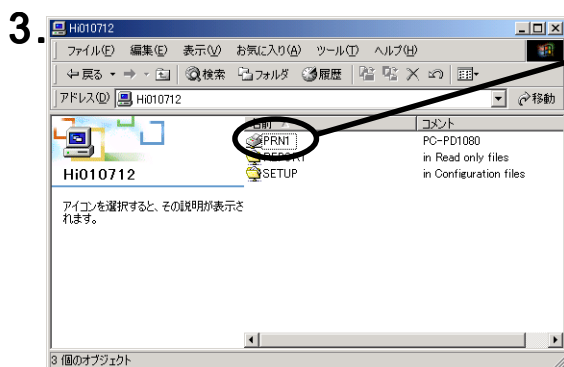
・一覧に[TCP/IP]が無い場合は「追加」をクリックし、「ネットワークプロトコル」一覧から[TCP/IP]を選択してください。

NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する

1. 「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、「ネットワーク全体」 - 「Microsoft Windows Network」の中のワークグループ名「Hi-lan-adp」を開きます。

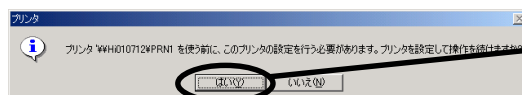


コンピュータ（本製品）のアイコンをダブルクリックしてください。



プリンタのアイコンをダブルクリックしてください。

4. プリンタの設定確認メッセージが表示されます。



「はい」をクリックしてください。

5. プリンタの追加ウィザードが起動しますので、指示に従って設定を行ってください。プリンタのテストページが出力されれば、プリンタの追加は完了です。

Windows 2000からNetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する

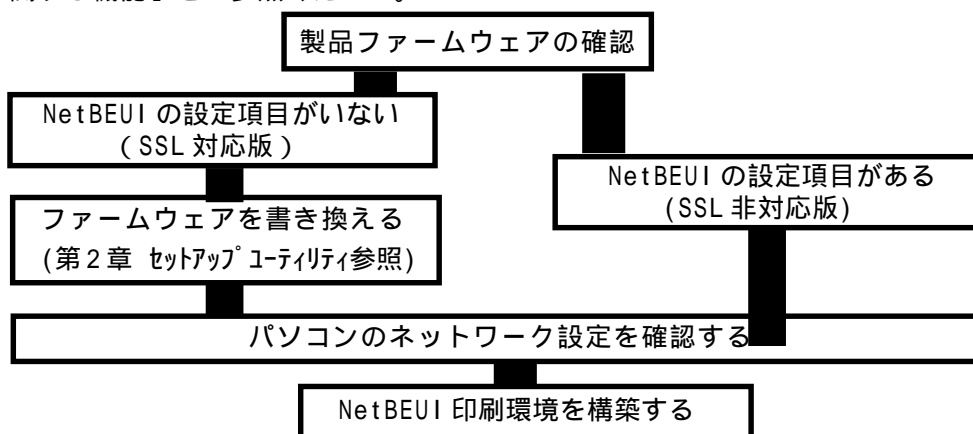
本製品を NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP プロトコルを利用して Windows 2000 から印刷する際の手順は以下の通りです。



- ・NetBEUI は SSL 非対応版のファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアはサポートしていません。ファームウェアのアップロード方法については、「第2章 セットアップについて」をご参照ください。



- ・あらかじめプリンタドライバをご使用のパソコンにインストールしてください。
- ・NetBEUI、NetBIOS over TCP/IP の詳細な設定を行う方法については「第8章 設定に関する機能」をご参照ください。



パソコンのネットワーク設定の確認をする (NetBEUI の場合)

Windows2000の「ネットワーク」に、[NetBEUI]と[Microsoft ネットワーク共有サービス]が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」-「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択します。
2. 「ローカルエリア接続」のプロパティを開きます。
3. [Microsoft ネットワーク共有サービス] が追加されていることを確認してください。



- ・一覧に [Microsoft ネットワーク共有サービス] が無い場合は「インストール」をクリックし、「クライアント」-「Microsoft ネットワーク共有サービス」を選択してください。

4. [NetBEUI プロトコル]が追加されていることを確認してください。



- ・一覧に [NetBEUI プロトコル] が無い場合は「インストール」をクリックし、「プロトコル」-「NetBEUI プロトコル」を選択してください。

パソコンのネットワーク設定を確認する (NetBIOS over TCP/IPの場合)

Windows2000の「ネットワーク」に、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]と[Microsoft ネットワーク共有サービス]が追加されていること、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]にNetBIOS設定が設定されていることを確認します。

1. 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」-「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択します。

2. 「ローカルエリア接続」のプロパティを開きます。

3. [Microsoft ネットワーク共有サービス]が追加されていることを確認してください。



・一覧に[Microsoft ネットワーク共有サービス]が無い場合は「インストール」をクリックし、「クライアント」-「Microsoft ネットワーク共有サービス」を選択してください。

4. [インターネットプロトコル(TCP/IP)]が追加されていることを確認してください。

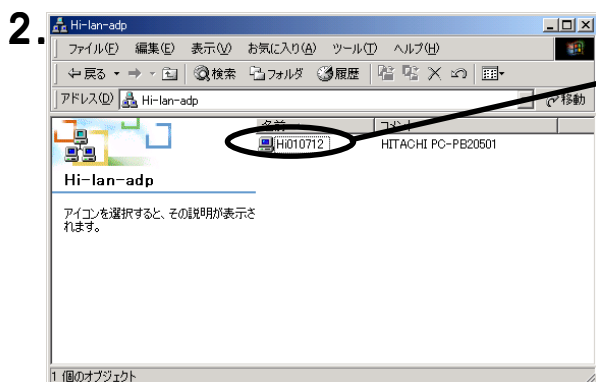


・一覧に[インターネットプロトコル(TCP/IP)]が無い場合は「インストール」をクリックし、「プロトコル」-「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択してください。

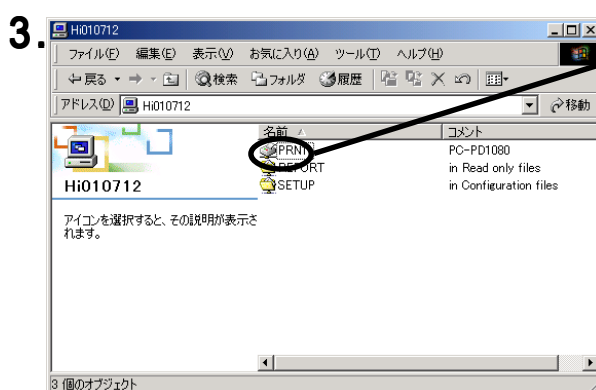
5. [インターネットプロトコル(TCP/IP)] - [プロパティ] - [詳細設定] - [WINS] タブを開き、[NetBIOS over TCP/IPを有効にする]が選択されていることを確認してください。

NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPで印刷する

1. 「マイネットワーク」 - 「ネットワーク全体」 - 「Microsoft Windows Network」アイコンをダブルクリックし、ワークグループ名「Hi-lan-adp」を開きます。

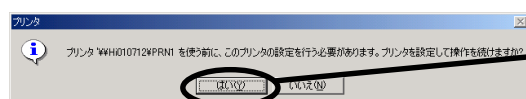


コンピュータ（本製品）のアイコンをダブルクリックしてください。



プリンタのアイコンをダブルクリックしてください。

4. プリンタの設定確認メッセージが表示されます。



「はい」をクリックしてください。

5. プリンタの追加ウィザードが起動しますので、指示に従って設定を行ってください。プリンタのテストページが出力されれば、プリンタの追加は完了です。

Windows Server 2003、Windows XP環境からNetBIOS over TCP/IPで印刷する

Windows Server 2003、Windows XPからNetBIOS over TCP/IPで印刷する

本製品をNetBIOS over TCP/IPプロトコルを利用してWindows Server 2003、Windows XPから印刷する際の手順は以下の通りです。



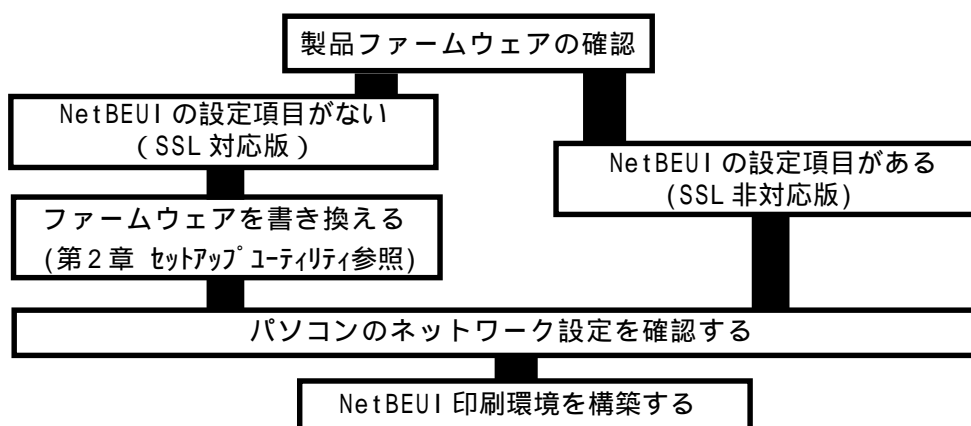
注意

- ・NetBEUI はSSL 非対応版のファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアはサポートしていません。ファームウェアのアップロード方法については、「第2章 セットアップユーティリティ」をご参照ください。



参考

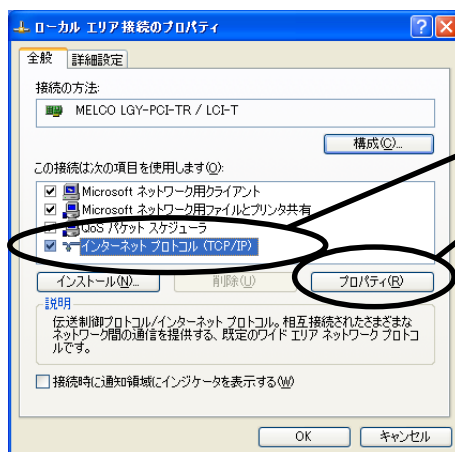
- ・あらかじめプリンタドライバをご使用のパソコンにインストールしてください。
- ・NetBIOS over TCP/IPの詳細な設定を行う方法については「第8章 設定に関する機能」をご参照ください。



パソコンのネットワーク設定を確認する

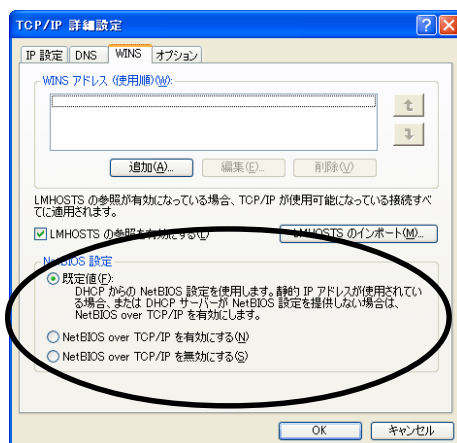
Windows Server 2003、Windows XPの[インターネットプロトコル(TCP/IP)]にNetBIOS設定が設定されていること、「ネットワーク」に[Microsoftネットワーク用クライアント]が追加されていることを確認します。

1. 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「ネットワーク接続」を選択します。
2. 「ローカルエリア接続のプロパティ」を開きます。

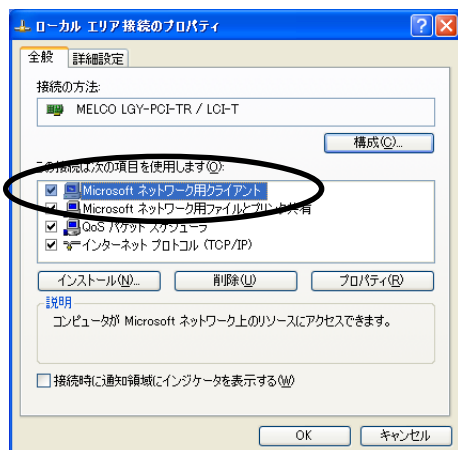


[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

3. [詳細設定] - [WINS]を開き、NetBIOS設定が[既定値]あるいは[NetBIOS over TCP/IPを有効にする]が選択されていることを確認してください。

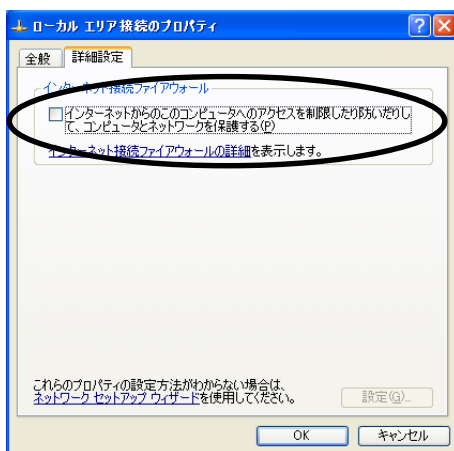


4. 同じく、[Microsoft ネットワーク用クライアント]が追加されていることを確認してください。



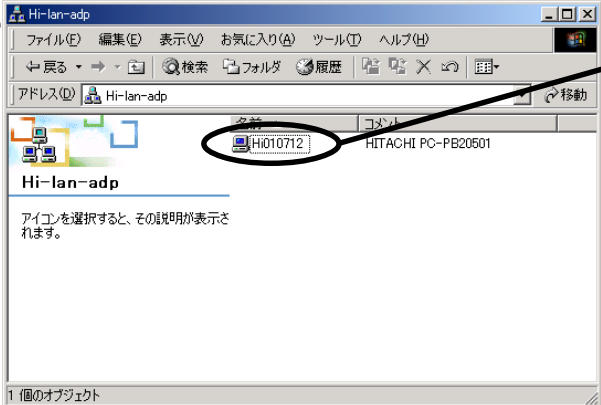
注意

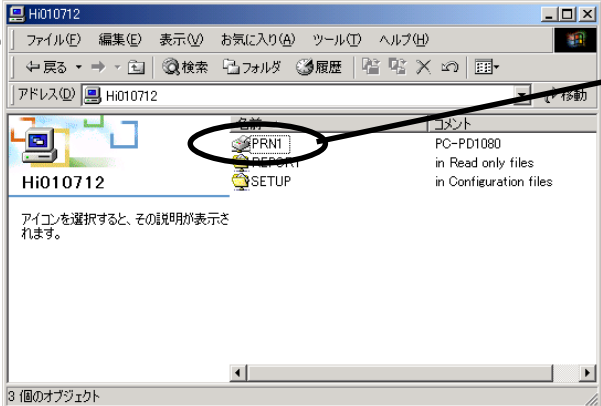
- Windows Server 2003、Windows XP環境でNetBIOS over TCP/IPプロトコルをご利用になる場合は、「ローカルエリア接続のプロパティ」-「詳細設定」で「インターネットからのこのコンピュータへのアクセスを制限したり防いだりして、コンピュータとネットワークを保護する」のチェックを外してください。



NetBIOS over TCP/IPで印刷する

1. 「マイネットワーク」 - 「ワークグループのコンピュータを表示する」 - 「Microsoft Windows Network」をクリックし、ワークグループ名「Hi-lan-adp」を開きます。

2.  コンピュータ（本製品）のアイコンをダブルクリックしてください。

3.  プリンタのアイコンをダブルクリックしてください。

4. プリンタの設定確認メッセージが表示されます。



「はい」をクリックしてください。

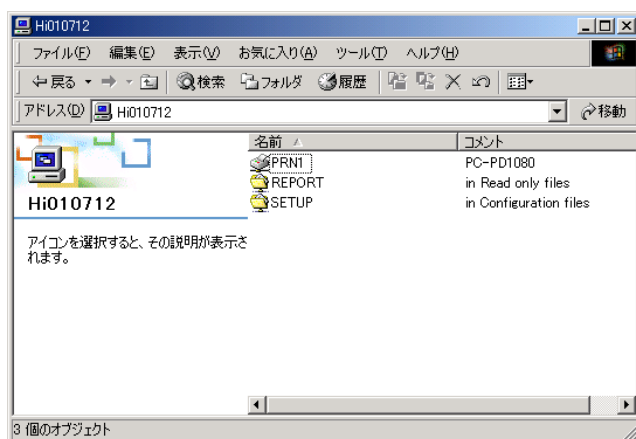
5. プリンタの追加ウィザードが起動しますので、指示に従って設定を行ってください。プリンタのテストページが出力されれば、プリンタの追加は完了です。

NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPについて

NetBEUI、NetBIOS over TCP/IPワークグループの構造

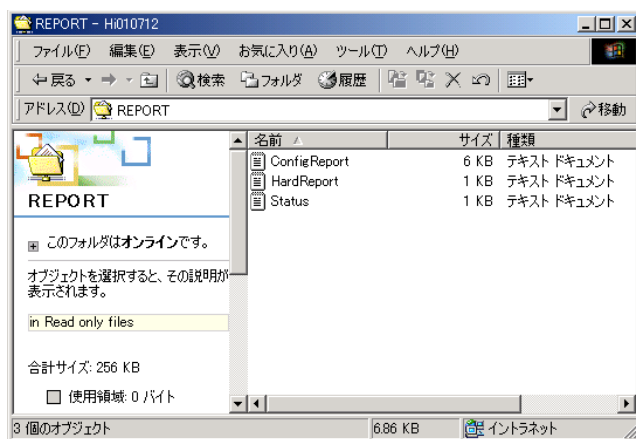
ここでは、本製品に搭載しているNetBEUI、NetBIOS over TCP/IPのワークグループの構造について説明します。

(例) 本製品のEthernetアドレス： 00:80:92:01:07:12



¥¥Hi010712: コンピュータ (本製品)

¥¥Hi010712¥prn1: プリンタ



¥¥Hi010712¥report¥ConfigReport.txt:

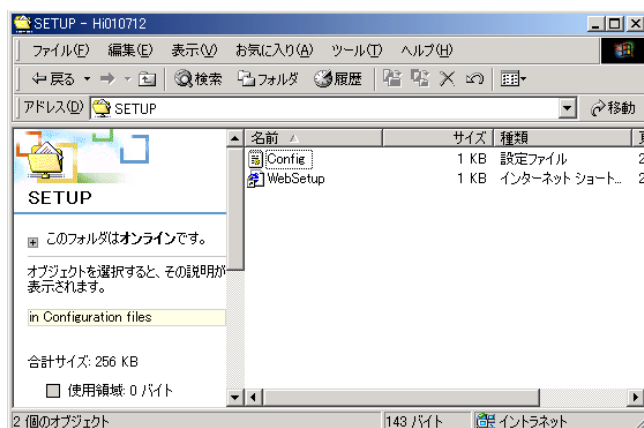
設定レポート (読み取り専用)

¥¥Hi010712¥report¥HardReport.txt:

自己診断情報 (読み取り専用)

¥¥Hi010712¥report¥Status.txt:

システム状態レポート (読み取り専用)



¥¥Hi010712¥setup¥Config.ini:
初期設定ファイル（編集可能）
¥¥Hi010712¥setup¥WebSetup:
ショートカットファイル（読み取り専用）

設定レポート

本製品を起動した時の内部情報を出力します。

システム状態レポート

本製品を起動した時の本製品の状態を出力します。

初期設定ファイル

初期化ファイルでは「ワークグループ名」と「IPアドレス」を記述することができます。メモ帳等のエディタを使い編集後、ファイルを上書き保存することで設定します。上書き保存すると、本製品は約3秒後、自動リセットされ、再起動します。

初期化ファイルを編集し、ファイルを上書き保存することでワークグループ名、IPアドレスの変更が可能です。

（例）

```
Workgroup = UserGroup  
IP Address = 192.168.20.126
```

ワークグループ名は、ネットワーク全体の中に既に存在するワークグループ名を指定してください。DHCP/BOOTP、RARPサーバを使用してIPアドレスを自動的に割り当てする場合は、「IP address」に設定しても無効となります。

ショートカットファイル

本製品にIPアドレスが設定されるとショートカット（WebSetup）が作成されます。ショートカットアイコンをダブルクリックするとWebブラウザが起動し本製品のWebページが表示されます。



・Webブラウザについては「第8章 設定に関する機能」をご参照ください。

参考

OS標準の印刷クライアント機能で印刷する

PR-Port Monitorを使用せず、OS標準の印刷クライアント機能を利用して印刷する方法を説明します。

Windows NT 4.0のLPRポートで印刷する

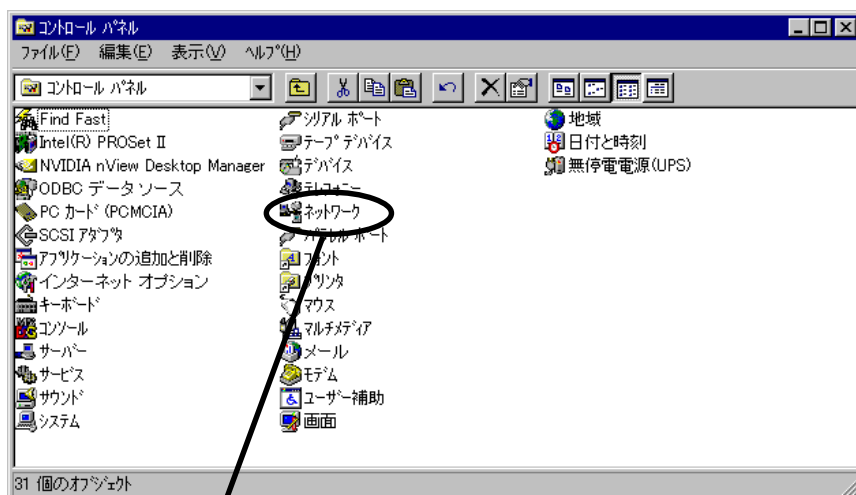
LPR Port の追加

Windows NT 4.0 の LPR 印刷機能を使用して印刷する場合は、LPR Port を追加する必要があります。「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「ネットワーク」を開き、「サービス」タグを選択して「追加」ボタンをクリックしてください。

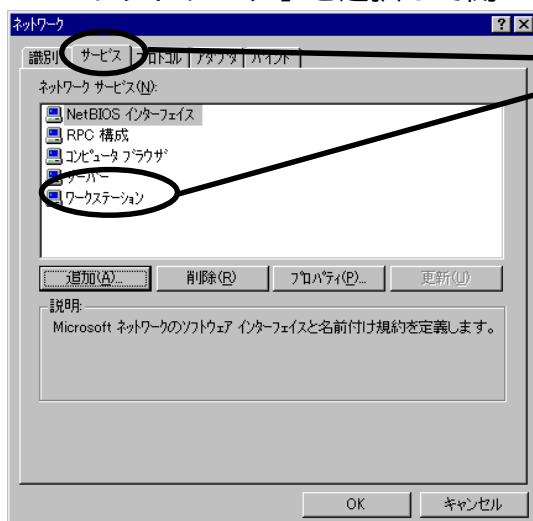


注意

・本製品に付属しているユーティリティ「Popup status monitor」はPR-Port Monitorで作成するLPR またはRAW 何れかのポートでしか動作しません。本製品をご使用の際には、PR-Port Monitorで作成したLPRポートをご使用いただくことを推奨します。

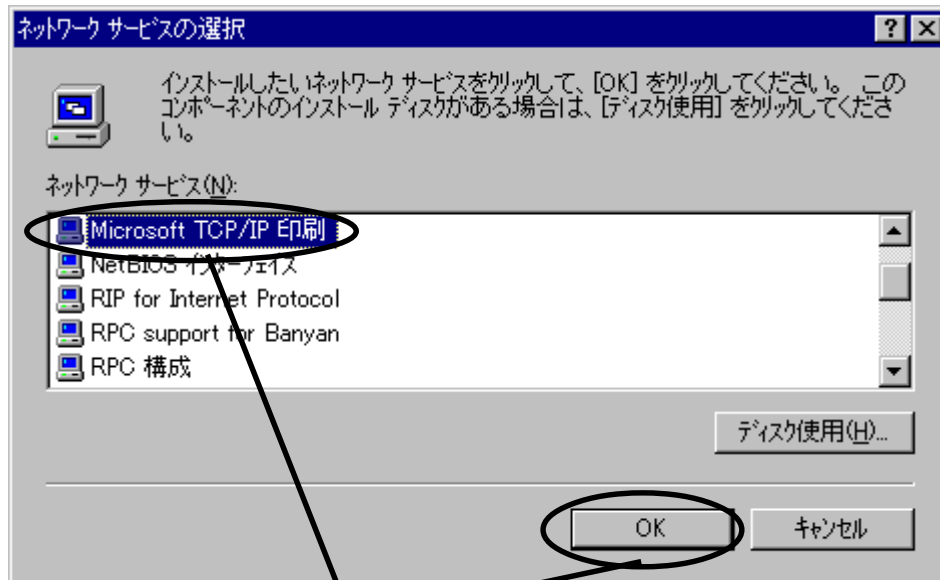


「ネットワーク」を選択して開いてください。

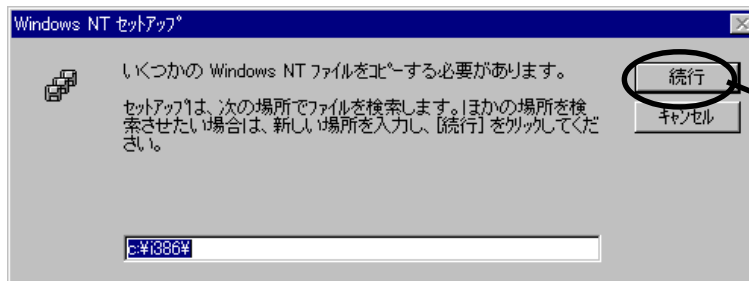


「サービス」タグを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。

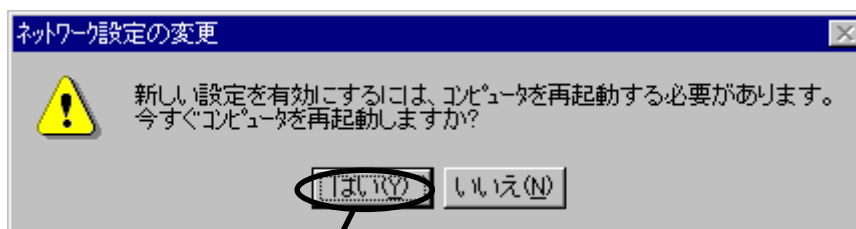
「Microsoft TCP/IP 印刷」を選択して「OK」ボタンをクリックすると、コンポーネントがインストールされますので、指示に従って再起動してください。



「Microsoft TCP/IP 印刷」を選択して「OK」ボタンをクリックしてください。

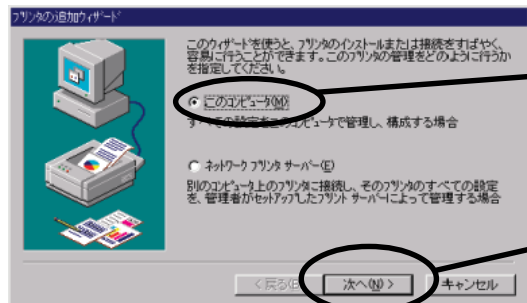


画面の指示に従い、「続行」ボタンをクリックしてください。



設定を有効にするために、システムの再起動が必要になります。すぐに再起動をする場合は「はい」ボタンをクリックしてください。

1. 「スタート」-「設定」-「プリンタ」を開き、「プリンタの追加」のアイコンをダブルクリックします。



「このコンピュータ」を選択してください。

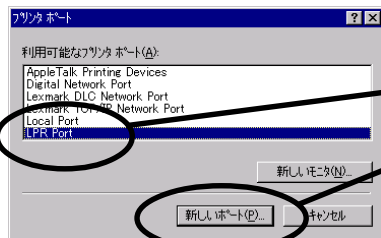
次へ をクリックしてください。

2. 印刷ポートを追加します。



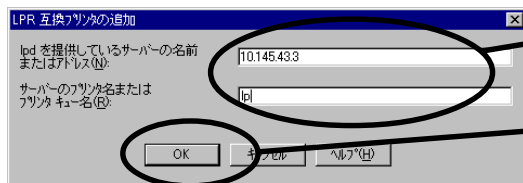
「ポートの追加」をクリックします。

3. プリンタポートを選択します。



「LPR Port」を選択し、「新しいポート」をクリックしてください。

4. LPR 互換プリンタを追加します。



本製品に設定したIPアドレスと「lp」を入力してください。

OK をクリックしてください。

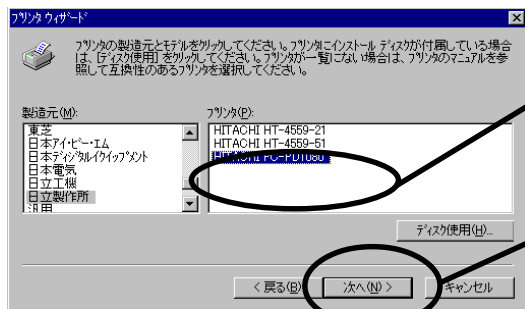
5. 印刷ポートを確認します。



作成したポートにチェックが入っていることを確認してください。

次へ をクリックしてください。

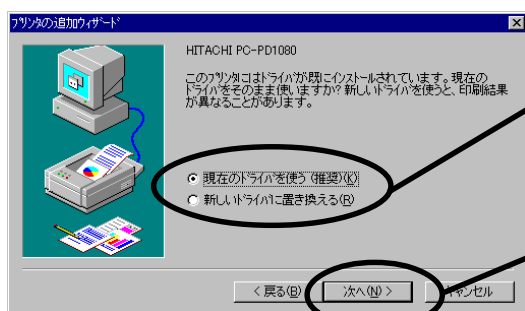
6. プリンタドライバを選択します。



ご使用になるプリンタのドライバを選択してください。

次へ をクリックしてください。

7. プリンタドライバを確認します。



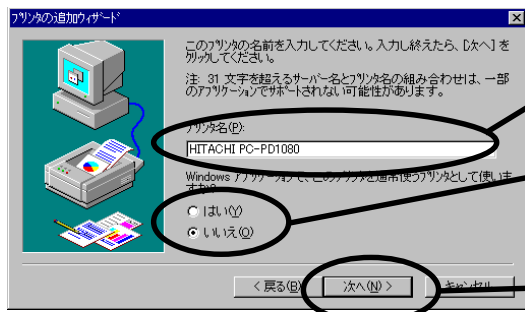
「現在のドライバを使う」か「新しいドライバに置き換える」か選択してください。

次へ をクリックしてください。



・最新ドライバを別途インストールされた場合は、「新しいドライバに置き換える」を選択してください。

8. プリンタ名を登録します。

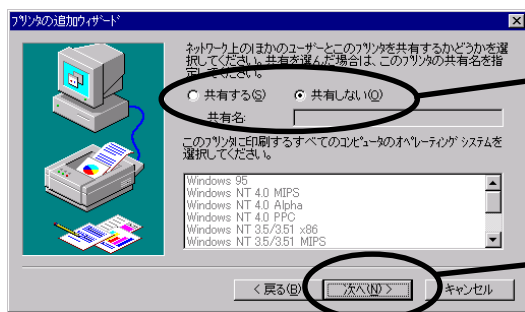


プリンタ名を指定しない場合は既定のプリンタ名をご利用ください。

このプリンタを通常使うプリンタとするか選択してください。

次へ をクリックしてください。

9. プリンタを共有するかを選択します。



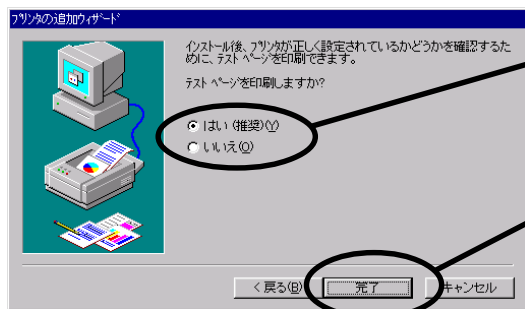
プリンタを「共有する」「共有しない」を選択してください。

次へ をクリックしてください。



・同じネットワーク内にある他のコンピュータからもこのプリンタをご使用になる場合は「共有する」を選択してください。

10. テストページを印刷するかを選択します。



「はい」を選択してください。

完了 をクリックしてください。

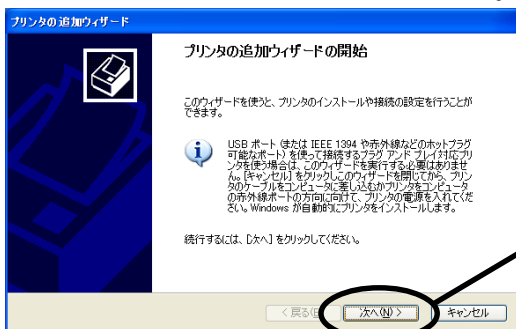
11. プリンタのテストページが正常に印刷されれば、設定完了です。

Windows 2000/Server 2003/XPのStandard TCP/IPポートで印刷する

**注意**

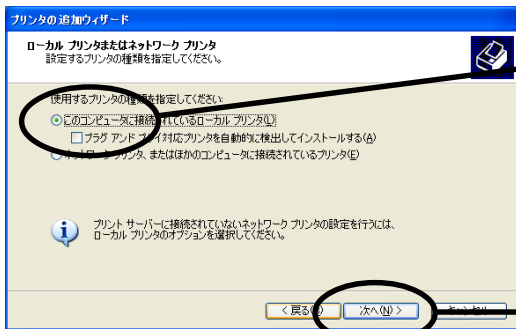
- 各印刷ポートの制限事項については、「第8章 トラブルシューティング」を参照してください。
- 以下の説明は、Windows XPの画面で行っておりますので、Windows 2000やWindows Server 2003をご利用の場合、画面が異なります。
- 本製品に付属しているユーティリティ「Popup status monitor」はPR-Port Monitorで作成するLPRまたはRAW 何れかのポートでしか動作しません。本製品をご使用の際には、PR-Port Monitorで作成したLPRポートをご使用いただくことを推奨します。

1. 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとFAX」を開き、「プリンタのインストール」をクリックしてください。

**次へ** をクリックしてください。**参考**

- Windows 2000をご利用の場合は、「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「プリンタ」を開き、「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックしてください。

2. 設定するプリンタの種類を選択します。

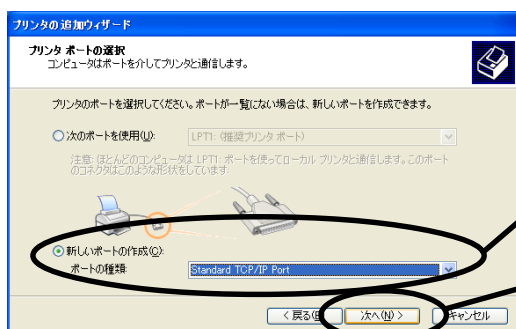


「このコンピュータに接続されているローカルプリンタ」を選択し、「プラグ アンド プレイ対応プリンタを…」のチェックを外してください。

次へ をクリックしてください。**参考**

- Windows 2000をご利用の場合は、「ローカルプリンタ」を選択し、「プラグ アンド プレイ対応プリンタを…」のチェックを外してください。

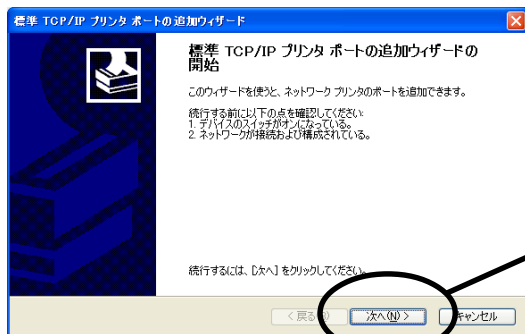
3. プリンタポートを選択します。



「新しいポートの作成」にチェックを入れ、種類は「Standard TCP/IP Port」を選択します。

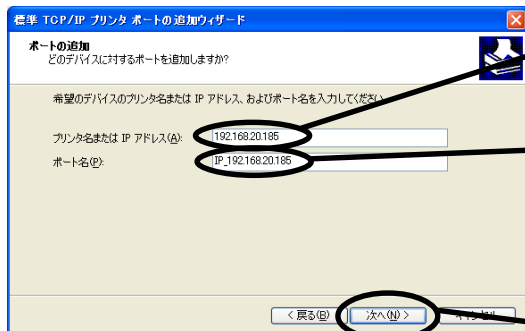
次へ をクリックしてください。

4. 標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザードが開始します。



次へ をクリックしてください。

5. プリンタポートを追加します。

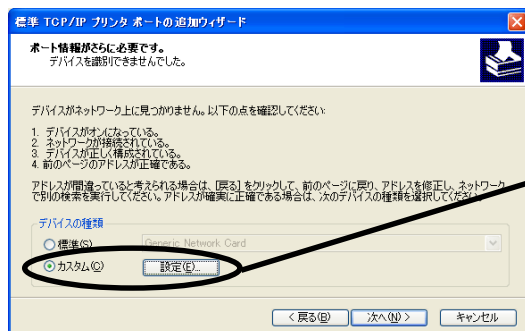


本製品に設定したIP アドレスを入力してください。

名前を付けない場合は、既定値 (IP_xxx.xxx.xxx.xxx) をご使用ください。

次へ をクリックしてください。

6. デバイスの種類を決定します。



「カスタム」にチェックを入れ、「設定」をクリックしてください。

7. ポート情報を入力します。

(A) Raw モードで使用する場合

The screenshot shows the '標準 TCP/IP ポート モニタの構成' dialog box. The 'ポートの設定' tab is active. The 'ポート名(P):' field contains 'IP_192.168.20.185'. The 'プリンタ名または IP アドレス(A):' field contains '192.168.20.185'. Under 'プロトコル', the 'Raw(R)' radio button is selected. In the 'Raw 設定' section, the 'ポート番号(N):' field contains '9100'. The 'OK' button at the bottom is circled.

「Raw」にチェックを入れてください。

「9100」を入力してください。

OK をクリックしてください。



・「OK」をクリックすると「6 .」の画面に戻りますので、「次へ」をクリックしてください。

(B) LPR モードで使用する場合

The screenshot shows the '標準 TCP/IP ポート モニタの構成' dialog box. The 'ポートの設定' tab is active. The 'ポート名(P):' field contains 'IP_192.168.20.185'. The 'プリンタ名または IP アドレス(A):' field contains '192.168.20.185'. Under 'プロトコル', the 'LPR(L)' radio button is selected. In the 'LPR 設定' section, the 'キュー名(Q):' field contains 'lp'. The checkbox 'LPR バイトカウントを有効にする(O)' is checked. The 'SNMP ステータスを有効にする(S)' checkbox is unchecked. The 'OK' button at the bottom is circled.

「LPR」にチェックを入れてください。

キュー名は「lp」を入力し、「LPR バイトカウントを有効にする」にチェックを入れてください。また、「SNMP ステータスを有効にする」のチェックを外してください。

OK をクリックしてください。



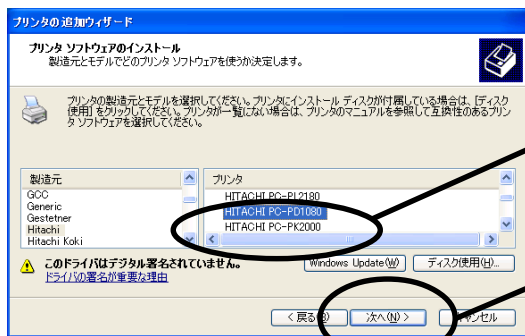
・「OK」をクリックすると「6 .」の画面に戻りますので、「次へ」をクリックしてください。

8. 設定内容を確認します。

The screenshot shows the '標準 TCP/IP プリンタ ポートの追加ウィザード' dialog box. The title bar says '標準 TCP/IP プリンタ ポートの追加ウィザード'. The main text says '標準 TCP/IP プリンタ ポートの追加ウィザードの完了' and '次の特性でポートが選択されました。'. Below this, a list shows: 'SNMP: (X) 無', 'プロトコル: LPR, lp', 'デバイス: 192.168.20.185', 'ポート名: IP_192.168.20.185', and 'アダプタの種類'. At the bottom, the '完了' button is circled.

完了 をクリックしてください。

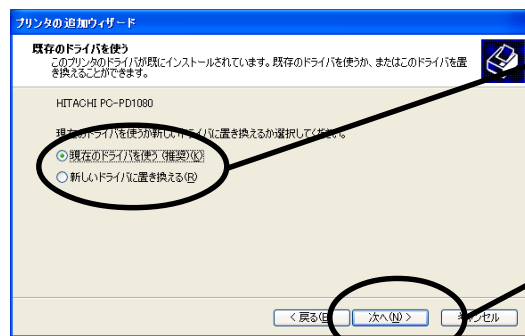
9. プリンタドライバを選択します。



ご使用になるプリンタのドライバを選択してください。

次へ をクリックしてください。

10. プリンタドライバを確認します。



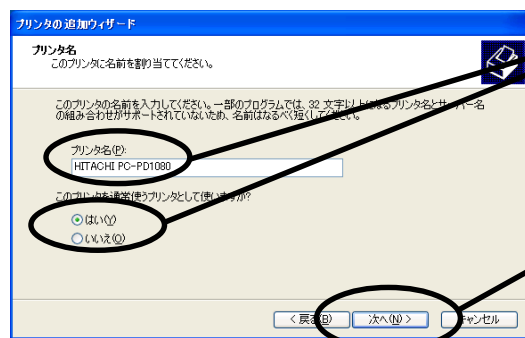
「現在のドライバを使う」か「新しいドライバに置き換える」か選択してください。

次へ をクリックしてください。



最新ドライバを別途インストールされた場合は、「新しいドライバに置き換える」を選択してください。

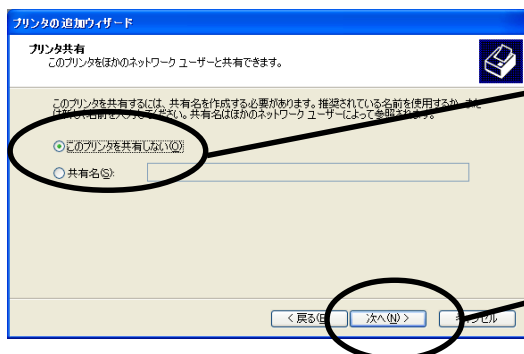
11. プリンタ名を登録します。



プリンタ名の登録を行います。このプリンタを通常使うプリンタとするか選択してください。

次へ をクリックしてください。

12. プリンタを共有するかを選択します。



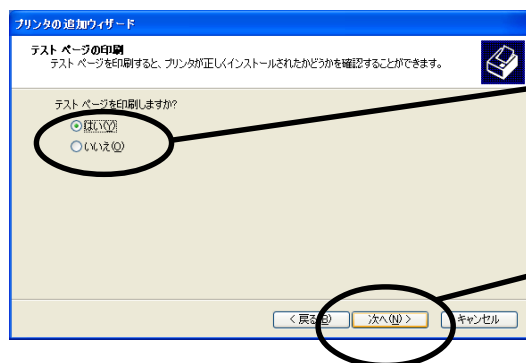
プリンタを「共有する」「共有しない」を選択してください。

次へ をクリックしてください。



・同じネットワーク内にある他のコンピュータからもこのプリンタをご使用になる場合は「共有する」を選択してください。

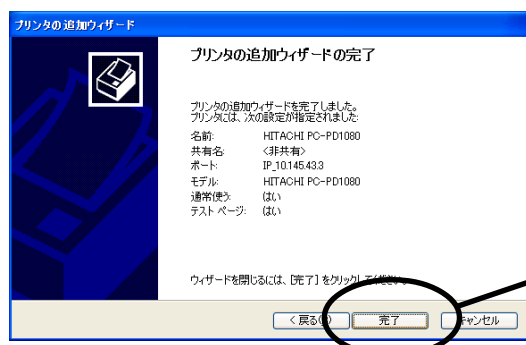
13. テストページを印刷するかを選択します。



「はい」を選択してください。

次へ をクリックしてください。

14. 設定を確認します。



完了 をクリックしてください。

15. プリンタのテストページが正常に出力されれば、設定完了です。

Windows 2000/Server 2003/XPのLPRポートで印刷する

LPR Port の追加

Windows 2000/Server 2003/XP で LPR 印刷機能を使用して印刷する場合は LPR Port を追加する必要があります。

「スタート」-「コントロールパネル」-「プログラムの追加と削除」(Windows 2000 の場合は「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」-「アプリケーションの追加と削除」)を開き、「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックします。



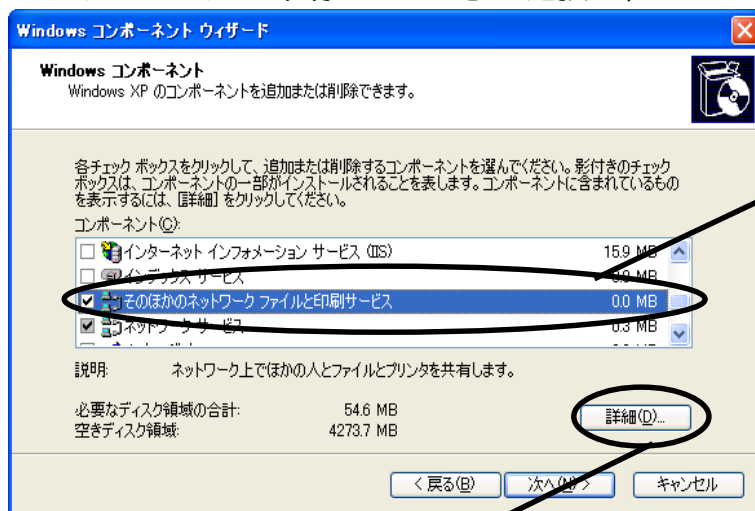
注意

- ・本製品に付属しているユーティリティ「Popup status monitor」は PR-Port Monitor で作成する LPR または RAW 何れかのポートでしか動作しません。本製品をご使用の際には、PR-Port Monitor で作成した LPR ポートをご使用いただくことを推奨します。



クリックしてください

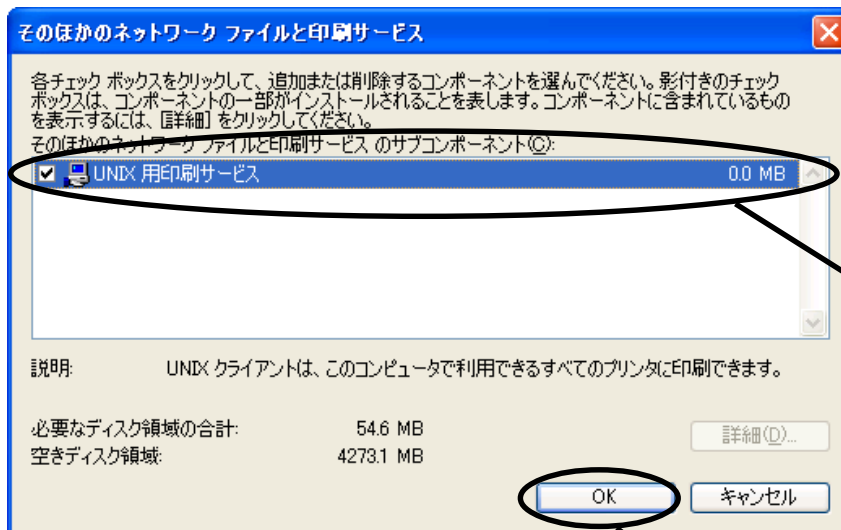
「Windows コンポーネントウィザード」を表示させ、「コンポーネント」-「その他のネットワークファイルと印刷サービス」を選択し、OK ボタンをクリックします。



「その他のネットワークファイルと印刷サービスをチェックしてください。

「詳細」をクリックしてください。

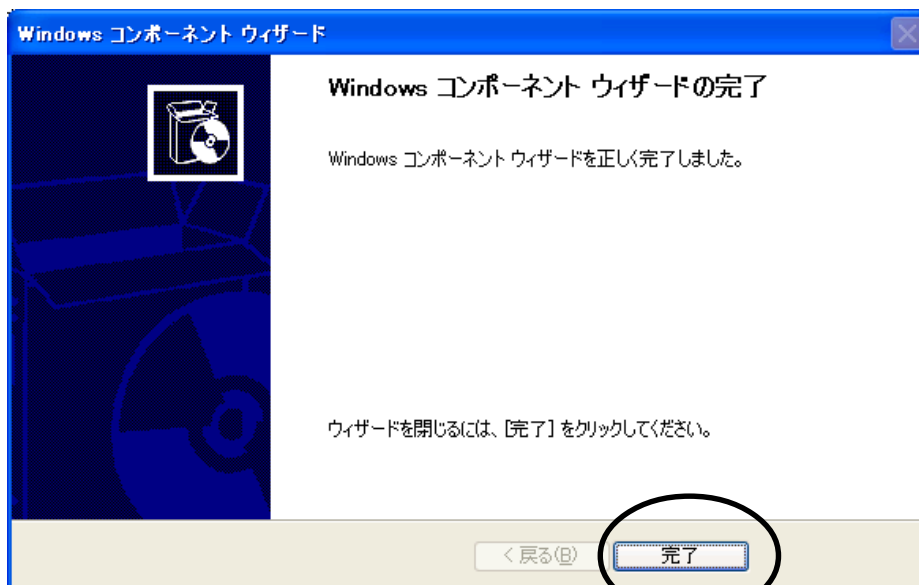
「詳細」 - 「UNIX 用印刷サービス」を選択し、OK ボタンをクリックします。



UNIX 用印刷サービスを
チェックしてください。

OK をクリックしてください。

次へ進み「Windows コンポーネントウィザード」が表示され、コンポーネントの追加が
終わりましたら完了ボタンをクリックしてください。これでLPR Portの追加は完了です。

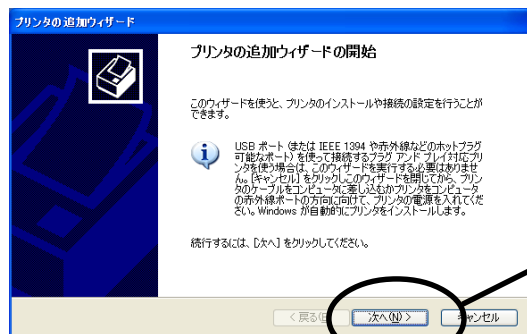


完了をクリックしてください

本説明は、Windows XP の画面で行っておりますので、Windows 2000 や Windows Server 2003 をご利用の場合、画面が異なります。

プリンタの追加

1. 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとFAX」を開きます。「プリンタのインストール」をクリックします。

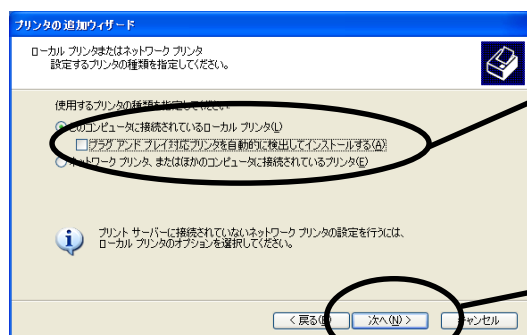


次へ をクリックしてください。



- ・ Windows 2000 をご利用の場合は、「スタート」 - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「プリンタ」を開き、「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックしてください。

2. 設定するプリンタの種類を選びます。



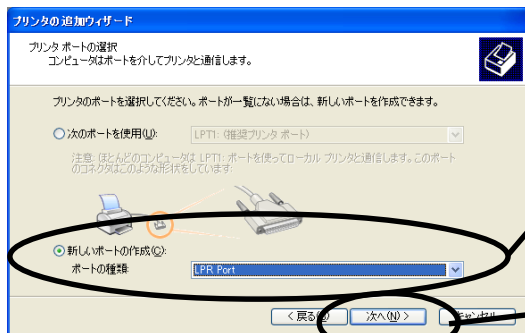
「このコンピュータに接続されているローカルプリンタ」を選択し、「プラグ アンド プレイ対応プリンタを…」のチェックを外してください。

次へ をクリックしてください。



- ・ Windows 2000 をご利用の場合は、「ローカルプリンタ」を選択し、「プラグ アンド プレイ対応プリンタを…」のチェックを外してください。

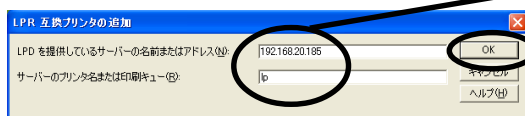
3. プリンタポートを選択します。



「新しいポートの作成」にチェックを入れ、種類は「LPR Port」を選択してください。

次へ をクリックしてください。

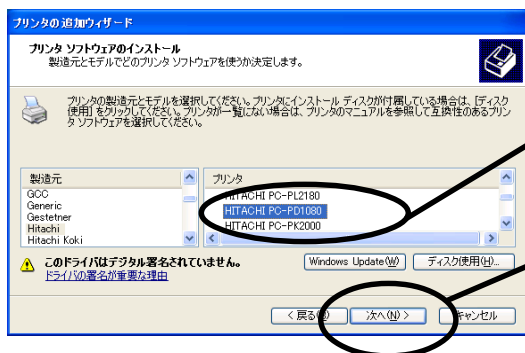
4. LPR 互換プリンタを追加します。



本製品に設定したIPアドレスと「lp」を入力してください。

OK をクリックしてください。

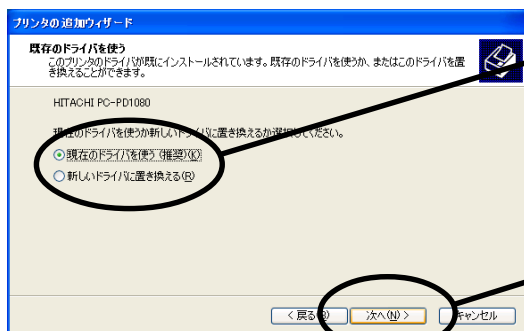
5. プリンタのドライバを選択します。



ご使用になるプリンタのドライバを選択してください。

次へ をクリックしてください。

6. プリンタドライバを確認します。



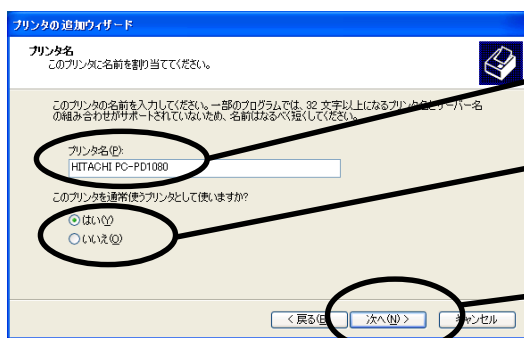
「現在のドライバを使う」か、「新しいドライバに置き換える」か選択してください。

次へ をクリックしてください。



・最新ドライバを別途インストールされた場合は、「新しいドライバに置き換える」を選択してください。

7. プリンタ名を登録します。

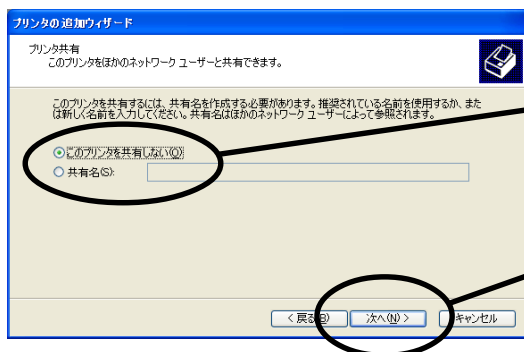


プリンタ名を入力してください。

このプリンタを通常使うプリンタとするかを選択してください。

次へ をクリックしてください。

8. プリンタを共有するかを選択します。



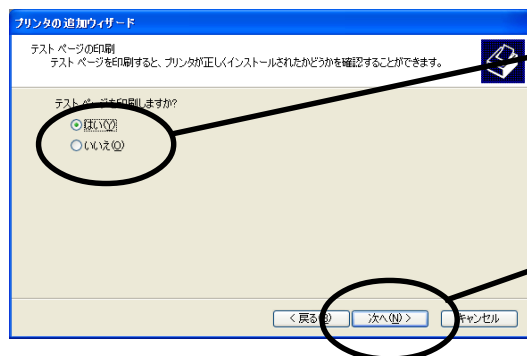
プリンタを「共有する」「共有しない」を選択してください。

次へ をクリックしてください。



・同じネットワーク内にある他のコンピュータからもこのプリンタをご使用になる場合は「共有する」を選択してください。

9. テストページを印刷するかを選択します。

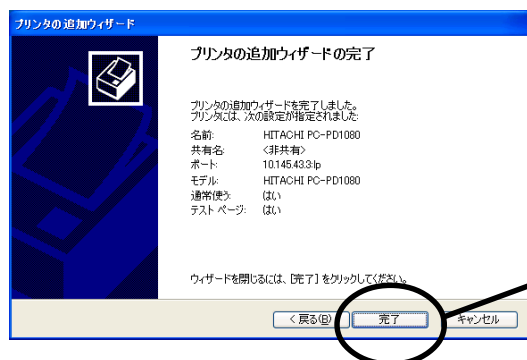


「はい」を選択してください。

次へ

をクリックしてください。

10. 設定内容を確認します。



完了

をクリックしてください。

11. プリンタのテストページが正常に出力されれば、設定完了です。

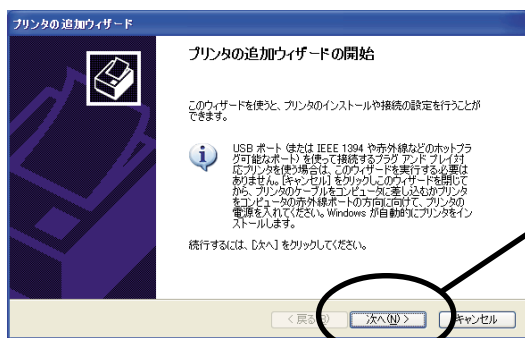
Windows 2000/Server 2003/XPのIPPポートで印刷する



注意

以下の説明は、Windows XP の画面で行っておりますので、Windows 2000 や Windows Server 2003 をご利用の場合、画面が異なります。

1. 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとFAX」を開き、「プリンタのインストール」をクリックしてください。



次へ

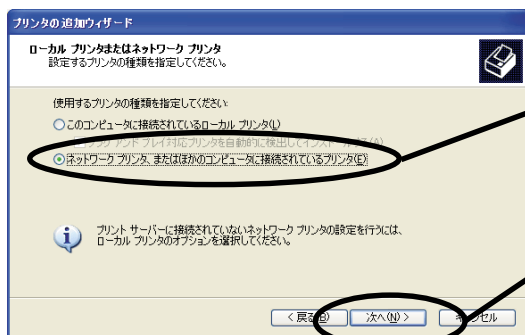
をクリックしてください。



参考

Windows 2000 をご利用の場合は、「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」-「プリンタ」を開き、「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックしてください。

2. 設定するプリンタの種類を選択します。



「ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ」を選択してください。

次へ

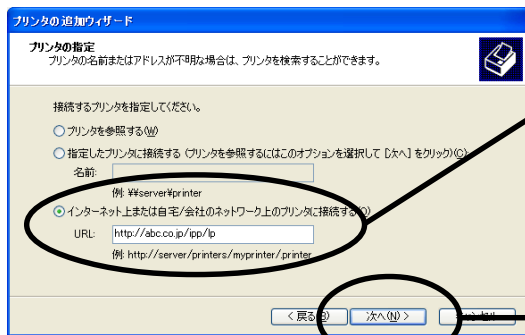
をクリックしてください。



参考

Windows 2000 をご利用の場合は、「ネットワークプリンタ」を選択してください。

3. 本製品のアドレスを入力します。



「インターネット上または自宅/会社のネットワーク上のプリンタに接続する」を選択し、本製品のURLまたはIPアドレスを指定してください。

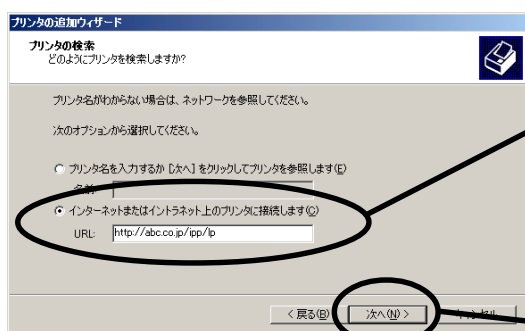
次へ

をクリックしてください。



- セキュア(SSL)通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、PR-Port Monitor(Ver.1.2.0)で作成するIPPポートをご使用いただくことを推奨します。
- セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になるSSL証明書情報を、予め本製品に設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- セキュア(SSL)通信印刷機能は、印刷データを暗号化するためデータ量が増えます。そのためデータ転送時間がかかり、通常印刷と比較して印刷性能が低下します。

<Windows 2000 の場合>



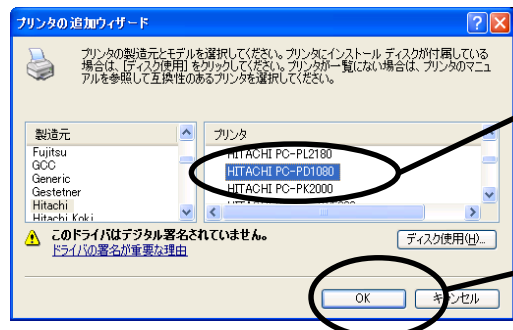
「インターネットまたはイントラネット上のプリンタに接続します」を選択し、本製品のURLまたはIPアドレスを指定してください。

次へ をクリックしてください。



- 例) URL が「abc.co.jp」でセキュア通信(SSL)印刷機能を使わない場合
`http://abc.co.jp/ipp` または `http://abc.co.jp/ipp/lp`
- 例) URL が「abc.co.jp」でセキュア通信(SSL)印刷機能を使う場合
`https://abc.co.jp/ipp` または `https://abc.co.jp/ipp/lp`
- 例) IP アドレスが「10.145.43.2」でセキュア通信(SSL)印刷機能を使わない場合
`http://10.145.43.2/ipp` または `http://10.145.43.2/ipp/lp`
- 例) IP アドレスが「10.145.43.2」でセキュア通信(SSL)印刷機能を使う場合
`https://10.145.43.2/ipp` または `https://10.145.43.2/ipp/lp`

4. プリンタドライバを選択します。



ご使用になるプリンタのドライバを選択してください。

OK をクリックしてください。

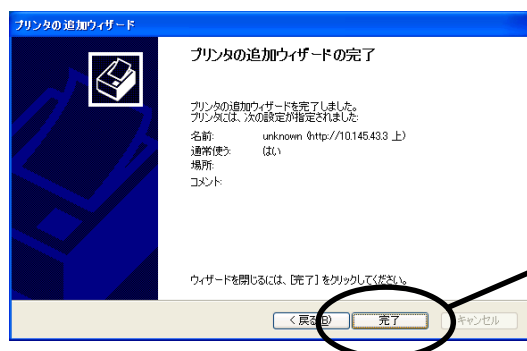
5. 通常使うプリンタとするか選択します。



通常使うプリンタとするか選択してください。

次へ をクリックしてください。

6. 設定完了です。



完了 をクリックしてください。

Windows VistaのStandard TCP/IPポートで印刷する

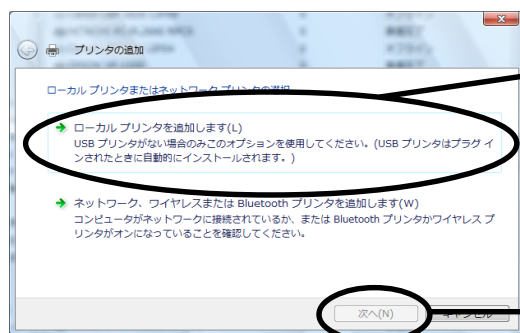


注意

- ・各印刷ポートの制限事項については、「第8章 トラブルシューティング」を参照してください。
- ・本製品に付属しているユーティリティ「Popup status monitor」はPR-Port Monitorで作成するLPRまたはRAW 何れかのポートでしか動作しません。本製品をご使用の際は、PR-Port Monitorで作成したLPRポートをご使用いただくことを推奨します。

1. 「スタート」- 「コントロールパネル」- 「プリンタ」を開き、「プリンタのインストール」をクリックしてください。

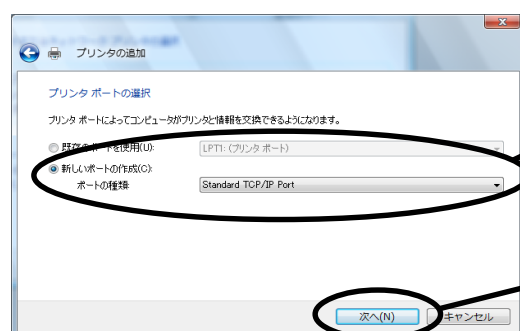
2. 設定するプリンタの種類を選択します。



「ローカルプリンタを追加します(L)」
を選択してください。

次へ をクリックしてください。

3. プリンタポートを選択します。

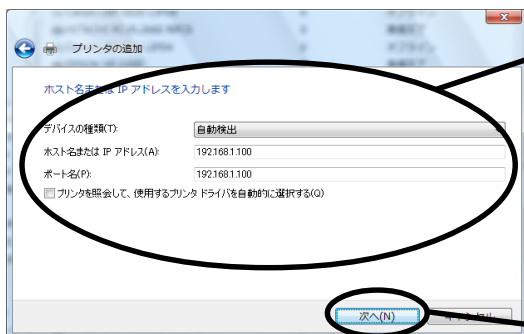


「新しいポートの作成」にチェックを
入れ、種類は「Standard TCP/IP
Port」を選択します。

次へ をクリックしてください。

4. 標準 TCP/IP プリントポートの追加ウィザードが開始します。

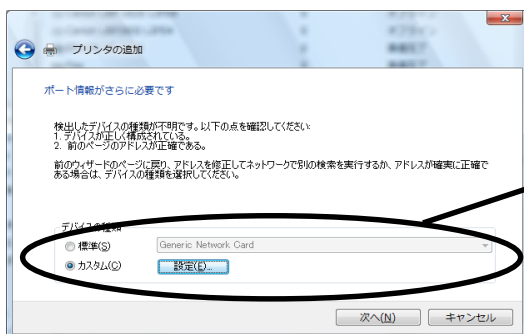
5. プリントポートを追加します。



- ・デバイスの種類は、「自動検出」に設定してください。
- ・本製品に設定したIPアドレスを入力してください。
- ・ポート名を付けない場合は、既定値 (xxx.xxx.xxx.xxx) をご使用ください。

次へ をクリックしてください。

6. デバイスの種類を決定します。



「カスタム」にチェックを入れ、「設定」をクリックしてください。

7. ポート情報を入力します。

(A) Raw モードで使用する場合

標準 TCP/IP ポート モニタの構成

ポートの設定

ポート名(P): 192.168.1.100
プリンタ名または IP アドレス(A): 192.168.1.100
プロトコル: Raw(R) LPR(L)

Raw 設定
ポート番号(N): 9100

LPR 設定
キュー名(Q):
 LPR バイト カウントを有効にする(B)

SNMP ステータスを有効にする(S)
コミュニティ名(C): public
SNMP デバイス インデックス(D): 1

OK キャンセル

「Raw」にチェックを入れてください。

「9100」を入力してください。

OK をクリックしてください。



・「OK」をクリックすると「6 .」の画面に戻りますので、「次へ」をクリックしてください。

参考

(B) LPR モードで使用する場合

標準 TCP/IP ポート モニタの構成

ポートの設定

ポート名(P): 192.168.1.100
プリンタ名または IP アドレス(A): 192.168.1.100
プロトコル: Raw(R) LPR(L)

Raw 設定
ポート番号(N): 9100

LPR 設定
キュー名(Q): lp
 LPR バイト カウントを有効にする(B)

SNMP ステータスを有効にする(S)
コミュニティ名(C): public
SNMP デバイス インデックス(D): 1

OK キャンセル

「LPR」にチェックを入れてください。

キュー名は「lp」を入力し、「LPR バイトカウントを有効にする」にチェックを入れてください。また、「SNMP ステータスを有効にする」のチェックを外してください。

OK をクリックしてください。

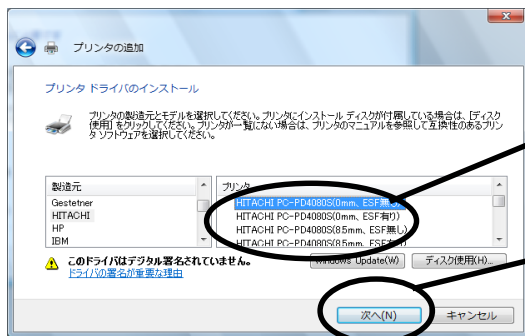


・「OK」をクリックすると「6 .」の画面に戻りますので、「次へ」をクリックしてください。

参考

8. 設定内容を確認してください。

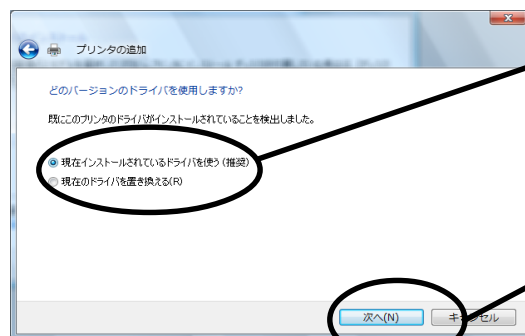
9. プリンタドライバを選択します。



ご使用になるプリンタのドライバを選択してください。

次へ をクリックしてください。

10. プリンタドライバを確認します。



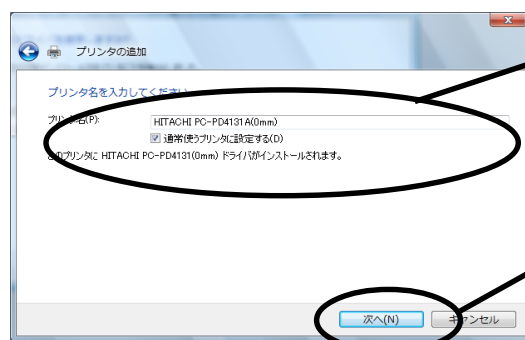
「現在インストールされているドライバを使う」か「現在のドライバに置き換える」か選択してください。

次へ をクリックしてください。



・最新ドライバを別途インストールされた場合は、「新しいドライバに置き換える」を選択してください。

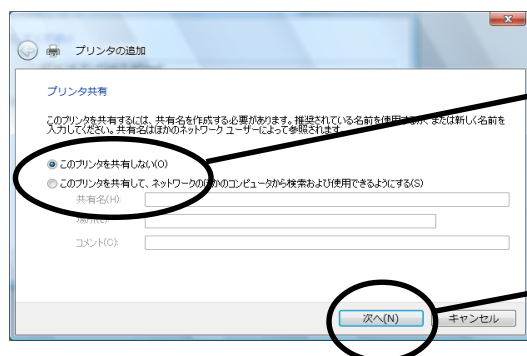
11. プリンタ名を登録します。



プリンタ名の登録を行います。このプリンタを通常使うプリンタとるか選択してください。

次へ をクリックしてください。

12. プリンタを共有するかを選択します。



プリンタを「共有する」「共有しない」を選択してください。

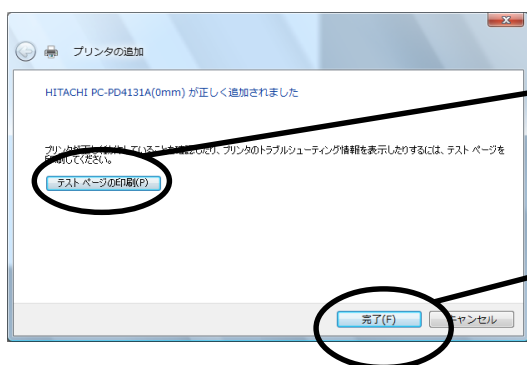
次へ

をクリックしてください。



・同じネットワーク内にある他のコンピュータからもこのプリンタをご使用になる場合は「共有する」を選択してください。

13. テストページを印刷するかを選択します。



「はい」を選択してください。

完了

をクリックしてください。

14. プリンタのテストページが正常に出力されれば、設定完了です。

Windows VistaのLPRポートで印刷する

LPR Port の追加

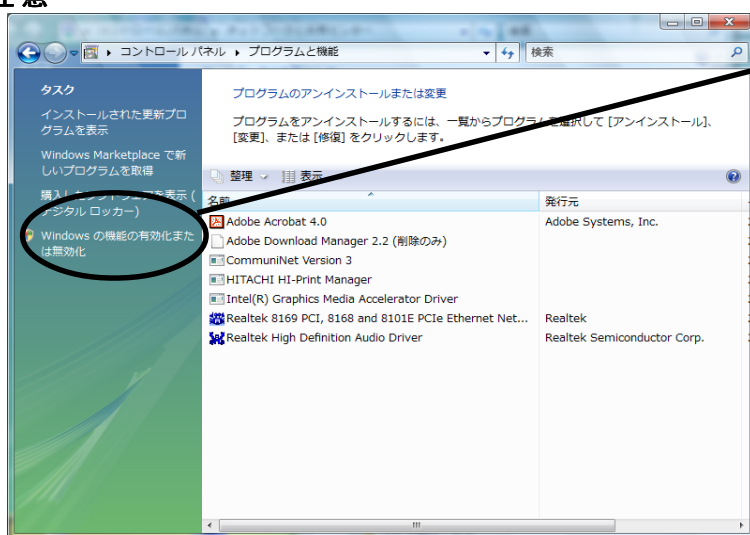
Windows VistaでLPR印刷機能を使用して印刷する場合はLPR Portを追加する必要があります。

「スタート」-「コントロールパネル」-「プログラムと機能」を開き、「Windowsの機能の有効化または無効化」をクリックします。



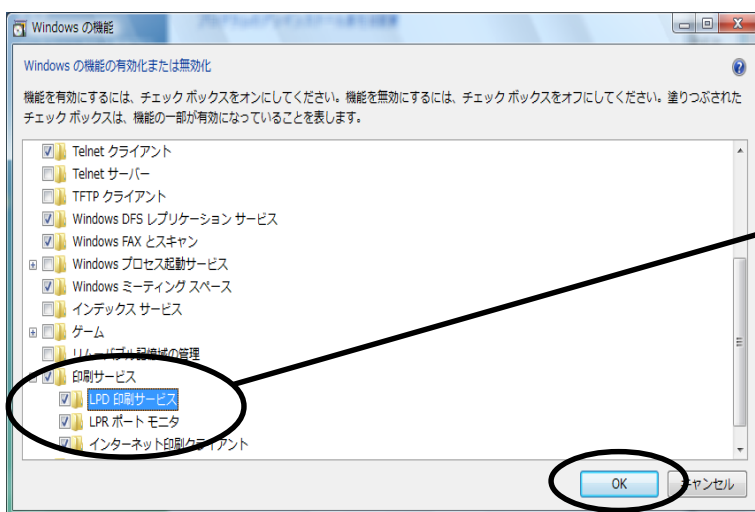
注意

- ・本製品に付属しているユーティリティ「Popup status monitor」はPR-Port Monitorで作成するLPRまたはRAW 何れかのポートでしか動作しません。本製品をご使用の際には、PR-Port Monitorで作成したLPRポートをご使用いただくことを推奨します。



クリックしてください

「Windowsの機能」を表示させ、「印刷サービス」-「LPD印刷サービス」を選択、チェックを入れ、OKボタンをクリックします。



「印刷サービス」-「LPD印刷サービス」をチェックしてください。

インストールが完了すると、「プログラムと機能」の画面に戻ります。これでLPR Portの追加は完了です。Windowを閉じてください。



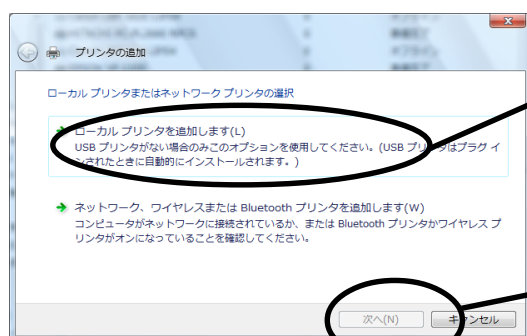
注意

- ・各印刷ポートの制限事項については、「第8章 トラブルシューティング」を参照してください。
- ・本製品に付属しているユーティリティ「Popup status monitor」はPR-Port Monitorで作成するLPR またはRAW 何れかのポートでしか動作しません。本製品をご使用の際は、PR-Port Monitorで作成したLPRポートをご使用いただくことを推奨します。

プリンタの追加

1. 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとFAX」を開きます。「プリンタのインストール」をクリックします。

2. 設定するプリンタの種類を選びます。

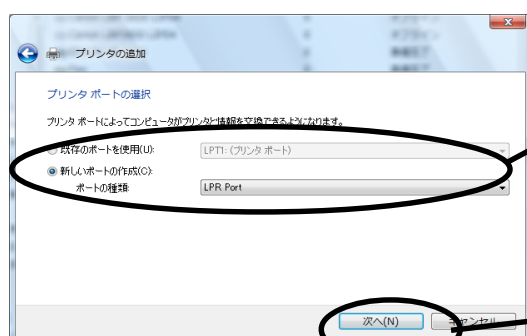


「ローカルプリンタを追加します(L)」を選択してください。

次へ

をクリックしてください。

3. プリンタポートを選択します。

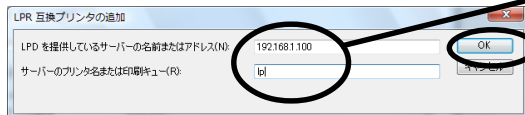


「新しいポートの作成」にチェックを入れ、種類は「LPR Port」を選択してください。

次へ

をクリックしてください。

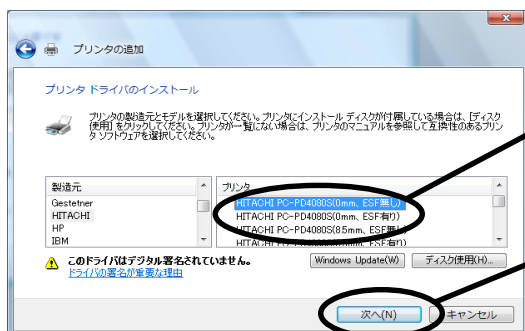
4. LPR 互換プリンタを追加します。



本製品に設定したIPアドレスを入力してください。
印刷キューは、「lp」と入力してください。

OK をクリックしてください。

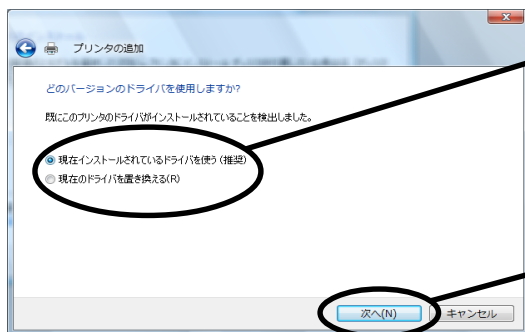
5. プリンタのドライバを選択します。



ご使用になるプリンタのドライバを選択してください。

次へ をクリックしてください。

6. プリンタドライバを確認します。



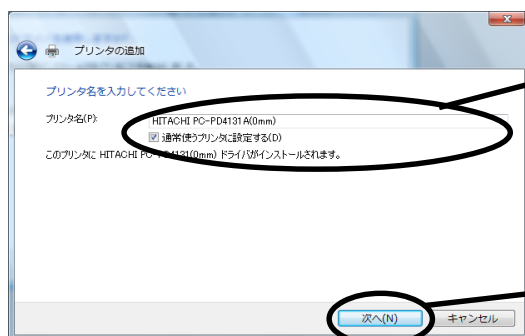
「現在のドライバを使う」か、「新しいドライバに置き換える」か選択してください。

次へ をクリックしてください。



・最新ドライバを別途インストールされた場合は、「新しいドライバに置き換える」を選択してください。

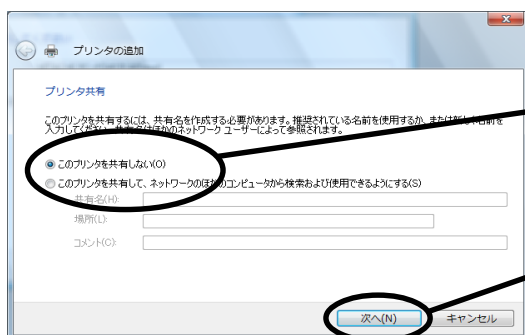
7. プリンタ名を登録します。



プリンタ名の登録を行います。このプリンタを通常使うプリンタと選択してください。

次へ をクリックしてください。

8. プリンタを共有するかを選択します。



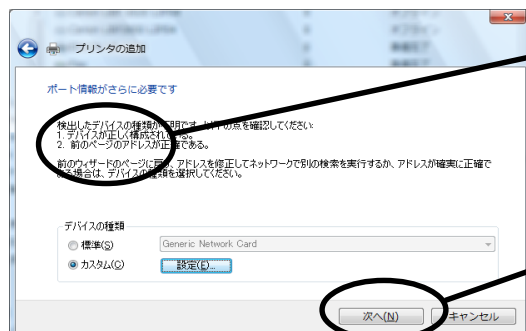
プリンタを「共有する」「共有しない」を選択してください。

次へ をクリックしてください。



- ・ 同じネットワーク内にある他のコンピュータからもこのプリンタをご使用になる場合は「共有する」を選択してください。

9. テストページを印刷するかを選択します。



「はい」を選択してください。

次へ をクリックしてください。

10. プリンタのテストページが正常に出力されれば、設定完了です。

Windows VistaのIPPポートで印刷する

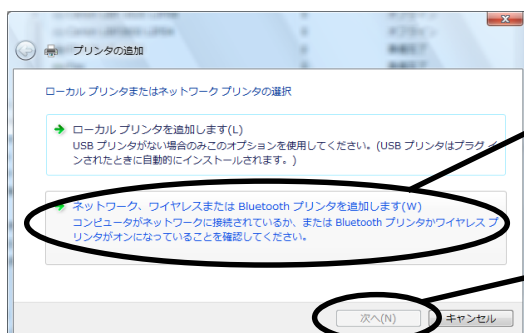


参考

- ・セキュア(SSL)通信印刷機能を利用した印刷を行う場合は、PR-Port Monitor(Ver.1.2.0)で作成するIPPポートをご使用いただくことを推奨します。
- ・セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するには、セキュア通信で必要になるSSL証明書情報を、IPPポート作成前に、予め本製品とコンピュータに設定する必要があります。設定方法については、「付録 セキュア通信印刷機能について」を参照してください。
- ・セキュア(SSL)通信印刷機能は、印刷データを暗号化するためデータ量が増えます。そのためデータ転送時間がかかり、通常印刷と比較して印刷性能が低下します。

1. 「スタート」-「コントロールパネル」-「プリンタ」を開き、「プリンタのインストール」をクリックしてください。

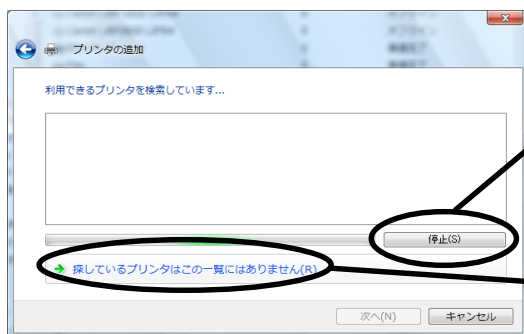
2. 設定するプリンタの種類を選択します。



「ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ」を選択してください。

次へ をクリックしてください。

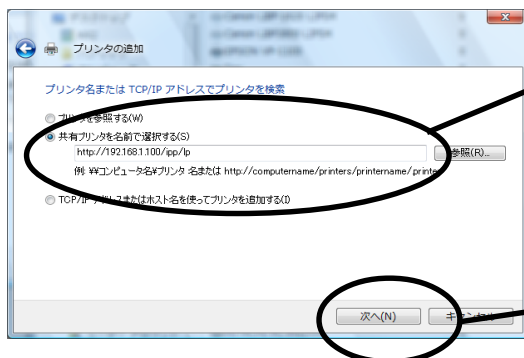
3. プリンタの検索を停止します。



「停止」をクリックしてください。

「探しているプリンタはこの一覧にはありません(R)」をクリックしてください。

4. 本製品のアドレスを入力します。



「共有プリンタを名前を選択する」を選択し、本製品のURLまたはIPアドレスを入力してください。

次へ をクリックしてください。



例) URL が「abc.co.jp」でセキュア通信(SSL)印刷機能を使わない場合

http://abc.co.jp/ipp または **http://abc.co.jp/ipp/lp**

例) URL が「abc.co.jp」でセキュア通信(SSL)印刷機能を使う場合

https://abc.co.jp/ipp または **https://abc.co.jp/ipp/lp**

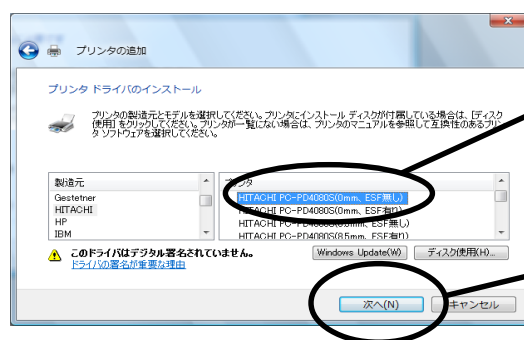
例) IP アドレスが「10.145.43.2」でセキュア通信(SSL)印刷機能を使わない場合

http://10.145.43.2/ipp または **http://10.145.43.2/ipp/lp**

例) IP アドレスが「10.145.43.2」でセキュア通信(SSL)印刷機能を使う場合

https://10.145.43.2/ipp または **https://10.145.43.2/ipp/lp**

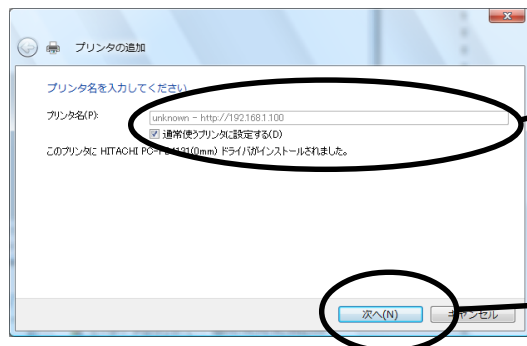
5. プリンタドライバを選択します。



ご使用になるプリンタのドライバを選択してください。

OK をクリックしてください。

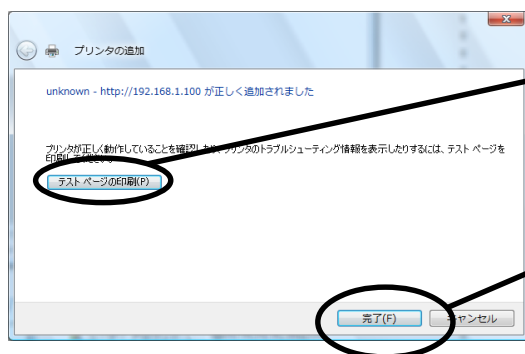
6. プリンタ名の指定と、通常使うプリンタとするか選択します。



プリンタ名を指定することができます。
通常使うプリンタとするか選択してください。

次へ をクリックしてください。

7. テストページを印刷するかを選択します。



「テストページの印刷」を選択してください。

完了 をクリックしてください。

8. プリンタのテストページが正常に出力されれば、設定完了です。

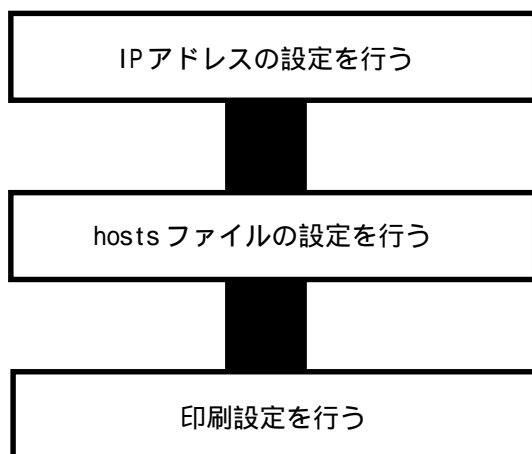
第5章 UNIX/Linux 環境で使用する	5-2
IP アドレスの設定	5-3
ARP による設定	5-3
RARP による設定	5-4
BOOTP による設定	5-5
hosts ファイルの設定	5-6
LPD を使用した印刷	5-7
HI-UX 環境で使用する	5-8
HI-UX/WE2 の場合	5-8
Solaris 環境で使用する	5-9
Solaris2.6/7/8 の場合	5-9
Solaris2.3x ~ 2.5x の場合	5-11
HP-UX 9.x/10.x 環境で使用する	5-13
setnetlp ツールを使用する	5-15
AIX 4.x.x 環境で使用する	5-20
BSD 系 UNIX の環境で使用する	5-22
Linux 環境で使用する	5-24
Red Hat Linux のプリントキュー作成ツールを 使用する	5-26
Turbo Linux のプリントキュー作成ツールを使用する ..	5-27
FTP を使用した印刷	5-28
印刷する	5-29
状態を確認する	5-31

第5章 UNIX/Linux環境で使用する

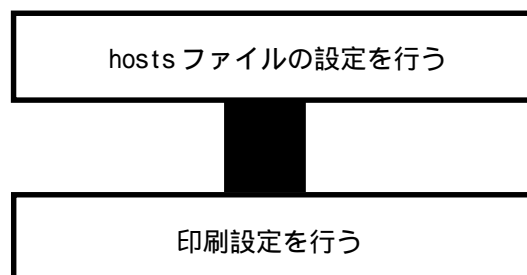
本章では、UNIX/Linux環境で使用するために必要な設定と、LPDおよびFTPによる印刷について説明します。設定方法は一例ですので、詳細はご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。

< UNIX/Linux環境で印刷するまでの手順 >

初期導入 & 印刷をしたい場合
(管理者編)



印刷をしたい場合
(クライアント編)



注意

- ・本章の記載は、LANボードの漢字フィルタ(sjis/euc)を使用することを想定しています。本製品のプリンタエミュレーションの設定が"ESC/P"に設定されていることを確認してください。詳細は「第6章 設定に関する機能」をご参照ください。

IPアドレスの設定

UNIX/Linux 環境では、ARP、BOOTP、RARP の何れかの方法で IP アドレスの設定ができます。以下に設定方法を示します。



参考

- ・ IP アドレスを設定した後は、TELNET で本製品の詳細設定を行ってください。TELNET については、「第 8 章 設定に関する機能」をご参照ください。



注意

- ・ BOOTP を使用するためには、「DHCP/BOOTP」設定を "ENABLE" にする必要があります。また、RARP を使用するためには、「RARP」設定を "ENABLE" にする必要があります。「DHCP/BOOTP」「RARP」の各設定を "ENABLE" に変更するためには、ARP を実行した後に TELNET を起動し、各設定を変更してください。

ARPによる設定

IP アドレスと Ethernet アドレスの組み合わせを ARP テーブルに登録し、PING を実行することで、IP アドレスを設定することができます。



注意

- ・ この方法により設定された IP アドレスは一時的な設定であり、本製品に登録されません。設定後は必ず TELNET など IP アドレスの登録を行ってください。

(例) Ethernet アドレスが「00809200110f」、IP アドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」の場合

1. 本製品の電源を投入します。
2. ARP コマンドを使い、IP アドレスと Ethernet アドレスの組み合わせを ARP テーブルに登録します。

```
arp -s 192.168.10.100 00:80:92:00:11:0f temp
```
3. PING を実行します。

```
ping 192.168.10.100
```
4. 実行後、本製品より応答があれば設定完了です。

```
192.168.10.100 is alive.
```

RARPによる設定

UNIXの/etc/ethersに本製品に登録するIPアドレスとEthernetアドレスの組み合わせを追加し、RARPDを起動します。その後、プリンタの電源を再投入することでIPアドレスを設定することができます。

**注意**

- ・RARPによるIPアドレスの設定を行うためには、ネットワーク内にRARPデーモンが動作しているワークステーションが必要です。
- ・RARPを使用するためには、「RARP」設定を"ENABLE"にする必要があります。

UNIXのRARPサーバを使用したIPアドレスの設定例です。

(例) Ethernetアドレスが「00809200110f」、IPアドレスが「192.168.10.100」、
ホスト名が「pbox」の場合

- 1 . /etc/ethersに次の設定を追加します。
00:80:92:00:11:0f 192.168.10.100 #pbox
- 2 . RARP Dを起動します。
rarpd -a
- 3 . プリンタの電源を再投入します。

BOOTPによる設定

本製品に登録する IP アドレスと Ethernet アドレスの組み合わせを BOOTP サーバに登録・起動し、プリンタの電源を再投入することで IP アドレスを設定することができます。

**注意**

- BOOTP による IP アドレスと Ethernet アドレスの設定を行うためには、ネットワーク内に BOOTP サーバが動作しているワークステーションが必要です。
- 本製品の Ethernet アドレスは、自己診断印刷結果または本製品基板裏面にシール表示で記載されています。(例: 00:80:92:08:b0:dd)
- BOOTP を使用するためには、「DHCP/BOOTP」設定を "ENABLE" にする必要があります。

UNIX の BOOTP サーバを使用した IP アドレスの設定例です。

(例) Ethernet アドレスが「00809200110f」、IP アドレスが「192.168.10.100」、
ホスト名が「pbox」の場合

1 . /etc/bootptab に次の設定を追加します。

```
pbox:¥
ht=ether:¥           # Target hardware type is ETHERNET
ha=00809200110f:¥    # Target hardware address
ip=192.168.10.100:¥  # Target IP address
gw=192.168.10.254:¥ # Default gateway address (If required)
sm=255.255.255.0:   # Target subnet mask (If required)
```

2 . /etc/inetd.conf に次の設定を追加します。

```
bootps dgram udp wait root /etc/bootpd bootpd
```

3 . inetd を再起動します。

```
kill -1 1
```

4 . プリンタの電源を再投入します。

hostsファイルの設定

UNIX または Linux マシンの hosts ファイルにホスト名と IP アドレスを登録します。



- ・ hosts ファイルを編集する場合は、ネットワーク管理者に確認の上作業してください。
- ・ DNS等のIP管理システムをご利用の場合は、hostsファイルの編集を行う必要がない場合があります。

1. UNIX/Linux マシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

2. /etc/hosts ファイルに本製品のホスト名と IP アドレスを登録します。

hosts ファイルの編集には“vi”などのエディタを使用します。

例) IP アドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」の場合

```
192.168.10.98      venus      # UNIX-A
192.168.10.99      mars       # UNIX-B
192.168.10.100    pbox      # Print-Server
```

3. プリンタの電源を ON にし、「ping」コマンドを使用して、ネットワークとの接続が行えるかを確認してください。

```
# ping pbox
```



- ・ 応答がない場合やエラーが表示される場合は、本製品の IP アドレスの設定、hosts ファイルの記述またはネットワークの状態に問題があります。ネットワーク管理者にご確認ください。

LPDを使用した印刷

TCP/IP の LPD プロトコルを使用して印刷するための設定方法を説明します。

「lpr」、「lp」コマンドの詳細は、ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。



参考

- ・ LPD プロトコルについて
LPD (Line Printer Daemon) プロトコルは、ネットワーク上のプリンタに印刷するためのプロトコルです。
- ・ 論理プリンタについて
本製品には3つの論理プリンタがあります。
プリンタドライバを使ったファイルを印刷する場合は「lp」のプリンタへ、シフトJIS漢字コードのテキストファイルへ変換し印刷する場合は「sjis」のプリンタへ、EUC漢字コードのテキストファイルへ変換し印刷する場合は「euc」のプリンタへ出力する必要があります。

論理プリンタ	機能
lp	直接出力
sjis	シフトJIS漢字出力
euc	EUC漢字変換出力

HI-UXの環境で使用する

HI-UX/WE2 の場合

HI-UX/WE2から印刷するための設定を行います。システムによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なる場合があります。詳細については、ワークステーション装置に添付されているHI-UX/WE2 日立CSMA/CDネットワークCD105(TCP/IP)マニュアル(3000-3-200)の第9章リモートプリンティングをご参照ください。

1. /etc/printcap ファイルに本製品を登録します。

例：プリントキューポート「HI_lp」を登録する場合

```
HI_lp:¥                               . . . . .
      :lp=:rm=HITACHI:rp=lp:¥         . . . . .
      :sd=/usr/spool/HI_lp:¥         . . . . .
      :lf=/usr/spool/HI_lp/HI_lp_errs: . . . . .
```

< 各変数の意味 >

プリンタ名を登録します。

LP: プリンタを接続するためのデバイス名称

ネットワーク接続の場合は、本設定は必要ありません。

rm: リモートプリンタのホスト名

/etc/hosts ファイルに登録したホスト名を入力します。

rp: リモートプリンタのプリンタ名

本製品の論理プリンタ名で、lp, sjis, euc の何れかを選択します。

sd: スプールディレクトリ

lf: エラーログファイル

と は絶対パスで指定します。

2. /etc/printcap ファイルに登録したスプールディレクトリとエラーログファイルを製作します。

例：スプールディレクトリ「HI_lp」、エラーログファイル「HI_lp_errs」を生成する場合

```
# mkdir /usr/spool/HI_lp             スプールディレクトリ作成
# touch /usr/spool/HI_lp/HI_lp_errs  エラーログファイル作成
# chown -R demon /usr/spool/HI_lp    オナを demon に変更
# chgrp -R demon /usr/spool/HI_lp    グループを demon に変更
```

3. lpd(プリンタデーモン)が起動しているか確認します。

```
# PS aux | grep lpd
```

lpdが起動していない場合、スーパーユーザのアカウントで下記コマンドを実行してください。

```
# /usr/lib/lpd&
```

4. 作成したプリントキューを有効にします。

```
# lpc restart HI_lp
```

Solaris環境で使用する

Solaris2.6/7/8の場合

Sun Microsystems社のSolaris2.6/7/8から印刷するための設定を行います。OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。



・本製品ではリモートプリンタはご利用になれません。

注意

1. プリントキューを作成します。

1-1. UNIXマシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. プリントサーバを登録します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

```
# lpadmin -p pboxlp -m netstandard -o protocol=bsd  
                (プリントキュー名)      -o dest=pbox:lp -v /dev/null  
                                           (ホスト名)(論理プリンタ名)
```



参考

・「:」の後に続く「lp」は、本製品の論理プリンタ名になります。
・EUC漢字テキストデータを印刷する場合は下記のように設定することで、直接EUC漢字テキストデータを印刷することができます。

```
# lpadmin -p pboxeuc -m netstandard -o protocol=bsd  
                -o dest=pbox:euc -v /dev/null  
                                           (eucポート指定)
```

1-3. プリントキューを有効にします。

```
#!/usr/sbin/accept pboxlp  
#!/usr/bin/enable pboxlp
```

2. 印刷を行います。

- 2-1. 「lp」コマンドを使用して印刷する方法を説明します。詳細についてはSolarisのマニュアルをご参照ください。

```
# lp -d pboxlp <印刷ファイル名>
```

このまま印刷するとバナーページが自動的に付加されます。

バナー印字が不要な場合は、

```
# lp -d pboxlp -o nobanner <印刷ファイル名>
```

と "-o nobanner" を付け加えてください。

また、

```
# lpadmin -p pboxlp -o nobanner
```

と設定するか、/etc/lp/interfacesの下に作成されるフィルタファイルを

直接編集しても常にバナー印字を禁止することができます。

例) "vi" などのエディタで下記ファイルを開き「nobanner=no」を「nobanner=yes」に修正します。

```
# vi /etc/lp/interfaces/pboxlp
nobanner=no ---> nobanner=yes
```

3. 印刷要求を取り消します。

- 3-1. 「cancel」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# cancel pboxlp- <ジョブ番号>
```



・キャンセルのタイミングやSolarisの仕様によっては、正常にキャンセルすることができない場合があります。

4. プリンタの状態を確認します。

- 4-1. 「lpstat」コマンドを使用して、プリンタの状態を確認することができます。

```
# lpstat -p pboxlp
```



・UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。

Solaris2.3x ~ 2.5x の場合

Sun Microsystems 社の Solaris2.5x 以下から印刷するための設定を行います。
OS のバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。ご
使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。



注意

・本製品では、リモートプリンタはご利用になれません。

1. プリントキューを作成します。

1-1. UNIX マシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. プリントスケジューラを停止します。

```
# /usr/sbin/lpshut
```

1-3. プリントサーバを登録します。

例)「pbox」という名前のホスト名を登録する場合

```
# /usr/sbin/lpsystem -R0 -t bsd pbox
```

1-4. プリントキューを設定します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

```
#!/usr/sbin/lpadmin -p pboxlp -s pbox!lp
```

(プリントキュー名) (ホスト名) (論理プリンタ名)



参考

・csh をご使用の場合は、「!」の代わりに「¥!」または「\!」としてください。

「!」の後に続く「lp」は、本製品の論理プリンタ名になります。

・EUC 漢字テキストデータを印刷する場合は下記のように設定することで、直接 EUC 漢字テキストデータを印刷することができます。

```
#!/usr/sbin/lpadmin -p pboxeuc -s pbox!euc
```

(euc ポート指定)

1-5. プリントスケジューラを起動します。

```
#!/usr/bin/sh /etc/init.d/lp start
```

1-6. プリントキューを有効にします。

```
#!/usr/sbin/accept pboxlp
```

```
#!/usr/bin/enable pboxlp
```

2. 印刷を行います。

2-1. 「lp」コマンドを使用して印刷します。

```
# lp -d pboxlp <印刷ファイル名>
```

3. 印刷要求を取り消します。

3-1. 「cancel」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# cancel pboxlp- <ジョブ番号>
```

4. プリンタの状態を確認します。

4-1. 「lpstat」コマンドを使用して、プリンタの状態を確認することができます。

```
# lpstat -p pboxlp
```



・UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。

注意



【制限事項】

本製品を Solaris 2.x でご利用になる場合、Solaris の仕様により以下の制限事項があります。

- 1) 印字開始後、プリンタがオフラインなどでデータを受け付けられない状態が長く続いた場合、Solaris側でタイムアウトし、再印字(再接続)されるため、印字データが途中で切れ、1ページ目から再度印字される場合があります。
- 2) “lpstat -p <プリンタ名>”にてプリンタのステータスを表示した場合、プリンタの状態ステータスとして返す任意の文字列(PrinterReadyなど)をSolaris側で解釈できず“Faulted”と表示した後、任意の文字列を表示します。
- 3) Solarisよりデータを出力中は、同じマシンから本製品に対する印字関連コマンドが正常に動作しません。これはSolaris側がデータの送信が終了するまで他のパケットを出すことができないためで、以下の現象が発生します。“lpstat -p <プリンタ名>”に対して、“system not responding”と表示されます。
- 4) cancel コマンドの後、lpstat などを行うと lpstat がエラーになる場合があります。この場合は、プリンタスケジューラデーモンが停止している可能性がありますので、“lpstat -r”で確認する必要があります。“scheduler is not running”と表示された場合はデーモンが停止していますので、下記のように入力しプリンタスケジューラデーモンを再起動してください。
/bin/sh /etc/init.d/lp start
- 5) “cancel”で存在しないジョブを削除しても、Solarisではエラーになりません。

HP-UX 9.x/10.x環境で使用する

ヒューレットパッカード社の HP-UX から印刷するための設定を行います。
OS のバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。ご
使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。

1. リモートスプーラを設定します。

使用している HP-UX マシンに、リモートスプーラが設定されていない時は以下の設定を行ってくださ
い。

- 1-1. UNIX マシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

- 1-2. プリントスプーラを停止します。

```
#!/usr/lib/lpshut
```

- 1-3. /etc/inetd.conf ファイルに以下の行を追加し、リモートスプーラを登録します。

```
printer stream tcp nowait root /usr/lib/rpdaemon -i
```

- 1-4. inetd を再起動します。

```
#!/etc/inetd -c
```

2. プリントキューを作成します。

- 2-1. UNIX マシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

- 2-2. プリントキューを設定します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前登録する場合

```
#!/usr/lib/lpadmin -ppboxlp -mrmodel -ormpbox  
                  (プリントキュー名)                  (ホスト名)  
  
                  -orplp -ocmrcmodel -osmrsmodel -ob3 -v/dev/null  
                  (論理プリンタ名)
```



参考

- ・「-orp」の後に続く「lp」は、本製品の論理プリンタ名になります。
- ・SJIS漢字テキストデータを印刷する場合は下記のように設定することで、直接SJIS漢字テキストデータを印刷することができます。

```
#!/usr/lib/lpadmin -ppboxsjis -mrmodel -ormpbox  
                  -orpsjis -ocmrcmodel -osmrsmodel -ob3 -v/dev/null  
                  (sjisポート指定)
```

2-3. プリントキューを有効にします。

```
#/usr/lib/accept pboxlp  
#/usr/bin/enable pboxlp
```

2-4. プリントスプーラを起動します。

```
#/usr/lib/lpsched
```

3. 印刷を行います。

3-1. 「lp」コマンドを使用して印刷します。

```
# lp -d pboxlp <印刷ファイル名>
```

4. 印刷要求を取り消します。

4-1. 「cancel」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# cancel pboxlp- <ジョブ番号>
```

5. プリンタの状態を確認します。

5-1. 「lpstat」コマンドを使用して、プリンタの状態を確認することができます。

```
# lpstat -p pboxlp
```



注意

・UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。

setnetlp ツールを使用する



注意

・setnetlp ツールはHP-UX Ver.10.10以降でご使用いただけます。

例) IPアドレス 「192.168.10.100」
 ホスト名 「pbox」
 上記はすでに/etc/hostsに登録されており、
 プリントキュー名 「pboxlp」で登録する場合。

1. rootでログインし、/usr/sbin/setnetlpを実行します。以下のメニューが表示されますので、「1) Add Printer」を選択します。

```
# /usr/sbin/setnetlp

#####
#                MAIN MENU                #
# Network Printer Configuration          #
#####

1) Add Printer
2) Remove Printer

q) Quit

Please enter a selection: 1
```

2. 以下のメニューが表示されますので、「1) LP destination name:」を選択します。

```
Please enter a selection: 1

Configurable Parameters:          Current Settings
-----
0) Done. Make Configuration now!
1) Lp destination name:          [(N/A)]
2) Remote System name:          [(N/A)]
3) Remote Printer name:         [(N/A)]
4) Local Model Script:          [(N/A)]

q) Quit

Select an item for change or select "0":1
```


4. 既に登録されているプリンタの一覧が表示されます。「Please enter a lp destination name:」の後に、設定を行うプリンタ名を入力します。

```
Currently used names:
-----
pbox1lp  pbox3lp
Please enter a lp destination name: pboxlp
```

4. 「2) Remote System name:」を選択します。[Please enter a remote system name/IP address:]の後に、本製品に設定した IP アドレス、または /etc/hosts に登録した本製品のホスト名を入力します。
この例ではホスト名を入力しています。

```
Select an item for change or select "0":2
Please enter a remote system name/IP address: pbox
```

5. 「3) Remote Printer name:」を選択します。「Please enter a remote printer name:」の後に、「lp」を入力します。

```
Select an item for change or select "0":3
Please enter a remote printer name: lp
```

6. 「 4) Local Model Script: 」を選択します。モデルファイルのリストとプロンプトが表示されます。[Please enter a model file:]の後に、使用するモデルファイル名を入力します。本製品では、「ESCP」を選択してください。

```
Select an item for change or select "0":4
Valid Models:
```

```
-----
ESCP          colorpro      hp2228a      hp2934a      laserjet4
HPGL1         deskjet       hp2235a      hp33440a     laserjet4Si
HPGL2         deskjet1200C  hp2276a      hp33447a     laserjet4v
HPGL2.cent   deskjet1600CM hp2300-1100L hp3630a      laserjet5Si
LIPS3         deskjet500    hp2300-840L  hp5000c30    laserjetIIISi
LIPS4         deskjet500C   hp2560       hp5000f100   paintjet
PCL1          deskjet550C   hp2563a      hp7440a      paintjetXL300
PCL2          deskjet850C   hp2564b      hp7475a      postscript
PCL3          deskjet855C   hp2565a      hp7550a      print_mode.sh
PCL4          draftpro     hp2566b      hp7570a      quietjet
PCL4.nloo    dumb          p2567b       hp7595a      rmodel
PCL5          dumbplot     hp256x.cent  hp7596a      rmodel.asx
PCL5.asia    fonts        hp2631g      hpC1208a     ruggedwriter
PCL5.nloo    hp2225a      hp2684a      hpc1200aj    sharedprint
PS.nlio      hp2225b      hp2686a      hpc1208a     thinkjet
colorlaserjet hp2227a      hp2932a      laserjet
```

```
Please enter a model file: ESCP
```

7. すべての設定の完了後、以下のように表示されます。内容変更がなければ「 0) Done. Make configuration now! 」を選択します。

```
Configurable Parameters:          Current Settings
-----
0) Done. Make Configuration now!
1) Lp destination name:          [pboxlp]
2) Remote System name:          [pbox]
3) Remote Printer name:         [lp]
4) Local Mode Script:           [ESCP]

q) Quite

Select an item for change or select 0":0
```

8. 現在、このマシンから印刷が行われていないことを確認し、「y」を入力します。

```
Select an item for change or select "0":0

WARNING: This operation requires lp spooler be shut down.
The spooler will be running again after this operation is done.
If there are jobs currently being printed, those are reprinted in
their entirety after spooler is started again.

OK to continue? (y/n, default-n): y
```

9. プリンタの追加は完了しました。「リターンキー」を押してください。

```
Printer, pboxlp, has been added.
Press the return-key to return to configuration menu...
```

10. 登録内容確認画面へ戻ります。「q」を2回入力し、setnetlpツールを終了させます。

```
Configurable Parameters:          Current Settings
-----
0) Done. Make Configuration now!
1) Lp destination name:           [pboxlp]
2) Remote System name:           [pbox]
3) Remote Printer name:          [lp]
4) Local Model Script:           [PS.nlio]

q) Quit

Select an item for change or select "0": q
```

11. テスト印刷を行い、正常に印刷されることを確認します。

例) 日本語テキストファイルの印刷

日本語テキストファイルを印刷する場合、以下のようなオプションが必要になります。(詳細はHP-UXのマニュアルをご参照ください。)

文字コード	lpオプション
シフトJIS	japanese
日本語EUC	japanese.euc

11-1. シフトJISのテスト印刷を行う場合

テスト印刷を行うコマンド例を下記に示します。

#lp -d pboxlp -ojapanese 半角スペースを空け、テキストの場所を指定します。

11-2. 日本語EUCのテスト印刷を行う場合

テスト印刷を行うコマンド例を下記に示します。

#lp -d pboxlp -ojapanese.euc 半角スペースを空け、テキストの場所を指定します。



・プリンタを削除する。

登録したプリンタを削除するには下記のコマンドを入力します。

```
#/usr/sbin/setnetlp -x <destination>
```

<destination>は登録したプリンタ名です。

AIX 4.x.x環境で使用する

IBM社のAIXから印刷するための設定を行います。

OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。

1. プリントキューを作成します。

1-1. UNIXマシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. プリントサーバを追加します。

例)「pbox」という名前のホスト名を追加する場合

```
# ruser -a -p pbox
```

1-3. リモートプリンタデーモンを起動します。

```
# startsrc -s lpd
```

```
# mkitab 'lpd:2:once:startsrc -s lpd'
```

1-4. smitコマンドを利用してプリントキューの追加を行います。

1-4-1. smitコマンドを起動し、「印刷待ち行列の追加」の項目へ移行します。

```
# smit mkrque
```

1-4-2. 「接続タイプ」から「remote」(リモートホストに接続されたプリンタ)を選択します。

1-4-3. 「リモート印刷のタイプ」から「標準処理」を選択します。

1-4-4. 「標準リモート印刷待ち行列の追加」で以下の項目を設定します。

(下記以外の設定はご利用環境に応じて変更してください。)

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

追加する待ち行列	[pboxlp]
リモートサーバのホスト名	[pbox]
リモートサーバ上の待ち行列名	[lp]
リモートサーバ上の印刷スプーラのタイプ	[BSD]
リモートサーバ上のプリンタ名記述	[任意のコメント]



参考

- ・リモートサーバ上の待ち行列名の「lp」は、本製品の論理プリンタ名になります。
- ・SJIS漢字テキストデータを印刷する場合は、「リモートサーバ上の待ち行列名」に[sjis]を入力することで、直接SJIS漢字テキストデータを印刷することができます。

2. 印刷を行います。

2-1. 「lp」コマンドを使用して印刷します。

```
# lp -d pboxlp <印刷ファイル名>
```

3. 印刷要求を取り消します。

3-1. 「cancel」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# cancel pboxlp- <ジョブ番号>
```

4. プリンタの状態を確認します。

4-1. 「lpstat」コマンドを使用して、プリンタの状態を確認することができます。

```
# lpstat -p pboxlp
```



注意

・UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。

BSD系UNIXの環境で使用する

BSD系UNIXから印刷するための設定を行います。

OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。

1. プリントキューを作成します。

1-1. UNIXマシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. /etc/printcapファイルに本製品を登録します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

```
pboxlp:¥                .....
        :lp=:rm=pbox:rp=lp:¥    .....
        :sd=/usr/spool/pboxlp:¥  .....
        :lf=/usr/spool/pboxlp/pboxlp_errs:  .....
```

< 各変数の意味 >

プリンタ名を記述します。

lp : プリンタを接続するためのデバイスファイル名。
ネットワークの場合は指定する必要はありません。

rm : リモートプリンタのホスト名。
/etc/hostsファイルに登録したホスト名を入力します。

rp : リモートプリンタのプリンタ名。
本製品の論理プリンタ名で、lp、sjis、eucのいずれかを選択します。

sd : スプールディレクトリ名。絶対パスで指定します。

lf : エラーログファイル名。絶対パスで指定します。

1-3. /etc/printcapファイルに登録したスプールディレクトリとエラーログファイルを作成します。

例) スプールディレクトリ「pboxlp」及び、エラーログファイル「pboxlp_errs」を作成する場合

```
# mkdir /usr/spool/pboxlp          スプールディレクトリ作成
# touch /usr/spool/pboxlp/pboxlp_errs  エラーログファイル作成
# chown -R daemon /usr/spool/pboxlp   オーナーをdaemonに変更
# chgrp -R daemon /usr/spool/pboxlp   グループをdaemonに変更
```

1-4. lpd (プリンタデーモン) が起動しているかを調べます。

```
# ps aux | grep lpd
```

lpdが動作していない場合、スーパーユーザのアカウントで下記のコマンドを実行してください。

```
# /usr/lib/lpd&
```

1-5. 作成したプリントキューを有効にします。

```
#lpc restart pboxlp
```

2. 印刷を行います。

2-1. 「lpr」コマンドを使用して印刷します。

```
# lpr -P pboxlp <印刷ファイル名>
```

3. 印刷要求を取り消します。

3-1. 「lprm」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# lprm -Ppboxlp <ジョブ番号>
```

4. プリンタの状態を確認します。

4-1. 「lpq」コマンドを使用して、プリンタの状態を確認することができます。



注意

- ・UNIXの仕様により、正常に表示できない場合があります。
- ・lpqのショートフォーマットはUNIX互換フォーマットですが、ロングフォーマットはプリンタの状態を表示する本製品独自のフォーマットとなっています。

例) ショートフォーマットの場合

```
# lpq -P pboxlp
```

例) ロングフォーマットの場合

```
# lpq -l -P pboxlp
```


Linux環境で使用する

Linux から印刷するための設定を行います。

OSのバージョンによっては、コマンドの絶対パスや設定方法が異なることがあります。ご使用のワークステーションのマニュアルをご参照ください。



参考

・Red Hat Linux および Turbo Linux のプリントキュー作成ツールにつきましては本章中「Red Hat Linux のプリントキュー作成ツールを使用する」「Turbo Linux のプリントキュー作成ツールを使用する」をご参照ください。

1. プリントキューを作成します。

1-1. Linux マシンに「root」でログインします。

```
# login root
```

1-2. /etc/printcap ファイルに本製品を登録します。

例) プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合

```
pboxlp:¥
        :lp=:rm=pbox:rp=lp:¥
        :sd=/usr/spool/pboxlp:¥
        :lf=/usr/spool/pboxlp/pboxlp_errs:
        .....
```

< 各変数の意味 >

プリンタ名を記述します。

lp : プリンタを接続するためのデバイスファイル名。
ネットワークの場合は指定する必要はありません。

rm : リモートプリンタのホスト名。
/etc/hosts ファイルに登録したホスト名を入力します。

rp : リモートプリンタのプリンタ名。
本製品の論理プリンタ名で、lp、sjis、euc のいずれかを選択します。

sd : スプールディレクトリ名。絶対パスで指定します。

lf : エラーログファイル名。絶対パスで指定します。

1-3. /etc/printcap ファイルに登録したスプールディレクトリとエラーログファイルを作成します。

例) スプールディレクトリ「pboxlp」及び、エラーログファイル「pboxlp_errs」を作成する場合

```
# mkdir /usr/spool/pboxlp          スプールディレクトリ作成
# touch /usr/spool/pboxlp/pboxlp_errs  エラーログファイル作成
# chown -R daemon /usr/spool/pboxlp   オーナーを daemon に変更
# chgrp -R daemon /usr/spool/pboxlp   グループを daemon に変更
```

1-4. lpd (プリンタデーモン) が起動しているかを調べます。

```
# ps aux | grep lpd
```

lpdが動作していない場合、スーパーユーザのアカウントで下記のコマンドを実行してください。

```
# /usr/lib/lpd&
```

1-5. 作成したプリントキューを有効にします。

```
#lpc restart pboxlp
```

2. 印刷を行います。

2-1. 「lpr」コマンドを使用して印刷します。

```
# lpr -P pboxlp <印刷ファイル名>
```

3. 印刷要求を取り消します。

3-1. 「lprm」コマンドを使用して、印刷ジョブの要求を取り消すことができます。

```
# lprm -Ppboxlp <ジョブ番号>
```

4. プリンタの状態を確認します。

4-1. 「lpq」コマンドを使用して、プリンタの状態を確認することができます。

- Linuxの仕様により、正常に表示できない場合があります。
- lpqのショートフォーマットはUNIX互換フォーマットですが、ロングフォーマットはプリンタの状態を表示する本製品独自のフォーマットとなっています。

例) ショートフォーマットの場合

```
# lpq -P pboxlp
```

例) ロングフォーマットの場合

```
# lpq -l -P pboxlp
```

Red Hat Linuxのプリントキュー作成ツールを使用する。



・ここではRed Hat Linux7.1のプリントキュー作成ツールを使ったプリンタの登録方法について説明します。ご使用のRed Hat Linuxのバージョンによっては操作方法が異なる場合がありますのでご注意ください。

例) etc/hosts ファイルに IP アドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」で登録しており、プリントキュー名を「pboxlp」という名前で登録する場合。

1. 「メインメニュー」-「プログラム」-「システム」-「プリンタ設定」を選択します。
2. [printconf.gui]の画面で[新規]ボタンをクリックします。
3. [名前とエイリアス]をクリックし、[プリンタ名]に「pboxlp」を入力し、「追加」をクリックします。
4. [エイリアス]にも「pboxlp」を入力します。「OK」をクリックします。
5. [プリンタタイプ]をクリックし、LPDを選択します。サーバには「pbox」を入力し、プリンタには「lp」を入力します。
6. [プリンタドライバ]と[プリンタオプション]は、ご使用の環境に合わせたものを選択してください。
7. すべての設定が終了した後、[プリンタの編集]画面の「OK」をクリックします。
8. [printconf.gui]画面に、作成したプリンタが表示・選択されていることを確認します。「適用」ボタンをクリックします。
9. [lpdの再起動は成功しました]というダイアログメッセージを確認し、「OK」をクリックします。
10. [printconf.gui]画面の「テスト」ボタンをクリックし、テストページが出力されれば設定終了です。

Turbo Linux のプリントキュー作成ツールを使用する。



・ここではTurbo Linux6.0のプリントキュー作成ツールを使ったプリンタの登録方法について説明します。ご使用のTurbo Linuxのバージョンによっては操作方法が異なる場合がありますのでご注意ください。

例) etc/hosts ファイルに IP アドレスが「192.168.10.100」、ホスト名が「pbox」で登録しており、プリントキュー名を「pboxlp」という名前登録する場合。

1. 「メインメニュー」 - 「Turbo Linux ツール」 - 「ターボセントロ」を選択します。
2. [Turbo Centro-GT]内の「Turboprintcfg」をクリックします。
3. [プリンタの設定]画面の「追加」をクリックします。
 - 3-1. [プリンタの追加]項目では、「リモートLPDキュー」を選択します。
 - 3-2. [新しいキュー名]項目では、「pboxlp」を入力します。
 - 3-3. [プリンタ設定の変更]項目では[LPD設定]内の「変更」をクリックします。
 - 3-3-1. [ホスト名]には、「pbox」を入力します。
 - 3-3-2. [キュー名]には、「lp」を入力します。
 - 3-4. [プリンタタイプ]項目では「変更」をクリックし、ご使用の環境に合ったプリンタドライバを選択してください。
 - 3-5. [用紙サイズ][色深度]設定は、ご使用の環境に合ったものを選択してください。
4. すべての設定が終了した後、[プリンタの設定]画面の「OK」をクリックします。
5. 「保存及び終了」をクリックすると設定は完了です。

FTPを使用した印刷

TCP/IPのFTPプロトコルを使用して印刷する方法を説明します。「ftp」コマンドの詳細は、ご使用のワークステーションのマニュアルをご覧ください。



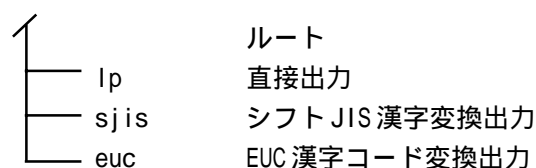
・FTPプロトコルについて

FTP (File Transfer Protocol) プロトコルは、TCP/IPでファイルを転送するためのプロトコルです。本製品の論理ディレクトリに対して、印刷データを転送することで印刷を行います。

・論理ディレクトリについて

本製品には、3つの論理ディレクトリがあり、「cd」コマンドにて移動する必要があります。プリンタドライバを使ったファイルを印刷する場合は「lp」のディレクトリへ、シフトJIS漢字コードのテキストファイルへ変換し印刷する場合は「sjis」のディレクトリへ、EUC漢字コードのテキストファイルへ変換し印刷する場合は「euc」のディレクトリへ移動した後、印刷ファイルを転送してください。

<本製品の論理ディレクトリ構成>



印刷する

1. 本製品へログインします。



・「ftp」コマンドで印刷する場合、「User」と「Password」は、どのような入力をして印刷可能です。ただし、ユーザ名が「root」の場合は、環境設定で設定した「パスワード」が必要となります。

例) ホスト名「pbox」のプリンタにログインする場合
(または、IPアドレス「192.168.10.100」のプリンタにログインする場合)

```
#ftp pbox (または、ftp 192.168.10.100 )
Connected to pbox
220 PC-PB20501 Ver 1.0.0 FTP Server.
User(silex:root): root
331 Password required.
Password:
230 User Logged in.
ftp>
```

2. 「cd」コマンドで、転送先ディレクトリへ移動します。



・本製品は、転送先ディレクトリが階層構造となっています。また、ルートディレクトリへの印刷データの出力は「lp」への出力として処理されます。

例) lpディレクトリへ移動し、現在のディレクトリを確認する場合

```
ftp>cd /lp
250 Command Ok.
ftp>pwd
257 "/lp" is current directory.
ftp>
```

3. 転送モードを変更します。



・転送モードには、LFコードをCR+LFコードに変換する「ASCIIモード」とファイルの内容をそのまま出力する「BINARYモード」の2種類があります。プリンタドライバで変換されたバイナリファイルを転送する場合は、転送モードを「BINARYモード」に設定します。(指定しない場合は「ASCIIモード」で出力されます。)

例) 転送モードをBINARYモードに変更し、現在のモードを確認する場合

```
ftp>type binary
200 Type set to I.
ftp>type
Using binary mode to transfer files.
ftp>
```

4. 「put」コマンドを用いて、印刷データを本製品へファイル転送します。

「put」コマンドによるファイル転送には、2種類の形式があります。

例) 印刷データ「test.prn」を転送する場合

```
ftp>put test.prn
```

印刷データをディレクトリ指定「/users/test/test.prn」で指定して転送する場合

```
ftp>put /users/test/test.prn /lp
```



・印刷データをディレクトリ指定で印刷する場合は、転送先論理ディレクトリを指定します。cdコマンドでディレクトリを移動する必要はありません。

5. 「quit」コマンドを使い、本製品からログアウトします。

```
ftp>quit
```

状態を確認する



・「quote」コマンドの「stat」を使って、IPアドレス、ログインユーザ名、転送モードの3つの状態を確認することができます。

また、「stat」の後にディレクトリ（lp,sjis,euc）を指定すると、プリンタの状態を確認することができます。

例)・イーサネットボードの状態表示

```
ftp>quote stat
211-FTP server status:
Connected to: 192,168,10,100
User logged in: guest
Transfer type: BINARY
Data connection:Closed.
211 End of status.
ftp>
```

・プリンタ（ディレクトリ名：lp）の状態表示

```
ftp>quote stat /lp
211-FTP directory status:
Ready
211 End of status.
ftp>
```


第6章 設定に関する機能	6-3
AdminManager で設定する	6-3
AdminManager を起動する	6-4
AdminManager で本製品を検索する	6-6
AdminManager の機能	6-7
AdminManager メニュー構成	6-7
プリンタステータス	6-8
システムステータス	6-8
設定項目一覧表示	6-9
AdminManager で本製品の設定を行う	6-10
プリントサーバの設定	6-10
プロトコルと設定項目	6-11
General の設定	6-12
TCP/IP の設定	6-13
NetBEUI/NetBIOS の設定	6-15
SNMP の設定	6-16
POP の設定	6-17
SMTP の設定	6-18
PrinterPort の設定	6-19
Web ブラウザで設定する	6-20
本製品の Web ページを表示する	6-21
AdminManager から Web ページを表示する	6-21
Web ブラウザから Web ページを表示する	6-21
本製品の Web ページから設定する	6-22
本製品 Web ページメニュー構成	6-22

TELNET で設定する	6-23
Web ブラウザ / TELNET 設定項目	6-24
プリントサーバ機能	6-24
General	6-24
TCP/IP	6-24
NetBEUI/NetBIOS	6-26
SNMP	6-27
PRINTER	6-28
E-Mail 受信 (POP)	6-29
E-Mail 送信 (SMTP)	6-30
その他の設定 (Another)	6-31

第6章 設定に関する機能

本章ではAdminManager、Webブラウザ、TELNETを利用して、詳細な設定を行う方法について説明します。

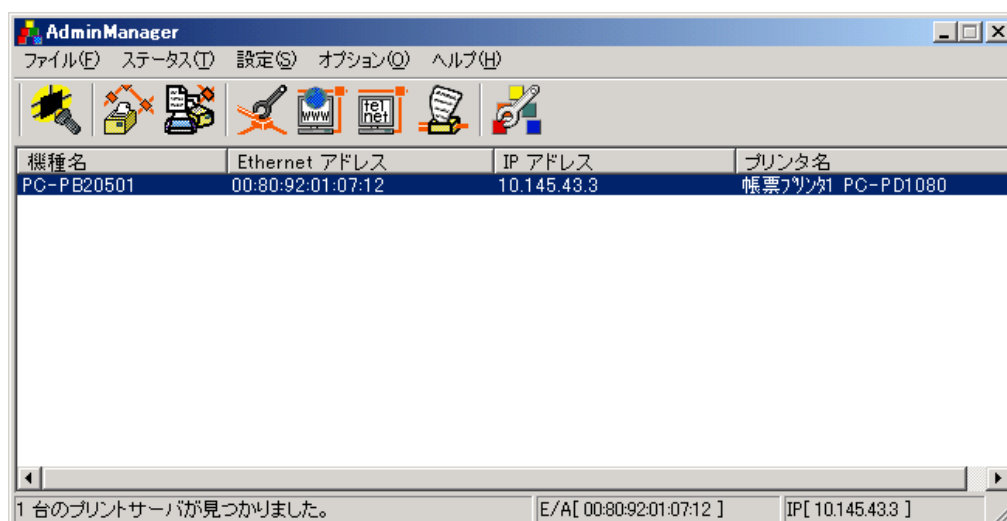
AdminManagerで設定する

総合ユーティリティ「AdminManager」は、本製品の詳細な設定及び設定内容の変更を行うことができます。また、リモートでの再起動や自己診断印刷、プリンタステータスマニタなどの便利な機能をご利用いただくことができます。



注意

- AdminManager をご利用になる場合、ご使用のパソコンにTCP/IP プロトコルがインストールされている必要があります。
- ご利用の環境および、ご使用の機種によっては、「AdminManager」に表示される内容が異なります。
- Windows Server 2003、Windows XP/Vista環境でTCP/IP プロトコルをご利用になる場合は、「ローカルエリア接続のプロパティ」 - 「詳細設定」 - 「インターネット接続ファイアウォール」のチェックを外してください。



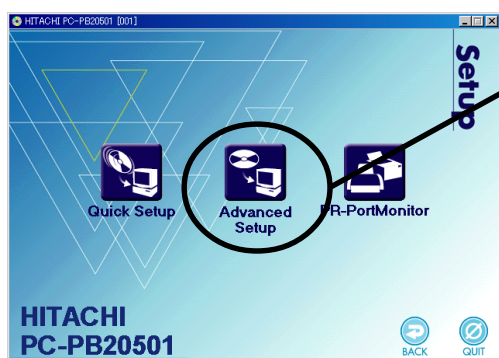
AdminManagerを起動する

1. 本製品に付属してしている CD-ROM からセットアップ ユティリティを起動してください。



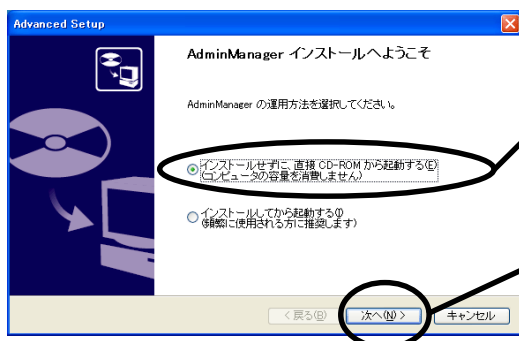
「セットアップ」をクリックしてください。

2. 選択画面が表示されます。



「Advanced Setup」をクリックしてください。

3. インストール確認画面が表示されます。



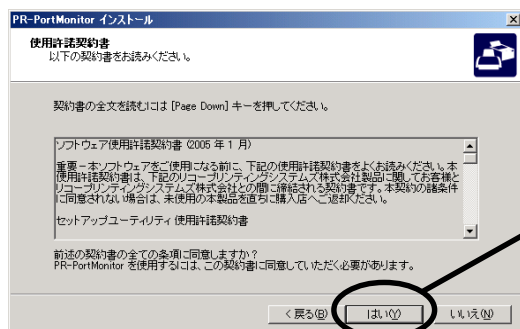
「インストールせずに、直接 CD-ROM から起動する」を選択してください。

次へ をクリックしてください。



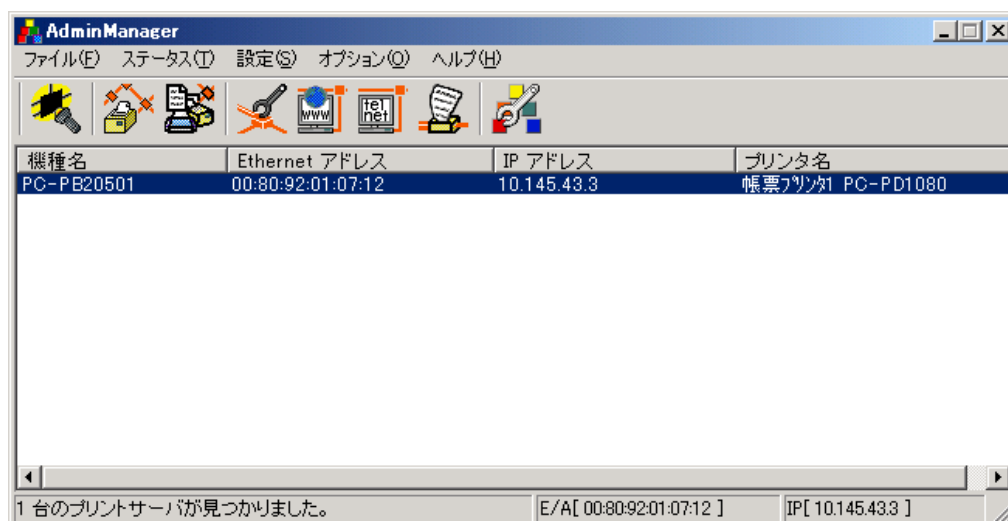
- ・ AdminManager を頻繁に使用される方は、「インストールしてから起動する」を選択して、ご利用のパソコンにインストールすることをお奨めします。

4. ソフトウェア使用許諾契約書を確認します。



はい をクリックしてください。

5. AdminManager が起動します。



AdminManagerで本製品を検索する

本製品の設定を行う前に、AdminManagerで本製品が検索されることをご確認ください。本製品が検索されない場合は、「設定」-「IPアドレス設定」でIPアドレスの設定を行ってください。



参考

- ・ご利用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていて、ファイアウォール機能が有効になっていると、本製品を検索できないことがあります。そのようなときは、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。

IPアドレス設定

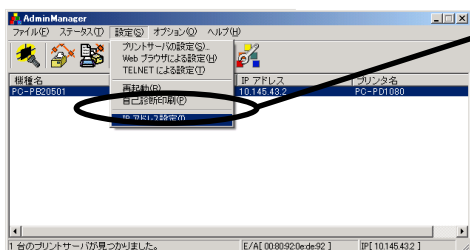
IPアドレスの設定を手動で行います。



参考

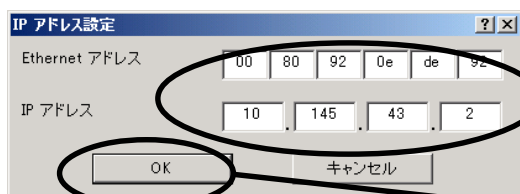
- ・本設定を行う前に、本製品のEthernetアドレスをご確認ください。Ethernetアドレスは、自己診断印刷結果または本製品基板裏面にシール表示で記載されています。
(例 : 00:80:92:08:b0:dd)

1.



AdminManagerのメニューバーから「設定」-「IPアドレス設定」を選択してIPアドレス設定ツールを起動してください。

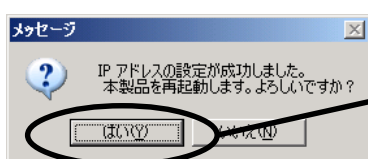
2.



設定する製品のEthernetアドレスとIPアドレスを入力してください。

OK をクリックしてください。

3.



設定したIPアドレスを有効にするために本製品をリセットします。「はい」をクリックしてください。



注意

- ・再起動処理ができなかった場合は、プリンタの電源をOFF/ONしてください。

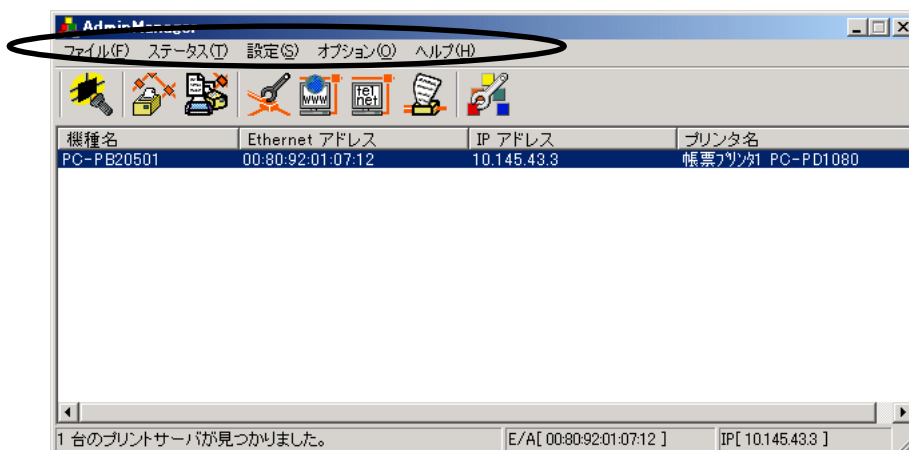
AdminManagerの機能

AdminManager メニュー構成



・ご利用の環境によっては、「AdminManager」に表示される内容が異なります。

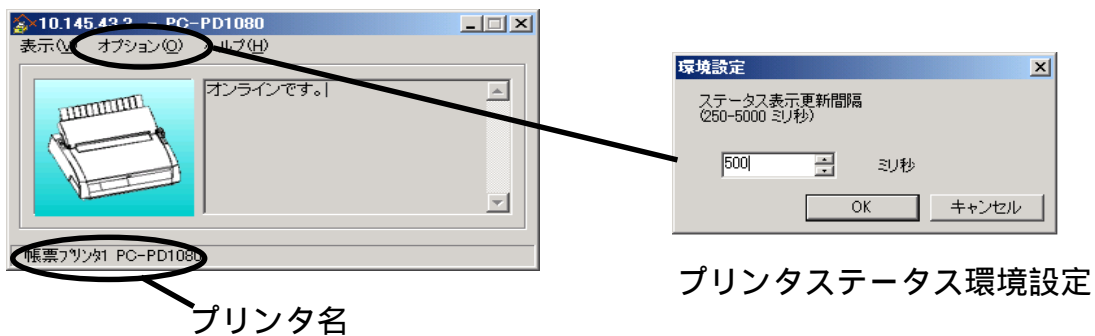
注意



メニュー	項目	説明
ファイル	検索	ネットワーク上の本製品を検索
	終了	AdminManagerを終了
ステータス	プリンタステータス	プリンタステータスマニタを表示
	システムステータス	システムステータスマニタを表示
	設定項目一覧表示	本製品の内部設定情報を表示
設定	プリントサーバの設定	本製品の各種設定
	Webブラウザによる設定	本製品のホームページを起動
	TELNETによる設定	TELNETを起動
	再起動	本製品の再起動
	自己診断印刷	本製品の自己診断印刷を実行
	IPアドレス設定	IPアドレスの手動設定
オプション	環境設定	AdminManagerの環境設定
ヘルプ	バージョン表示	AdminManagerのバージョンを表示

プリンタステータス

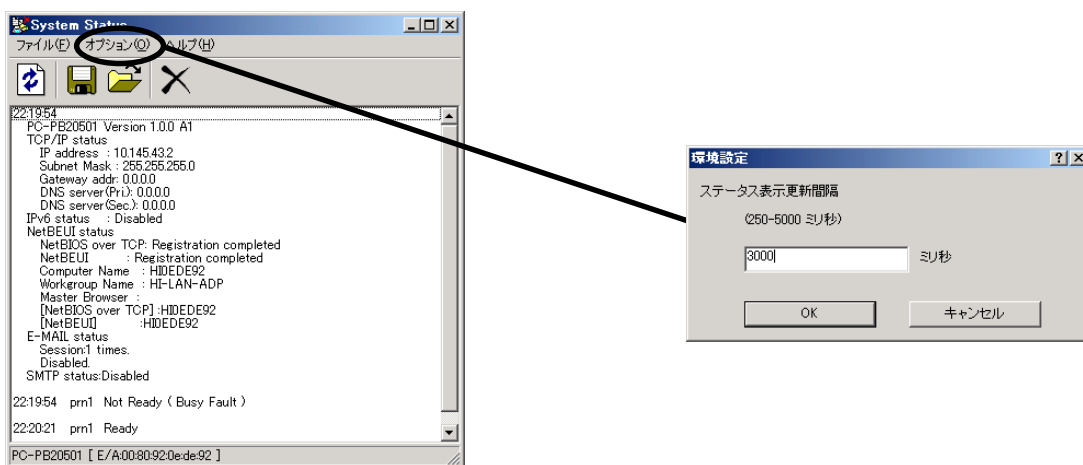
AdminManager 画面にて選択した本製品が接続しているプリンタの状態が、リアルタイムに表示されます。また、環境設定画面にて、プリンタステータスの更新時間を指定することができます。



- ・プリンタの機種によっては、プリンタの状態を正常に取得できない場合があります。
- ・プリンタ名は本章の「General」-「プリンタ名」で設定した内容を表示します。

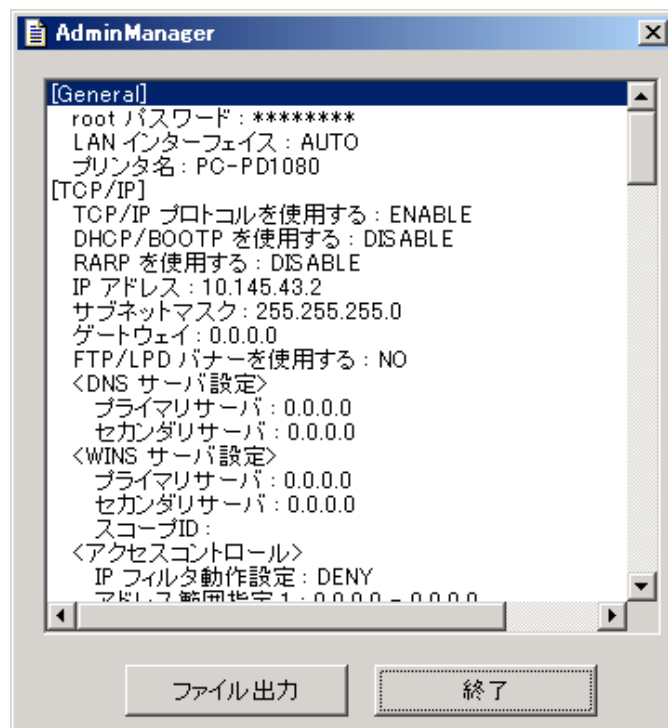
システムステータス

AdminManager 画面にて選択した本製品の動作状態がリアルタイムに表示されます。本製品の動作状態をファイルに保存(ログの登録)し、参照することができます。また、環境設定画面にて、システムステータスの更新時間を指定することができます。



設定項目一覧表示

本製品に設定した各項目の設定値が一覧で表示されます。設定内容をファイル出力し、管理することができます。



AdminManagerで本製品の設定を行う

プリントサーバの設定

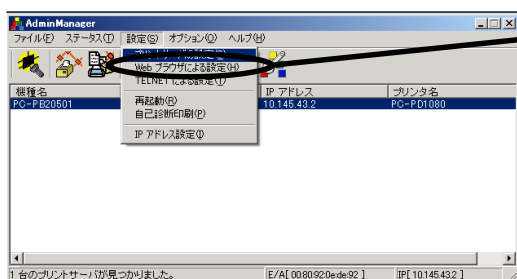
AdminManagerの「設定」-「プリントサーバの設定」で本製品の詳細設定および設定内容の変更を行います。



注意

- AdminManagerの「設定」-「プリントサーバの設定」には、拡張プリントマネージャを使用する場合に設定が必要になる「Another」に関する設定項目を選択することができません。「Another」の設定を行う場合は、「設定」-「Webブラウザによる設定」または「設定」-「TELNETによる設定」を選択し、WebブラウザまたはTELNETから設定してください。

1.

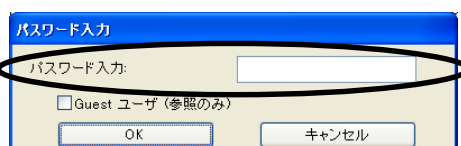


設定を行う本製品を指定し、AdminManagerのメニューバーから「設定」-「プリントサーバの設定」を選択してください。



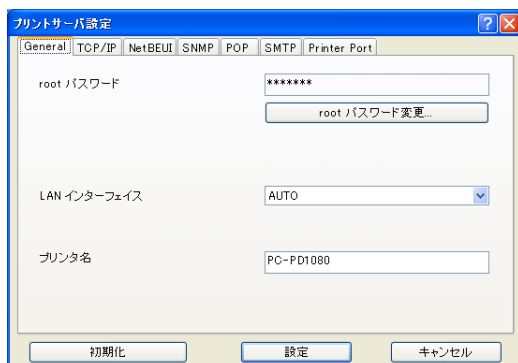
参考

- 本製品にパスワードが設定されている場合は、「パスワード入力」画面が表示されます。
- 「Guest ユーザ」チェックボックスをチェックした場合は設定情報を確認することはできませんが、設定内容の変更は行えません。



パスワード入力画面

2.



左の画面が表示されます。設定を行いたいタブを選択し、設定を行ってください。



参考

- タブが全て表示されていない場合は、スクロールボタンで表示させてください。

プロトコルと設定項目

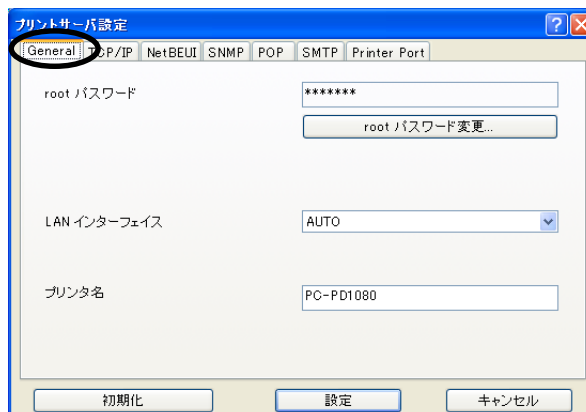
本製品はセキュア(SSL)通信印刷機能、IPフィルタ機能、セキュリティレベル設定機能をサポートしたことにより、従来製品でサポートしていたプロトコルおよび設定項目を一部削除しています。これらプロトコルや設定項目を使用するために、本製品ではファームウェアの書き換えを容易に行うことができるよう、アップロードプログラムおよびSSL対応版ファームウェア、SSL非対応版ファームウェアを製品添付CD-ROMに収録しました。本プログラムの使用方法等の詳細については、「第2章 セットアップユーティリティ」を参照してください。

下表にSSL対応版ファームウェアとSSL非対応版ファームウェアの各種プロトコルおよび設定項目のサポート状況を示します。

対応プロトコル一覧		SSL対応版	SSL非対応版	備考
対応 プロ ト コ ル	LPR	○	○	
	RAW	○	○	
	IPP	○	○	
	HTTP	○	○	
	HTTPS	○	×	
	TELNET	○	○	
	FTP	○	○	
	SNMP	○	○	
	NetBEUI	×	○	
	SMTP	×	○	
	POP	×	○	
	DNS	×	○	
	RARP	○	○	
	DHCP/BOOTP	○	○	
Setup Protocol	○	○		

対応設定項目一覧		SSL対応版	SSL非対応版	備考	
設定 項 目	TCP-IP設定	DNS Server	×	○	
		WINS	×	○	
		IPv6	×	○	
		NetworkPnP	×	○	
		Security Level	○	×	
	NetBEUI	×	○	SSL対応版には本項目がありません。	
	E-Mail(POP)	×	○		
	E-Mail(SMTP)	×	○		
	Secure Print	Secure Print	○	×	
		SSL Mode	○	×	
SSL証明書作成	証明書情報設定	○	×	本設定はWebブラウザからのみ設定できます。	
	有効期限設定	○	×		

General の設定



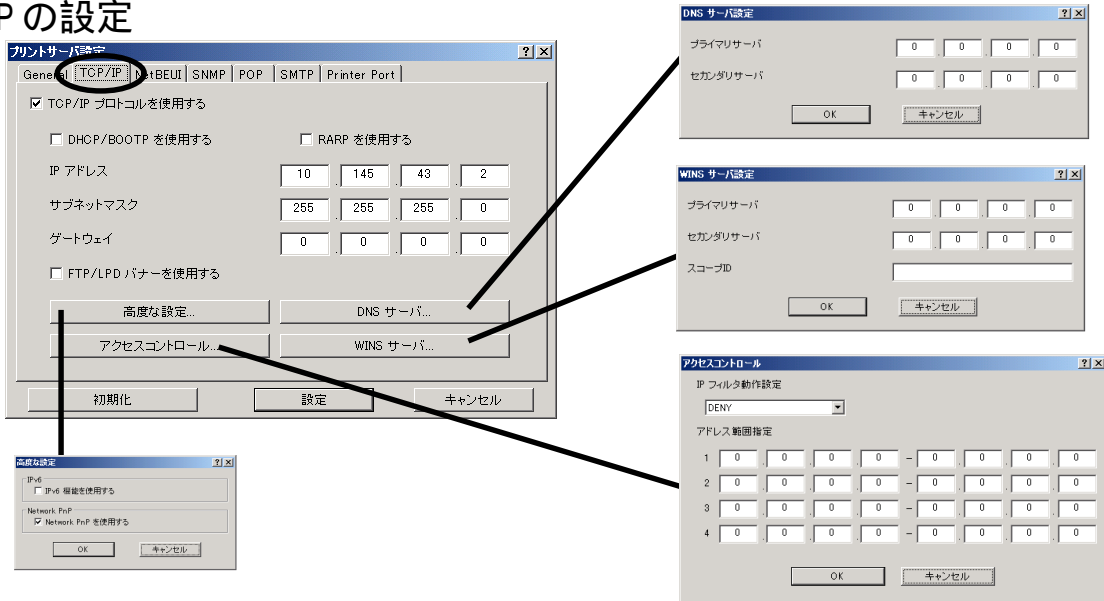
タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
General	rootパスワード	本製品の管理パスワードをASCII文字列（7文字以内）で設定します。このパスワードはAdminManager、TELNET、Webで設定を行う際の認証パスワードとして使用します。本項目は設定の有無に関わらず、"*"を表示します。	なし
	rootパスワード変更	パスワードの変更を行います。	-
	LANインタフェース	物理ネットワークの種別を設定します。通常はAUTOで使用してください。本製品の電源投入時に本製品が接続されるHUBのLINKランプが点灯しない場合は、この設定を接続HUBのネットワーク種別に変更してください。設定項目はAUTO/10HALF/10FULL/100HALF/100FULLです。	AUTO
	プリンタ名	プリンタ名を設定します。（半角最大31文字、全角最大15文字）	なし



注意

- ・初期化ボタンをクリックすると、本製品の設定値を工場出荷値に戻します。

TCP/IP の設定



タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
TCP/IP	TCP/IPプロトコルを使用する	TCP/IP プロトコルを有効 (ENABLE) にします。通常は有効(ENABLE)にしてください。	ENABLE
	DHCP/BOOTPを使用する	DHCP/BOOTP プロトコルを有効 (ENABLE) にします。DHCP と BOOTP を自動認識し、先に応答のあったIPアドレスを自分のアドレスとして採用します。	DISABLE
	RARPを使用する	RARP プロトコルを有効 (ENABLE) にします。	DISABLE
	IPアドレス	本製品のIP アドレスを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
	サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」は無効になり、IP アドレスに応じたサブネットマスクが自動的に使用されます。	0.0.0.0
	ゲートウェイ	本製品のデフォルトゲートウェイを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」は無効になります。	0.0.0.0
	FTP/LPDバナーを使用する	FTPまたはLPD印刷時のバナーページ印刷を有効 (ENABLE) にします。	DISABLE
	DNSサーバ	プライマリサーバ	DNSサーバ(プライマリ)アドレスを設定します。POP/SMTPサーバ名をIPアドレスで直接設定する場合は、設定する必要はありません。10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。本設定により、POP/SMTPサーバ名とIPアドレスを対応させることが出来ます。
セカンダリサーバ		DNSサーバ(セカンダリ)アドレスを設定します。	0.0.0.0



注意

・「TCP/IP プロトコルを使用する」、「DNS サーバ」は、SSL 非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアでは表示しません。

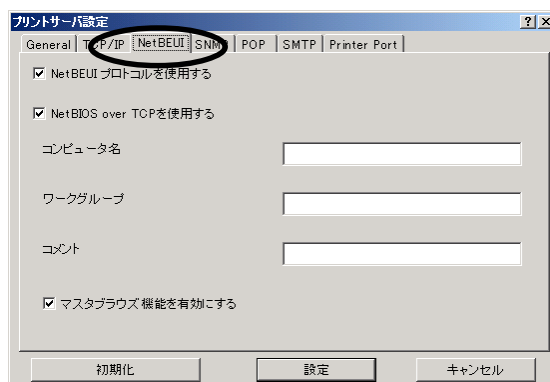
タブ	項目		設定内容	工場出荷設定
TCP/IP	WINSサーバ	プライマリサーバ	WINSサーバ(プライマリ)アドレスを設定します。WINSサーバはホスト名をIPアドレスに割り当てます。本設定により、TCP/IP印刷の際にIPアドレスを使用せず、NetBIOSで設定したホスト名で印刷を行うことができます。設定値は、10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
		セカンダリサーバ	WINSサーバ(セカンダリ)アドレスを設定します。	0.0.0.0
		スコープID	スコープIDは登録されたホスト名を認識するコンピュータのグループを定義します。	なし
	高度な設定	IPv6機能を使用する	IPv6使用有無を指定します。	DISABLE
		NetworkPnPを使用する	UPnP機能の使用有無を指定します。	ENABLE
	アクセスコントロール	IPフィルタ動作設定	IPフィルタの動作を設定します。設定には「ALLOW」と「DENY」があり、「ALLOW」にすると設定したIPアドレス範囲からのみデータを受けとります。「DENY」にすると設定したIPアドレス範囲からのデータを受けとりません。	DENY
		アドレス範囲指定	IPフィルタの範囲を設定します。フィルタしたいIPアドレスの範囲は4組まで設定できます。設定が不要な場合はアドレス範囲を「0.0.0.0」から「0.0.0.0」にしてください。	0.0.0.0



注意

・「WINSサーバ」、「IPv6機能を使用する」、「NetworkPnP機能を使用する」は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアでは表示しません。

NetBEUI/NetBIOS の設定

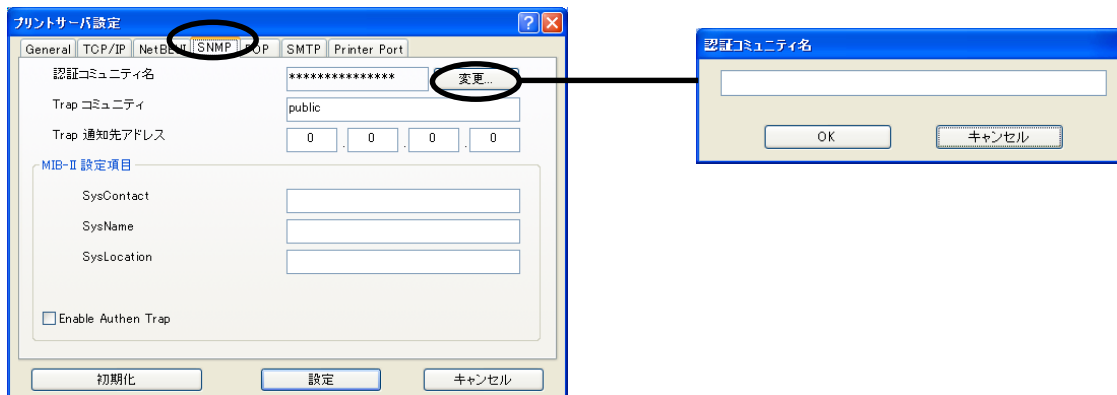


タブ	項目	設定内容	工場出荷設定
NetBEUI/ NetBIOS	NetBEUIプロトコルを使用する	NetBEUI プロトコルを有効 (ENABLE) にします。	ENABLE
	NetBIOS over TCPを使用する	NetBIOS over TCPプロトコルを有効 (ENABLE) にします。通常、NetBIOSによるサービスはNetBEUIプロトコルを使用します。本設定を有効 (ENABLE) にすると、プロトコルをNetBEUIからTCP/IPに変更します。	ENABLE
	コンピュータ名	Windowsのエクスプローラに表示されるコンピュータ名を設定します。	Hixxxxxx (Ethernetアドレス下6桁)
	ワークグループ	本製品が所属するワークグループを設定します。ネットワークに無い、新しいワークグループ名はワークグループとして認識されません。	HI-LAN-ADP
	コメント	本製品のコメント (説明) を設定します。ここで設定した情報が、Windowsのエクスプローラにて本製品のコメント (説明) として表示されます。	HITACHI PC-PB20501
	マスタブラウザ機能を有効にする	マスタブラウザ機能を有効 (ENABLE) にします。本機能を有効 (ENABLE) にすると、同一ワークグループ/同一ドメイン内の各マシン名等を提供します。	ENABLE



- ・本設定は、SSL 非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアでは表示しません。

SNMP の設定



タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
SNMP	認証コミュニティ名	SNMP の認証コミュニティ名を 設定します。このコミュニティ名は SNMP Set Request を受け付けるときに認証されます。本項目は設定の有無に関わらず、"*"を表示します。	public	
	Trapコミュニティ	SNMP のトラップコミュニティを 設定します。このコミュニティ名は本製品がトラップを発行するときに使用されます。	public	
	Trap通知先アドレス	SNMP トラップの送信先 IP アドレスを設定します。設定値は、10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」を設定するとこの項目は無効になり、いかなる場合でもトラップは発行されなくなります。	0.0.0.0	
	MIB- 設定 項目	SysContact	SysContact を設定します。通常は管理者のメールアドレスを設定します。	なし
		SysName	SysName を設定します。通常は本製品のホスト名またはドメイン名を設定します。	なし
		SysLocation	SysLocation を 設定します。通常は本製品の接続されている(設置されている)場所を設定します。	なし
		Enable Authen Trap	EnableAuthenTrapを有効 (ENABLE) にします。この設定を有効 (ENABLE) にすると、SNMP でコミュニティ違反が発生した時、SNMP トラップが「Trap 通知先アドレス」で設定した IP アドレスに向けて発信されます。	DISABLE

POPの設定



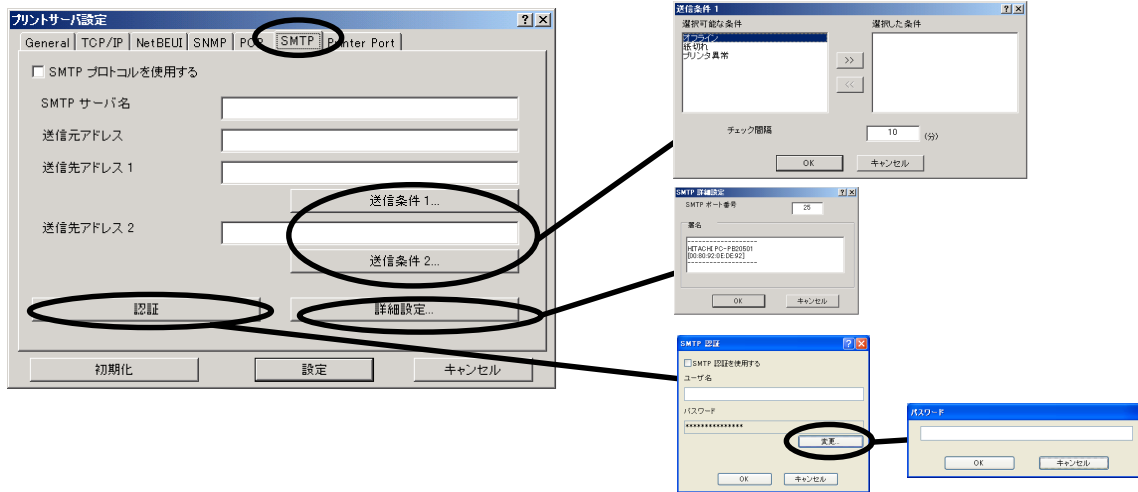
タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
POP	POPプロトコルを使用する	各ユーザのメール受信機能を有効(ENABLE)にします。	DISABLE	
	ユーザ設定 (1~4)	ユーザー設定を使用する		ENABLE
		POPサーバ名	メールサーバのホスト名(またはIPアドレス)を設定します。ドメイン名を使用する場合はDNSサーバの設定が必要です。	なし
		POPユーザ名	メールアカウントのログイン名(ユーザ名)を設定します。	なし
		POPパスワード	メールサーバに接続する際に使用するパスワードを設定します。本項目は設定の有無に関わらず、"*"を表示します。	なし
		POPポート番号	POPポート番号を設定します。通常はデフォルト値(110)で使用してください。	110
	詳細設定	APOPを使用する	APOPを有効(ENABLE)にします。APOPを利用するには、メールサーバがAPOPに対応してる必要があります。	DISABLE
		受信したメールを削除する	本製品が受信・印刷したメールをメールサーバ上から削除するかを設定します。印刷対象でない添付ファイルのあるメールは、この設定を有効(ENABLE)にしてもメールは削除されません。	DISABLE
		開封通知を使用する	開封通知が指定されたメールに対して返信を行うかを設定します。開封通知メールは、SMTP設定のサーバ情報に対して送信処理を行います。	DISABLE
		メール受信制限	指定したサイズ以上のメールを、処理対象から除外します。処理対象から除外されたメールは、「受信したメールをサーバから削除」の項目をチェックしている場合でも削除されません。この項目に0を設定した場合は、サイズによる制限は行わず、全てのメールを受信します。	0
		フィルタ設定	特定のメールのみ印刷するように設定します。ヌル(空文字列)の場合は、全てのメールが印刷の対象になります。タイトル条件(S:文字列)、宛先条件(T:文字列)、同報宛先条件(C:文字列)、送信元条件(F:文字列)の4種類のセンテンスをOR条件()または、AND条件(&)で接続した文字列で設定します。	なし
		着信チェック間隔(分)	メールサーバに着信を問い合わせる間隔を分単位で設定します。	15
	ローカルタイムゾーン	タイムゾーンを設定します。日本での使用は"+09:00"となります。	+9:00	



注意

・本設定は、SSL 非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアでは表示しません。

SMTP の設定

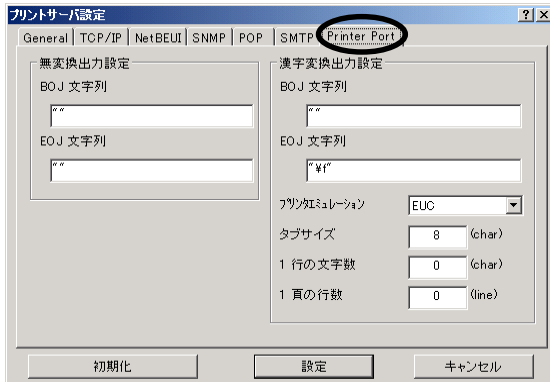


タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
SMTP	SMTPプロトコルを使用する	SMTPプロトコルを有効 (ENABLE) にします。無効 (DISABLE) にするとE-Mail送信機能が停止します。	DISABLE	
	SMTPサーバ名	SMTPサーバのホスト名を設定します。ホスト名にはドメイン名またはIPアドレスを入力します。ドメイン名を使用する場合はDNSサーバの設定が必要です。	なし	
	送信元アドレス	送信元のアドレスを設定します。通常はネットワーク管理者のメールアドレスを設定します。	なし	
	送信先アドレス	送信先のメールアドレスを設定します。	なし	
	送信条件 (1, 2)	選択条件 オフライン	プリンタがオフラインになったときメールを送信します。	OFF
		用紙切れ	プリンタの用紙がなくなったときメールを送信します。	OFF
		プリンタ異常	プリンタに異常が発生したときメールを送信します。	OFF
	チェック間隔	イベントの記録があるかを一定間隔 (分単位) でチェックします。この間隔内に1つ以上のイベントが発生した場合、その記録をまとめて送信します。	10	
	詳細設定	SMTPポート番号	SMTPポート番号を設定します。通常はデフォルト値 (25) で使用してください。	25
		署名	メールの送信メッセージの文末に付加する文字列の内容を設定します。	----- HITACHI PC-PB20501 [XX:XX:XX:XX:XX:XX] ----- (製品名とEthernetアドレス)
	認証	SMTP認証を使用	SMTP認証の使用有無を指定します。	DISABLE
		ユーザ名	SMTP認証名を指定します。	なし
パスワード		SMTP認証パスワードを指定します。本項目は設定の有無に関わらず、"*"を表示します。	なし	



・本設定は、SSL 非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアでは表示しません。

PrinterPort の設定



タブ	項目	設定内容	工場出荷設定	
Printer Port	無変換出力設定	BOJ 文字列	直接出力ポート (lpポート) に出力する前に、プリンタに送出する文字列 (最大31文字) を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
		EOJ 文字列	直接出力ポート (lpポート) に出力した後に、プリンタに送出する文字列 (最大31文字) を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
	漢字変換出力設定	BOJ 文字列	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/eucポート) に出力する前に、プリンタに送出する文字列を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
		EOJ 文字列	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/eucポート) に出力した後に、プリンタに送出する文字列 (最大31文字) を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	¥f
		プリンタエミュレーション	プリンタのエミュレーション (PDL) に応じた設定をします。漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/euc) に出力する際に、プリンタのエミュレーションに応じたコードに変換します。	ESC/P
		タブサイズ	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/eucポート) に出力する時のタブコード (0x09) を半角スペース (0x20) に変換する文字数を設定します。この文字数を0にすると、タブ変換処理は行われません。設定値は、0~16です。	8
		1行の文字数	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/eucポート) に出力する時の1行の文字数を設定します。この文字数を0にすると行の文字数制御を行いません。設定値は、0~255です。	0
		1頁の行数	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/eucポート) に出力する時の1頁の行数を設定します。この行数を0にするとページの行数制御を行いません。設定値は、0~255です。	0

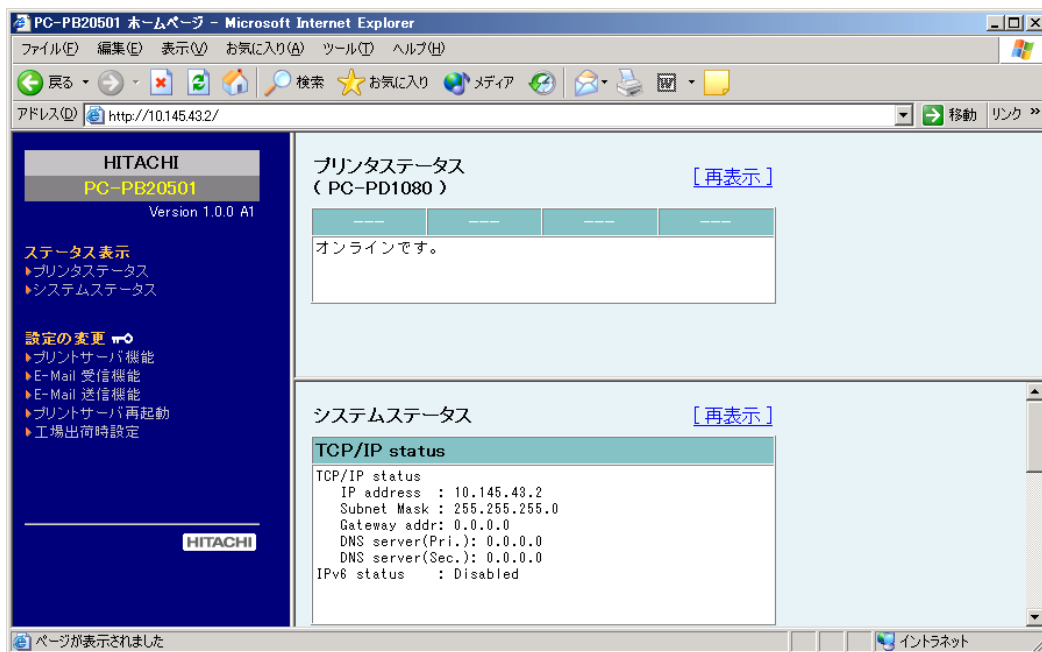
Webブラウザで設定する

本製品はHTTPプロトコルを搭載していますので、Webブラウザを利用して本製品の詳細な設定及び設定内容の変更を行うことができます。また、リモートでの再起動や自己診断印刷、プリンタステータスマニタなどの便利な機能をご利用いただくことができます。



注意

- Webブラウザを利用する場合、本製品のTCP/IPプロトコル設定が有効であり、IPアドレスが設定されている必要があります。
- Webブラウザは、Netscape Navigator 3.0以降及びInternet Explorer 3.0以降のバージョンを推奨します。また、ご利用になるWebブラウザによって多少表示が異なる場合があります。
- 本製品の機種によっては、Webブラウザに表示される内容が異なります。
- Webブラウザを利用して設定変更を行った場合は、必ず「プリントサーバ再起動」を実行してください。実行しないと変更した設置情報が本製品に登録されません。

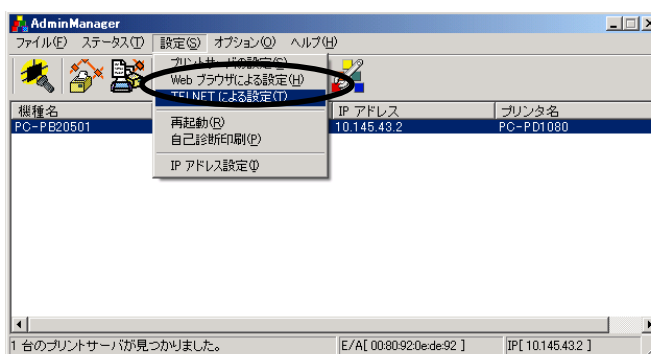


本製品のWebページを表示する

設定を行う本製品のWebページを表示します。表示方法は2つあります。

AdminManager から Web ページを表示する

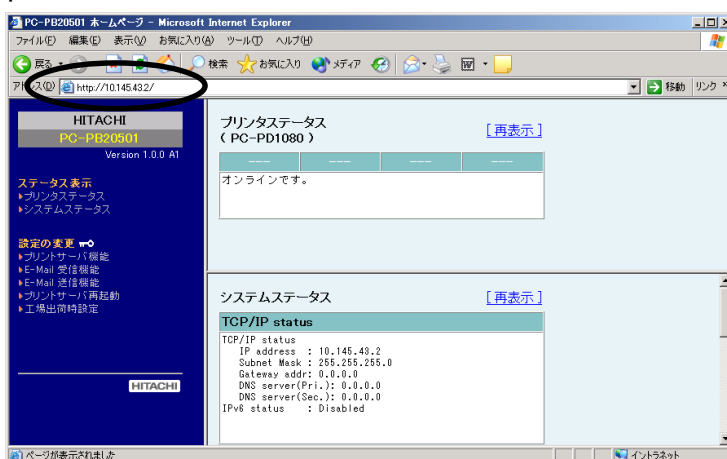
AdminManagerの一覧表示の中から、設定を行う本製品を選択し、メニューの「設定」- 「Webブラウザによる設定」をクリックする。



Web ブラウザから Web ページを表示する

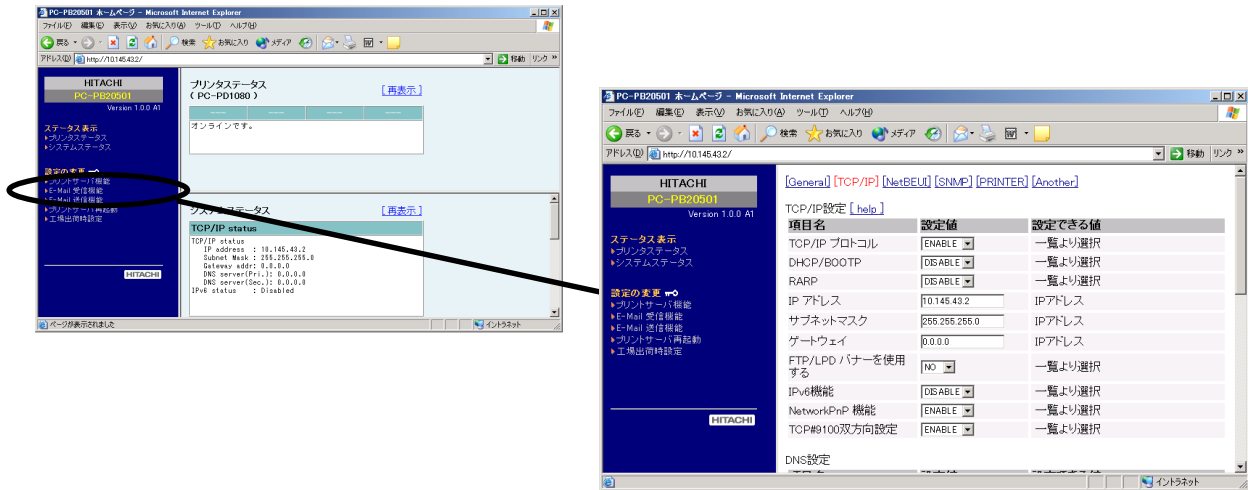
本製品に設定された IP アドレスを Web ブラウザに入力する。

例 : <http://10.145.43.2>



本製品のWebページから設定する

Webブラウザに表示されている設定項目から設定したい項目をクリックすると設定Web画面が表示されます。必要な項目に設定値を入力してください。



本製品 Web ページメニュー構成

項目	説明	
ステータス表示	プリンタステータス	プリンタステータスを表示
	システムステータス	システムステータスを表示
設定の変更	プリントサーバ機能	本製品の各種設定
	E-Mail受信機能	E-Mail受信機能の設定
	E-Mail送信機能	E-Mail送信機能の設定
	SSL証明書作成	セキュア(SSL)通信印刷機能を使用するための証明書作成
	プリントサーバ再起動	本製品の再起動
	工場出荷時設定	本製品の工場出荷時設定実行



注意

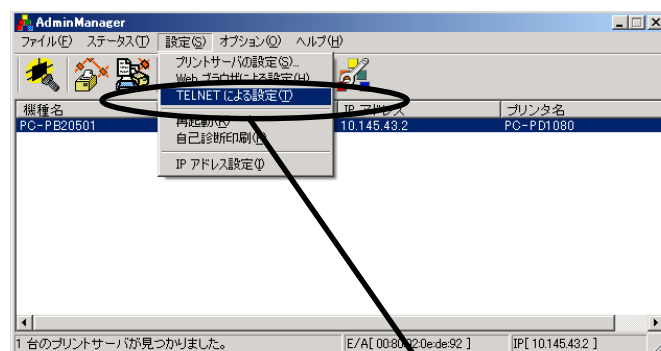
- E-Mail 受信機能及びE-Mail 送信機能は、SSL 非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアでは表示しません。
- SSL 証明書作成は SSL 対応版ファームウェアでサポートしています。SSL 非対応版ファームウェアでは表示しません。
- SSL 証明書作成は Web ページからのみ作成可能です。

TELNETで設定する

本製品はTELNETプロトコルを搭載していますので、UNIXマシンまたは、パソコンのTCP/IPソフトに付属のTELNETを利用して本製品の詳細な設定及び設定内容の変更を行うことができます。



- ・ TELNET を利用する場合は、IP アドレスが設定されている必要があります。
- ・ TELNET で設定を行うには root ユーザでログインする必要があります。



```
EX Telnet 10.145.43.2
HITACHI PC-PB20501 Ver 1.0.0 A1 TELNET server.
Copyright 2005 Ricoh Printing Systems,Ltd.
login: root
'root' user needs password to login.
password:
User 'root' logged in.

-----
No.  Item                               Value          (level.1)
-----
 1 :  Configure General
 2 :  Configure TCP/IP
 3 :  Configure NetBEUI
 4 :  Configure SNMP
 5 :  Configure Print Port
 6 :  Configure Another
95 :  Display Status
96 :  Reset to factory set
97 :  Reboot
98 :  Quit setup
99 :  Exit setup
Please select(1 - 99)?
```

Webブラウザ/TELNET設定項目

プリントサーバ機能

General

	項目		設定内容	工場出荷設定
	Webブラウザ	TELNET		
General	一般設定 / Configure General			
	rootパスワード変更	Change root Password	本製品の管理パスワードをASCII文字列(7文字以内)で設定します。このパスワードはAdminManager、TELNET、Webで設定を行う際の認証パスワードとして使用します。本項目は設定の有無に関わらず"*"を表示します。	なし
	LANインタフェース	LAN Interface	物理ネットワークの種別を設定します。通常はAUTOで使用してください。本製品の電源投入時に本製品が接続されるHUBのLINKランプが点灯しない場合は、この設定を接続HUBのネットワーク種別に変更してください。設定項目はAUTO/10HALF/10FULL/100HALF/100FULLです。	AUTO
	プリンタ名	Printer Name	プリンタ名を設定します。(半角最大31文字、全角最大15文字)	Device IDから取得するModel名

TCP/IP

項目		設定内容	工場出荷設定
Webブラウザ	TELNET		
TCP/IP設定 / Configure TCP/IP			
TCP/IPプロトコル	TCP/IP Protocol	TCP/IP プロトコルを有効 (ENABLE) にします。通常は有効 (ENABLE) に設定してください。TCP/IPとは、ネットワーク上で通信を行うためのネットワークプロトコルの一つです。TCP/IPの protocols を利用することにより、多種多様なOS 同士での通信が可能になることから、主流となっているネットワークプロトコルです。	ENABLE
DHCP/BOOTP	DHCP/BOOTP	DHCP/BOOTP プロトコルを有効 (ENABLE) にします。DHCP/BOOTP は、起動時に DHCP サーバまたは BOOTP サーバから IP アドレスの取得を行うプロトコルです。本製品の IP アドレスを DHCP/BOOTP によって設定するには、サブネットワーク内に適切に設定された DHCP/BOOTP サーバが稼動していなければなりません。本設定を有効 (ENABLE) にすると、DHCP と BOOTP を自動認識し、先に応答のあった IP アドレスを自分のアドレスとして採用します。	DISABLE
RARP	RARP	RARP プロトコルを有効 (ENABLE) にします。RARP (Reverse Address Resolution Protocol) とは、クライアントが起動時に RARP サーバから IP アドレスやホスト名、ドメイン名等を取得するためのプロトコルです。本製品の設定を RARP によって設定するには、サブネットワーク内に適切に設定された RARP サーバが稼動していなければなりません。	DISABLE
IPアドレス	IP Address	本製品の IP アドレスを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
サブネットマスク	Subnet Mask	本製品のサブネットマスクを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」は無効になり、IP アドレスに応じたサブネットマスクが自動的に使用されます。	0.0.0.0
ゲートウェイ	Gateway Address	本製品のデフォルトゲートウェイを10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」は無効になります。	0.0.0.0
FTP/LPDバナーを使用する	Use FTP/LPD Banner	FTP または LPD 印刷時のバナーページ印刷を有効 (YES) にします。	NO
IPv6機能	IPv6 Function	IPv6 の使用有無を指定します。IPv6 とは、ホストアドレスを表すためのフィールドを拡大し、従来の TCP/IP で問題となっていた部分を修正、機能追加をした新しいプロトコル形態です。	DISABLE
NetworkPnP機能	NetworkPnP Enable	UPnP 機能を有効 (ENABLE) にします。本機能は、Windows ME/XP 上のマイネットワークやネットワークコンピュータに自動的にデバイスのアイコンを表示する機能です。表示されたアイコンをダブルクリックすると、本製品の Web ページが表示され、ステータス確認や設定変更を行うことができます。	ENABLE



注意

・ IPv6 機能及び NetworkPnP 機能は、SSL 非対応版ファームウェアでサポートしていません。SSL 対応版のファームウェアでは表示しません。

項目		設定内容	工場出荷設定
Webブラウザ	TELNET		
DNS設定 / DNS			
プライマリサーバ	Primary Server	DNSサーバ(プライマリ)アドレスを設定します。POP/SMTPサーバ名をIPアドレスで直接設定する場合は、設定する必要はありません。10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。本設定により、POP/SMTPサーバ名とIPアドレスを対応させることができます。	0.0.0.0
セカンダリサーバ	Secondary Server	DNSサーバ(セカンダリ)アドレスを設定します。	0.0.0.0
WINS設定 / WINS			
プライマリサーバ	Primary Server	WINSサーバ(プライマリ)アドレスを設定します。WINSサーバはホスト名をIPアドレスに割り当てます。本設定により、TCP/IP印刷の際にIPアドレスを使用せず、NetBIOSで設定したホスト名で印刷を行うことができます。設定値は、10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。	0.0.0.0
セカンダリサーバ	Secondary Server	WINSサーバ(セカンダリ)アドレスを設定します。	0.0.0.0
スコープID	Scope ID	スコープIDは登録されたホスト名を認識するコンピュータのグループを定義します。	なし
IPフィルタ設定 / IP Filter Config			
TCP/IP IPフィルタ動作設定	Filter Mode	IPフィルタの動作を設定します。設定には「allow」と「deny」があり、「allow」にすると設定したIPアドレス範囲からのみデータを受けとります。「deny」にすると設定したIPアドレス範囲からのデータを受けとりません。	DENY
フィルタ #0-3 開始/終了アドレス	Filter #0-3 start/end address	IPフィルタの範囲を設定します。フィルタしたいIPアドレスの範囲は4組まで設定できます。設定が不要な場合はアドレス範囲を「0.0.0.0」から「0.0.0.0」にしてください。	0.0.0.0
セキュリティレベル設定 / Security Configuration			
セキュリティレベル設定	Security Configuration	セキュリティレベルを設定します。セキュリティレベルの設定により、各プロトコルの有効/無効を設定します。なお、本項目をCUSTOMに設定すると、各プロトコル毎で有効/無効を設定できません。ただし、Setup Protocol, TELNET, HTTP, HTTPSの4項目全てを無効にすると、本製品の設定変更が出来なくなるため、エラー表示して設定の見直しを要求します。また、セキュリティレベルがLevel1/Level2の場合は、個々のプロトコルを手動で有効/無効設定はできません。なお、本設定がCUSTOM以外の場合は、TELNETから本製品への接続はできません。TELNETからの接続がある場合は、セキュリティレベルをCUSTOMにして、TELNETを有効(ENABLE)に変更してください。	Level1



注意

- ・DNS設定機能及びWINS設定機能は、SSL非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL対応版のファームウェアでは表示しません。
- ・セキュリティレベル設定機能はSSL対応版ファームウェアでサポートしています。SSL非対応版のファームウェアでは表示しません。

NetBEUI/NetBIOS

項目		設定内容	工場出荷設定
Webブラウザ	TELNET		
NetBEUI/NetBIOS設定 / Configure NetBEUI/NetBIOS			
NetBEUIプロトコル	NetBEUI Protocol	NetBEUI プロトコルを有効 (ENABLE) にします。	ENABLE
NetBIOS over TCPプロトコル	NetBIOS over TCP Protocol	NetBIOS over TCPプロトコルを有効 (ENABLE) にします。通常、NetBIOSによるサービスはNetBEUIプロトコルを使用します。本設定を有効 (ENABLE) にすると、プロトコルをNetBEUIからTCP/IPに変更します。	ENABLE
コンピュータ名	Computer Name	Windowsのエクスプローラに表示されるコンピュータ名を設定します。	Hixxxxxx (Ethernetアドレス下6桁)
ワークグループ	Workgroup	本製品が所属するワークグループを設定します。ネットワークに無い、新しいワークグループ名はワークグループとして認識されません。	HI-LAN-ADP
コメント	Comment	本製品のコメント (説明) を設定します。ここで設定した情報が、Windowsのエクスプローラにて本製品のコメント (説明) として表示されます。	HITACHI PC-PB20501
マスタブラウザ機能	Master Browse	マスタブラウザ機能を有効 (ENABLE) にします。	ENABLE



注意

- ・本機能は、SSL 非対応版ファームウェアでサポートしています。SSL 対応版のファームウェアでは表示しません。

SNMP

	項目		設定内容	工場出荷設定
	Webブラウザ	TELNET		
SNMP	その他の設定 / Cofigure Another			
	認証コミュニティ名	Authentic Community	SNMPの認証コミュニティ名を設定します。このコミュニティ名はSNMP Set Requestを受付けるときに承認されます。本項目は設定の有無に関わらず"*"を表示します。	public
	Trapコミュニティ名	Trap Community	SNMPのトラップコミュニティを設定します。このコミュニティ名は本製品がトラップを発行するときに使用されます。	public
	Trap通知先アドレス	Trap Address(ip)	SNMPトラップの送信先IPアドレスを設定します。設定値は、10進数「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で設定します。「0.0.0.0」を設定すると本項目は無効になり、いかなる場合でもトラップは発行されなくなります。	0.0.0.0
	SysContact	SysContact	SysContactを設定します。通常は管理者のメールアドレスを設定します。	なし
	SysName	SysName	SysNameを設定します。通常は本製品のホスト名またはドメイン名を設定します。	なし
	SysLocation	SysLocation	SysLocationを設定します。通常は本製品の設置されている場所を設定します。	なし
	Enable AuthenTrap	Enable AuthenTrap	Enable AuthenTrapを許可(1)/禁止(2)で設定します。この設定を許可(1)にすると、SNMPでコミュニティ違反が発生した場合、SNMPトラップが「Trap通知先アドレス」で設定したIPアドレスに向けて発信されます。	2

SSL

	項目		設定内容	工場出荷設定
	Webブラウザ	TELNET		
SSL	その他の設定 / Cofigure Another			
	暗号化を使用する	Secure Print	本設定を有効(ENABLE)にすることで、印刷データを暗号化します。印刷データの暗号化にはセキュア(SSL)通信を使用します。セキュア(SSL)通信には、インターネットで個人情報等を入力する際に、盗聴やなりすまし防止に使用される通信方式で、一般化されたセキュリティ機能の一つです。	ENABLE
	暗号化方式	SSL Mode	暗号化方式を設定します。暗号化方式には性能重視(速度優先:Level1)と品質重視(高暗号化:Level2)が設定できます。	Level1



・本機能は、SSL 対応版ファームウェアでサポートしています。
SSL 非対応版のファームウェアでは表示しません。

注意

PRINTER

項目		設定内容	工場出荷設定
Webブラウザ	TELNET		
PRINTER設定 / Configure Printer Port			
BOJ文字列 (lp)	BOJ String (lp)	直接出力ポート (lpポート) に出力する前に、プリンタに送出する文字列 (最大31文字) を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
E0J文字列 (lp)	E0J String (lp)	直接出力ポート (lpポート) に出力した後に、プリンタに送出する文字列 (最大31文字) を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
BOJ文字列 (sjis/euc)	BOJ String (sjis/euc)	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/eucポート) に出力する前に、プリンタに送出する文字列を設定します。印刷前に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	なし
E0J文字列 (sjis/euc)	E0J String (sjis/euc)	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/eucポート) に出力した後に、プリンタに送出する文字列 (最大31文字) を設定します。印刷後に制御コード等を送信する必要がある場合に文字列を設定します。	¥f
プリンタエミュレーション	Printer Emulation	プリンタのエミュレーション (PDL) に応じた設定をします。漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/euc) に出力する際に、プリンタのエミュレーションに応じたコードに変換します。	ESC/P
タブサイズ (char.)	TAB Size (char.)	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/euc) に出力する時のタブコード (0x09) を半角スペース (0x20) に変換する文字数を設定します。この文字数を0にすると、タブ変換処理は行われません。設定値は、0~16です。	8
1行の文字数 (char.)	Page Width (char.)	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/euc) に出力する時の1行の文字数を設定します。この文字数を0にすると行の文字数制御を行いません。設定値は、0~255です。	0
1ページの行数 (line)	Page Length (line)	漢字フィルタ経由出力ポート (sjis/euc) に出力する時の1頁の行数を設定します。この行数を0にするとページの行制御を行いません。設定値は、0~255です。	0

E-Mail受信 (POP)

	項目		設定内容	工場出荷設定	
	Webブラウザ	TELNET			
E-Mail 受信 (POP)	基本 設定	POPプロトコル	POP Protocol	POPプロトコルを有効(ENABLE)にします。	DISABLE
		着信チェック 間隔(分)	Check Interval (min.)	メールサーバに着信を問い合わせる間隔を 分単位で設定します。	15
		ローカルタイ ムゾーン	Local Time Zone	タイムゾーンを設定します。日本での使用 は"+09:00"となります。	+9:00
	このユーザ設定を使 用する(1~4)	User Profile (1~4)	各ユーザのメール受信機能を有効 (ENABLE)にします。	DISABLE	
	POPサーバ名	POP Server Name	メールサーバのホスト名(またはIPアドレ ス)を設定します。ドメイン名を使用する場 合はDNSサーバの設定が必要です。	なし	
	POPポート番号	POP Port Number	POPポート番号を設定します。通常はデフォ ルト値(110)で使用してください。	110	
	POPユーザ名	POP User Name	メールアカウントのログイン名(ユーザ名) を設定します。	なし	
	POPパスワード	POP Password	メールサーバに接続する際に使用するパス ワードを設定します。本項目は設定の有無 に関わらず"*"を表示します。	なし	
	APOPを使用す る	Use APOP	APOPを有効(ENABLE)にします。APOPを利 用するには、メールサーバがAPOPに対応し ている必要があります。	NO	
	受信したメー ルを削除する	Delete Mail after Retrieve	本製品が受信・印刷したメールをメール サーバ上から削除するかを設定します。印 刷対象でない添付ファイルのあるメール は、この設定を有効(ENABLE)にしてい てもメールは削除されません。	NO	
メール受信制 限(Kbyte)	Maximum Retrieve (KByte)	指定したサイズ以上のメールを、処理対象 から除外します。処理対象から除外された メールは、「受信したメールをサーバから 削除」の項目をチェックしている場合でも 削除されません。この項目に0を設定した場 合は、サイズによる制限は行わず、全ての メールを受信します。	0		
フィルタ設定	Filter Setting	特定のメールのみ印刷するように設定しま す。ヌル(空文字列)の場合は、全てのメー ルが印刷の対象になります。タイトル条件 (S:文字列)、宛先条件(T:文字列)、同報宛 先条件(C:文字列)、送信元条件(F:文字列) の4種類のセンテンスをOR条件()または、 AND条件(&)で接続した文字列で設定しま す。	なし		
開封通知	Request a read receipt	開封通知が指定されたメールに対して返信 を行うかを設定します。開封通知メール は、SMTP設定のサーバ情報に対して送信処 理を行います。	NO		



注意

・本機能は、SSL 非対応版ファームウェアでサポートしています。
SSL 対応版のファームウェアでは表示しません。

E-Mail送信 (SMTP)

	項目		設定内容	工場出荷設定	
	Webブラウザ	TELNET			
E-Mail 送信 (SMTP)	SMTPプロトコルを使用する	SMTP Protocol	SMTPプロトコルを有効 (ENABLE) にします。無効にするとE-Mail送信機能が停止します。	DISABLE	
	SMTPサーバ名	SMTP Server Name	SMTPサーバのホスト名を設定します。ホスト名にはドメイン名またはIPアドレスを入力します。ドメイン名を使用する場合はDNSサーバの設定が必要です。	なし	
	SMTPポート番号	SMTP Port Number	SMTPポート番号を設定します。通常はデフォルト値(25)で使用してください。	25	
	送信元アドレス	From Address	送信元のアドレスを設定します。通常はネットワーク管理者のメールアドレスを設定します。	なし	
	署名	Signature Line (1~4)	メールの送信メッセージの文末に付加する文字列の内容を設定します。	----- HITACHI PC-PB20501 [XX:XX:XX:XX:XX:XX] ----- (製品名とEthernetアドレス)	
	送信アドレス (1~2)	Event to Address (1~2)	送信アドレス (1~2) の送信条件を設定します。	-	
		送信先アドレス (1~2)	送信先のメールアドレスを設定します。	なし	
		チェック間隔 (分)	イベントの記録があるかを一定間隔 (分単位) でチェックします。この間隔内に1つ以上のイベントが発生した場合、その記録をまとめて送信します。	10	
		オフライン	プリンタがオフラインになったときメールを送信します。	OFF	
		紙切れ	プリンタの用紙がなくなったときメールを送信します。	OFF	
		プリンタ異常	プリンタに異常が発生したときメールを送信します。	OFF	
	S M T P 認 証 設 定	SMTP認証	SMTP AUTH Enable	SMTP認証の使用有無を指定します。	DISABLE
		SMTP認証名	SMTP AUTH Name	SMTP認証名を指定します。	なし
	SMTP認証パスワード	SMTP AUTH Password	SMTP認証パスワードを指定します。本項目は設定の有無に関わらず "*" を表示します。	なし	


注意

・本機能は、SSL 非対応版ファームウェアでサポートしています。
SSL 対応版のファームウェアでは表示しません。

その他の設定 (Another)

	項目		設定内容	工場出荷設定
	Webブラウザ	TELNET		
Another	その他の設定 / Configure Another			
	印刷トラップコミュニティ名称	Print Trap Community	印刷完了時にSNMPでTrap通知する際に使用するコミュニティ名称を指定します。設定値は16文字以内の文字列です。	public
	印刷トラップアドレス	Print Trap Address	印刷完了時にSNMPでTrap通知する通知先IPアドレスを指定します。	0.0.0.0
	PE後のリポート処理	PE/Reboot	Print Trap Addressが設定されている場合で、LPR印刷中に用紙なしが発生したときに、LANボードのリポートする/しないを設定します。	Disable

SSL証明書作成 (Webページからのみ設定可能)

	項目		設定内容	工場出荷設定	
	Webブラウザ	TELNET			
SSL証明書作成	証明書情報設定	Webのみ設定可能	国/地域コード	国/地域コード(二文字の文字列)を設定します。 (例)日本-JP、米国-US	なし
			都道府県名	都道府県を設定します。 (例)Tokyo	なし
			市区町村名	市区町村を設定します。 (例)Minatoku Shinagawa	なし
			組織名	組織名を設定します。 (例)Richo Printhing Systems,Ltd.	なし
			部門名	部門名を設定します。 (例)Kikaku	なし
			一般名	任意の名称を設定します。 (例)PC-PB20501	なし
			メールアドレス	E-mailアドレスを設定します。 (本項目は空白でも設定可能です。)	なし
			有効期日	PCから現在時刻を取得した協定世界時(UTC)で表示します。本設定は固定で変更はできません。	現在日時
	有効期限日	証明書の有効期限日を設定します。	2049/12/31 23:59:59		



注意

- SSL 証明書作成は、SSL 対応版ファームウェアでサポートしています。SSL 非対応版のファームウェアでは表示しません。
- 本設定はWeb ページからのみ作成可能です。

第7章 Popup Status Monitor	7-2
Popup Status Monitor について	7-2
Popup Status Monitor の起動	7-2
Popup Status Monitor の表示	7-3
プリンタ情報	7-3
システム情報	7-4
メニュー構成	7-4
オプション設定ダイアログ	7-5
ステータス監視	7-5
表示	7-6

第7章 Popup Status Monitor

Popup Status Monitorについて

ポップアップステータスマニタ「Popup Status Monitor」はプリンタの状態をパソコン画面に表示してお知らせします。また、デスクトップに常駐するため、プリンタの状態をリアルタイムに監視することができます。

Popup Status Monitorの起動

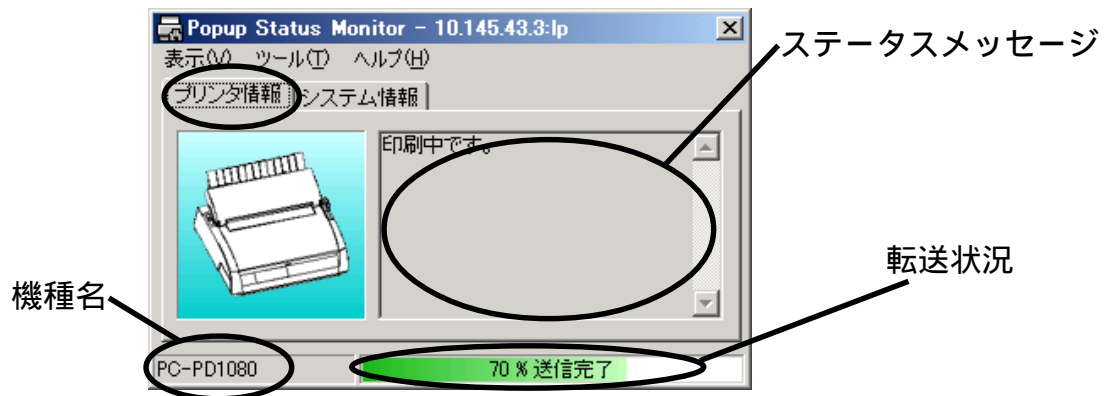
「スタート」-「プログラム」-「PR-Port Monitor (または任意で指定したグループ名)」-「Popup Status Monitor」を実行すると、Popup Status Monitor が起動します。

Popup Status Monitorの表示

Windows 標準の外観で、詳細なプリンタ情報を表示することができます。

プリンタ情報

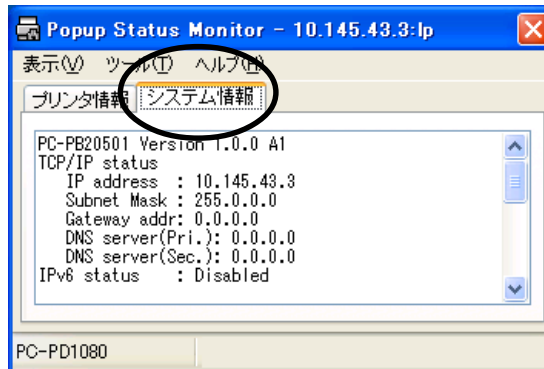
プリンタステータス状態および印刷状況を表示します。



- ・ステータスメッセージ
プリンタの状態を文字列で表示します。
例：「オンラインです。」
「印刷中です。」
「カバーオープンです。」 等
- ・機種名
本製品が搭載されている機種名を表示します。
- ・転送状況
印刷データの転送状況を表示します。

システム情報

本製品のシステムステータスを表示します。



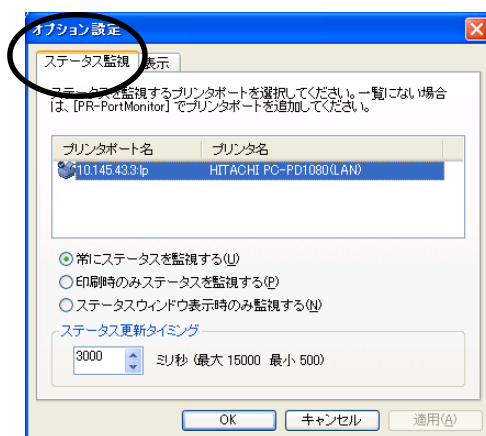
メニュー構成

メニュー	項目	説明
	常に最前面に表示する	ウィンドウを常に最前面に表示します。 ただし、同様の設定のウィンドウが重なった場合には、そのウィンドウの背面に隠れます。
	最小化する	ウィンドウを最小化します。 元に戻すには、タスク通知エリアのアイコンをクリックします。
	終了	Popup Status Monitorを終了します。
ツール	オプション設定	オプション設定ダイアログを表示します。
ヘルプ	バージョン情報	バージョン情報を表示します。

オプション設定ダイアログ

Popup Status Monitorの使用条件を変更することができます。「ツール」-「オプション設定」をクリックして、「オプション設定」画面を表示してください。

ステータス監視



・PR-Port Monitor ポート一覧

ご使用のパソコンに登録されている PR-Port Monitor ポートの一覧が表示されます。この一覧からステータス監視を行う本製品を選択します。



注意

・PR-Port Monitor ポート一覧に表示されるポートは、LPR ポート、Raw(9100)ポートのみで、IPP ポートは選択、監視できません。

・常にステータスを監視する

システムに常駐することにより、常にプリンタの状態を監視することができます。

・印刷時のみステータスを監視する

PR-Port Monitor ポートでの印刷時のみプリンタの状態を監視します。PR-Port Monitor ポートでの印刷データ転送が完了すると、自動的に終了します。

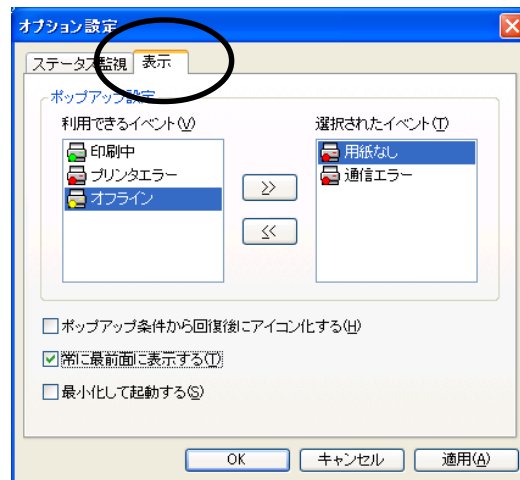
・ステータスウィンドウ表示時のみ監視する

プリンタの状態を監視しないようにします。プリンタの状態を監視する場合は、その都度 Popup Status Monitor を起動する必要があります。

・ステータス更新タイミング

プリンタステータスを最新の情報に更新する間隔を設定します。

表示



- ・ 利用できるイベント
「Popup Status Monitor」が表示することができるイベントの一覧です。
- ・ 選択されたイベント
「Popup Status Monitor」に表示するイベントを選択した一覧です。ここに選択したイベントと、プリンタのイベントが一致した場合、「Popup Status Monitor」を表示します。
- ・ >>
「利用できるイベント」の項目を「選択されたイベント」に追加します。
- ・ <<
「選択されたイベント」の項目を「利用できるイベント」に戻します。
- ・ ポップアップ条件から回復後にアイコン化する
プリンタのイベントが終了した後、「Popup Status Monitor」を自動的に最小化し、タスクバーに常駐します。
- ・ 常に最前面に表示する
ウィンドウを常に最前面に表示します。ただし、同様の設定のウィンドウが重なった場合には、そのウィンドウの背面に隠れます。
- ・ 最小化して起動する
「Popup Status Monitor」を最小化した状態で起動します。

第 8 章	トラブルシューティング	8-2
使用上の制限事項について		8-2
トラブルシューティング		8-8

第8章 トラブルシューティング

使用上の注意事項および制限事項について

本製品(PC-PB20501)を使用する上で以下の注意事項および制限事項があります。問題発生時に合わせて確認してください。

- (1)本製品(PC-PB20501)使用時は、パラレルインタフェースおよびUSBインタフェースと同時に使用できません。
- (2)プリンタドライバの設定で「双方向サポート」が有効になっていると、印刷ができないなど、印刷動作が不正となります。「双方向サポート」は必ず無効にしてください。設定方法は「第3章 Windows98/Me環境で使用する」-「プリンタドライバの設定について」または「第4章 Windows NT4.0/2000/Server2003/XP/Vista環境で使用する」-「プリンタドライバの設定」を参照してください。
- (3)エラーリカバリ処理が不正となるため、本製品(PC-PB20501)をご使用の際は、各プリンタの取扱説明書を参照し、プリンタ側の設定を下記の通り設定するようにしてください。
 - 受信バッファ：無効
 - TOF(用紙先頭)位置時の改頁コード：無効
- (4)ご使用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていてファイアウォール機能が有効になっている、または、Windows XPやWindows Vistaでファイアウォール機能が有効になっていると、ユーティリティの検索機能で本製品(PC-PB20501)を検索できません。ユーティリティの検索機能をご使用する際は、一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。
- (5)本製品(PC-PB20501)のご使用にあたっては、通常印刷の場合はPR-PortMonitorで作成するLPRポート、セキュア(SSL)通信印刷を行う場合はPR-PortMonitorで作成するIPP(HTTPS)ポートを推奨していますが、各印刷ポートには次ページの制限事項があります。業務形態にあった印刷ポートをご使用頂くようお願いいたします。

【PR-PortMonitor の印刷ポート】

- ・ Popup Status Monitor は PR-PortMonitor で作成した LPR または RAW 印刷ポートでのみ動作します。その他の印刷ポートでは動作しません。
- ・ プリンタの状態監視を行っているため、複数 JOB 連続印刷時、印刷 JOB と印刷 JOB の間に一時停止する場合があります。
- ・ プリンタエラー (通信エラー以外) 状態で放置した場合、タイムアウトになると、エラーメッセージが表示 (*1) されます。

エラーが回復した場合、または「再試行」を選択してエラー回復させた場合、続きのデータが送信されて継続印刷をします。「キャンセル」を選択した場合、スプール上に仕掛かっている当該 JOB を削除します。ただし、LAN ボードで受信済みのデータが残っているため、次の JOB を印刷すると文字化け等が発生します。「キャンセル」を選択する場合は、必ずプリンタの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットしてください。

(*1) 印刷ポートにより、初期値が異なります。

LPR ポート / RAW ポート : 15 分、IPP ポート : 3 分

本値はプリンタドライバの「プロパティ」-「ポートの構成」-「タイムアウト値」で変更することができます。

- ・ 通信エラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されます。エラーを回復させて「再試行」を選択すると、スプール上に仕掛かっている当該 JOB の先頭からデータが再送されて継続印刷を行います。ただし、プリンタの電源断以外による通信エラーの場合、LAN ボードで受信済みのデータは残っているため、「再試行」を選択する前に必ずプリンタの電源 OFF/ON を行ってください。「キャンセル」を選択した場合、スプール上に仕掛かっている当該 JOB を削除します。ただし、プリンタの電源断以外による通信エラーの場合、LAN ボードで受信済みのデータが残っているため、次の JOB を印刷すると文字化け等が発生します。「キャンセル」を選択する場合は、必ずプリンタの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットしてください。
また、通信エラー状態で放置した場合、「PR-PortMonitor での送信中にエラーが発生しました。印刷を中止します。」のエラー表示をする場合があります。「OK」を押すと仕掛の JOB が削除されますので、必ずプリンタの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして、印刷 JOB を再送してください。
- ・ エラー発生タイミングや印刷データサイズにより、タイムアウトになってもエラーメッセージが表示されない場合があります。この場合、プリンタのエラーが回復すると、「再試行」と同様に継続印刷を行います。

- PR-PortMonitor の RAW および IPP ポートについては、上記以外に以下のような制限事項があります。

セキュリティソフトウェアが常駐している、または Windows XP でファイアウォール機能が有効になっている場合、プリンタエラー状態で印刷 JOB を送信した後、通信エラーにより、次の JOB を暫くの間送信できなくなる場合があります。その時は、プリンタの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして印刷 JOB を再送してください。

プリンタエラー状態で放置してタイムアウトになった場合、エラーの発生タイミングや印刷データサイズによっては、印刷を再開したときに文字化けや通信エラーが発生し、次の印刷 JOB を暫くの間、送信できなくなる場合があります。

その様な場合は、プリンタの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして印刷 JOB を再送してください。

【PR-PortMonitor 以外の印刷ポート】

PR-PortMonitor が使用できません。また、OS 標準ポートでは以下の制限事項があります。

Standard TCP/IP LPR ポート

- LPR バイトカウントを有効にしないと印刷が異常終了する場合があります。必ず LPR バイトカウントを有効にしてください。また、SNMP ステータスを無効にしてください。なお、印刷データサイズが大きい場合、LPR バイトカウント処理を行うため、スプーリングに時間を要することがあります。
- プリンタエラー状態で放置した場合、当該 JOB の先頭頁からリトライされるため、重複印刷することがあります。

Standard TCP/IP RAW ポート

- データサイズをカウントしていないため、印刷データが抜ける場合があります。
- セキュリティソフトウェアが常駐していたり、Windows XP でファイアウォール機能が有効になっている場合、プリンタエラー状態で印刷 JOB を送信した後、通信エラーが発生し、暫くのあいだ、次の印刷 JOB を送信できなくなることがあります。その様な場合は、プリンタの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして印刷 JOB を再送してください。
- プリンタエラー状態で放置してタイムアウトになった場合、エラーの発生タイミングや印刷データサイズによっては、印刷を再開させると文字化けが発生したり、通信エラーが発生し、暫くのあいだ、次の印刷 JOB を送信できなくなることがあります。その様な場合は、プリンタの電源 OFF/ON を行い、用紙を再セットして印刷 JOB を再送してください。

LPR Port (UNIX 印刷サービス)

- ・複数 JOB を連続印刷した場合、途中の JOB が印刷終了してからしばらく印刷が停止(最大4分)した後に印刷を再開することがあります。
- ・プリンタエラー状態で放置した場合、当該JOBの先頭頁からリトライされるため、重複印刷することがあります。

(6)セキュア(SSL)通信印刷機能をご使用になる場合は、以下の点に注意してください。

セキュア(SSL)通信印刷機能は、以下の条件により使用可能となります。

- ・対応 OS: Windows(R)98/Me, Windows(R)2000/XP/Server2003/Vista
- ・対応プロトコル: HTTPS, IPP
- ・LAN ボードに下記設定を実施してください。
 - 1)「セキュリティレベル」設定で上記プロトコルを "有効" に設定してください。
 - 2)Web ブラウザ画面から SSL 証明書を作成してください。
 - 3)「暗号化を使用する」を "ENABLE" に設定してください。
- ・HTTPS での IPP 印刷は Windows(R)2000/XP/Server2003/Vista にて標準サポートしています。ただし、プリンタ追加の設定画面を開いている場合、状態通知の為の通信トラフィックが増大しますので、PR-PortMonitor から IPP(HTTPS)ポートを作成してご使用いただくことを推奨します。
- ・セキュア(SSL)通信印刷機能をサポートするにあたり、従来機能の NetBEUI, SMTP, POP3, DNS, WINS, IPv6, NetworkPnP を未サポートとしましたので、これら機能を使用した混在印刷はできません。
- ・NetBEUI, SMTP, POP3 等の未サポート機能を使用する場合は、「第2章 セットアップユーティリティ」を参照してください。なお、NetBEUI, SMTP, POP3 等をサポートしたファームウェアでは、セキュア(SSL)通信印刷機能は使用できません。
- ・セキュア(SSL)通信機能は、印刷データを暗号化するためにデータ量が増加します。そのため、データ転送時間がかかり、通常印刷と比較して印刷性能が低下する場合があります。ご注意ください。
- ・複数クライアントからセキュア(SSL)通信印刷が競合した場合、「セキュリティ認証に失敗しました。印刷を開始できません。」のエラーメッセージを表示する場合があります。「OK」を押すと仕掛 JOB が削除されますので、現在印刷中の JOB が終了しだい、再度印刷 JOB を再送してください。再度エラーメッセージが表示された場合は、同様の操作を繰り返してください。
- ・暗号化方式を印刷性能優先(Level1)と暗号化強度優先(Level2)のいずれかを選択することができます。ご使用の環境にあわせて選択してください。
ただし、OS 側の暗号化サポート状況により、本設定を変更しても暗号化方式が変わらないことがあります。ご注意ください。

- ・HTTPS で Web ブラウザ (Internet Explorer)画面を表示させた場合、文字化けが発生することがあります。この場合は、OS および Internet Explorer の修正プログラムを最新版にアップデートすることで改善されます。
- ・HTTPS で Web ブラウザ (Netscape)画面を表示させた場合、正常に表示できなくなることがあります。また、セキュア (SSL) 通信印刷機能により、Netscape から印刷を行うと、エラーメッセージが表示されて、印刷が出来ない場合があります。この場合は、Netscape 7.0 以降をご使用になることで改善されます。

(7) 拡張プリンタマネージャを用いてエラーリカバリ機能を使用する場合、以下の点にご注意の上、設定してください。詳細については、「付録 エラーリカバリ支援機能」を参照してください。

- ・拡張プリンタマネージャをインストールしたパソコンの IP アドレスは、Another 設定項目内の「Print Trap Address」にだけに設定してください。
- ・「PE/Reboot」は "ENABLE" に設定してください。
- ・SNMP 設定項目内の「Trap Address」は、"0.0.0.0" を設定してください。
- ・他の印刷ポートからの印刷と拡張プリンタマネージャポートからの印刷が混在した場合は、プリンタエラーが発生すると以降の印刷 JOB が印刷されないことがあります。他の印刷ポートからの印刷と拡張プリンタマネージャからの印刷が混在しないようにしてください。
- ・拡張プリンタマネージャを使用しない場合は、Another 設定項目内の「Print Trap Address」を "0.0.0.0" に設定してください。(デフォルトは "0.0.0.0" です。)

(8) Solaris 2.x 対応について

本製品を Solaris 2.x でご利用になる場合、Solaris の仕様により以下の制限事項があります。

印刷開始後、プリンタがオフライン等でデータを受け付けられない状態が長く続いた場合、Solaris 側でタイムアウトし再印刷 (再接続) されるため、印刷データが途中で切れ、1 頁から再度印刷される場合があります。

"lpstat -p プリンタ名" にてプリンタのステータスを表示した場合、プリンタの状態ステータスとして返す任意の文字列 (PrinterReady 等) を Solaris 側で解釈できず "Faulted" と表示した後、任意の文字列を表示します。

Solarisよりデータを出力中は、同じマシンから本製品に対する印刷関連コマンドが正常に動作しません。これは Solaris 側がデータの送信が終了するまで他のパケットを出す事が出来ない為で、以下の現象が発生します。

"lpstat -p [プリンタ名]" に対して "system not responding"と表示されます。cancel コマンドの後、lpstat などを行うと lpstat がエラーになる場合があります。この場合は、プリンタスケジューラデーモンが停止している可能性がありますので "lpstat -r" で確認する必要があります。

"scheduler is not running" と表示された場合デーモンが停止していますので、下記のように入力しプリンタスケジューラデーモンを再起動してください。

```
/bin/sh /etc/init.d/lp start
```

"cancel" で存在しないジョブを削除しても Solaris ではエラーになりません。

トラブルシューティング

本章では本製品の導入時に想定される問題と、その対処方法を説明します。下表の内容または、(1)の対処方法により解決できない場合は、LANボードの故障が考えられます。販売会社、担当営業または、保守会社に連絡してください。

(1)LANボードの設定情報印刷を実行した後に初期化を実行してください。操作方法は「第1章 本製品について」の「ディップスイッチの操作」を参照してください。初期化実行後は、設定情報印刷結果を元に設定を行い、動作確認をしてください。

No.	現象	原因	対処
1	自己診断印刷結果にNGがある。	本製品がプリンタに正しく取り付けられていない。または、ネットワークケーブルが正しく接続されていない。	ROM、RAM CheckがNGの場合、本製品がプリンタに正しく取り付けられていない可能性がありますので、本製品を取り付け直してください。EEPROM CheckがNGの場合、本製品がプリンタに正しく取り付けられていない、またはディップスイッチの設定が正しく行われていない可能性がありますので、本製品を取り付け直し、ディップスイッチの設定を確認してください。NIC CheckがNGの場合、ネットワークケーブルが正しく接続されていない可能性があります。接続を確認してください。
2	CD-ROMを挿入してもメインメニューが起動しない。	Windows環境でご使用の場合、お使いのパソコンによっては、CD-ROMをセットしてもメニュー画面が自動的に起動しないことがあります。	ルートディレクトリ(お使いのCD-ROMがDドライブなら、「D:¥」)にある[Autorun.exe]を直接実行してください。
3	設定ユーティリティ(Quick Setup、AdminManager)で検索を行っても、本製品が一覧に表示されない。またはネットワーク上で認識されない。	(1)プリンタの電源がONになっていない。	プリンタの電源をONしてください。
		(2)本製品がプリンタに正しく取り付けられていない。またはネットワークケーブルが正しく接続されていない。	自己診断印刷(印刷方法については、「第1章 本製品について」を参照)を行い、印刷結果にNGがないか確認してください。NGがあった場合、本表No.1の対処を参照し、対処してください。
		(3)稼動している本製品と接続イーサネットハブ(HUB)のLINK LEDが点灯していない。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認してください。 イーサネットハブ(HUB)のポートが故障していないか確認してください。 ネットワークケーブルが断線していないか確認してください。
		(4)Windows XP環境でファイアウォール機能が有効になっている。	Windows XP環境でTCP/IPプロトコルをご使用になる場合は、「ローカルエリア接続のプロパティ」-「詳細設定」-「インターネットからこのコンピュータへのアクセスを制御したり・・・」のチェックを外してください。
		(5)ご利用のパソコンにセキュリティソフトウェアがインストールされていて、ファイアウォール機能が有効になっている。	一時的にファイアウォール機能を無効にしてください。
		(6)TCP/IP Protocolが使用できなくなっている。	設定内容の印刷(印刷方法については、「第1章 本製品について」を参照)を行い、印刷結果から「TCP/IP Protocol」設定が「ENABLE」になっているか確認してください。「DISABLE」の場合、本製品の初期化(操作方法については、「第1章 本製品について」を参照)を行ってください。なお、初期化を行った後は、ご利用のネットワーク環境に合わせて、再度設定を行ってください。
		(7)LANボードが有効になっていない。	プリンタの取扱説明書を参照し、プリンタ側の設定でLANボードが「有効」になっているか確認してください。「無効」になっている場合は、「有効」に設定してください。

No.	現象	原因	対処
4	IPアドレスの設定を行うと通信エラーになる。	(1)本製品と通信ができていない。	本表No.3(1)～(3),(6)の対処を参照し、対処してください。
		(2)設定ユーティリティを起動しているパソコンのIPアドレスが確定していない。	ご使用のパソコンとネットワークに存在する他のパソコンが通信できているか確認してください。 例) Windows XPのコマンドプロンプトでPingを実行する場合 「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」で、 Ping xxx.xxx.xxx.xxxを実行すると下記内容が表示されます。 xxx.xxx.xxx.xxxは設定ユーティリティを起動しているパソコンのIPアドレスです。 Pingに応答がある場合、 「Reply from xxx.xxx.xxx.xxx: ~」を表示し Pingに応答がない場合は、 「Request timed out.」を表示します。
		(3)ご使用のパソコンが本製品と同一セグメントに存在しない。	ご使用のパソコンのIPアドレスと、本製品に設定しようとしているIPアドレスが同一セグメントであるか確認してください。
		(4)ネットワーク上DHCP/BOOTPサーバまたはRARPサーバが存在している。	IPアドレスの自動割当をおこなうため、本製品に設定したIPアドレスが書き換えられてしまう可能性がありますので、「DHCP/BOOTP」および「RARP」設定を"DISABLE"にしてください。
		(5)本製品の設定値が異常な設定になっている。	本製品の初期化(操作方法については、「第1章 本製品について」を参照)を行ってください。なお、初期化を行った後は、ご利用のネットワーク環境に合わせて、再度設定を行ってください。
5	印刷ができない。	(1)ご使用のパソコンと本製品が通信できていない。	・本表No.3(1)～(4),(7)の対処を参照し、対処してください。 ・ご使用のパソコンと本製品が通信できているか確認してください。 例) Windows XPのコマンドプロンプトで Pingを実行する場合 「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」で、 Ping xxx.xxx.xxx.xxxを実行すると下記内容が表示されます。 xxx.xxx.xxx.xxxは設定ユーティリティを起動しているパソコンのIPアドレスです。 Pingに応答がある場合は、 「Reply from xxx.xxx.xxx.xxx: ~」を表示し Pingに応答がない場合は、 「Request timed out.」を表示します。
		(2)使用しているプリンタドライバの印刷先ポートが設定できていない。	「プリンタ」のプロパティの「詳細」で「印刷先のポート」が正しいか確認してください。
		(3)ネットワーク上DHCP/BOOTPサーバまたはRARPサーバが存在している。	IPアドレスの自動割当をおこなうため、本製品に設定したIPアドレスが書き換えられてしまう可能性がありますので、「DHCP/BOOTP」および「RARP」設定を"DISABLE"にしてください。
		(4)ご使用のパソコンが本製品と同一セグメントに存在しない。	「サブネットマスク」および「ゲートウェイアドレス」が正しく設定されているか確認してください。
		(5)印刷データに排出コマンドがない。	印刷データに排出コマンドがあるか確認してください。 (本製品の"E0J string"や"E0J string(kanji)"に"%f"を指定しておく、と、排出コマンドを持たないテキストデータ等を排出します。)

No.	現象	原因	対処
6	複数JOBを連続印刷すると、途中で印刷が停止し、しばらくすると印刷を再開する。	WindowsNT4.0/Windows2000/Server2003/XPの標準印刷クライアントであるLPRポートの仕様により、発生する場合があります。	本製品に付属しているPR-Port MonitorのLPRポートを使用してください。
7	印刷中のエラーを長時間放置した後に印刷を再開すると、同じ内容の印刷を繰り返すことがある。	Windows2000/Server2003/XPの印刷ポートの仕様により、印刷でタイムアウトが発生した場合、JOBの先頭から印刷データを再送します。	対象JOBを一旦Windowsのスーパーから削除した後、未印刷データのみ再送してください。 (本製品と合わせて、拡張プリントマネージャなどの印刷管理ソフトウェアをご使用いただくと、未印刷の当該頁からリカバリ印刷を行うことができます。)
8	印刷中に通信エラーが発生した後、回復させ「再試行」すると文字化けが発生する。	プリンタに印刷データが残っている状態で、「再試行」によりJOB先頭から印刷データを送信した場合、データ不正となり、文字化けする場合があります。	プリンタの電源をOFF/ONし、用紙を再セットした後、「再試行」してください。
9	印刷中にエラーが発生する。	他の人が大量に印刷していたり、大きなサイズのデータを印刷している時に印刷を行い、他の人の印刷終了まで長時間待たされた場合、タイムアウトが発生して、エラーになる場合があります。	再度印刷を行ってください。
10	印刷を行うとダイヤルアップが起動する。	Windowsの仕様です。	ダイヤルアップを「キャンセル」してください。ダイヤルアップアダプタから本製品に処理が移行され、印刷を開始します。
11	印刷が途中で停止したり、文字が化けて印刷される。	Windows2000/Server2003/XPのStandard TCP/IPポートのLPRモードの仕様により、発生する場合があります。	<ul style="list-style-type: none"> 「LPRバイトカウントを有効にする」をチェックしてください。 本製品に付属しているPR-Port MonitorのLPRポートを使用してください。
12	拡張プリンタマネージャで印刷していると、印刷が終了する前にパソコンのスーパーから印刷JOBが消える。	拡張プリントマネージャをインストールしたパソコンのIPアドレスをSNMP設定のTrap Addressに設定している。	<ul style="list-style-type: none"> 拡張プリンタマネージャをインストールしたパソコンのIPアドレスは、Another設定のPrint Trap Addressにだけ設定してください。 拡張プリンタマネージャをインストールしたパソコンのIPアドレスを、SNMP設定のTrap Addressには設定しないでください。
13	拡張プリンタマネージャ以外の印刷ポートからの印刷時に、エラー発生により以降のデータが印刷されない場合がある。	Another設定項目内のPrint Trap Addressが"0.0.0.0"以外に設定されている。	Another設定項目内のPrint Trap Addressを"0.0.0.0"に設定してください。
14	NetBEUI, NetBIOS over TCP/IP環境で印刷した時、エラーメッセージを表示する。	Microsoft Network印刷の仕様により、プリンタの状態により、エラーメッセージが表示される場合があります。	運用上、問題がある場合は、PR-PortMonitorのLPRポートからの印刷を使用してください。
15	UNIX環境で漢字テキストの印刷で、漢字コードが化けて、正常に印刷できない。	漢字フィルタ経由の印刷を行っていない。	印刷データの漢字コードを確認して、「SJIS」または「EUC」の漢字フィルタを使用してください。
16	Red Hat Linuxキュー作成ツールのテスト印刷で文字化けが発生する。	プリンタドライバに問題がある。	[プリンタドライバ]で「RAWプリントキュー」を選択した後、「ASCII Test Page」を出力して、正常に印刷されるか確認してください。正常に印刷された場合、プリンタドライバの問題である可能性があります。正常に印刷されない場合、印刷データまたは本製品を含めたプリンタの問題である可能性があります。

No.	現象	原因	対処
17		SSL証明書が作成されていない。	Webブラウザで本製品にアクセスし、SSL証明書が作成されているか確認してください。SSL証明書が作成されていない場合は、SSL証明書を作成してください。
18	SSLを使用して印刷をすると、エラーメッセージが表示される。	SSL証明書の有効期限が切れている。	Webブラウザで本製品にアクセスし、SSL証明書の有効期限を確認してください。有効期限が切れている場合は、SSL証明書を再発行してください。
19		4台以上のコンピュータからSSL印刷をしている。	SSLを用いた印刷は、最大3台(3回線)までになっています。現在印刷中のJOBが終了したら、再度いな
20		Netscapeから印刷をしている。	ブラウザに設定されている暗号化方式と、本製品に搭載されている暗号化方式が一致しない場合にエラーメッセージが表示されます。Netscapeのバージョンを確認し、最新版にしてください。
21		Secure PrintがDISABLEになっている。	Secure Print設定のSecure PrintをENABLEにしてください。
22	SSLの設定ができない、印刷ポートが作成できない。	SSL Modeの設定がCUSTOMになっている、かつhttps、IPPがDISABLEになっている。	SSL Modeの設定から、httpsとIPPをENABLEにしてください。
23		接続先プリンタのURLが「http://」で始まっている。	「https://」に変更してください。「http://」ではセキュア通信印刷機能が動作しません。
24		PR-Port MonitorのバージョンがVer.1.1.1である	Ver.1.2.0以降のPR-Port Monitorを使用してください。
25		本製品のファームウェアのバージョンがVer1.X.Xになっている。	「第2章 セットアップユーティリティ」を参照してファームウェアアップロードを実行し、ファームウェアのバージョンをVer.2.X.Xにしてください。
26		NetBEUI, SMTP, POP3, DNSを使用して印刷をしたいが、設定ができない、印刷ポートが作成できない。	製品のファームウェアバージョンがVer.2.X.Xになっている。 SSL対応版のファームウェア (Ver.2.0.0以降) では、これらのプロトコルや機能を使用した印刷はできません。 SSL非対応版に含まれていた機能をご利用になる場合は、「第2章 セットアップユーティリティ」を参照してファームウェアアップロードを実行し、ファームウェアのバージョンをVer.1.X.Xにしてください。
27	Webブラウザ設定の表示文字が化ける。	OSおよびInternet Explorerの仕様による。	OSおよびInternet Explorerの修正プログラムにより、最新版にアップデートしてください。



参考

- SSLとはSecure Socket Layerの略称です。SSLはインターネットで個人情報などを入力する際に盗聴やなりすまし防止に利用される通信方式で、一般化されたセキュリティ機能のひとつです。本製品は、このSSLを利用したセキュア通信印刷機能を有しています。本機能により、パソコンから印刷を行う際に印刷データを暗号化し、プリントサーバで復号化することを実現しています。

付録 PC-PB20501	2
ハードウェア仕様	2
ソフトウェア仕様	3
IPv6 機能について	4
IPv6 とは?	4
本製品 IPv6 機能概要	5
IPv6 に対応する操作	5
本製品の IPv6 アドレス	5
利用方法	6
本製品の IPv6 機能を有効にする	6
OS の IPv6 機能を有効にする	6
Network Plug & Play について	9
Windows XP の設定	9
Windows Me の設定	9
E-Mail 警告通知機能(SMTP)	10
E-Mail 印刷機能(POP)	13
エラーリカバリ支援機能	15
WindowsNT4.0,Windows2000/XP での設定	15
本製品の設定	15
セキュリティレベル設定機能	16
セキュア通信印刷機能について	17
Web ブラウザやTelnet で SSL の設定を行う	17
Web ブラウザで SSL 証明書の発行を行う	19

付録 PC-PB20501

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取り扱い説明書に従って正しい取り扱いをしてください。



ハードウェア仕様

動作環境条件

温度：+5 ~ +35

湿度：20% ~ 80%RH（但し、結露状態でないこと）

保存環境条件

温度：-10 ~ +50

湿度：20% ~ 90%RH（但し、結露状態でないこと）

適合規格

VCCI Class B

CPU

32bit RISC CPU

メモリ

RAM : 2MByte

FlashROM : 1MByte

ネットワークインタフェース

10BASE-T/100BASE-TX（自動認識）: 1ポート

プリンタインタフェース

専用インターフェースポート（双方向通信対応）

その他

ディップスイッチ : 4連スイッチ 1個

LED ランプ : ステータス（橙）、10BaseLINK（緑）、100BaseLINK（緑）の3個

ソフトウェア仕様

対応プロトコル

- TCP/IP

Raw(9100) Port、LPD、FTP、IPP、HTTP、TELNET、DHCP、BOOTP、SNMP、POP3、SMTP、DNS、DDNS、WINS、TCP、UDP、ARP、RARP、IP、ICMP、NetBIOS over TCP、

- NetBEUI

SMB、NetBIOS

IPv6機能について

製品に搭載される IPv6 機能についての利用方法と制限事項について説明します。

IPv6 とは？

TCP/IPはInternetとともに広く普及してきたプロトコルですが、現在のInternet Protocol (IPv4)ではホストアドレスを表わすためのフィールドが32bitしかないため、あと数年すればそのアドレス空間が枯渇してしまう見込みとなっています。そこで、アドレス空間の拡大を図り、さらに従来のTCP/IPで問題となっていた部分を修正したり、欠けていた機能を追加して、新しいプロトコル体系の取り決めが行われています。それがInternet Protocol, Version 6 (IPv6)です。



IPv6機能のご利用にあたっては、本製品だけでなくネットワークを構成する各ネットワーク機器 (Router や PC) が IPv6 に対応している必要があります。

本製品IPv6機能概要

IPv6 に対応する操作

本製品の IPv6 機能では IPv6 ネットワークにて以下の操作を行うことができます。

- * TELNET または HTTP による設定
- * FTP または LPR による印刷
- * ping6 コマンドによる応答確認
- * traceroute6 コマンドによる経路追跡

本製品の IPv6 アドレス

本製品のリンクローカルアドレスは以下のとおりです。

リンクローカルアドレス： FE80:0:0:0:0:0280:92FF:FE`xx`:`yyzz`
(`xyyyzz` は本製品の Ethernet アドレスの下 3 桁です)



参考

- ・IPv6ネットワーク上にステートレス自動設定機能を持つIPv6ルータが存在する場合は、ルータから自動設定することができます。



注意

制限事項

- ・本製品の IPv6 アドレス設定方法はリンクローカル及びステートレス自動設定の 2 種類だけです。マニュアル設定およびステートフル自動設定(DHCPv6)には対応していません。
- ・セキュリティ機能は認証ヘッダ(AH)、暗号ペイロード(ESP)ともに対応していません。
- ・IPv6 ヘッダのトラフィック・クラスおよびフロー・ラベルは 0 固定です。
- ・巨大ペイロード・オプションには対応していません。
- ・パケットの断片化/再構成には対応していますが、ヘッダ部を含め 3072byte を上限としています。
- ・SNMP の IPv6 MIB には対応していません。
- ・IPv6 ネットワーク上における付属ツールの一覧検索には対応していません。
- ・IPv6 を利用してパナーページの印刷を行った場合、IP アドレス部分は 0.0.0.0 として印刷されます。

利用方法

本製品の IPv6 機能を有効にする

本製品の IPv6 機能は工場出荷時設定にて機能しないよう設定されています。

IPv6 機能を有効にするには以下の操作を行います。

- (1) 通常の TCP/IP 設定により IPv4 アドレスを割り当てます。
(通常の TCP/IP 設定は、本製品に付属するクイックガイドを参照ください。)
- (2) Web ブラウザ、または、telnet コマンドを用いて本製品にアクセスします。
- (3) 本製品の「TCP/IP 設定」の「IPv6」項目を "ENABLE" に設定します。
- (4) 設定を保存後、本製品を再起動します。

以上の操作にて本製品の IPv6 機能が有効になります。

OS の IPv6 機能を有効にする

ここでは Windows XP 上での IPv6 環境構築例を記載します。その他 OS 環境下での IPv6 環境構築方法に関しましては、各 OS のマニュアルをご参照ください。

- (1) Windows XP の IPv6 機能を有効にする
コマンドプロンプトを起動し、"ipv6.exe" を実行します。

(コマンド入力例)



参考

ipv6.exe に関する詳しい操作方法は、マイクロソフト社の Web ページをご参照ください。

```
C:¥> ipv6 install
```

(2) Hosts ファイルに IPv6 アドレスを登録する

Windows XP の Hosts ファイルに本製品の IP アドレスとホスト名との関連付け情報を登録します。

Hosts ファイルに関連付け情報を登録することで、IP アドレスではなくホスト名を指定して本製品と通信できるようになります。

Windows XP の Hosts ファイルは下記フォルダに格納されています。
メモ帳などを用いて本製品の情報を追加してください。

格納先フォルダ： C:\windows\system32\drivers\etc
(OS インストールドライブが C: の場合)
ファイル名： hosts



(Hosts ファイル入力例)

```
# Copyright (c) 1993-1999 Microsoft Corp.
#
# This is a sample HOSTS file used by Microsoft TCP/IP for Windows.
#
# Additionally, comments (such as these) may be inserted on individual
# lines or following the machine name denoted by a '#' symbol.
#
# For example:
#
#       102.54.94.97       rhino.acme.com   # source server
#       38.25.63.10      x.acme.com       # x client host

127.0.0.1                localhost
fe80::280:92ff:fe12:3456 PC-PB20501
本製品の IP アドレス     本製品のホスト名 (任意)
```


(3) Windows XP 付属の下記ユーティリティで本製品へのアクセスを行う。

Windows XP では下記の操作が可能です。

- ・ Internet Explorer6.0 による本製品の設定操作
- ・ UNIX 用印刷サービスによるアプリケーション印刷操作
- ・ コマンドプロンプトからの "lpr" 、 "FTP" コマンドを使用しての印刷動作。
- ・ コマンドプロンプトからの "ping6" コマンドを使用しての応答確認。



注意

- ・ Windows XP 標準の印刷サービスである、Standard TCP/IP port 印刷、IPP 印刷は IPv6 環境に対応していません。
GUI 操作による印刷を行う場合は Windows XP の追加サービスである「UNIX 用印刷サービス」を Windows コンポーネントに追加してご利用ください。
本製品付属マニュアル「第 4 章 Windows XP の LPR ポートで印刷する」を参照してください。
- ・ Internet Explorer6 および UNIX 用印刷サービスで本製品のアドレスを指定する場合は、Hosts ファイルに登録した Host 名を指定してください。
IP アドレスの直接指定は Windows XP の仕様上対応されていません。

Network Plug & Playについて

本製品は Windows Me/XP 環境において自動的にネットワーク接続を検知することができます。本製品をネットワークに接続するだけで、Windows Me/XP の「マイ ネットワーク」内に本製品のアイコンが一覧表示されます。表示された本製品のアイコンをダブルクリックすることで、本製品のWebページが表示され、設定の変更やステータス情報の参照が行えます。



この機能を使用するにはパソコン に下記の設定を行います。

Windows XPの設定

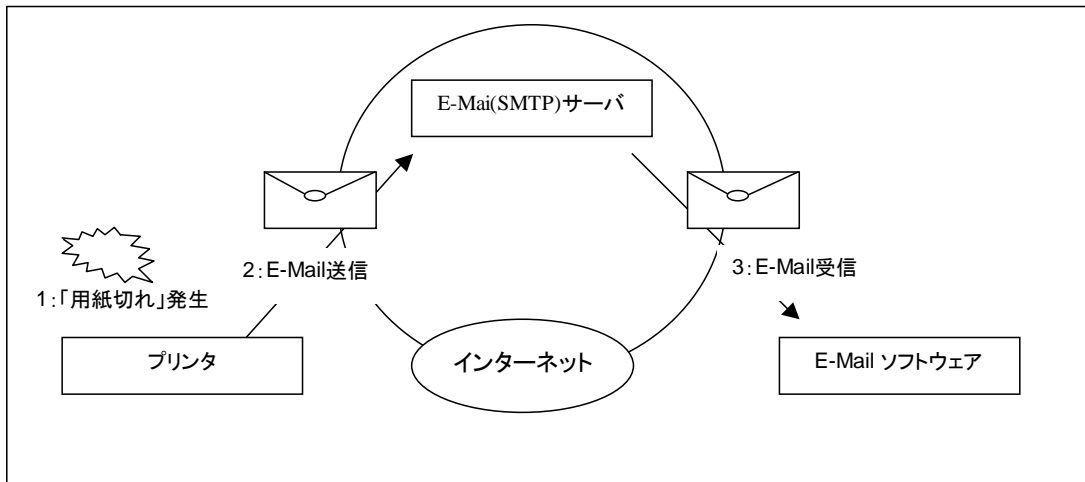
1. マイネットワークを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
2. ネットワーク接続の「詳細設定」メニューから「オプション ネットワークコンポーネント」を選択し、オプション ネットワークコンポーネントウィザードを起動します。
3. 「ネットワークサービス」を選択し、「詳細」ボタンをクリックします。
4. 「ユニバーサルプラグアンドプレイ」にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。
5. 「次へ」をクリックします。

Windows Meの設定

1. 「スタート」-「コントロールパネル」から「アプリケーションの追加と削除」を起動します。
2. 「Windows ファイル」タブより、「通信」を選択して、「詳細」ボタンをクリックします。
3. 「ユニバーサルプラグアンドプレイ」にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。
4. 「OK」ボタンをクリックします。

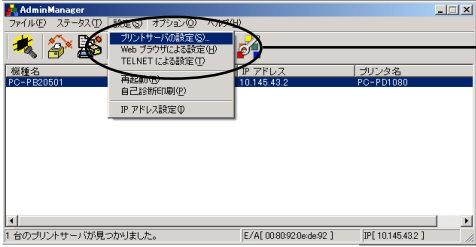
E-Mail警告通知機能(SMTP)

E-Mail警告通知機能を使用すると、プリンタステータスをE-Mailで検知することができます。本製品はプリンタステータスが変化する毎に、指定のE-Mailアドレス(2アドレスまで指定可能)にE-Mailでプリンタステータスを送信します。この機能を用いるとインターネットを介してプリンタステータスの「用紙切れ」「オフライン」「プリンタエラー」を検知することができます。

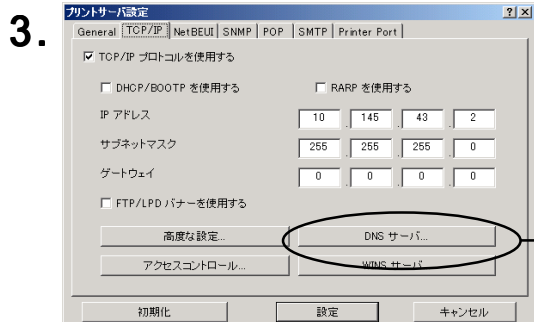


本機能の設定は、AdminManager、Webブラウザ、TELNETで行うことができます。AdminManagerを使って本機能の設定を行う場合は、次の手順で行います。

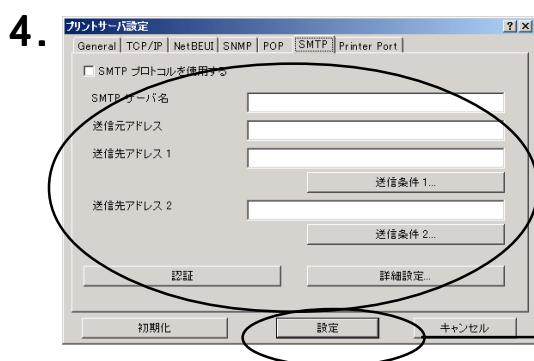
1. AdminManager を起動し、一覧画面から設定する本製品を選択します。

2.  「設定」メニューより「プリントサーバ設定」を選択します。

機種名	IP アドレス	プリンタ名
PC-P200501	10145.432	PC-P201000



「TCP/IP」タブより「DNSサーバ」をクリックし、DNSサーバアドレスを入力します。



「SMTP」タブを選択し、E-Mailの送信先情報を入力します。

「設定」をクリックします。

5. 本製品を再起動した後、設定情報が有効になります。

本製品からは次のような E-Mail メッセージが送信されます。

```

PC-PB20501 Version x.x.x
Copyright 2005 Ricoh Printhing Systems,Ltd.
TCP/IP status
  IP Address      : 192.168.0.200
  Subnet Mask     : 255.255.255.0
  Default Gateway : 192.168.0.254
  DNS server(Pri.) : 0.0.0.0
  DNS Server(Sec.) : 0.0.0.0
IPv6 status
  Address #0000   : FE80::0280:92FF:FE01:2345/64
  Address #0001   : FEC0::0001:0280:92FF:FE01:2345/64
  Router #0000    : FE80::0200:F4FF:FE90:B9CA D
  Router #0001    : FE80::0200:F4FF:FE90:B9CA/64
NetWare status : Disabled
AppleTalk status :Disabled
NetBIOS status
  NetBIOS over TCP: Registration completed
  NetBEUI          : Registration completed
  Computer Name    : PR012345
  Workgroup        : PRINTSERVERS
  Master Browser   :
  [NetBIOS over TCP] :PR012345
  [NetBEUI]        :PR112233
E-MAIL status
  Session:2 times.
All profiles are disabled.
SMTP status
TO-ADDR1
  E-MAIL Address: <user1@silex.jp>
  Last Session  : Nothing
  Current status: Waiting for Interval time.
  Try to send   : 0 times.
  Fail to sendr : 0 times.
TO-ADDR2
  E-MAIL Address: <user2@silex.jp>
  Last Session  : Nothing
  Current status: Idle.
  Try to send   : 0 times.
  Fail to sendr : 0 times.

```

本製品のシステムステータス

```

[PRINTER STATUS]
00:04:27 <00010100> Offline
00:04:22 <00110100> Paper Empty

```

プリンタステータス(プリンタエラーが発生した時間(本製品を起動してからの時間)とステータス文字列)

```

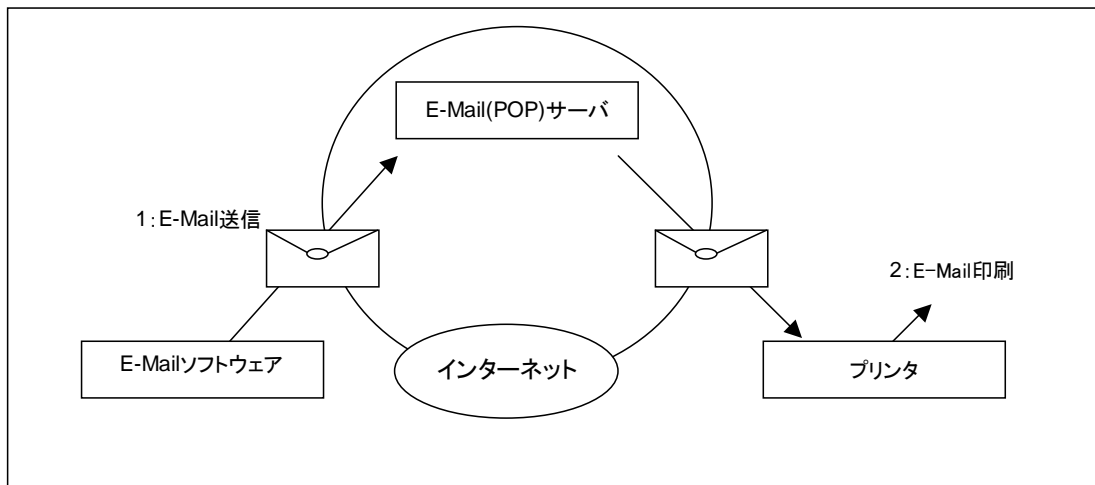
-----
HITACHI PC-PB20501
[00:80:92:01:23:45]
-----

```

本製品のシグネチャ情報

E-Mail印刷機能(POP)

E-Mail印刷機能を使うと、インターネットを介して送信されてきたE-Mailデータを直接プリンタに出力することができます。プリンタに出力するE-Mailデータは、E-Mail本文、及び、E-Mailに添付されるテキストファイル(*.txt)、または、プリンタドライバを介して生成された印刷データファイル(*.prn)を印刷することができます。(ファイル拡張子が".prn", ".txt"以外の添付ファイルはファイル名のみが印刷されます。)

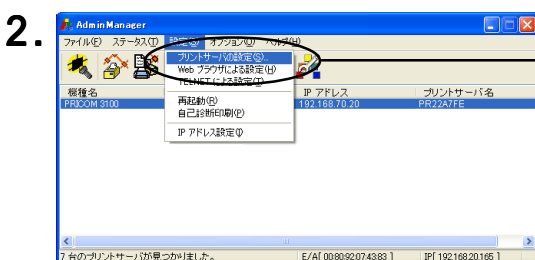


注意

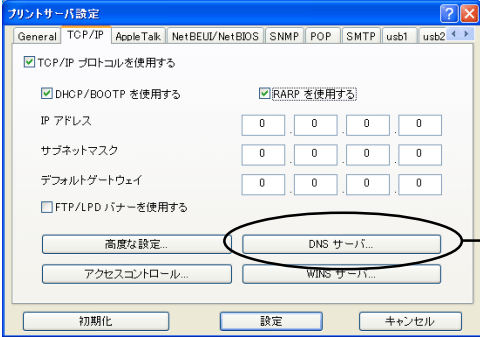
- E-Mail本文およびテキストファイルを印刷する場合は、プリンタがフォントを搭載している必要があります。
- プリンタドライバ生成ファイル(*.prn)を添付印刷する場合は、出力するプリンタのプリンタドライバで生成された印刷データファイルを添付する必要があります。
- 添付ファイルのみを印刷する場合は、件名に"/nobody"の文字列を含んでE-mail送信してください。

本機能の設定は、AdminManager、Webブラウザ、TELNETで行うことができます。AdminManagerを使って本機能の設定を行う場合は、次の手順で行います。

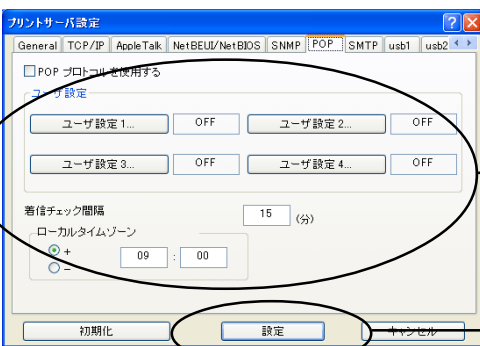
1. AdminManager を起動し、一覧画面から設定する本製品を選択します。



「設定」メニューより「プリントサーバ設定」を選択します。

3. 

「TCP/IP」タブより「DNSサーバ」をクリックし、DNSサーバアドレスを入力します。

4. 

「POP」タブを選択し、E-Mailの受信アドレス情報を入力します。

「設定」をクリックします。



・ユーザ設定には次の情報を設定することができます。

参考

項目	説明	初期値 (工場出荷時設定)
ユーザ設定を使用する	メール受信機能の使用有無を指定します。	DISABLE
POPサーバ名	メールサーバのホスト名(IPアドレス)を指定します。	なし
POPユーザ名	メールアカウントのログイン名(ユーザー名)を設定します。	なし
POPパスワード	メールサーバに接続する際のパスワードを指定します。	なし
POPポート番号	POPポート番号を指定します。	110
APOPを使用する	APOPの使用有無を指定します。	NO
受信したメールを削除する	メールサーバ上のメールを削除するかを指定します。	NO
開封通知を使用する	POP機能により印刷データを受信した際の開封通知メールの送信可否を設定します。開封通知メールはSMTP設定のサーバ情報に対して送信処理を行います。	NO
メール受信制限	処理するメールサイズの最大値(Kbyte)を指定します。	0(制限なし)
フィルタ設定	特定メールのみ印刷するように指定します。フィルタ設定はタイトル条件("S:文字列")、宛先条件("T:文字列")、同報宛先条件("C:文字列")、送信先条件("F:文字列")の4種類のセンテンスをOR条件(" ")またはAND条件("&")で接続した文字列で設定します。 (例)宛先または同報宛先が"sillex"のみを受信する場合 "T:sillex C:sillex"	なし

5. 本製品を再起動した後、設定情報が有効になります。

エラーリカバリ支援機能

WindowsNT4.0,Windows2000/XPでの設定

本製品はエラーリカバリ支援機能を搭載しています。本機能は、WindowsNT4.0またはWindows2000/XPで別売のプログラムプロダクトと連動することにより、より効果的なエラーリカバリ機能を実現します。

主な機能として次のものがあります。

- ・印刷障害発生時のページ単位のリカバリ
- ・障害発生時のリカバリ印刷データ表示

製品名	適用OS
拡張プリンタマネージャ2000	Windows 2000 Prifessional,Windows 2000 Server Windows 2000 Advanced Server Windows XP Professional,Windows XP Home Edition Windows NT 4.0 Workstation,Windows NT 4.0 Server
拡張プリンタマネージャVersion3	Windows NT 4.0 Workstation,Windows NT 4.0 Server

本製品の設定

拡張プリンタマネージャを使用する場合、Windowsからの印刷を行うための設定のほかに、下表の設定が必要になります。拡張プリンタマネージャの使用方法については、拡張プリンタマネージャのマニュアルを参照してください。

設定項目	設定内容	デフォルト値
SNMP設定 Authentic community	拡張プリンタマネージャのコミュニティ名設定に合わせてください。	public
その他の設定 Print Trap community	拡張プリンタマネージャのコミュニティ名設定に合わせてください。	public
その他の設定 Print Trap Address	拡張プリンタマネージャがインストールされているコンピュータのIPアドレスを設定してください。	0.0.0.0
その他の設定 PE/Reboot	Print Trap Addressを設定して印刷を行い、用紙なしになった時に、本設定が「DISABLE」の場合は、用紙セット後に受信完了データを印刷する場合があります。本設定を「ENABLE」に設定すると、本製品をリポートしてデータ出力を抑止します。拡張プリンタマネージャとの連携では、本機能を「ENABLE」に設定してください。	DISABLE



注意

- ・SNMP 設定の中の Trap Address 設定に拡張プリンタマネージャをインストールしたコンピュータの IP アドレスを設定しないでください。エラーリカバリを正常に処理できなくなります。
- ・拡張プリンタマネージャは SSL を使用した印刷に対応していません。

セキュリティレベル設定機能

セキュリティレベルの設定

本製品は任意のプロトコル(サービス)を有効または無効にすることができます。プロトコル(サービス)を無効にすると、該当プロトコル(サービス)での通信を排除し、有効設定されているプロトコル(サービス)のみ通信を行います。セキュリティレベル設定機能は3段のセキュリティレベルを用途に応じて設定することができます。設定範囲は下表の通りです。なお、セキュリティレベルをCUSTOMに設定すると、プロトコル(サービス)個々に有効/無効の設定を行うこともできます。

セキュリティレベル	LPR	RAW	IPP	HTTP	HTTPS	Telnet	FTP	SNMP	SETUP Protocol
CUSTOM									
Level1						x	x	x	
Level2	x	x		x		x	x	x	x

:有効(設定により無効)

:有効(有効固定)

x:無効(無効固定)



注意

- ・「CUSTOM」を選択した場合、「HTTP」、「HTTPS」、「Telnet」のいずれかを必ず有効にしてください。
- ・「CUSTOM」を選択し、「HTTPS」のみ有効にする場合は、必ず「SSL設定」項目の「暗号化を使用する」を「ENABLE」に設定し、SSL証明書を作成してください。
- ・本設定はSSL非対応版ファームウェアには対応していません。

セキュア通信印刷機能について

WebブラウザやTelnetでSSLの設定を行う

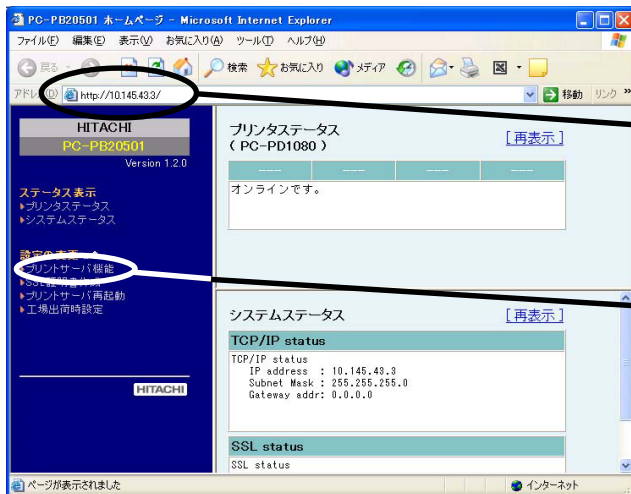
セキュア通信(SSL通信)をするために、本製品の設定をします。



注意

- SSL の設定を行う前に、本製品の IP アドレスを設定する必要があります。設定方法は「はじめに」を参照してください。
- SSL を使用して印刷するには、SSL 証明書および有効期限の設定が必要になります。SSL 証明書は Web ブラウザの「SSL 証明書作成」から作成できます。
- 「IPP ポート」以外の印刷ポートでは、セキュア通信印刷機能は使用できません。
- 「IPP ポート」からセキュア通信印刷機能を使用して印刷する場合の URL は "https:// ~ " と指定してください。"http:// ~ " と指定すると、セキュア通信印刷機能は動作しません。
- SSL 対応版ファームウェアを使用すると、一部使用できないプロトコルがあります。詳細については、「第 2 章 本製品について」「第 8 章 設定について」を参照してください。

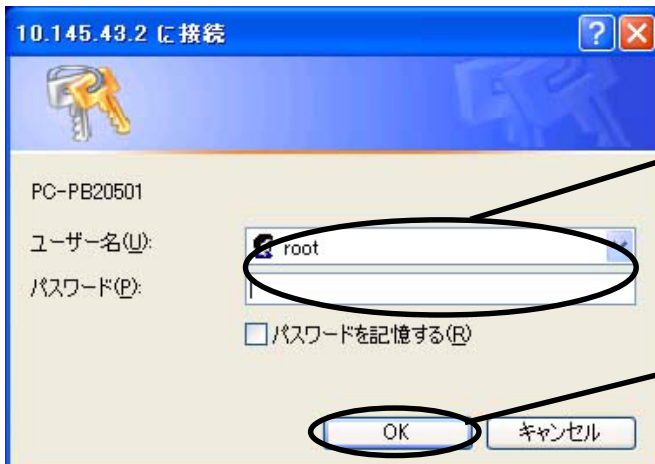
1. Web ブラウザを起動し、本製品に接続します。



本製品の IP アドレスを入力してください。

「プリントサーバ機能」をクリックしてください。

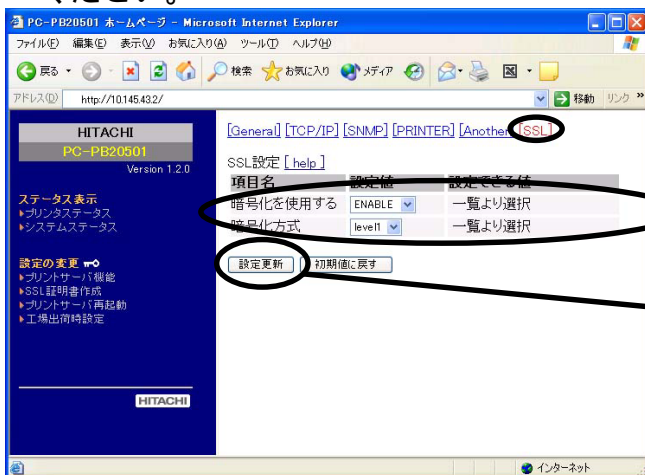
2. ログインユーザー名 / パスワードを入力します。



ログインユーザー名に " root " と入力してください。root パスワードを設定している場合はパスワードに設定している文字列を入力してください。

OK をクリックしてください。

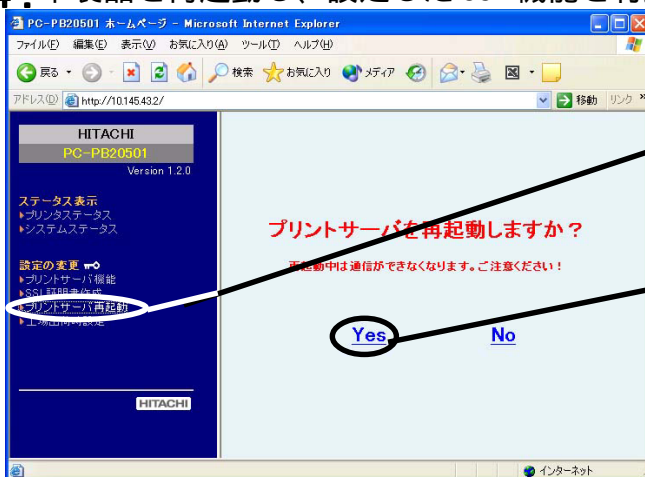
3. 「LAN アダプタ機能」から「SSL」をクリックし、SSL 設定を "ENABLE" にして設定更新してください。



各種設定項目を設定してください。

設定更新をクリックしてください。

4. 本製品を再起動し、設定した SSL 機能を有効にします。



「プリントサーバ再起動」をクリックしてください。

「Yes」をクリックしてください。

WebブラウザでSSL証明書の設定を行う

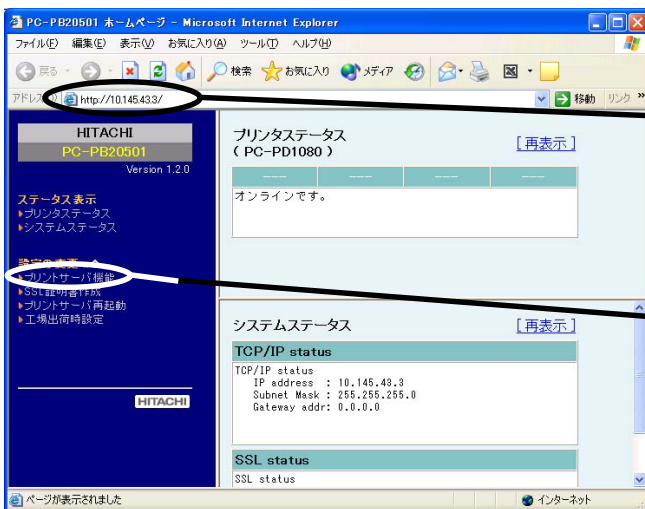
セキュア通信(SSL通信)をするために、SSL証明書情報を本製品に設定をします。



注意

- SSL 証明書情報の設定を行う前に、本製品の IP アドレスを設定する必要があります。設定方法は「はじめに」を参照してください。
- SSL を使用して印刷するには、SSL の設定が必要になります。SSL の設定方法は本章「Web ブラウザや Telnet で SSL の設定を行う」を参照してください。
- 「IPP ポート」以外の印刷ポートでは、セキュア通信印刷機能は使用できません。
- 「IPP ポート」からセキュア通信印刷機能を使用して印刷する場合の URL は "https:// ~ " と指定してください。"http:// ~ " と指定すると、セキュア通信印刷機能は動作しません。
- WindowsVista では、SSL 証明書を Web ブラウザからダウンロードしてインストールを行う必要があります。この操作は、IPP ポートを追加する前に、印刷を実行するコンピュータ毎に実行してください。ダウンロードは、Web ページのメニューから「証明書ダウンロード」をクリックしてください。

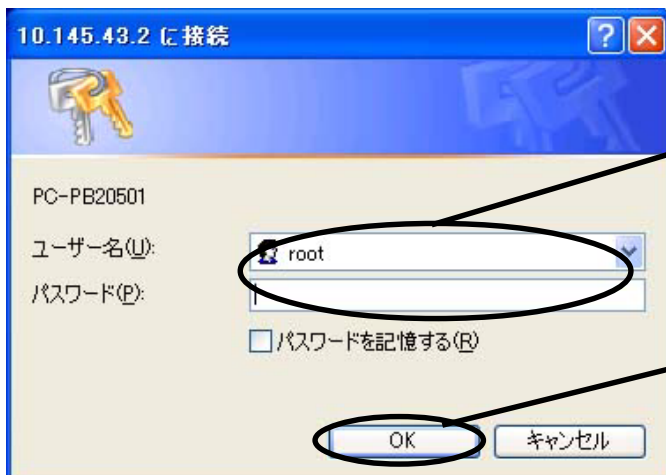
1. Web ブラウザを起動し、本製品に接続します。



本製品のIP アドレスを入力してください。

「SSL証明書作成」をクリックしてください。

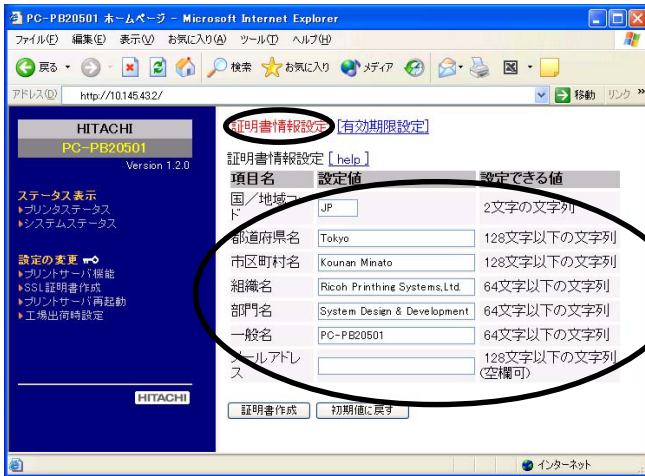
2. ログインユーザー名 / パスワードを入力します。



ログインユーザー名に"root"と入力してください。rootパスワードを設定している場合はパスワードに設定している文字列を入力してください。

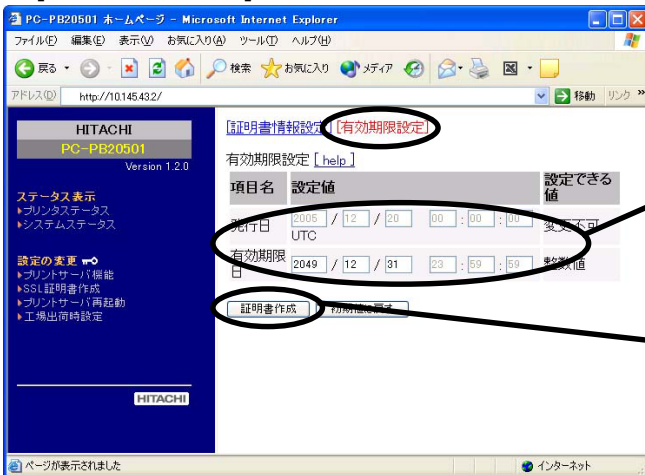
OK をクリックしてください。

3. [証明書情報設定]を登録します。



各種設定項目に必要な事項を入力してください。

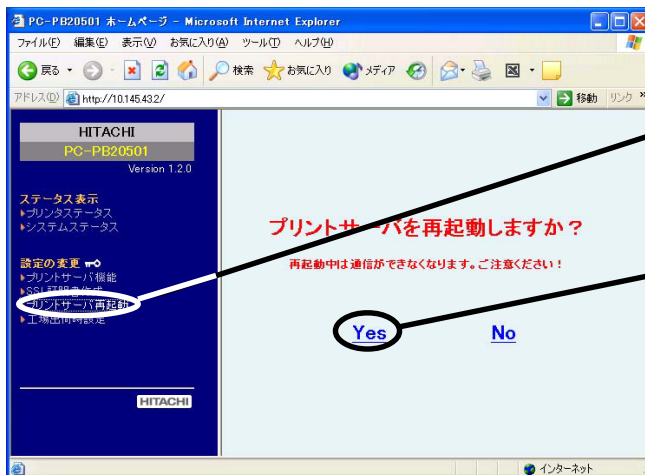
4. [有効期限設定]を登録します。



「有効期限」に日付を入力してください。

「証明書作成」ボタンをクリックしてください。

5. 本製品を再起動し、設定したSSL機能を有効にします。



「LANアダプタ再起動」をクリックしてください。

「Yes」をクリックしてLANアダプタを再起動してください。